貝氏佛國史

上冊

漢加新

文部省

文學

冊	記號	類
二	一	四

滋賀縣中學校

明治十一年十一月

上冊

具氏佛國史

文部省印行

彦根公立中學校印章

具氏佛國史緒言

一此書原本ハ西暦一千八百六十七年米國費府ニ於テ印行セル米國人エー、ジー、グードリツチ氏ノ著エー、ピクトリアル、ヒストリー、オフ、フランス」ト名クル書ニシテ即挿圖佛國史ノ義ナリ和蘭人漢加斯底爾氏我國ニ寓スルコト數年其彼我兩國ノ語ニ通スルヲ以テ囑シテ此書ヲ譯セシム

一書中地名ハ右傍ニ雙柱ヲ施シ人名ハ同シク單柱ヲ施ス其他原語ヲ記スル者ハ總テ左傍ニ單柱或ハ「」符ヲ施ス

具氏佛國史上冊目錄

緒言　現今ノ狀勢　一

境界區域風土等第一

都城市坊住民第二

佛國人民第三

第一篇　佛國往古ノ民俗　一一

第二篇　羅馬人佛國ヲ略奪セシ事　一四

第三篇　フランクスガ羅馬人ヲ佛國ヨリ攘除セシ事、フハラモンクロヂオシメロベウ、長髮ノ王族、シルデリックノ事蹟王クロヴィー其后クロチルドノ爲ニ耶蘇教門ニ入リシ事及靈蹟　一六

第四篇　王クロヴィーノ迷誤、サリックシノ法、王ト兵卒トノ事　二一

第五篇　先王クロヴィーニ嗣キシメロヴァンジャン朝ノ諸王、メール、ジュパ　二五

レー及フニヂアンノ事歴
第六篇　メロヴァジャン時代ノ再説　三〇
第七篇　王ペパンルブレッフノ紀　三六
第八篇　王シャールマギュノ紀上　三八
第九篇　王シャールマギュノ紀下、並ニ諸耳曼種族　四四
第十篇　王シャールマギュノ殂落、及其非議　四七
第十一篇　路易、ル、デボチールノ紀　五〇
第十二篇　王シャル、ル、シューヴノ紀、並ニ佛國ノ言語　五三
第十三篇　封建制度上　五六
第十四篇　封建制度下　五九
第十五篇　諾耳曼ノロローノ居ヲ佛國ニ定ム、及巴里ノコーソト威權王ニ過越セシコト　六二
第十六篇　シャールマギュノ嗣統佛國ノ王位ヲ失ヒシコト　六八

第十七篇　カロヴァンジャン統ノ記　七二
第十八篇　佛國ヒューゴ、カッペイニ管轄セラレシ事　七八
第十九篇　紀元一千年代ノ文学　八一
第二十篇　人民世界盡崩滅ノ説、幷ニ王ロベール教門ヨリ逐ハル　八五
第二十一篇　衙ニ服制ヲ定ム、幷ニ王ロベールノ記　八八
第二十二篇　王顯理第一世ノ在位、幷ニモスコヴィー（魯國）ニ求ムル事　九一
第二十三篇　シヷルリー法ノ權輿　九五
第二十四篇　シワルリーノ法立定セシ以來民人ノ得失　一〇一
第二十五篇　第一世フィリップ諾爾曼泥侯ギョームル、コンケランヲ怠ム　一〇三
第二十六篇　十字役　一〇六
第二十七篇　十字黨ノ發起、幷ニ二將ピエール、レルミット、ゴーチェー前軍ヲ帥井テ發ス、十字黨遂ニ靈地ニ達スルヲ得ス　一一一
第二十八篇　十字役ノ一幷ニゼルサレム都ノ創立　一一五

第二十九篇　タンプリエー黨及サンジヤン黨ノナイト、幷ニ見童ノ十字役　一一九
第三十篇　第一世フィリップ治世中佛國不幸ニ係ル　一二二
第三十一篇　第六世路易王ノ治世、幷ニ民人其化ニ進歩スルノ情勢　一二五
第三十二篇　英國太子ウィリヤムノ殂　一三〇
第三十三篇　オーリフラムヲ以テ國旗ト爲ス、幷ニ佛國王子家豚ノ害ニ死ス　一三三
第三十四篇　當時佛國文化ノ進歩、並ツルーバヅール及タールダムールノ權輿　一三七
第三十五篇　第七世路易ノ治世、幷第二次十字役　一四四
第三十六篇　第二次十字役ノ二　一四八
第三十七篇　第七世路易王代ノ民俗　一五三
第三十八篇　第七世路易ノ無道、並王ツマスアベケット黨ニ諂ル及殂落　一五五
第三十九篇　第二世フィリップ即オーギュスト稱セラルヽ者ノ治世、巴里府ノ更新　一五九
第四十篇　英王リチャールド、ゼ、ライオン、ハーテット王フィリップト共ニ第三十字役ヲ起ス、リチヤールド幽囚セラル、並史丹サラヂンノ事蹟　一六四
第四十一篇　第四次十字役、並ウィニレヤニ於テ十字黨結約スル所アリテ大ニ害困ス　一七一
第四十二篇　第四次十字役ノ二、幷コンスタンチノープル府陷ル　一七五
第四十三篇　王フィリップ並ニ諾耳曼泥州ヲ陷役シ幷ブヴィンニ會戰ス　一七八
第四十四篇　十字黨アルビジョワー人ト戰フ、並佛人英國ニ入寇ス　一八二
第四十五篇　王フィリップ、オーギュストノ世ニ當テ專ファーブリヨ及ロマーンスヲ以テ文字ト爲ス、並第五次十字役　一八六
第四十六篇　第八世路易在位數年ニシテ殂シ妃ブランシ、政ヲ攝ス　一九〇
第四十七篇　后ブランシ、囚ノ爲ニ獄舍ヲ毀ツ、幷王第九世路易ノ性　一九三

第四十八篇　第六次十字役、並王サン、路易擒トナリ贖金ヲ以テ才カニ脱カル　一九六
第四十九篇　王サン、路易治世事蹟ノ二王產直ヲ好ム、幷巴里府巴拉門源及リードヂュスチッス　二〇一
第五十篇　第七次十字役、幷王サン、路易ノ殂　二〇四
第五十一篇　公ジュサンウィールノ傳、附ジヤトーノ記　二〇七
第五十二篇　第三世フィリップ、ル、ハルディーノ傳、鍛工ピエードル、ラ、ブロッス后ヲ訴ニ佛王ニ讒ス、附ラ、ローマンス、ド、ラローズノ起源　二一一
第五十三篇　犯罪ヲ糺彈判決スルニ神托ニ依リ及試責ト鬪爭ノ勝敗トヲ以テス、附モンタアス氏ノ高犬　二一五
第五十四篇　レゲュブル、ジヘリエーンノ辜、幷王フィリップ、ロバルディーノ殂　二二〇

第五十五篇　佛王フィリップ、ル、ベルノ用度制法、附衣服ノ異樣　二二三
第五十六篇　王フィリップノ不信義、フランドル州民ト戰ヒ佛軍敗走ス　二二八
第五十七篇　タンプリエーノ覆滅　二三二
第五十八篇　ド、ツール、ノアー　二三六
第五十九篇　佛國貴族ノ驕傲、エクゼチローヲ起ス、附人ノ妖術ト稱スル者　二四二
第六十篇　第十世路易ノ殂、憲法ル、ワーサックヲ用ヰル、猶太民常ニ厄害ニ遭ヲシヤル、ル、ベルノ傳、花ヲ與ヘテ詩ヲ賞スル戲　二四六
第六十一篇　第六世フィリップ、ド、ワロワーノ傳、英王エドワルド、ダイエーン一州ヲ受ケ佛王ニ禮謁ス、ド、モンフォールノコウンテッスノ勇敏　二五一
第六十二篇　英兵クレヂーニ軍ス、佛王更ニカペールノ制ヲ出ス、英國始テ大銃ヲ造ル　二五六
第六十三篇　英軍カレー都ヲ攻擊ス、幷カレー都ノ六傑ノ記　二五九

第六十四篇　佛國太子ヲ稱シテ伺ニドファントト稱ス、及ポワチエーノ役、ブラック、プリンスノ温恭　二六三
第六十五篇　土寇ジャクリーノ役、附二ナイト大ニ功ヲ成ス　二六七
第六十六篇　英王エドワルド佛國ト和ヲ講ス、幷佛王ジャンノ貴重スヘキ行蹟　二七〇
第六十七篇　巴里府下日々ノ景狀、諸國民ノ品行占星學　二七三
第六十八篇　第五世シャル綽號ロサージノ事蹟、巴里府ノ文庫、コンスターブル、デュ、ゲクラーノ傳　二七六
第六十九篇　シャル、ルサージノ時文學書學、幷王シャル自家ノ生計　二八一
第七十篇　千三百年代婦女教育ノ一　二八五
第七十一篇　千三百年代婦女教育ノ二　二八九
第七十二篇　第六世シャル綽號ビヤンエメーノ事蹟　二九二
第七十三篇　ミステール及モラリテーノ演劇ノ記　二九五

第七十四篇　佛人英國ヲ伐タントシテ奇異ノ備ヲ爲ス、王シャル、ロビヤンエーノ可憐事蹟　二九九
第七十五篇　アジャンクールノ役、牌戲ノ佛國ニ入ル　三〇四
第七十六篇　第七世シャル綽號ヴィクトリヨ幷オルレヤンノ處女事跡ノ一　三〇八
第七十七篇　オルレヤンノ處女事跡ノ二　三一二
第七十八篇　オルレヤンノ處女ノ刑死、及佛王シャル巴里府ニ還ル、幷佛國飢饉疫癘ニ罹ル　三一七
第七十九篇　佛國太子ノ暴行、シャル、ロ、ヴィクトリヨノ死亡、幷異様ノ衣服　三二〇
第八十篇　第十一世路易ノ事跡、幷ニ貴族並人民ノ公權ヲ起サンヿヲ謀ル　三二四
第八十一篇　ブルゴンヤ州ノ事、王路易シャル、ロ、テメレールニ囚虜セラル、幷王路易ノ姦計ニ從フ者至當ノ罰ヲ受ク　三二八
第八十二篇　第十一世路易英王第四世エドワルドト會盟、幷瑞西國ノ事　三三三

第八十三篇　ブルゴンヤ侯ノ女マリーノ不幸　三三八
第八十四篇　第十一世路易ノ佞諂、及捕鼠戯弄等ノ游戯　三四一
第八十五篇　佛王第八世シャル綽名デ、ボネールノ事幷アンド、ボージョー佛國ヲ攝管ス、王シャルブリタンヤノ嫡女ヲ娶ル　三四七
第八十六篇　王シャル以太里國ヲ攻メ速ニ其功ヲ成ス、及旋軍フオルノバノ戰勝　三五二
第八十七篇　佛王シャル、デ、ボテール行軍ノ變化、幷其死其品行　三五八
第八十八篇　第十二世路易綽號ル、ペール、デュ、ボープルノ治世、及賢相カルディナル、ダンボワーズノ事幷アンノ、ド、ブレターギュ后ノ事　三六一
第八十九篇　カスチールノ貴族奇異ノ禮典ヲ修ス、及カスチール后イサベラノ事蹟　三六四
第九十篇　羅馬法王第二世ジュリスノ貪饕、カンブレーノ盟約、幷ニ佛王第十二世路易ノ死　三六九

第九十一篇　佛王第一世フランソワーノ事、貴女始テ朝ニ登ル、及頭飾時様ノ變更、幷以太利ノ役　三七四
第九十二篇　西班牙王第五世シャルノ有地、及佛王フランソワート王シャルト相競フ、カルディナル、ウォルセーノ事　三七八
第九十三篇　金繡原幷暴行　三八四
第九十四篇　コンスタープル、ド、ブルボンノ冤、幷西班牙王第五世シャル偶然ノ利ヲ敵ニ得ル　三八八
第九十五篇　王シャル佛王フランソワーヲ獄舍ニ訪フ、幷シュワイエ、バヤールノ事　三九三
第九十六篇　ラ、ベーデダム佛國ノ建築法　三九九
第九十七篇　佛國ノ建築法、幷炎熱夏ノ如キコト六年　四〇二
第九十八篇　第一世フランソワーノ殂ヨリ第二世顯理ノ后カトリン、ド、メディシスノ事　四〇五

第九十九篇　西班牙王第五世シヤルル王位ヲ辭シテ餘生ヲ樂ム　四〇九
第一百篇　サン、カンタ-ノ役、西班牙王フィリップノ盟約二條、及エスクリヤウノ宮殿、幷カレーノ地佛ニ歸ス、佛王顛理ノ死

目錄畢

具氏佛國史上册

和蘭　漢加斯底爾　譯

緒言

現今ノ狀勢

境界幅員風土等第一

佛蘭西ハ歐羅巴中樞要盛大ノ一邦ニシテ其西部ニ位シ亞墨利加合衆國ヨリ東殆三千二百里ノ處ニ在リ其南ハ士班及地中海ニ至リ東ハサルヂニヤ瑞西國及獨逸國ニ境シ北ハ比利時及英吉利海峽ニ接シ西ハ大西洋ノ一部ビスケー灣ニ達ス地中海ノ一小島コルシカモ亦佛國ニ屬ス

ガロンヌルワウルローヌセーヌ等ノ河ハ佛國ニテ最著名ナルモノナリ

ピレニーノ山脉ハ佛國ト土班ヲ限リアルプス山ハ佛國ト瑞士國以太利ノ間ニアリテ境界ヲ分チスヴエヌノ連山ハ佛國ノ中部ニ在リ

其廣袤各殆六百里面積二十萬五千方里アリ之ヲ英國ニ比スレハ殆二倍紐約ニ比スレハ殆四倍ナリ住民ノ數三千七百三十萬口アリ之ヲ合衆國全部ノ人員ニ比スレハ更ニ多シ全國ヲ區分シテ八十九縣トナス猶米國ノコウンチーノ如シ各縣ノ名ハ大概其地ヲ流通スル河ノ名ヲ採ル今佛國ノ地圖ヲ掲クルコト左ノ如シ 今地圖ヲ略ス

佛國ノ風土ハ甚爽快ニテ巴里ハ華盛頓府ト氣候ヲ均フシマルセーイハ較温暖ニシテ其度米國ノ南カロライナ州中チャーレスタウンニ似タリ故ニ此國ニ來遊スルモノハ其人民ノ多ク戸外ニ在テ日月ヲ消シ

ソレガタメニ爽快和暢ノ國風アルヲ見ルヘシ

其土地ハ果穀ニ適シ多量ノ大小麥、裸麥、燕麥ヲ産シ又無數ノ櫻子、葡萄、無花果、桃子等ヲ生シ葡萄ヲ以テ酒ヲ釀スコト甚大ナリ

都城市坊住民第二

巴里ハ世界中ニテ繁華壯麗ヲ盡シタル都會ノ一ナリ墻壁四周シ住民ノ數殆百千口アリセーヌ河之ニ通シ好美ノ橋梁ヲ處々ニ架ス

府中ノ屋宇ハチユヰルリー宮ヲ以テ第一トシ佛王愛シテ居留セシコト年久シク紀元一千八百三十年ニ踐祚セシ王路易、比里普最後此ニ住セリ一千八百四十八年ニ是王其民ニ逐ハレ出テ龍動ニ奔ル現今ニ千八百六十五年時代佛蘭西ハ帝國ニテ其主長ヲ皇帝ト稱シ冬月ノ間チユヰルリー宮ヲ以テ皇居トス

此他結構美麗ト稱スルモノハマドレヌ教院、商人會社、ノートル、ダーム教院、パンテヨン教院、民選議院、議事堂及府廳等ナリ

府下ニハ公園アリ壯麗奇偉人ヲシテ歎賞セシムチユウイルリーノ宮園ハ砂石ヲ以テ蔽ヒタル徑路及立像飛泉花木ノ類アリテ之ヲ飾リ其廣凡七十エークル（一エークルハ我四段十八歩餘）ニテ府ノ中心ヲ占メ民庶行樂ノ所タリ天氣晴朗ナルニ方リ數千ノ遊人織ルカ如ク幾百ノ兒輩モ乳母ニ伴ハレテ皆往來逍遙シテ之ガ爲ニ一段和悅ノ景色ヲ添ヘリ

府下東邊ノ地ニ植物園アリ殊種ニシテ異趣アルモノ之ニ滿チ花卉草木ヨリ自外人ノ心目ヲ樂マシムヘキ物相聚リ世界萬國ヨリ來リシ珍禽奇獸群ヲ成セリ

一箇莫大ノ遊園アリイリシアン、フィルヅト云フ中ニ大路ヲ設ケ粧フ

ニ林樹ヲ以テシ常ニ百千ノ車馬往來シ無數ノ行人絡繹トシテ絶エス皆歡娯ヲ此ニ取レリ

市坊中最有名ナルモノヲブルワールー坊トス長數里ニテ肆店鱗次シ人民ノ往來甚繁ク快晴ノ日ニハ其群集尤夥シク皆遊歩シテ娯樂スルモノヽ如シ家屋ノ制多クハ七層ニテ極メテ宏麗ナリ凡市肆ノ美ナル行人ノ多キ樓閣ノ壯ナル見ルトシテ繁富豪侈ナラザルナク實ニ宇内ニ冠絶シ何ノ市街カ能ク之ニ比スベケンヤ

巴里ノ人民ハ各懇切嘉スベキノ情アリ禮貌ヲ以テ外人ニ接シ内國ノ民ニ均シキ意アラシメンコトヲ冀フモノヽ如シ府中ニ在ル所ノ圖書、偶像庭園家屋文庫公共家宅（濟貧院治病院劇場學校等ノ類）等ノ著名ナルモノヲ通覽センニハ爲ニ一年ヲ費スヘシ

府中尤奇異トスルモノハ地下深數百尺ノ處ニ在ル一大窟ナリ素死者ヲ葬ル爲ニ掘リシモノニテ既ニ數千萬軀ヲ埋メ髑髏ノ此ニ在ルモノ勝テ計フベカラズ所謂カタコンブ是ナリ現今ニ及デハ已ニ之ヲ鎖シ人ノ見ルヲ許サズ

其他大都邑ト稱スベキ者多キ中ニルアンハ既ニ頗名聲ヲ史書ニ垂レ且近來寶玉ヲ製スルニ名アリボルドーハ釀酒ニ名アリハーヴルハ米船ノ去來輻湊スル處ナリマルセーイハ釀酒及通商盛大ナリリヨンハ絹帛ヲ製造ス皆倶ニ名アリ尚著名ノ都邑數多アリテ枚擧スルニ遑アラズ

佛國人民第三

既ニ說キシ如ク佛國全部ノ人員三千七百萬口ニテ一般ニ幸福ノ民ナ

リ其心性各爽快和暢ニシテ天候モ亦淸爽ナルヲ以テ多クハ戶外ニ在リテ交遊シ會話戲言小說等ヲ好ミ且世界中最禮節ヲ重ンズト云フ

佛民ハ遊戲ヲ好ム質アリト雖才能モ亦乏シカラズ其文藝ニ富ミ星學、化學、礦學者殊ニ巴里ニ多シ而シテ世上營業ノ術次第ニ改正シテ今日ノ盛ナルヲ馴致セシハ其功ヲ佛人ノ才智學問ニ歸セザルヲ得ズ且佛人ハ勇悍ニテ兵事ニモ長スルノ聞アリ

又音樂、彫刻、畫圖、建築等ノ術ニ長ジ時規及精妙ノ寶玉ヲ製スルニ巧ナリ且衣服ノ時好ヲ移スベキモノヲ創製スルコトヲ善クシ米國人ノ裁縫ハ大抵樣式ヲ巴里風ニ取レリ

巴里府民ノ衣粧ハ日ニ新ヲ競ヒ奇ヲ爭フト雖其僻遠ノ地ニ在リテハ尚曾祖父母在世ノ日一百年前ノ風ヲ固守ス故ニ巴里ノ婦人ハ羊韋ヲ

以テ製セシ輕軟ノ靴ヲ穿タレド田舎ノ女輩ハ依然トシテ重三斤程ノ木履ヲ穿ツ亦一奇事トス

概シテ論ズレバ佛人ハ大小ノ事業ニ名譽アリテ戰爭、兵略、築城、踏舞、天文或ハ假髪ヲ作リ或ハ新式帽子ヲ創メ靴ヲ作リ歐羅巴ノ政事ヲ定ムルヨリ廚膳ノ事ニ至ルマデ爲ス所行フ所超絶セザル者ナシ

佛國ノ驛遞馬車ハ概重大ニシテ行クコト甚遲ク常ニ多量ノ物品ヲ載セ迯ル故稱シテヂリジヤンス（勞力ノ義）ト云ヒ名實相適シ其運轉速ナラザレドモ頗重キニ堪ヘ一日ニ能ク遠隔ノ地ニ往來ス佛人ノ航海術ハ英米ニ如カズト雖近世ニ及テ大ニ更新シ夫ガタメニ其當今海軍大ニ備ハリ而シテ陸軍モ頗整肅熟練シ鐵路滊船等亦缺ク所ナク但甚多カラザルノミ

佛國ハ紐約ニ四倍スルニ過キサルノ地ヲ以テ三千七百三十萬ノ人口ヲ容レ居住セシムルヲ得ル所以ノモノ三アリ土地沃壤ナル一ナリ人民勉勵スル二ナリ需用ヲ節スル三ナリ國民三分ノ二ハ農耕ヲ以テ職トシ其一ハ製造ヲ以テ業トス

其治法ハ路易比里普在位ノ時ニ方リテ君主政躰ニテ王ハ人民ノ首長ナレトモ法律ヲ定ムルハ先議院ニ於テ判決シテ後王ニ奏シ允可ヲ得テ之ヲ行ヒ王ハ即行法官ニテ法律ヲ施行セシ故ニ其政體ハ所謂立君定律ナリシガ今日ニ至リテハ既ニ上ニ説シ如ク佛蘭西ハ帝國ナリ

吾佛人ノ履歴ヲ説キ古代ヨリ近キ一千八百年マテノ間ニ起ル事情君王俊傑國民等ノ所爲及何ノ徳化ニ因テ野蠻散居ノ種族ヨリ歳月ヲ經テ遂ニ今日文明ノ人物生出スルニ至ル所以ヲ記スヘシ今佛國史ノ概

畧ヲ豫知セシメンガ爲ニ一言ヲ下スコト左ノ如シ佛國ハ初ゴールト云ヒ其人民ヲゴールスト稱シ羅馬ニ併セラレテ其版圖ニ入リシガ後フランクスト稱スル夷族此地ニ來侵シ遂ニ之ヲ制服シテ居ヲ爰ニ定メリ

佛蘭西ノ稱ハフランクス種族ノ名ニ基ク所ニシテ現今ノ國民ハ其源ゴールス、フランクスノ二族ニ出デ其語ハ羅甸ゴールス、フランクス及近古ノ言語ト錯雜シテ成レル者トス

其鄙野粗暴ノ民殆二千年ノ星霜ヲ積ミテ此ノ如キ風俗ニ進ミ巴里ノ如キモ古時ハセーヌ河中ノ島上ニアル一村落ニテ叢林圍繞シ豺狼ノ竄タリシガ漸ク開ケテ今日ノ景況ヲ成ス盛ナリト云フヘシ乃其由テ來ル所ノ方ヲ誌ス史ヲ讀ムハ亦樂シカラズヤ

第一篇　佛國往古ノ民俗

往古佛蘭西ハ現今ノ如ク合一ノ國ニ非ズシテ各部分立シ各酋長アリテ之ヲ統轄セシガ爾後一酋長ノ威力獨盛ナルモノ出テ漸ク諸部ヲ蠶食シ終ニ全國ヲ幷有シ以テ此ノ如キ強大ヲ基セリ

人民ノ獨逸ヨリ此國ニ移住セシコトハ蓋二千五百年前ニ始マル當時書籍モナク文字モナシ余輩今日ニ在テ能ク佛國昔時ノ形勢ヲ知ル所以ハ一ニ羅馬人ノ傳授ニ依レリ始國民羅馬ト干戈ヲ交ヘ兵結テ解ケザルコト久シ遂ニ力窮リテ國ヲ以テ羅馬ノ將ゼリヤス、シーザルニ降レリ時ニ紀元前六十年ナリ

シーザル人ト爲リ文武兼備シ其畧取セシ諸國ノ土地風俗見ル所ニ從テ之ヲ記シ遂ニ一部ノ史ヲ成シタリ昔羅馬人此國ヲガリヤト號セリ

今ニ至ルマデ或ハ稱シテゴールトナスモノハ是ヨリ轉ジ來ル所ナリ

余嘗テ聞クシーザル佛國ヲ畧奪セシ頃其民ゴールスト稱スルモノ極メテ野蠻ノ風アレドモ其資質ニ至リテハ現今ノ佛民ト大ニ異ナル所ナシト

ゴールスハ其性鋭敏豁達ニテ物ニ觸レ感ジ易ク含糊忍耐シテ久シキヲ保ツ能ハズ而シテ其習慣行爲較亞米利加印度ノ蠻俗ニ優ルモノアリ巴里ノ如キモ當時ニ在リテハ木材泥土ヲ以テ作リ僅ニ雨露ヲ避ルニ取ル印度ノイグマンノ如キ家屋ノ比ニ過ギザルノミ

ゴールスノ常ニ産業トスルハ漁獵ニシテ其用ヰル所ハ弓矢アリ斧鉞アリ其斧鉞ハ印度ノトマハウクノ如ク戰場ニ臨テ敵軍ニ擲ツノ具ナリ其所爲ノ最不良ニシテ印度人ト相類スルモノハ平生酷烈ナル醇酒

ヲ飲ムコト過度ナルニ在リトス

其衣服ハ外套ニ似タルモノヲ肩上ニ被ムリテ皮膚ニ襯着スル股衣ヲ穿テリ其風俗ノ遠ク印度人ト異ナルハ婦人ヲ過スルニ謙遜禮讓ヲ主トスル事ニテ甚嘉尙スベキナリ故ニ其婦人モ亦品行柔順ニシテ野蠻ノ女輩ト日ヲ同フシテ論ズベカラザル所アリ

ゴールスハ嘗テ禮拜堂ノ設ナク唯密林中ニ人工ヲ經ザル石ヲ積ミ之ヲ直立シテ大圓ヲ作リ庶民此ニ群集シヅルウイドト稱スル教法師白衣ヲ着シ檞葉ヲ戴キ圜前ニ來リ祭物ヲ其神ニ供セリ此石圜既ニ頹壞シテ全體ヲ留ルモノナシト雖其遺跡ノ尙存スルモノ少ナカラズ

ヅルウイドハ立法錄事ノ二務ヲ兼ネ常ニ法律記事ヲ詩歌ニ作リ之ヲ諳誦シテ以テ人ニ傳ヘリ且國民ヲ擅制シテ以テ死生ノ權ヲ握リ甚シ

キニ至リテハ人類ヲ以テ其神ヲ祭リシコト往々アリシト云フ

第二篇　羅馬人佛國ヲ略奪セシ事

ゴールガ羅馬ノ將シーザルノ兵ニ掠奪サレシコトヲ既ニ前篇ニ記セリ是ヲ以テ當時羅馬ハ富豪雄大ノ帝國タリシコトヲ知ルベシ此國羅馬ノ版圖ニ在ルコト四百餘年ノ間平穩無事ニテ羅馬ノ民頻ニ移住シ因テ其風俗技藝ヲ此ニ傳ヘリ

是時ニ當リテゴールスハ泥土ヲ塗リタル廬舍ノ卑陋ナルニ居息シ羅馬人ハ宏麗ナル殿宇ニ居住シ浴室ヲ設テ之ニ沐浴セリ其製堅牢ニシテ今ニ至ルマデ存スルモノアリ且ニスメスノ市中ニ華美ナル圓形ノ劇場アリ完全ニシテ昔日ニ異ナラズ此市中ニ一條ノ水樋アリ深谷ニ架シ大河ニ跨リ巨石ヲ疊テ之ヲ造リ三層ノ溝口ヲ設ケリ觀ル者ヲシ

テ更ニ羅馬ノ盛時ヲ追想セシム

羅馬人ハ常ニ廣大ニシテ多少ノ人衆ヲ容ルベキ家屋ニ居住シ其一室ヲ婦人ニ付シテ男子ト隔絶シテ住セシメ且毎戸數十名ノ俘虜ヲ以テ奴僕トシ之ヲ使役セリ

羅馬ノ侵略ハゴールニ鴻益ヲ與ヘタルモノニシテ夫ガタメニ國民羅馬ノ教化ヲ受ケ技藝ヲ學ヒ遂ニ文明ノ基ヲ開キ爾來貿易モ盛ニ行ハレテマルセーイアールローオートンリオン等ノ都邑宏壯ヲ成スニ至レリ此際ニ設立シタル商會依然トシテ尚巴里ニ在リ

此商會ノ會長ヲプレボー、デ、マールシヨー（商人ノ首長ト云フ義）ト稱シ歳月ヲ經ルニ從テ勢力ヲ得テ府中ニテ貴要ノ官員ト爲リ米國ノ市尹ノ如キ威權ヲ行ヘリ此職名ヲプレフェートト稱シ今ニ至リテ尚佛國ニ存ス

第三篇　フランクスガ羅馬人ヲ佛國ヨリ擯除セシ事　フハラモンクロヂオンメロベウ　長髮ノ王族　シルデリックノ事蹟　王クロヴィー其后クロチルドノタメニ耶蘇教門ニ入リシ事及靈蹟

當時獨逸人ハ移轉ヲ好ミ人ノ所有ヲ掠奪スルコトヲ欲スルノ念絶エズシテ稼穡ニ勤勞スルモノナキニヨリ人益多クシテ食益乏シク遂ニ遊惰無頼ノ徒陸續トシテ羅馬ノ境內ニ寄寓シ而シテ羅馬ノ國勢ハ既ニ盛大ノ極ヲ窮メテ顚妄頹ノ兆ヲ現ゼリ

紀元二百五十年ノ頃ニ當リテ獨逸ノラインウ—エセル兩河邊ニ移住セル許多ノ民族既ニ一部落ヲ成シ始テフランクスノ名アリフランクスハ自主自由ノ民トイフ義ナリ此徒ハ常ニ羅馬人ト親睦セズシテ五

ニ干戈ヲ交ヘ百三十年ノ久シキヲ經ルニ及テ兵事纔ニ休ミ都邑ヲラインン河邊ノ地ツリブスニ建テ此ヨリ漸他處ニ移住シ遂ニゴールヰ即佛國ニ遷レリ

余輩當時佛國ノ情勢ヲ識ルコト甚分明ナラズト雖世ノ傳フル所ニ依レハ此時フランクスヲ統理セシ者ヲ王フハラモントト云ヒ紀元四百二十八年ニ殂シテ毛髮美麗ノ聞エアリクロヂオン位ヲ嗣ゲリクロヂオン紀元四百四十八年ニ殂シ繼デ王タル者ヲメロベウト號シテメロヴァジャン朝ヲ基シ佛國王家ノ首祖タリト云フ此說事實甚適セザルモノアリ因テ余常ニ信ズル所ヲ記シテ曰クフランクスハ紀元四百年代ニ於テ既ニ強盛ノ民タリ四百五十八年ニ及テ王シルデリック出テ漸ク版圖ヲ廣メ遂ニ佛國ロワウル河邊ニ至ルマデヲ有セリ

王シルデリツクハ雄略膽氣アリト雖國民服セズシテ之ヲ境外ニ追放シ羅馬ノ將エジニデアスヲ奉シテ王トセリシリデリツクハ腹心ノ臣數輩ヲ此國ニ留メ置キシガ其一人ヴィオナルドト云フモノ偶嗣王ノ寵遇ヲ受ケテ其言フ所一トシテ聽カレザルコトナク竊ニ嗣王ヲ誘惑シテ無道ヲ行ハシメケレバ國民失望シテ王ヲ怨ムニ至レリ

ヴィオナルドハ新主ノ既ニ民心ヲ失ヒシコトヲ諦知シ乃王シルデリツクト離別ノ際ニ分取セシ所ノ半片ノ金塊ヲ王ニ送リシカバ王ハ機會正ニ到ルコトヲ悟リ速ニ歸國シ兵ヲ募リ新主ヲ廢シテ終ニ再踐祚セリ爾後紀元四百八十一年ニ逝去シ佛王ノ位ヲ終フ

紀元一千六百五十三年ニ及テ王シルデリツクノ古墳ト云フモノヲ發キシニ數種ノ遺物アリテ就中奇愛スヘキ者ハ美男子ノ像ヲ刻ミタル

金環ナリ其人物タル髭鬚ヲ剃去シ長キ鬈髮ヲ額上ニテ分ケ其末ヲ肩ニ垂レ右手ニ投槍ヲ持セリ此像ヲ鈕ニシテシルデリツクノ名印ヲ彫セリ

當時他フランクスハ其髮ヲ頭後ニ於テ短ク剪リシニメロバシヤン王族ハ長髮ヲ卷縮シテ肩ニ掛ケル風ナリシ故ニ之ヲ稱シテ長髮ノ王家トイヘリ

王シルデリツク殂シテ子クロヴィー嗣デ立ツ其即位ノ初ニ當リテハ尚バーガン宗ヲ奉ゼリ時ニブルゴンザー國王某ノ姪クロチルダト云フモノ姿色德行アルヲ聞キ之ヲ娶ランコトヲ請ヒシニ某ハ王ノ素ヨリ勇悍無雙ノ聞アルヲ以テ此婚ヲ拒マバ不測ノ禍ヲ招カンコトヲ恐レ己ムヲ得ズシテコレヲ許セリ

是ニ於テ佛王使者ヲ遣リ黄金二枚ヲ齎ラシテブルゴンヂーニ納幣シケレバ程ナク王女ハ資装ヲ整ヘ牛車ニ駕シテ佛國ニ歸嫁セリ此ノ牛車ハ製造美麗當時ニ冠タルモノナリ今ニ至ルマデ土耳其ノ婦人ハ出遊ノ際牛車ニ乘ルト雖佛國ノ后妃ハ之ヲ用ヰルモノナシ

王后クロチルダハ王ヲシテ其信奉スル所ノ耶蘇教ニ變ゼシメント欲スレドモ王固執シテ從ハザレバ之ヲ強ル能ハズ後某ノ戰起リ王師利ヲ失ヒ危急ニ迫ルニ及ンデ王憂苦シテ我后敬事スル所ノ神能ク我ヲシテ勝算ヲ得セシメバ必洗禮ヲ受ケント祈誓シケレバ忽敗ヲ轉シテ大勝ヲ得タリ是ニ於テ王誓ヲ守リ紀元四百九十六年耶蘇生日ニ其妹及臣民三千餘人ト共ニレンス府中ニテ洗禮ヲ行ヒケリ爾來佛王累世耶蘇教ヲ信ズルハ此王ヨリ始マル所ナリ現今佛國ニ靈壷ト稱スルモ

ノアリ傳ヘテ云ク昔王クロヴィー即位ノ禮ヲ行ヒシトキ一隻ノ鳩此壷中ニ膏油ヲ盛リ嘴頭ニ挾ミ天ヨリ飛來セリト蓋時俗附會ノ説ニシテ信ズルニ足ラズ

第四篇　王クロヴィーノ迷誤　サリツクノ法　王ト兵卒トノ事

佛國ツールス府ニ住スル教法師サン、マルタント云フモノアリ王クロヴィー常ニ之ヲ尊敬シ恩遇日ニ優渥ナリ一日王進征ニ臨ミ此ノ役ニ戰勝ヲ得バ我最愛ノ馬ヲ以テ教師ニ與ヘント誓ヘリ既ニシテ大ニ勝ツ乃約ノ如ク馬價ニ代ヘ黄金百顆ヲ與フマルタン固辭シテ敢テ受ケズ王其清白ニシテ受ケサルコトヲ知レドモ受ケザレバ王モ亦其馬ヲ恣ニスルコトヲ難ンズ而シテ之ヲ受ケシメンニハ方ナシ因テ歎息シテ曰ク彼禍亂ノ際ニ當リテハ能ク國難ヲ靖定シ實ニ無比ノ良友タレドモ

モ平時ニ在リテハ恬退ヲ甘ンジテ共ニ事ヲ處シ難シトマルタン聞テ止ムヲ得ズシテ賜ヲ拜セリ王グロヴィー常ニ權謀勇略ヲ喜ミテ疆土ヲ廣ムベキ機會ヲ伺ヒシ故ニ其教法ノ德ヲ以テスレドモ功名ノ念ヲ絕ツコト能ハズ但其在世ノ日時俗皆誣誘ヲ信ジテ禮拜堂ヲ建テ或ハ財物ヲ教院ニ供スレバ罪過ヲ償フコトヲ得ヘシト謂ヒ王ト雖亦此迷誤ヲ懷ケリ

當時教法師史書ヲ編製スルモノ王ノ恩惠ヲ利シテ敢テ其殘酷欺詐ノ狀ヲ記載セズト雖王威權ヲ已レニ收メント欲シテ王族數人ヲシテ髮ヲ斷テ庶民ト同シカラシメ又其頭髮加長シテ已レニ類似スルアランコトヲ恐レ往々之ヲ死ニ處セシコトアリト云フ

然レドモ王ハ全國各部ヲシテ號令一ニ歸セシメシヲ以テ佛國創業ノ

主ト謂フモ可ナリ且苛暴ノ失アリト雖亦智慮ニ乏シカラズシテ在位ノ間公平慈善ヲ主トスル幾篇ノ律書ヲ編製シ其リーピュアリヤント題スルモノハミーウスライン兩河邊ヲ戍リシ軍隊ノ號ヲ取テ之ヲ名ヅケリ

此ノ他題シテサリツクノ法ト曰フアリ其編製シタル地ノ傍ニ在ル河名サユルヨリ取リテ斯ク名ヅケラレシモノニテ書中婦人王位ニ即クコトヲ禁ジタル一款ハ尚國內ニ行ハルヽ故サリツクノ法ハ頗人ノ知ル所ナリ是ニ因テ佛王ノ配ヲ王后ト稱シ王クロヴィー以來今日ニ至ルマデ佛國ニ女王ナシ

王クロヴィー在位三十年ノ間兵亂止ムトキナク常ニ軍伍ノ中ニ在リテ多ク將帥ノ務ニ從事シ且規律ヲ以テ兵ヲ制セズ其掠奪ヲ縱マヽニ

セシ故賊群ノ長タル誚ヲ得タリ王ト士卒トニ於ケル狀ハ次ノ一話ヲ以テ知ルベシ

王ノ部兵教院ヲ犯シテ奪ヒタル貨物ノ中ニ絕美ナル瓶子アリ教正王ニ請ヒテ之ヲ還付セシメント欲スレドモ如何セン法ニ戰場ノ刧掠スル所ハ全軍ノ有ニシテ鬮ヲ拈テ獲ルニアラザレバ王トイヘドモ私スルコトアタハズ

是ニ於テ一軍各刧掠スル所ヲ分受センタメニソワッソン近傍ノ郊野ニ會集シ貨物ヲ前ニ陳列シ將ニ鬮ヲ拈ントス王教正ノ情ヲ以テ瓶子ヲ請フ皆將ニ還付セントス忽一卒アリ斧ヲ把テ瓶子ヲ擊碎シ揚言シテ曰ク王トイヘドモ鬮ノ與フル所ニアラザルヨリハ擇テコレヲ取ルヲ得ズト

王其暴慢無禮ヲ怒ルトイヘドモ聲色ニ顯ハサズ時ヲ以テ之ニ報ズルコトアラント欲セリ既ニシテ王出テ兵ヲ曠野ニ閱セリ前ノ卒偶隊中ニ在リテ行伍ヲ亂リシカバ王直ニ劍ヲ拔テ其頭ヲ斬リ罵テ曰ク汝ソワッソンニテ瓶子ヲ碎キシモ亦此ノ如シ

王其后クロチルダノ請ニ依リ一宇ノ教院ヲ巴里ニ造立セリ當時巴里ノ境域今ニ比スレバ甚狹小ナリ後蕙ヲ敬神ニ厚クスル所ノ婦人ジヨノヴィエーヴトイヘルモノヲ院中ニ葬リテ之ヲ祀レリ此ノ教院未全ク亡ビザルモノアリ之ヲフランクスノ遺構尙現在スル中尤古キ物ナリト云フ王紀元五百十一年ニ殂セリ

第五篇　先王クロヴィーニ嗣ギシメロヴアジヤン朝ノ諸王ヌルデュバレー及フェチアンノ事歷

クロヴイー殂シテ後フランクスノ風ニ從ヒ佛國ヲ其四子ニ分チテ王タラシメタリ其一ヲテオドリック一名チエリー第一世ト云ヒ二ヲクロドミルト云ヒ三ヲシルドベールト云ヒ四ヲクロテールト云ヘリ三子皆夭シテクロテール特存セリクロドミルノ遺孤三人アリテ祖母クロチルダニ撫育セラル

王クロテール三孤ヲ忌害シテクロチルダニ劍ト剪刀トヲ賜リ劍ハ以テ死ヲ諷シ剪刀ハ以テ薙髮ヲ諷セリクロチルダ謂フ其ノ薙髮セシメテ誹笑セラレンヨリハ寧死セシメント乃劍ヲ取リケレハ王手カラ二孤ヲ殺セリ其一クロドールト名ヅクルモノ一院ヲ巴里ノ郊外ニ建テ號シテサンクルート云ヘリクルーハクロドールノ訛音ナリ

王クロテール獨全國ニ君臨シ紀元五百六十一年ニ殂セリ四子アリ曰

クシャリベール曰クグートラン曰クシルベリック曰クシジベール此ナリシヾベール士班ノ王女ブルンホールヲ娶リテ后トセリ士班ニ來聘シテ王女ヲ迎ヘシハメール、デユ、パレー（宮名ニテ譯篇末ニアリ）ゴコトイフモノナリメール、デユ、パレー始メテ此ニ見ハレ後ニ王室ノ禍害ヲ釀セリ王女ノ士班ヲ發スルヤ銀飾ニテ圓形ノ車ニ駕セリ之ヲ以テ士班ノ殷富一時獨逸ニ超過セシコトヲ知ルベシ

シルペリック農家ノ女フレデゴンドト云フモノヲ娶リテ繼室トセリフレデゴンド才色アリト雖罪惡モ亦大ナリ後ニブルーンホールト隙ヲ生シ國民ヲシテ肝腦地ニ塗ミルノ禍ヲ作セリ

グートラン其兄弟ニ後レテ獨存シ紀元五百九十三年ニ至リテ殂セリ爾後シヾベールノ子シルドベール第二世及シルペリックノ子クロテ

ール第二世佛國ヲ分ケテ共ニ王タリ

王シルドベール紀元五百九十五年ニ殂シテ全國終ニクロテール第二世ノ有トナリシガ其紀元六百二十八年ニ殂セシ後其子ダゴベール第一世及シャリベール第二世國ヲ分テリダゴベールハシャリベール横害セラル、後一國ヲ幷有シ屢重罪ヲ犯セドモ法令嚴粛ニシテ審判公正ナルヲ以テ稱セラル

其在世ノ日ニ當リテ國勢富強ニ進ミ互市通商モ亦繁榮ヲ致シ金銀寶貨府庫中ニ盈滿セリダゴベール紀元六百三十八年ニ殂シ嗣王フェテアン偸惰苟安ノ人ト稱セラレシ者常ニ深宮ニ閑居シ心ヲ政治ニ用ヰザリシヨリ終ニメール、デュ、パレー擅ニ威福ヲナスニ至レリ

メール、デュ、パレーハモールドム即殺害ノ裁判官ト云フ義ナル古ノ獨

逸語ヨリ來レリ而シテフランクスノ徒僅ニ剌甸語ヲ學ビシモノモールドムヲマジョルドムスニ變ジ佛人又コレヲメール、デュ、パレーニ變ゼリ即宮中ノ長ト云フ義ナリ

紀元六百八十八年ニ及デメール、デュ、パレーノペパン、デリスタルトイフモノ終ニ全權ヲ掌握シ王ヲ宮中ニ幽閉シテシャンドマルシュ（三月ノ原野トイフ義）ノ會同ニ臨席スルコトノミヲ許セリ此會ハ貴族平民ノ集合ニテ毎年三月ニ始リ五月ニ終リ始ヲ三月ノ原野トイヒ終ヲ五月ノ原野トイヘリ此期限ノ外ハ王外出ヲ許サズ

ペパン子アリシャルト云ヒ戰場ニ臨ムゴトニ大力ヲ以テ敵軍ヲ擊破セシ故人之ヲマルテルト呼ベリマルテルハ槌ヲイフナリペパン紀元七百十四年ニ死シシャルル立テ其職ヲ嗣ゲリ是時サラセン（亞拉比亞ノ種族ナリ）

ノ徒既ニ以太里士班ノ地ヲ侵奪シ勢ニ乘ジ入寇セリシャル勇略ヲ以テ防戰シテ遂ニ國家ヲ匡濟シ紀元七百三十七年王チェリー第四世殂スルニ及テ威望益熾ナリ因リテ謂フ爾來王ヲ立テ徒ニ虛器ヲ擁セシムルハ無益ナリト

是ニ於テシャル自王位ニ登リ紀元七百四十一年ニ死シ二子ペパンカロマンニ邦ヲ遺附シテ分治セシメ二子即位シ名實兩ナガラ眞ノ國王ニ異ナラズ先王クロヴィーノ嗣統メロヴァジヤン王族ト稱スルモノ紀元四百八十一年ヨリ七百四十一年マテ佛國ニ君臨セシガ此ニ至リテ亡絶セリ

第六篇　メロヴァジヤン時代ノ再說

既ニ佛國史ノ第一局ヲ結ヘリ今再之ヲ詳說スベシ羅馬ノ將シーザル

未此國ヲ侵略セザリシ以前ノ事情ハ頗渺邈トシテ盡ク知ルベカラズ但紀元前五十年代ニ當リテ所謂セルト及ゴールスノ如キ野蠻ノ族此國ニ居住セシコトノミ明ニシテ信ズベシ

後此ノ民族羅馬ニ併セラレテ其版圖ニアルコト凡四百年其間ノ形勢ハ猶獨逸士班阿蘭陀比利時瑞士國其他以太里北部諸州ノ羅馬ノ版圖ニ在リシトキト相似タリ後紀元四百年ニ及テ北部ノ民族起テ羅馬ヲ侵擊セシニ因リ諸國始テ復其自立スルコトヲ得タリ

佛國ヲ草創セシ民所謂フランクスハ獨逸人種ニテ紀元四百年代此國ニ遷移シテ其居住ヲ定メタルモノナリ此ノ民始メ羅因河畔トレブト曰フ地ヨリ漸ク進入シ幾歲月ヲ經ル後終ニ全國ニ散布セリフハラモンクロヂオンメロベウ等ノ諸王ニ至リテハ既ニ說ク所ノ如ク其事歷

分明ナルコト能ハズ王クロヴィーニ至リテ其時代ヨリ以來ノ事ヲ紀スル所ノモノ甚悦ブニ足ラズト雖亦詳審ニシテ讀ムニ足ル者アリ當時ノ民ハ皆兇暴ノ野蠻ニシテ其王タル者獨威權ヲ專ニシ父母兄弟親戚故舊ヲ論ゼズ苟已ガ意ニ適セザルモノアレバ恣ニ之ヲ殺シテ怪マズ後所謂長髮王族メロヴァンジャンノ時紀元二百六十年ニ至テ人民漸次ニ開明シ殷富豐盛ノ塗ニ進ミ國力ヲシテ振ハシムルニ至レリ

メロヴァンジャン諸王系譜

- ○クロヴィー ── 紀元四百八十一年ニ即位セリ之ヲ佛王ノ始祖トス
  - チエリー第一世
  - クロドミル
  - シルドベール第一世
  - クロテール第一世
    - シャリベール第一世
    - グートラン
    - シルベリック
    - シジベール
      - シルドベール第二世

皆クロヴィーノ子ニシテ紀元五百十二年ニ即位シ國ヲ分テ治メリ三王夭シテクロテール獨存シ紀元五百六十一年ニ殂セリ

（シルベリック）其后ヲフレデコンドト曰フ

（シジベール）其后ヲブルーンホールト曰フ

皆クロテールノ子ニシテ紀元五百六十一年ニ國ヲ分テ王タリ三王早ク殂シテグートラン獨存シ紀元五百九十三年ニ殂セリ

シルドベールハシヽベールノ子クロテー

クロテール第二世
チユードベール
チユリー第二世
ダゴベール第一世
シヤリベール第二世
シジベール第二世

ルハシルベツクノ子ニシテ國ヲ分治セリ
皆シルドベール第二世ノ子ニシテ王位ニ即キクロテール第二世ト共ニ治ヲ圖レリ
二王紀元六百十三年ニ殂セシヨリクロテール獨國ニ臨メリ
皆クロテール第二世ノ子ニシテ紀元六百二十八年ニ即位シ六百三十一年ヨリ以降獨ダゴベールノミ存シテ王タリ
共ニ六百三十八年ニ立テ王タリシヾベー

クロヴィー第二世
ダゴベール第二世
クロテール第三世
チユリー第三世
シルデリツク第二世
クロヴィー第三世
ダゴベール第三世
シルペリツク第二世
クロテール第四世
チユリー第四世

ル先殂シクロヴィー存シテ位ニ在リ六百五十年ニ殂セリ
六王各政治ニ怠リ國事ヲ一ニペパンデリスタルニ委ネテ虚位ヲ踐ミ紀元六百五十五年ヨリ七百十四年ニ至レリ
三王皆孱弱ニシテ威權專シヤル、マルテルノ手ニ在リ

第七篇　王ペパンル、ブレツフノ紀

王シャル、マルテル其繼嗣ヲ永世ニ傳ヘンコトヲ欲シテ心力ヲ費セトモ遂ニ志ノ如クナル能ハズ長子ペパント云フ者軀幹短小ナルヲ以テルブレツフ即矮人ノ稱アリ其人鋭敏果敢ニシテ名利ヲ貪ルノ心アリ其弟カロマンヲ教堂ニ幽閉シ且メロヴァジャンノ系統ヲ廢絶セント欲スレドモ人民服セザルコトヲ恐レ止ムヲ得ズ一王子ヲ奉ジテ王トナシ之ヲシルデリック第三世ト云ヘリペパン威權益盛ナルニ及デ嗣王シルデリックヲ廢シテ其弟カロマント一樣幽閉シ遂ニソワスソン府ニ於テ王坐ヲ楯上ニ設ケテ即位セリ楯上ノ即位ハ王者ノ大禮ナリペパン尚其身ヲ神聖ニセンコトヲ欲シ膏油ヲ靈壺ヨリ取テ頂門ニ塗ラシメタリ塗油ノ禮ハ現今ニ至ルマデ佛王位ニ即クゴトニ之ヲ行ヘリ

昔猶太國ノ先識者サミユールトイフモノアリテソール即位ソールハ猶太教徒ノ長ニシテ政教ヲ兼領セリ此時國王タルモノナクソール初テ位ニ即ケリノ日膏油ヲ頂門ニ塗リシト云フコトニ因リテ觀レハ此塗油ノ禮ハ蓋猶太ノ風ニ倣ヒシモノナリ王ペパン在位ノ際佛國頗富強ヲ致シ王ノ威名天下ニ轟キ遠ク君士但丁現今ハ土耳其ノ首府ニシテ當時東羅馬ノ都セシ所ナリニ及ビ東羅馬帝之ニ贈ルニ貴重ノ物品ヲ以テセリ其中ニ風琴ノ大ナル者アリ是佛國ニ於テ未嘗テ見ザルモノナリ

王ペパン身體卑矮ナルヲ以テ常ニ近侍ニ嘲笑セラルヽ因リテ之ヲ禁ズルノ法ヲ按シ一日近侍ヲ從ヘ獅牛ノ格闘ヲ觀ントシテ其場ニ臨メリ時ニ獅牛暫相鬪ヒテ獅遂ニ牛ヲ倒セリ王乃左右ヲ顧ミテ曰ク誰カ能

ク彼ヲ分離センヤ然ラザレバ能ク之ヲ殺サンヤト謂フニ皆失色シテ敢テ之ヲ能セント言フモノナシ王乃曰ク我自ナサントテ自起テ劍ヲ拔テ獅ヲ一撃ノ下ニ斃シ刀ヲ轉シテ又牛首ヲ斷ツ此ヨリ復王ヲ誹笑スルモノナシト云フ

王ペパン紀元七百六十八年ニ殂セリ二子アリシャルト曰ヒカロマント曰フカロマン夭死シシャル立テ王位ニ即ケリ世之ヲシャ―ルマ―ギュ或ハシャル、ル、グラント號セリ即シャル大王ト云フ義ナリ此號ハ王ノ殂落後ニ人ノ稱スル所ナリト雖讀者ヲシテ解シ易カラシメン爲ニ生前ヨリ之ヲ記セリ

第八篇　王シャ―ルマギュノ紀上

シャ―ルマギュハ佛王中最著名ナルモノヽ一人ニシテ唯兵事ニ達セ

シノミナラズ亦政學ニ長シ雄才大略ヲ以テ諸方ヲ征服シ竟ニ佛國獨逸及以太里ヲ兼幷スルニ至レリ其所領ノ廣キ此ノ如キ故ニ尊ビテ西土ノ帝ト稱セラルヽコト猶君士但丁ニ都セシモノヲ稱シテ東土ノ帝トナスガ如シ西土ノ帝ノ號ハ先ニ羅馬帝ノ稱セシモノナリ

王ハ先王ペパンノ短軀ナリシニ似ズ常人ヨリモ長大ニシテ長七尺餘腰圍之ニ稱ヘリ唯其頸項過大ニシテ當時咽喉ヲ顯ハス俗ニ適セズ頗異體ナリシノミ其衣服ハ公會盛燕ニ臨ムトキハ華美ナルモノヲ用ヰレドモ平日ニ至テハ極メテ粗悪ニシテ庶民ノ最卑賤ナルモノト差等アラズ

王始外套ノ長クシテ裾地ニ至ルモノヲ着セシニ獨逸樣ノ外套ハ短クシテ彩色アリテ戰卒ノ禮ニ適スルヲ以テ終ニ之ニ變化セシコト怪ム

ベキニアラズ王嘗テ以太里ヲ侵伐セシ時其一府ベニスノ商人東土ヨリ輸入セシ所ノ紬緞及細美ノ毛皮ヲ見テ深ク之ヲ愛賞セシ故ナリ王麻布ヲ以テ作ル所ノ襯衣ヲ着シ其上ニ絹ヲ以テ綢繆セシ表衣ヲ着ケ足ニ小帶ヲ以テ十字ニ結束スル襪ヲ穿テリ王ハ此ノ如ク倹素ヲ好ムト雖臣民奢侈ノ風猶已マザルヲ以テ布帛ノ價ヲ定メ且府民ノ等級ヲ設ケ其級ニ従テ之ヲ服スルコトヲ許セリ

王職務ニ勤勞シテ徒ニ光陰ヲ費サズ衣服ヲ着ル間ト雖亦訟獄ヲ聽キテ曲直ヲ裁斷シ食スル時モ人ヲシテ側ニ在リテサンオーギュスタンノ著書若クハジェルサレム（パレスタイン國首府ノ名）ノ史冊等ヲ朗讀セシメテ之ヲ聽ケリ時トシテハ其中心ニ急要ノ事件ヲ思ヒテ夫ガタメニ食味ヲ忘ルヽコトアリ然レドモ庖人其嗜好スル所ヲ知リ常ニ炙肉ノ類ヲ供

セリ

王博學ノ士ヲ愛シテ外國人ノ智識アルモノヲ廟堂ニ招延セリ其中ニ英國ノ卑渉（ビショップ）（教法師ノ官名）アルクイント云フモノアリテ學力當代ニ卓絶セシ故王之ニ與フルニ許多ノ土地ヲ以テセシカバアルクイン富裕ヲ極メテ二千人ノ奴僕ヲ使用セリト云フ是時ニ當リテ文字アルモノハ唯此ノ教法師ノミナリ學ヲ好ム君主ノ恩寵優待ヲ蒙リシハ固ヨリ宜ナリ」既ニ設立セシ學校少ナカラズト雖其講習スル所ノモノハ文法書數學及禮拜堂ノ音樂等ニ過ギズシテ之ヲ以テ全備ノ學科トセリ蓋僅ニ智識文學アル教法師輩ノ重任トスルモノハ神ニ祈禱スルコトニ過ギザリシ故ナリ

王シャールマギュ常ニ教法師徒ノ貨賄ヲ貪ルコトヲ悪ミテ之ヲ譴責

スト雖尚其富殖ヲ禁ズルコト能ハス其眷遇厚大ナルニ因テ彼輩ヲシテ威福ヲ擅ニスル勢ヲ養ヒ遂ニ後世高貴ノ教法師王族ノ患害ヲ成スニ至レリ卑渉ノ輩廣ク土地ヲ有シ驕傲奢侈ニシテ侯伯ニ超越セリ

抑教法師ノ職ハ平安無事ヲ掌ルニ在レドモ卑渉ハ然ラズシテ國ヲ亂スモノ、魁首トナリ兵争起ルコトニ先ヲ争テ進鬪シ且王シャールマギュ之ヲ制御スルタメニ定ムル所ノ律法ヲ顧ズシテ流血ノ戰場ニ趨クニ至レリ

王文學ヲ好ムト雖寫字ニ至テハ甚拙悪ナルガ故ニ老年ニ及テ大ニ刻苦シテ學ヘドモ終ニ能セズ而シテ當時備書ノ職ニ給スルモノ數人ノミニ過ギズ

王己ヲ奉ズルコト倹素ニシテ其臣下ヲ待遇スルコト優渥ナリ毎歳兩

度大ナル宴席ヲ開キ諸貴族ヲ招集スルヲ以テ例トセリ此宴ハ常ニ一週間ノ長キニ至リ稱シテ滿盈ノ朝會ト云ヒ貴族各其僕隷ヲ從ヘテ饗宴ヲ受ケリ其費一ニ王ノ府庫ヨリ出ツ宴終ル毎ニ三人ノ傳令官アリテ手ニ金盃ヲ持シ出テ宴席ニ進ミ大聲ニ至尊無上ノ大王恩賜アリト三呼シテ貨幣ヲ席上ニ投撒ス此儀已ニ終リ熊猿及狗子等ヲシテ其習熟スル技藝ヲ競演セシメテ王貴族ノ一覧ニ供セリ

王シャールマギュノ世ヲ以テ新古兩史相接スル間架トシ亦文學技術始テ佛國ニ開明スルノ時トス是故ニ國民唯王ノ幷有セシ土地ノ廣大ナルヲ稱スルノミナラズ其德行公道及律法ヲ設立セシコト並ニ學術技藝ヲ勸勵スルコトニ勤メ及慘酷野蠻ノ民俗ヲ變シテ其福祚安康ニ進ムコトニ勉力セシ隆盛ノ功業ヲ賛揚シテ世ニ誇ルモ亦過當ニアラ

ズ

王在位ノ間征戰攻伐寧歳ナカリシカ又此ヲ以テ白人ヲ感發興起セシムルモノアリ所謂ローンスヴォーノ戰ハ當時詩家文人之ヲトロイ（小亞細亞一府）ノ役ト均シク傳稱シテ世人ノ知ル所ナリ紀元七百七十年ニ王小軍ヲ以テ士班ヨリ歸陣ノ時山賊群起シテ其後路ヲ要擊セシカハ王苦戰シテタメニ甥ローラン及若干ノ兵ヲ失ヘリ之ヲローンスヴォーノ戰ト云フ

第九篇　王シャールマギュノ紀下並ニ諸耳曼種族

王シャールマギュ紀元八百年ニ羅馬ニ出遊セシトキ天主教王嘗テ王ヨリ受ケシ恩惠ヲ報ルタメニ西土帝ノ號ヲ以テ王ニ與ヘ且王ヲシテ爲ニ驚愕セシメント欲ス

是歳耶蘇生日ニ羅馬ノ人民大ニ教院ニ集會ス王モ亦臨幸シ香案ノ前ニ拜跪ス教王徐ニ王ノ背後ニ至リ冠ヲ其頭ニ加ヘケレハ衆庶相祝シテ上帝ニ加冠サレシシャールル、オーグス（ル、オーグスハ大威權アル人ト云フ義）千秋萬歳羅馬ノ大皇帝千秋萬歳ト大ニ呼フ聲堂中ニ滿テリ王大ニ驚キ色ヲ變シテ曰ク吾初ヨリ此ノ事アラント知ラハ何ソ此堂ニ登ラント教王遂ニ膏油ヲ靈盌ヨリ取リテ王ノ頂門ニ塗ル王モ亦終ニ敢テ固辭セス蓋王前後諸王ノ已ヲ稱スルニ此新號ヲ以テスルコトヲ欲セシヲ見レハ唯此職位ヲ辭セザルノミナラズ且希望ノ志アルコト明ナリ

諸耳曼（北部ノ民ト云フ義）種族來寇セリ王シャールマギュ許多ノ船艦ヲ製造シ防禦ノ策ヲ設ケ以太里タイボル河口ヨリ獨逸國境ニ至ルノ海濱ニ備

へり
諾耳曼ハ原挪耳回及丁抹ノ二邦ノ民ニ出ル所ニシテ英國古史中ニ云フデーンスト同一種ナリ其本國ハ茂樹深林アリテ巨材ニ富メルヲ以テ船艦ヲ造ルニ便ヲ得タリ其船艦ハ二本ノ檣ト數枚ノ楫トヲ具ヘテ海ニ航ス毎船凡百人ヲ載ス其飲食ニ供スルモノハ麥酒、乾麵包、乾酪、烟炙、牛肉等ナリ此種族近傍沿海ノ水路ニ駛行シ守業ナキノ地ヲ覘ヒ上陸シテ其土人ヲ妨害シ物貨ヲ掠奪シ之ヲ載セテ其鄕里ニ歸帆スルコトヲ當トシ其國土ニ居テ良地ヲ撰ミ家屋ヲ建造スル等ノ事ニ及ハス其諸邦ヲ侵奪スルハ必先財貨アル禮拜堂及教院ヲ破壞セシ故ニ當時教法師徒ノ編輯セル貴重ナル諸書册悉ク散逸シテ復得ルニ由ナシ

王シャールマギュノ在世ニ當リテ史丹（土耳其帝ノ稱號）ハルンアルラシドト

云フモノアリ紀元七百八十六年ヨリ八百七年ニ至ルマデ二十一年間亞細亞ノ亞拉比亞ヲ管理シテ頗碩學博識ノ聞アリ此時亞拉比亞人ハ聰明ニシテ巧智アリ且禮節ヲ重ジ學藝ニ富メル俗ナリ所謂アルジブラ（代數學）アルカリー等ノ語ハ皆此種族ニ出ツ

史丹大ニ王シャールマギュヲ尊敬シ其懇信ノ意ヲ表センタメニ水漏ノ奇巧ナルモノヲ獻ゼリ此水漏ノ面ハ時辰ヲ記スル十二枚ノ小扉ヲ以テ造リタルモノナリ扉內ニ時辰ト同數ノ小球アリテ時至ルゴトニ扉開ケテ球出デ便黃銅鼓ヲ打チテ時ヲ報ジ回轉シテ第十二時ニ至レバ十二騎ノ偶像露ハレ水漏ノ面ヲ一匝シテ各扉ヲ閉ヅ

第十篇　王シャールマギュノ殂落及其葬禮

王シャールマギュニ威權ヲ有スルコト大ナリト雖不幸ニシテ二子ヲ亡

セシヨリ其福祉ヲ保全スルコト能ハズ其悲哀甚シキガタメニ大ニ平生ノ健康ヲ損シ身體衰憊シテ人ノ扶ケヲ借ラザレバ行歩スルコト能ハザルニ至レリ

王當時比利時ノエキス府ニ住セリ此府ハ王選ビテ其管轄地ノ首都ト爲セシ者ニシテ壯麗ノ宮殿ヲ造營シ華美ノシャーペル（禮拜堂ノ名）ヲ建立セリ後世此都ヲ稱シテエキスラシャペルト爲スハ此禮拜堂ノ名ニ因ルナリ

此堂ノ天井ハ黄金ヲ以テ鍍シ門戸欄干ハ青銅ヲ以テ造リ瓶壺燭臺ハ皆金銀ヲ以テ製シ其他ノ裝飾未曾テ見ザル所ノ壯嚴ヲ極メタリ佛國ニ梵鐘アルハ當時ヨリ始リシ故此禮拜堂ニモ之ヲ備ヘシコト疑ナシ

王一日帝衣ヲ服シ金冕ヲ冠シ存スル所ノ一子路易ニ扶ケラレテ禮拜

堂ニ上リ冕ヲ脱シテ香案上ニ置キ皇子ニ向テ曰ク汝善良ノ帝王トナルベシ必不善ノ人トナルコト勿レト諭シ了リテ冕ヲ賜ヒ冠セシメタリ時ニ紀元八百十三年ナリ

爾來王シャールマギュ政務ヲ棄テ上帝ヲ禮スルヲ以テ自任シ聖經ヲ誦シ祝禱ヲ爲シ專施捨賑恤ヲ務ム而シテ身心漸衰病シ紀元八百十四年第一月ニ及ヒテ飲食共ニ廢シ僅ニ一滴水ノ外咽喉ニ下ル能ハザルニ至リ遂ニ第二十八日ヲ以テ殂セリ終リニ臨デ微聲祈禱シテ曰ク嗚呼上帝余我靈魂ヲ以テ上帝ノ手中ニ托スト王享年七十有二在位四十四年皇帝ノ衣冠ヲ被ラシメテ黄金ノ位ニ安シ左ニ劍ヲ帶セシメ聖經ヲ膝上ニ置キ之ヲ禮拜堂ノ地窖中ニ埋葬セリ又悲痛哭泣スル人ノ頭髮ヲ剪リ襯衣ニ織リテ之ヲ着セシメタリ王嘗ニ曾テ羅馬ニ巡拜セシ

時提携スル所ノ腰袋ヲ佩ビ死ニ至ルマテ之ヲ放タス又多量ノ金銀精良ノ香薬ヲ墓中ニ埋メ墓上ニ彎形ノ凱陣門ヲ建テ幾箇ノ銘辭ヲ刻シテ王ノ威徳ヲ稱讃セリ後紀元一千一年ニ至リ獨逸帝オトン第三世此墓ヲ發キテ財貨ヲ奪ヒシヨリ今ニ於テ其遺跡ノ認ムベキ者ハ僅ニ刺句語ヲ以テ石面ニ刻ミタルカルロー、マグノーノ銘アルヲ見ルノミ

王殂落ノ時ニ當リ其領國ハ南イブロー（士班ノ河ノ名）ニ至リ東北ハアイデル（丁抹ノ河ノ名）及ヴイスツーラ（波蘭ノ河ノ名）ニ達シ西ハ海ニ境シテ以太里獨逸全部現今ノホンガリー、ボヘミヤ波蘭普魯士及佛蘭西全國士班牙國ヲ統括セリ

第十一篇　路易、ル、デボナールノ紀

ルウイーハ先王シヤールマギユノ殂セシトキ適アキテーン州ニ在リ其訃音至ルニ及ヒテ直ニ首都エキスラ、シヤーペルニ向ヒ發セシニ庶民皆其徳ヲ慕ヒ迎拜シテ歡喜ノ聲道路ニ充滿セリ王天性善良ニシテ世之ヲ目シテ路易、ル、デボナール（ル、デボナールハ善キ性質ノ人ト云フ義）ト云フ因テ其庶民ヲシテ安寧ナラシムルヲ以テ務トセシコトヲ知ル平穩無事ノ世ニ生レシメバ必良主ノ稱ヲ得ベキニ不幸ニシテ爭亂ノ時ニ出デ過大ノ地ヲ有チテタメニ憂苦患難ニ堪フルコト能ハス其所領ヲ分テ三子ローテル、ペパン、路易ニ與ヘシコトハ莫大ノ失策トイフベシ

王路易其國ヲ以テ三子ニ分與セシ後又一子ヲ生メリ名ヲシャルト云フ之ニ土地ヲ賦スルコト猶三子ノ如クセント欲スレドモ復地ノ與フベキ者ナシ因リテ遂ニ三子ノ所領ヲ割キテ之ニ與ヘントス此ヲ以テ三子大ニ恨ミ相與ニ叛逆ヲ謀ルニ至レリ

父子已ニ兵ヲ構ヘ変軍ヲ率ヰ出テバールストヲスブール兩府ノ間ニ在ル郊野ニ至リ對陣シテ將ニ戰ハントセシニ羅馬教王グレゴリー逆子ニ左袒シ禍福利害ヲ以テ王ニ説キ其子ト講和セシメタリ然レトモ三子及教王ノ言フ所ハ固ヨリ一時ノ騙欺ニ出ル者ニシテ遂ニ講和ヲ守ラザリシ故爾來人此野ヲ稱シテシャンドマンソンジュー(即騙欺ノ野ト)曰ヘリ

王路易遂ニ王位ヲ奪ハレ且教王ノタメニ終身謝罪ノ律ニ處セラル謝罪ノ律ハ固破戒失行ノ耶蘇教師徒ヲ罰スルタメナルヲ教師輩其威力高大ナルニ乘ジテ妄ニ國法中ニ加フル所ニシテ此律ニ服スルモノハ兵器ヲ携ヘ官爵ヲ有スルヲ許サズ

王既ニ終身謝罪ノ律ヲ受ケシ故更ニ威權ヲ復スルノ路ナク其懺悔ヲ

行ヒ艱苦ヲ忍フコトノ尤甚シキニ至テハ一教院ニ入リ膝ヲ神前ノ香案下ニ跪キ劍ヲ脱シ上衣ヲ去リ地ニ伏シ稽首シテ余自己ヲ保護スルタメニ齋戒シテ軍ヲ出セシ罪ヲ深ク謝スト云ヘリ

爾來王惡敝衣ヲ着ケ院中ノ小房ニ幽閉セラレ纔ニ飲食スル外他ノ給與ノ物ナシ既ニシテ　王子モ亦互ニ嫌隙ヲ生ジ其ガ爲ニ止ムコトヲ得ズ王ヲシテ再踐祚セシメタリ王復位以來二十七年ノ間寧日ナク常ニメンスノ近郊ニ穹廬ヲ營シテ之ニ假居シ其辛勞言フベカラズ後王子路易叛セリ王痛恨益甚シクシテ遂ニ紀元八百四十年ニ殂セリ

第十二篇　王シャルル、ル、ショーヴノ紀竝ニ佛國ノ言語

王シャールマギュ殂スルニ及テカロヴァンジャン王室シャールマギュノ名ヲ取テ其族ヲカロヴァンジャン王室ト云フノ衰ヘ其子孫ノ不肖暴虐ナルヲ以テ先王ノ盛大ナ

ル威德ヲ失墜セリ王路易殂セシ後其諸子邦土ヲ爭ヒシャル花名ル、シ
ヨーヴ(即禿頭人)ト云フ者路易ト連合シテロテールヲ仇視スルニ至レ
リ
兩黨変兵ヲ募リテフォーントノヴァイニ近キ原野ニ會戰セントシ隊
伍已ニ整ヒ將ニ號令ヲ傳ヘントスレドモ士卒ノ言語同シカラザルガ
爲ニ數種ノ語ヲ以テ令セザル能ハズシャルモ其部兵ハ所謂フランク
ゴールスニシテ當時ヨリ一般ニ佛蘭西人ト稱セラレシモノナリ其各
鄕邑ヲ異ニスルガ故ニ二種ノ語ヲ以テ之ニ令セリ其北方ヨリ來ル者
ニハシャルオイル即ウイノ語ヲ令セリ是語ハ今ノ佛語ニ似テ剌句語
ヲ帶ビタル獨逸語ヲ以テ成レル者ナリ其南方ヨリ來ルモノハ獨逸語
ヲ帶ビタル剌句語ヲ用ヰル故ニ之ニ令スルニウーノ語ヲ以テセリ此

語ハ漸ク變シテプロヴヱンサル(鄕談俚言ト云フ義)トナリ二百年間詩人好テ之
ヲ用ヰル現今ニ及ヒテハ亦已ニ廢棄セリ
所謂ウイ及ウートト云フ語ハ皆英語エース(然リ應トイフ義)ト云フ義ヲ示スモ
ノニテ之ヲ以テ國語ニ名ツケタリ猶獨逸語ヲ稱シテヤーノ語ト爲シ
以太里語ヲ呼デシーノ語ト云フガ如シ先王シャールマギュ其親族ヲ
シテ專ラ獨逸語ヲ用ヰシメシ故佛人ハ言語上ニ於テ其苦艱少ナカラズ
既ニシテシャル路易ノ黨大勝ヲ得タリ因テ新ニ土地ヲ分チロテール
ニ與フルニ以太里及現今ロレーン地方ノ一部ヲ以テセリロレーンハ
ロテラジャ即ロテールノ領國ト云フ語ヨリ變シ來ル所ナリ路易ハ獨
逸ヲ得シ故稱シテ路易獨逸人ト云ヘリシャルハ佛國ヲ得テ之ニ王タ
リ

王シャル四子アリ其二子ヲシテ教法師タラシメントセリ是二子ヲシテ上帝ニ事ヘシメテ其罪科ヲ消滅セント欲スル意ナリ當時諸民多ク教誘ニ惑ヒ貨物ヲ以テ教院ニ供スレバ則其過失ヲ贖フニ足レリト謂ヘリ

王シャル四子中獨路易ト云フモノヲ存シテ紀元八百七十七年ニアルプ山中路傍ノ一茅舍ニ殂セリ或ハ猶太一醫ノ毒殺ニ係レリト云ヘリ

王人トナリ德行少ナク過失多ク名利ヲ慕テ事ヲ作スヲ好ムト雖性怯懦昏暗ニシテ決斷ノ才乏キカ故ニ遂ニ其所爲ヲ果スコトアタハズ

第十三篇　封建制度（英語フユーダル、システムト云フ）上

此制度ハ昔フランクスノ創立スル所ニテ終ニ永正歐羅巴各國政體ノ基礎トナレリ既ニ上篇ニ說ク如クフランクスハ自由不羈ノ民族土地

ヲ略シ物品ヲ掠ルタメニ相集合セシモノニテ已ニ志ヲ得ルニ及テ一人ヲ奉ジ王トシテ其全部ヲ統ヘシメ次ニ幾員ノ酋長ヲ立テ各部ヲ領セシメ又各部ヲ分テ小部ト爲シ酋領ヲ立テ之ヲ管セシメタリ

其已ニ略取セシ土地ニ於テ必兵仗ヲ嚴備シテ已常ニ軍事ニ任シ遊樂ヲ恣ニシ農工力作ノ事ヲ以テ降人ニ委ネテ之ヲ役使シ號シテセルフ（即奴隷）トセリ

奴隷ハ家僕ト同ジカラズ其命ゼラレテ居留セシ地ノ外他處ヘ妄ニ移轉スルヲ許サズ其土地ト共ニ賣買セラルヽコト猶樹木ノ山林ニ於ケルカ如シ

兵士他國ト戰テ之ニ勝チ其人民ヲ獲レバ則鬮ヲ拈テ之ヲ分取スルヲ以テ法トセリ其土地ハ王ニ歸スト雖王自之ヲ有セズ僅ニ其一分ヲ取

ルノミ而シテ一ノ租税ナシ故ニ王權ノ輕重アルハ唯其私有地ノ廣狹ニ因ルノミ

其餘土ヲ分テ最貴ノ酋長ヲ封シ終身之ヲ有セシメ其死スルニ及テ王ニ奉還シ王又之ヲ他人ニ與ヘリ此封土ヲ稱シテフュ－ド（即フィエフ）ト爲スフュ－ダルノ語ハフュ－ドヨリ出ル所ニシテフュ－ダル、システム（封建制度）トハフィエフ（即封地）上ニ成ル所ノ制度ト云フ義ナリ」封地ヲ王ヨリ受クルモノヲ稱シテヴァッサル、ド、ヲ、クロ－ン（即王臣）ト爲シ一旦事アリテ王之ヲ徴セハ則其封地ノ大小ニ從ヒ多少ノ兵ヲ帥ヰテ入朝シ王ヲ輔翼スヘシト云フ義ヲ以テ土地ヲ授ケラレタリ

王臣封地ヲ受ルタメニ盟約ヲ修ム之ヲフォルチ－ヲ誓フト云フフィルチ－ハ古語ニシテフェ－ス即忠信ノ義ナリ盟約ヲ修ムルノ禮ハ新

ニ封地ヲ受ルモノ先其佩帶及刺馬輪ヲ脱シ進テ王ノ前ニ跪キ雙手ヲ王ノ手中ニ置キ手足財産生命ヲ拋テ王事ニ勤勞スヘシト誓ヘリ

王モ亦之ニ報ズルニ彼等ヲ保護シテ四旬已上ノ軍役ヲ起スヘカラズ且神廟ニ抗シテ戰鬪スルコト勿ルヘシト云フコトヲ以テセリ

王臣亦其封邑ヲ制テ其大夫士ニ與フルコト一ニ王ノ已ニ於ケルガ如シ大夫士又其采地ヲ分テ其陪隷ニ與ヘ交相取與ス地ヲ受ルモノヨリ地ヲ授クルモノニ盡ス義務ハ猶王臣ノ王ニ於ケルガ如シ但其卑小ナルモノニ至テハ其臣下ヲ慕テ王ニ背キ戰フヘカラズト誓フコトノ異ナルアルノミ

第十四篇　封建制度下

上篇ニ於テ既ニ説キシ如ク封地ヲ有ツコトハ終身ニ限ルト雖各其子

孫ヲシテ之ヲ世襲セシメント欲スルノ念ナキ能ハズ王室ノ衰弱ニ乗シテ之ヲ其後嗣ニ授與スルノ權アルコトヲ主張シ遂ニ其志ヲ成セリ已貴重ノ官員亦此ニ倣ヒ其職位ヲ以テ世襲スベキモノトシ一州ヲ統理スルノデューク即マルキー（公侯ノ爵ニ當ル）及一郡ヲ管領スルコーント（伯爵ニアタル）等皆其官職ヲ以テ嫡長ニ讓ルニ至レリ

封建制中最奇異トスルハ一人ニテ君臣ノ兩職ヲ兼ル者ナリ例ヘバ一デュークアリ其國ヲ一コーントニ委ネテ治メシムルニ其ヲシテ敬禮ヲ己ニ行ハシメ己モ亦此コーントヨリ此國ノ幾分ヲ賦與セラレ居ル故ニ亦彼ニ敬禮ヲ行ヘリ

王ハ己ニ全國ノ主長タリト雖尚アボット、ド、サンドニー（教法師ノ官名）ヨリ小封邑ヲ受領セシ故ニ其臣隷タルコトヲ免レズ同一ノ君ニ臣タル者ヲ

稱シテペーレ或ハペール即同等ノ人トセリ

ヴッサル、ド、クローン即王臣ヲ稱シテ側國ノペールト爲シ封建制度ニ於テハ曾テペールノ官員アラス歳月漸ク移ルニ及テ定限シテ十二人トセリ其六人ハ俗官六人ハ教法師ニシテ俗官ノペールハノルマンデーノデューク、ブルゴンデーノデューク、アキテーンノデューク、フランデルノコーント、シャンパーギュノコーント、ツールーノコーント是ナリ

以上ノ貴族無事ノ際ハ各城中ニ住處シテ獨立王者ノ如ク權力ヲ有シ政治ヲ行ヒ貨幣ヲ造リ法律ヲ定ム靴工、木工、鍛匠等諸業ヲ營ム者城外ニ家屋ヲ建テ之ニ住シ以テ其臣僕トナリ若敵兵來襲スレハ則退テ城内ニ入ル

當時佛國ノ商賈ハ米國ノ行商ニ異ナラズ唯貨物ノ多寡ト物價ノ不同アルノミ而シテ玉石絹帛香料其他珍品奇物ヲ携ヘテ此城市ヨリ彼ノ城市ニ來往セリ

當時賈客ハ新聞異事ヲ談スルモノナリトス故ニ其通商スル所ノ地ニ在テハ婦女之ガ爲ニ平生執ル所ノ事業ヲ舍キテ暫其情ヲ慰スルヲ得タリ

此婦女子ハ常ニ職事ヲ營ミ心思ヲ樂マシムルコト少ク或ハ病者傷者ヲ看護シ或ハ牛乳ヲ搾出シ或ハ割烹スルコトヲ勤メ高貴ノ婦人ト雖縫裁等ノ勞ヲ憚カラズ之ヲ以テ時日ヲ消セリ且外出スルコトヲ得サルガ爲ニ其旅行ハ終身一度ニシテ父母ノ居ル城ヨリ出デ夫婿ノ住スル城ニ入ルコトノミ

第十五篇　諾耳曼ノロヽー居ヲ佛國ニ定メ及巴里ノコーント威權王ニ過越セシコト

路易第二世吾語ニ擬メルヲ以テ世之ヲ稱シテベーグ(即訥人)ト爲セリ王始悉ニ貴族ニ授クルニ官爵ヲ以テシ其輔翼ニ因テ位ニ即クコトヲ得タリ在位僅ニ二年ニシテ紀元八百七十九年ニ殂セリ王終ニ臨テ長子路易ヲシテ嗣タヲシメント欲シ既ニ之ニ冠ト劍トヲ授ク貴族之ヲ許サズ其威權殊ニ盛ナリボーゾントト云フ者自プルヴアンス王國ヲ取リ其餘地ヲ以テ王ノ二子路易及カロマンニ分附セリ

路易カロマン共ニ夭折シ弟シヤルル尙幼ナルニ因テ是ニ於テ卑渉貴族相共ニ獨逸人ノ子シヤルル、グロー(ルグローハ肥大ノ人ト云フ義)ヲ立テ王トセリ此王ハ既ニ獨逸ニ帝タリシガ今佛國ヲ有シ遂ニプロヴアンス國ノ外高

祖シャールマギニノ領地ヲ畢合併スルコトヲ得タリ然レドモ王此彊土ヲ治メ萬機ヲ統ブルノオナク惰慢ニシテ飲食ヲ貪ルノ誚アリ

是時ニ當テ諾耳曼ノ族從前ニ加倍セシ暴威ヲ以テ佛國ニ寇シ紀元八百八十六年ニ及テ入テ巴里ヲ圍メリ巴里ハ尙狹小ニシテセーヌ河中ノ一島ニ據リ二橋ヲ架シ城ヲ築テ以テ敵ヲ禦グ此時防戰セシモノハ佛人中最勇傑ナルモノニシテ其將ヲイツデト云ヒ後ニ巴里ノコーントトナル

諾耳曼ノ城ヲ攻ルヤ不意ニ出テ之ヲ拔カント欲スレドモ防禦ノ備嚴ナリ乃運轉スベキ城樓ヲ築キテ橋ヲ守ル兵ヲ擊ツ城上亦大石ヲ投下スルコト急ナリ遂ニ敗退ス因テ又バッテリンヲム（破城砦或ハ撞車ト譯ス）ヲ用ヰ攻ムレドモ亦功ナシ城兵圍ヲ受クルコト四年ノ久ヲ歷レドモ堅ク守

テ屈セズ是ニ於テ王シャルル、グロー自大軍ヲ帥ヰテ來援セリ

既ニシテ國民久シク兇敵ノ殘暴甚シキニ遭ヒ怨ルコト甚シ必之ヲ驅攘セント欲シ義兵四方ヨリ群集セリ會王シャル一身ノ安穩ヲ計リ巴里ヲ除テ他ノ地方ヲ侵掠スルコトヲ禁ゼサルヲ敵ニ許ス羣衆大ニ驚テ解體セサルナシ

是ヨリ全國ノ士民悉離叛シ王終ニ窮苦困迫シ人ニ乞丐シテ僅ニ生命ヲ保ツニ至レリ王其甥嗣王タルモノニ書ヲ贈リ飯臺下ニ遺落スル食餘ヲ乞ヒタル事史ニ載テ歷然タリ之ヲ以テ人世榮枯盛衰ノ常ナラザルヲ知ルベシ

コーントイウデ勇剛ナルヲ以テ選バレテ王トナル乃前時ノ舊弊ヲ改正セント欲シ事過激ニ出ツルヲ以テ貴族及卑渉之ヲ厭惡シ其不在ニ

乘ジ之ヲ廢シテ更ニ王路易ル、ベーグノ子シャル、ル、サンプルル、サンプルハ愚鈍ノ人ト云フ義ヲ奉ジテ位ニ即カシム時ニ年十四歳知慮決斷ニ乏クシテ自政治ヲ行フコト能ハズ之カ爲ニ貴族ノ威望アル者ニ制御セラル、コトヲ免レズ

王イツデ紀元八百九十八年ニ殂スルニ及テ王シャル獨王タリ紀元九百十一年諾耳曼ノ一酋長ロ、ート云フ者佛國ニ入寇ス時ニ王シャル國家ノ苟安ナルヲ希ヒセーヌ河ヨリ海ニ至ル迄ノ地ヲ割キ與ヘテ和ヲ乞ヒ又其耶蘇教ヲ信奉セバ王女ヲ以テ之ニ妻サント約セリロ、ー遂ニ之ヲ聽シ其部下ト共ニ洗禮ヲ行ヒテ今割與セル所ノ地ニ移住シ此地ヲノルサンデート名ケリ

是ニ於テロ、ーデューク(即侯爵)ヲ受ケノルマンデーノ封國ヲ以テ王

ニ服事スベキコトノ命ヲ聽ク但其盟約ヲ爲スニ王ノ脚ヲ舐ルノ禮アリ意此禮ヲ行ヲ甘シトセス人ヲシテ代テ行ハシム盟ニ臨ム時亦倨慢無狀ヲ極ム此禮ヲ修ムルモノハ跪テ之ヲ行フヲ例トセシニ彼ハ直立シテ王ノ脚ヲ高ク揭ゲ王ヲシテ殆坐位ヨリ顚倒セシメントセリ

ロ、ー佛民ヲ妨害殘虐スベカラザルノ約ヲ固守シ掠奪ノ舊態ヲ棄テ學校ヲ設立シ公正ノ法律ヲ定メ僅ニ二三世ニ過キズシテ其黨類ノ風俗所爲一ニ佛國ノ土人ト異ナラズ且其野蠻未化ノ鄉族來寇スレバ佛國ノ爲ニ之ヲ防禦スルニ至レリ

ロ、ー其人民ヲ督勵シ曩日軍中ニ在テ竭セシ所ノ力ヲ以テ皆耕耘ニ勤勞セシム是ニ於テ其管領スル所ノ地方數年ノ間ニシテ沃饒全國ニ

冠タリ
國人王シャルニ服セズ之ヲ廢シテ王イウデノ甥ヒューゴル、ボール、ボーハ美麗ナル人ト云フ義ヲ奉ジテ位ニ即カシメントスレドモヒューゴ受ケズシテ之ヲ義兄弟ラウルニ讓テ自國事ヲ執レリ王シャルハ紀元八百九十二年ニ殂シラウルハ九百三十六年ニ殂セリ

第十六篇　シャールマギュノ嗣統佛國ノ王位ヲ失ヒシコト

國民復ヒューゴヲシテ王タラシメント欲スレドモヒューゴ之ヲ辭シ人ヲシテ王シャル、ル、サンプルノ子路易ヲ英國ヨリ迎ヘ其至ルニ及デ謹デ之ニ奉事シ遂ニ諸王ノ例ニ依テフランス府ニ於テ位ニ即カシメタリ之ヲ路易第四世ト稱シ花名ヲデウートルメール即外國人ト云ヘリ其英國ニテ成長セシヲ以テナリ

此王ハシャールマギュ以下ノ祖考ニ超越スル智勇アリト雖信厚ノ德乏ク治國修身ノ用ニ供スル才乏シキ故ニヒューゴ自政權ヲ握ルコト始メノ如クセント欲ス王之ヲ許サズ是ニ於テヒューゴ諾耳曼泥侯ト合從シテ兵ヲ起セリ戰フニ及デ官軍諾耳曼泥侯ノ少子ヲ擒ニス王之ヲ殺サントセシニ公子ノ師オスモントイフ者力メ請フテ免カル、コトヲ得タリ

公子ノ名ヲリシャールト曰ヒ因ハレテ佛王ノ城中ニ在リ一夜王其臣庶ト燕飮スル際ニ乘ジテオスモン竊ニ公子ヲ臥床ヨリ出シ枯草中ニ匿シテ之ヲ負ヒ馬ニ食マシムルノ狀ヲ爲シテ城門ヲ過キタリ往昔ハ貴人トイヘドモ自其愛スル所ノ馬ニ食マシメタリト云フオスモン既ニ城外ニ出テ郊村ヲ過ルトキ其臣僕ノ馬ヲ牽キテ來迎スルニ逢ヒ乃

之ニ騎シ終ニ恙ナク安全ノ地ニ達セリ後リシャール稟性善良仁厚ニシテ容貌秀美ノ聞アリ其老ルヤ白髮長鬚ヲ以テ名ヲ得タリ

王路易デゥートルメール豺狼ヲ驅逐シテ馬ヨリ落チ疾ヲ得テ紀元九百五十四年ニ殂セリ二子アリロテール曰ヒシャルト曰フシャルハ生レテ僅ニ數月ナルヲ以テ全邦ロテールノ有トナリ爾來三年間一戰ナキヲ以テ此國前後ニ稀ナル康安ト爲セリ

ヒューゴルボー紀元九百五十六年ニ死セリ傳ヘ言フヒューゴルボー王位ニ登ラズシテ數十年間政權ヲ掌握シ人臣中最威權アルモノタリ且三タビ妻ヲ娶ル皆王女ナリ其死スルニ及テ一子ヒューゴカッペイトイフ者悉遺物ト遺業トヲ嗣有セリ

王ロテールノ世ニ當リテ殊ニ記スルニ足ル事蹟アラズ故ニ姑獨逸帝

オトンノ巴里ニ來寇セシ事ヲ記ス帝オトン大軍ヲ募集シ我兵ノ道ヲ要ル者ヲ擊破シテ侵入スヒューゴカッペイ巴里ノコーントタリ壘壁ヲ固クシテ防禦ノ術ヲ善セリ

帝オトン城兵固ク守禦ノ備ヲ爲スト聞キ使ヲ以テヒューゴニ告テ曰ク余今將ニ汝ヲシテ神歌ヲ聞カシメン其聲凜烈トシテ汝ノ耳底ヲ穿ツベシト乃全軍ヲ以テ巴里ヲ一瞰スル高陵ニ登リ大聲ニ剌甸語ノ神歌ヲ歌ハシム其聲異口同音ニ出テ府中ヲ震カスニ足レリ帝オトン既ニ十分ノ戰功ヲ得テ遂ニ軍ヲ收メテ本國ニ凱旋ス王ロテールハ紀元九百八十七年ニ殂シ其子位ヲ嗣ギ路易第五世ト稱シ遊惰ニシテルフェネアン即懶惰人ノ號ヲ受ケヒューゴカッペイ之カ師傅タリ

王路易自萬機ヲ執ルコト僅ニ數月ニシテ遂ニ王位ニ在ルモノハ必先

王シャールマギュノ子孫（カロヴァジヤン統ナリ）タルベキノ權理ヲ保ツコト能ハズ因テヒユーゴカッペイ自立シテ位ニ登レリカロヴァジャン王族相繼テ王タルコト凡二百七十年其地漸削縮シテ僅ニフランス及巴里近傍ノ土地ヲ有シ此ニ至リテ統ヲ絶セリ

第十七篇　カロヴァジャン統ノ記

シャールマギュノ嗣統衰亡ノ狀ハ猶クロヴィーノ嗣統即（メロヴァジヤン王族）ノ末世ニ於ケルカ如ク第一ニ在リテハメール、デュパレーノ威望漸盛ナルニ至リテ終ニ王位ヲ奪ヒ第二ニ在リテハ貴族ノ權力重大ニシテ爲ニ王室ヲ廢滅セリ

カロヴァジャン統ノ時ニ當テ封建ノ制成テ貴族威權ヲ專ニセシ故唯王族ノミナラズ幷セテ平民ニ至ルマデ患害ヲ蒙レリ此ノ貴族ノ數許

多ニシテ國王ニ服從スレドモ互ニ釁隙ヲ生ジ爭鬪止ムトキナク各小民ヲ抑制シテ殘虐ヲ逞シクセリ

此際ニ當テ諾耳曼ノ族屢來侵シテ舊怨ヲ報ジ國事艱難民塗炭ニ苦メドモ貴族ハ之ヲ以テ口實トシテ堅牢ノ城堡ヲ築キ其威力ヲ張大スルノ資トセリ

當時ノ君長タルモノ大抵不學無術ナルヲ以テ其民俗鄙悪ヲ致セリ先王シャールマギュハ勸メテ民人ヲ教誘シテ文明ニ進マシメシニ其後裔ニ至テ不肖暗愚ニシテ其志ヲ繼クコト能ハズ國人僅ニ讀書ヲ能クスル者アリト雖反テ世ノ蔑視ヲ免レズ

佛國ノ兵制ハメロヴァジャン統ノ世ニ在テハ多ク步卒ヲ用ヰルカロヴァジャン統ノ時ニ及テハ概騎兵トナリ其甲冑ハ兵士皆自之ヲ備具

セリ佛人ハ征戰ニ臨ムゴトニ歌ヲ唱フコト獨逸人ノ風ノ如シ因テロンセスヴオーニ戰死セシロランドイフ將ノ歌ヲ以テ千三百年代ニ出師ノ歌トセリ

當時貴族各其部下ノ民ヲ管領裁判シテ生殺與奪ノ權ヲ有シ下民私闘ヲ爲ス者ハ皆自恣ニ勝敗ヲ決シテ法律上ニ妨ケナシトシ屢之ヲ行ハシム其剌甸語ヲ用ヰルコトハ紀元八百年代ニ至テ廢セラレフランク語ト剌甸俚語ト相錯雜スル者ヲ用ヰルニ至リ之ヲ現今佛語ノ原トシ遂ニ一家ノ語トナレリ

カロヴァジャン統即王シャールマギニ子孫ノ系譜

王路易ル、デボネール ハ王シャールマギノ子四子アリ

帝ロテール 紀元八百五十五年ニ殂ス

アキテーン王ペパン 八百三十八年ニ殂ス

獨逸王路易 八百七十六年ニ殂ス

佛王シャルル、ル、ショーヴ 後ニ帝位ニ登ル八百七十七年ニ殂ス

以上皆王路易ル、デボネールノ子ナリ

帝路易ル、ジョーヌ 八百七十五年ニ殂ス

王ロテール 八百六十八年ニ殂ス

王シャルル 八百六十八年ニ殂ス

以上皆帝ロテールノ子ナリ共ニ嗣ナシ

王ペパン 子ナシ

アキテーン王ペパンノ子

王カロマン 一子アリ八百八十年ニ殂ス

王ルウィ 嗣ナシ八百八十二年ニ殂ス

佛王シャル、ルグロー 嗣ナシ八百八十八年ニ殂ス

以上皆獨逸王路易ノ子

帝アルノール 一子アリ八百九十九年ニ殂ス

王カロマンノ子

帝アルノールノ子

帝路易 九百十一年ニ殂ス嗣ナシ

路易第二世 即路易ル、ベーグ 八百七十九年ニ殂ス

王シャル、ル、ショーヴノ子

王路易第三世 嗣ナシ八百八十二年ニ殂ス

王カロマン 嗣ナシ、八百八十四年ニ殂ス

王シャル、ル、サンプル 九百二十九年ニ殂ス

以上皆王路易ル、ベークノ子

路易第四世 即路易ドウトルメール 九百五十四年ニ殂ス

王シャル、ル、サンプルノ子

佛王ロテール 九百八十七年ニ殂ス

ロレーン侯シャル

以上皆王路易ドウトルメノ子

王路易第五世 九百八十七年ニ殂ス

王ロテールノ子

カロヴァジャン王統是ニ至テ滅ス

第十八篇　佛國ヒューゴカッペイニ管轄セラレシ事

余今佛國第三王統ノ史ヲ記スベシヒューゴノ花名ヲカッペイト稱スル事ニツキ諸説アリ或ハ剌何語カピット即長頭ノ義ニシテ其智慧アルニ譬フト云ヒ或ハヒューゴ自一種ノ帽子ヲ製出シ之ヲカッペイト名ケシ故ナリト云フ何レカ是ナルヲ知ラズ昔時ハ諸人總テ實ノ名氏ノミヲ用ヰシガ第二王統ノ世ニ及テ辨別シ易カラン爲ニ更ニ花名ヲ加ヘ稱スルニ至レリ花名ハ概性質若クハ容貌ニ取レリ王ヒューゴノ

治世以來各姓氏ヲ用ヰ貴族ハ其封國ノ名ヲ以テシ庶人ハ其生レシ地名ヲ以テシ或ハ職業ノ名ヲ以テシ或ハ瘍瘢若クハ異常ノ品行ヲ以テ命ゼリ

先王殂シテ未幾クナラザルニヒューゴ位ニランス都ニ即キ大禮ヲ行ヘリ時ニアルチビショープ教法師ノ長官ニシテ漢譯總領牧師トイフ冠ヲ奉ジテヒューゴニ冠セシメントスルニ及デヒューゴ辭シテ受ケズ此嘗テ其佛王ノ位ニ登リ王冠ヲ冠セバ光榮七世ニシテ終ラン之ヲ冠セザレバ尚一世ヲ長クセント讖言アリシ故ナリ

王ヒューゴ其先人ヨリ傳ヘラレシ教院ヲ以テ教法師輩ニ附與セシ故彼等大ニ之ヲ德トシ爲ニ力ヲ竭セリ且王常ニ古聖ノ遺物及其古跡ヲ尊崇シテ國民ノ信服ヲ得タリ王嘗テ徙跣シテサンリキュー佛國古聖人ノ名

ノ神與ヲ奉持セシトキ神之ニ告ゲテ汝後必王位ニ登ルベシト曰ヘリ然レドモ貴族各私欲ヲ逞クセンコトヲ務メ常ニ相戰鬪シ國亂嘗テ休ム時ナクシテ王室安寧ヲ保ツコト能ハス

是時ニ當テ佛國分裂シテ八ブリシパリチー(即八州)トナレリ曰クブルゴンデイ曰クアキテーン曰クノルマンデイ曰クガスコニー曰クフランドル曰クシヤンパーギユ曰クテウルース是各州皆獨立ナリ曰クブルターギユ是ノ州ハノルマンデイニ屬セリ其他ノ小州郡日ヲ積ミ月ヲ累ネ漸增加セリ是群雄蜂起シ攻取力奪セシ土地ニ因リテ成ルモノナリ

王ヒユーゴーコーントハ某ノ地ヲ略有シ且其ノ擅横ノ罪ヲ責テ誰カ汝ヲシテコーントタラシムルヤト問ヒシニ某咨テ誰カ汝ヲシテ王タラシムルヤト云ケレバ王復詰ルコト能ハス是ヲ以テ王威ノ微弱ナルヲ知ルベシ

王ヒユーゴ其居ヲ巴里ニ定メシヨリ竟ニ此ヲ以テ大政府トセリ王在位凡十年一子ロベルト三女ヲ遺シテ紀元九百九十六年ニ殂セリ今余將ニ記スル所ノ紀元九百年代ヲ後世稱シテ鐵世トセリ此時歐羅巴諸國教法ナク倫理ナク唯殘虐殺戮ヲ逞クシ惡ムベキノ時タルガ故ナリ

第十九篇　紀元一千年代ノ文字

凡此書ヲ讀ム者文人及温厚ノ人ヲ記センコトヲ要ス然レドモ當時人皆武事ヲ專ニシ僅ニ知識ノ士有德ノ人アルモ措テ之ヲ論セズ文學地ニ墜チ僅ニ教法師輩ノ之ヲ修ムルニ過キズシテ其用タル一ニ有權貴族ノ事ヲ錄シテ其人ニ諂諛スルノ具ト爲スノミ一僧某嘗テ王シヤル、

ル、ショーツノ德ヲ讃美スル一詩アリ各語皆C（シイ）ノ字ヲ以テ起セルモノヲ用ヰタリ

當時最名アル學士ニシテ其品行亦稱スヘキ者ハ王ヒュ─ゴ、カッペ─ノ大史タルジェルベ─ルナリ素一ノ貧漢某氏ノ子ニシテ多才多能ナルヲ以テ世ニ顯ハレ名聲ノ盛ナルコト暗夜ノ明星ノ如シ其幼年ノ時オリヤックノ教院ニ入リテ孜々トシテ勸學ス天性怜悧ナレハ日ヲ經ルコト未久シカラスシテ遂ニ名ヲ權門ニ知ラル・ニ至レリ

此人尤力ヲ聖典經學ニ用ヰ當時ノ學士能之ニ及フモノナシ曾テ士班ニ遊學シコルドヴァノ大學校ニ於テ亞拉比亞ノ老教師ニ就キ玄妙深奥ノ學ヲ修メリ其間力ヲ用ヰ寸陰モ忽ニセズ因テ未幾クナラサルニ名ヲ歐羅巴全州ニ轟カスニ至レリ其佛國ニ歸ルニ及テハ諸學習熟シ

又亞拉比亞ノ文字ヲ知リ之ヲ書シ之ヲ讀ミ曾テ凝碍セス人或ハ才藝絶倫ナルヲ以テ幻術者流ナラント疑フニ至レリ

後遂ニ擧ケラレテ王ヒュ─ゴノ大史トナレリ然レトモ其願フ所ニ非ズ曾テランス府ノアルチビシヨップタランコトヲ欲スレトモ得ベカラサルヲ以テ失意ニ堪ヘズ竟ニ出テ獨逸ニ走リテ帝オトンニ事フ帝之ヲ善シ授クルニ高官爵ヲ以テセリジ─ルベ─ルハ始ハ貧窶ニシテ乞丐兒ノ如クナリシガ晩年竟ニ天主教王トナリシルヴェルトル第二世ト稱セリ

當時書籍ノ價甚貴キヲ以テスレバ文學未盛ナラサルヲ知レリ此時ニ當テ羅馬人常ニ羊皮ヲ以テ製スル所ノ紙「即パルチメント」ト埃及ニ生ズルパピルス樹ヲ以テ製セシ紙トヲ用ヰテ書册ヲ製セリパピルス紙

ハ稍下直ナルヲ以テ概之ヲ以テ常用ニ充テリ然ルニ紀元六百年代ニ及デサラセンノ民族埃及ヲ攻略セシ以來復之ヲ輸入セザルニ至レリ」是ヨリ書冊料トスル所ハ專羊皮紙ヲ用ヰテ書價益騰貴シ書冊モ亦從テ減少セリ而シテ或ハ羊皮紙ノ貴キヲ厭ヒ往々羅馬古昔ノ書籍ヲ以テ日用ノ紙ニ代フルニ至レリ故ニレヴィー氏タシトス氏（共ニ古代有名ノ學士）ノ遺書ノ如キハ共ニ世ニ存セズシテ其僅ニ存スル者ハ當時教法師輩ノ記錄セシ譚話書アルノミ

是ヲ以テ巨豪富家ニ非サルヨリハ書籍ヲ購求スルコトヲ得ズ因テ書籍ヲ有セル者殆稀ナリアンジニー（州名）侯ノ夫人某適一册ノ教法書ヲ購求セシカ之ニ代フルニ羊二百頭、小麥、裸麥、粟各五クォートルヲ以テセリ

書籍ノ價貴キコト紀元一千四百七十一年ニ至ルマテ依然タリ時ニ王路易第十一世一書ヲ亞拉比亞ノ醫ラシーニ借ルニ銀製ノ食具ヲ以テ抵當トシ且一ノ貴族ヲシテ之カ保人タラシメタリト云フ

第二十篇　人民世界盡崩滅ノ說幷ニ王ロベールル教門ヨリ逐ハルル

王ロベール、ルピーヨ（ルピーヨハ教法ヲ信スル人ト云フ義）ノ事蹟世ニ傳ハルコト甚多カラサルハ特ニ奇異ノ一事アリテ之ヲ掩フヲ以テナリ當時謂フ救主耶蘇亡後一千年ヲ經テ地球悉崩滅セント人皆之ヲ信シ歲月已ニ期近キニ及ヒテ其恐怖憂慼スルコト甚シ

是ニ於テ篤實溫厚ニシテ教法ヲ信奉スル人ハ神明ヲ拜祈シテ其救濟ヲ乞フヲ以テ急トシ淺智愚昧ノ民及輕浮無慮ノ人ハ競テ放蕩淫縱ヲ事トシ他事ヲ務メズ期愈迫レハ人心恵憂懼シ終ニ民ノ禍害ヲ致スニ

至レリ
其ノ人民ハ各其農事ヲ廢シ工業ヲ棄テ唯一日ヲ送ルヲ喝リ將來ノ事ハ措テ問ハズ況ヤ將ニ盡ントスル世界ノ時事ヲ記スルヲヤ吾輩今ニ於テ當時ノ狀情ヲ知ルハ唯時ノ學者ジェルベールノ往復ノ私書アルニ由ルノミ

若當時ノ人民ヲシテ意見ヲ一ニセシメバ恐クハ悉ク餓死ヲ免レズシテ禍害尚大ナラン幸ニシテ其意見各異ナリテ或ハ世界ノ崩滅ハ正ニ紀元一千年ニアリト曰ヒ或ハ一千一年ニ在リト曰ヘリ

其一千一年ニ在リト曰フ者ハ尚一歳農事ヲ營ミ其一千年ニ在リト曰フ者ハ既ニ一千年ノ期ヲ過了シテ始テ心ヲ安クシテ更ニ耕植ニ就キ交相努力スルヲ以テ遂ニ餓死ノ害ナキヲ得タリ

王ロベールハ曾テ其父ヒューゴト共ニ大政ニ與リシ故ニヒューゴ殂シテ後輙王位ヲ嗣クコトヲ得タリ然レトモ其才德王者タルヲ得ズ資性教法師タルニ宜シ要スルニ凡庸ノ主タルニ過キズ然レトモ其世ニ在リテ安寧無事ナルコトヲ致セリ

王ロベールハ紀元九百九十八年ニ其第四從妹ベールトト婚ヲ結ベリ二人幼稚ノ時ヨリ情好密ニシテ今志ヲ得タリト雖モ永ク福祉ヲ共ニスルコト能ハズ從來天主教ニ於テ親族ハ疏遠ナルモノト雖嫁娶スルコトヲ禁ゼシニ今王其從妹ヲ娶リケレバ教王グレゴリー第五世之ヲ責メテ離婚ヲ命ゼリ王從ハズ因テ竟ニ破門ノ律ニ處セラレテ教會ニ入ルコトヲ禁ゼラレ又人ト共ニ言語スルコトヲ許サレズ且此國ハ禁戒ノ處分ヲ受ケテ國中ノ教法師徒教法ノ事務ヲ行フコトヲ禁セラレタ

リ且教院悉ク閉鎖セラレ人民洗禮ヲ受ケ婚儀ヲ修ムルコト能ハズ人死スルト雖葬ルニ禮ヲ以テスルコトヲ得ズ是ニ於テ人民大ニ恐怖シ宮人仕丁モ亦自安スルコト能ハズ四方ニ出奔セリ王ロベールハ后妃ト共ニ愀然トシテ宮中ニ在リ時ニ賤奴二人法王ノ威令ヲ顧ミズシテ留リテ王ノ左右ニ侍セリ此時破門ノ律ニ處セラレシ者ノ手ニ觸レシ器品ハ皆之ヲ焚キ卑賤奴隷ノ輩ト雖亦之ニ手ヲ下サヾルニ至レリ臣民各王ヲ諫メ法皇ノ命ニ從フヘシト勸ムレトモ王愛戀ノ情深クシテ后ヲ離ツニ忍ビズ教王ノ威脅スルコト愈酷ナルニ及ヒテ已ムコトヲ得ズ終ニ離婚シテ后一草庵ニ退隱セリ

第二十一篇　新ニ服制ヲ定ム幷ニ王ロベールノ記

王ロベール紀元一千二年ニ再ブロヴァンス侯某ノ女コンスタントヲ

娶レリ此女ハ性懶ニシテ常ニ嬉戯ヲ好ミ奢侈ヲ極メ虚飾ヲ事トセリ當時プロヴァンスハ頗殷富ノ國タルヲ以テ青年貴族等ヲ招集シ遊樂ニ歳月ヲ送リ財ヲ糜スル者夥シ

プロヴァンスノ青年貴族ハ華奢輕薄自風ヲ爲シテ巴里君臣ノ儼然タル威儀ト相似ズ蓋其風俗ハ余輩僅ニ古昔史家ノ說ニ因テ之ヲ知レリ其書ニ曰ク王姫コンスタント來嫁スルヲ以テ自然華奢輕薄ノ徒來リ集ルニ至レリ其衣服ノ制齊一ナラスシテ兵仗馬具等モ亦甚奇異ナリ此徒ハ皆其項門ノ髮ヲ剃除シテ形狀滑稽者流ニ似タリ其褌子及長靴ノ如キモ亦大ニ醜狀アリ其ノ信義和順地ヲ拂ヒ佛民信篤ノ素俗終ニ一變セリ　以上史家ノ語

王ロベール謂フ后及臣隸等ト交遊センヨリハ乞丐ト共ニ同居セント

是ニ於テ乞兒ノ來テ宮中ニ集ル者殆三百人ナリ王后コンスタントハ此汚穢輩ノ宮庭ヲ汚スコトヲ惡ミ之ヲ逐ハント欲ス王之ヲ擁護スルコト頗盡セリ

王一日乞兒ヲ食卓下ニ匿シ密ニ食器ヨリ肉ヲ取テ之ニ喫ハシメタリ乞兒去テ後王衣ニ裝スル所ノ金飾具ハ皆已ニ之ヲ亡フ

王后ガ華奢ヲ好ミシコト既ニ說ク所ノ如シ一日王ニ銀裝ノ美鎗一條ヲ贈レリ王之ヲ携ヘテ教堂ニ詣ヲントス途ニ乞者ニ逢ヘリ乃木匠ノ用ヰル所ノ器具ヲ執リテ無人ノ所ニ至リ其銀裝ヲ悉剝脫シテ乞者ニ與ヘテ曰ク汝等速ニ去レ然ラズンバ恐クハ王后ノ目ニ觸ル、アラント

王ロベール甚音樂ヲ嗜ミ敎會ノ歌樂ヲ作ルコト頗多シ王嘗テ羅馬ニ

遊バントス途ニ於テ聖徒ペーテルノ墓ヲ拜シテ恭シク一函ノ緘封ヲ神壇上ニ供シ去レリ教法師見テ必貴貨ナラント思ヒ其去ルヲ伺テ直ニ開キテ之ヲ見レバ只一樂器アルノミ

此王平生多ク教法師ト共ニ起居シ亦神堂ニ詣ルコト屢ナリ適一千三十一年某地ニ赴キ歸途ムラン都ニ至テ殂セリ壽六十在位三十四年

第二十二篇　王顯理第一世ノ在位幷ニ婚ヲモスコヴィー(即魯國)ニ求ムル事

王ロベール三子アリ王后最其季ヲ愛シテ之ヲ立テント請ヘドモ王ハ其長子顯理第一世ヲ立テント欲スルヲ以テ聽カズ遂ニ顯理ヲ立テ位ニ即カシム王ロベール殂セシトキ顯理年二十ナリ性柔惰ニシテ大政ヲ執ルニ堪ヘズ

母后コンスタント季子ガ立ツコトヲ得サルヲ怨ミテ不順ナリ黨ヲ募リテ叛ヲ謀ランヽトスレトモ王顯理曾テ之ニ備ヘズ馬ニ乗リ左右ノ壯士數人ト共ニ諾爾曼泥ニ出奔シ其侯ロベール、ル、マニフックル、マニフヰクハ美麗ノ人ト云フ義ニ投シテ援ヲ乞フ此侯又其罪惡ニ因テロベール、ル、デーヤーブルル、デーヤーブルハ鬼人ト云フ義ト稱セラル

諾爾曼泥侯ロベール許諾シテ直ニ進ンテ巴里ニ入リ其臣庶ヲシテ今王ニ服事スヘキコトヲ誓ハシム母后コンスタントハ一菴ニ幽閉セラレテ此ニ死セリ王顯理其弟ヲ封スルニブルゴンヨ州ヲ以テシ諾爾曼泥侯ニ報ユルニ夥多ノ貨物ヲ以テセリ

侯ロベール曾テ數罪惡ヲ犯セシヲ悔ヒシェルサレムニ遊行シテ之ヲ消滅セント欲シ一タヒ出ツレハ復歸來セザランヽト思ヒ發スルニ臨ミ

テ大ニ國事ヲ議定セリ

侯一子アリ領國ヲ之ニ付セント欲スレトモ其幼ナルヲ深慮シ遂ニ意ヲ決シ重臣ヲ要シテ誓約ス是ニ於テ侯出テ巴里ニ赴ケリ後英國ヲ略奪シテ英王ノ位ニ即キ名聲ヲ天下ニ轟カセシ維廉ト稱セラルヽハ實ニ此公子ナリ

侯ロベールハ竟ニパレスタイン國ニ歿セリ其時孤兒ヲ侮慢シ遺物ヲ奪ハントスルモノ爭ヒ起ル維廉幼ニシテ智略多ク之ニ加フルニ英王顯理ノ援ヲ以テ終ニ其權利ヲ失ハズ

佛王顯理ハ先王其同族ト婚シテ大ニ國患ヲ生セシコトヲ恐レ乃使ヲ遣リ婚ヲモスコヴィーニ求ム佛民ハ地理書ニ當時魯國ノ人ハ皆一眼一足ナリト記スルヲ見テ實ニ然リト思ヒシニ后ノ至ルニ及テ容色ア

リテ前說ト同ジカラズ見ル者驚愕セザルハナシ
王后名ヲアスト曰ヒ性慈眞ニシテ常ニ大ニ道院ニ施供スルコトアリ
其死スルニ及テ僧徒之ヲ尊稱シテセーント神聖ト云フ義ト號ス此時王顯理
ノ權微弱ニシテ常ニ貴族ニ制セラレ王アルヲ知ル者ナシ史家其蹤跡
ヲ記スルニ縁ナキニ至レリ貴族中ニ在テ威權最熾ナル者ヲツルーズ州名侯フランドル州名侯及シャンパーギュ侯等ナリ
紀元一千六十年王顯理殂ス三子アリフィリップト曰ヒロベールト曰
ヒフェーグト曰フフューグヴェルマントワ州名ニ侯タリ王顯理ノ位ニ
在ルヤ威權微弱ナリト雖猶世ノ極盛人民ノ開化ニ進メルコト前世未
曾テアラストス其開明ニ進ム所以ハ制定スル所ノシワルリー律法ノ稱アルヲ以テナリ

此時ニ當リテ宗徒大ニ亂ヲ生ジ鬪爭已マズ貪惡風ヲ成シ教王ノ衣冠
モ貨財ヲ以テ易フベキニ至レリ甚シキハ十歲ノ童兒第九世ビネディクト教王ノ名ト稱シテ人民ヲ教育スルコトヲ司ドルニ至レリ教法モ從テ
弊ヲ生ジ異教邪說漸出テ多門ノ黨派ヲ分テリ

又一派耶蘇教ヲ奉ゼシ者アリテ肉ヲ禁ジ食ヲ斷ツコト數次且其ノ食
常ニ粗薄ナルニ因テ之カ宗徒タル者ハ顏色憔悴シテ殆人色ナシ竟ニ
人ノ顏色青白ナルモノヲ目シ一切以テ此ノ宗徒ト爲シ之ヲ刑場ニ送
致スルヲ以テ一時ノ俗ヲ爲セリ

第二十三篇　シワルリー法ノ權輿

紀元一千年代ノ際ニ當テ政權大ニ弛ミ弱ハ強ニ制セラレ小ハ大ニ壓
セラレ弊害漸ク長シ復如何トモスヘカラサルニ及テ明確ナル一法所

謂シヷルリー出ツ此法ノ本ハ昔日フランク民族中ヨリ出ル所ナリト雖然レトモ當時ニ至テ始メテ大成シテ律法トナセリ其主意ハ貴族武士互ニ盟誓結約シテ國家ノ爲ニシ若クハ宗教ノ爲ニスルノ外私利ヲ營ミ私怨ヲ報スルカ爲ニ干戈ヲ動カサヽルベシトイフ

其盟フヤ各佩劍ヲ解テ之ヲ上帝ニ奉ケ誓テ曰ク余輩或ハ刀劍ヲ用ヰルコトアルモ唯弱小ノ強大ニ制セラル、者ヲ援ルカ爲ニセン私利ヲ營ミ私怨ヲ報スル爲ニセスト已ニ此ヲ以テ上帝ニ盟ヘル所ノ士ヲ稱シテナイトトス貴族ニ非サルヨリハ同盟ニ列スルコトヲ許サズ是ヨリ貴族各ナイトタランコトヲ望ムノ勞アリテ人々其子弟ヲ教育スルニ心思ヲ勞スルニ至レリ是勇力必シモ世ニ益アルニ非ザルヲ知レバナリ

凡ナイトタランント欲スルモノハ常ニ禮讓ヲ守リ長者ヲ敬シ幼稚婦女ヲ愛撫シ品行温和度量寛大ナル人ニ非ザレバ得ベカラズ故ニナイトタランコトヲ欲スルモノハ務メテ德行ヲ修メ心情ヲ善良ニシ劣惡ナル者ハ循々トシテ教フルニ人ニ待遇スルノ道ヲ以テス

年少ニシテナイトタランント欲スル者ハ自老練有德ノナイトヲ選ミ之ニ奉事シ或ハ其父兄ヨリ請托シテ品行ヲ習ハシメ乃之ヲ城中ニ遣リナイトニ事ヘシメ專馬術武技ヲ講習シ傍文學ヲ修ム其最貴ム所ハ忠ト義トニ在リ少年ノ出テ、ナイトニ事フル者ヲペーヂ(即門子)ト曰フ或ハ主ノ服裝ヲ更フル時ニ侍シテ其使令ニ供シ或ハ出ツル時ハ騎從シ或ハ食スル時ハ傍ニ侍シテ供饌ヲ司トル其食スルハ擧家常ニ案ヲ共ニス鹽ヲ一器ニ盛リ案ノ中央ニ置キテ上下ノ位尊卑ノ坐位ヲ分

チ案ノ上邊ヲ以テ主人親族賓客ノ位トシ下邊ヲ以テ家奴等ノ坐トナス

ベージ間暇ノ日アレバ出デ、衆童ト戯ニ武事ヲ講シ夜ニ至レバ歸リテ婦女ト遊戯シ或ハ歌唱舞蹈スルヲ以テ常トス年長スルニ及テ始メテ其主ト共ニ戰陣ニ臨ミ二十一歳ノ比武勇德行兼ネ成ルニ及テ乃舉ケラレテナイトトナルコトヲ得

ナイトハ自少年貴族ヲシテナイトトナラシムルノ權アリ然レトモナイトトナラント欲スル者多クハ之ヲナイト中爵位最高ク或ハ品行善良ニシテ最賢明ナル者ニ求ム而シテ其賢否ヲ辨スルコト易カラザルヲ以テ概其爵位高キ人ニ求ムルニ至リ竟ニ王ノ專權ニ復スルニ至レリ

年少ナイトタランコトヲ欲シテ其家ニ入ル時其儀樣觀ルヘシ今此ニ著ス彼ナイトノ家ニ往ケバ必先之ニ湯沐セシム此身體ノ垢汚ヲ洗除シテ潔清ヲ得セシムルナリ沐シ畢レハ着スルニ白長衣ヲ以テシ次ニ紅短衣ヲ以テシ又黑衣鎧冑等ヲ服セシムルヲ常トス

其白衣ヲ服スルハ將來其品行ヲ潔白ニスルヲ表シ紅衣ハ他日陣ニ臨ミ戰血ニ染ミテ屈セザルヲ示シ黑衣鎧冑ノ如キハ時日ヲ選マス義ノ爲ニ死スルヲ示ス（泰西各部黑衣ヲ以テ喪服トスレハナリ）

後又帶ヲ以テ其身ヲ結束ス是身ノ潔淸ヲ保チ貞實ヲ守ルヲ表ス又ズパウールス（形雖距ノ如クシテ鞍ニ裝附シ以テ馬ヲ蹴踢シ驅逐スルニ供スル者）ヲ受クル事アレバ則疾走シテ之ニ趣クヲ表ス最後刀劍ヲ受ケテ其勇氣ヲ蓄ヘ信義ヲ厚クシ品行ヲ善良ニセヨト誡メラル

爾時ナイト刀ヲ拔キ刀背ヲ以テ年少ノ脊ヲ叩ケハ年少即跪キテ其授與ヲ受ク是ニ於テ其儀終レリ此ノ儀ハ盟約ヲ固クシテ忘却ナカランカ爲ナリ

ナイトガ常ニ備フル所ノ鎧冑ハ堅硬鏁子ヲ以テ造リテ利刃鋭鋒ト雖破ルコト能ハス後又鐵板ヲ以テ鎧ヲ造リ全身ミナ刀槍ノ害ヲ避ケシム

其用ヰル所ノ兵仗ハ長鎗（即長十二呎ヨリ十五呎ニ至ル）重劍短刀若クハ斧鉞若クハ鐵棍（即メースアトアルムスト稱スル者等ナリ）其軍馬ノ如キモ鏁衣或ハ鐵衣ヲ被ラシム

出師ノ際ニ當テナイトハ嘗テ甲ヲ擐カズ自兵仗ヲ執ラズペーシヲシテ之ヲ携ヘ軍馬ニ騎シテ奮然トシテ猛進セリ

第二十四篇　シワルリーノ法立定セシ以來民人ノ得失

シワルリーノ制ハ貴族自言テ大ニ善法ナリトスト雖他人ヨリ之ヲ視レバ無益ノ制ノミ夫此ノ制ヲ定立スル意ハ弱者ノ强者ニ制壓セラルヽヲ救ハンカ爲ナリ而ルニ歳月漸移リ從テ唯無用ノ驕態ヲ以テ他族ニ及ボスヲ最要ノ者トスルニ至レリ

貴族輩ナイトノ稱起テヨリ更ニ增貴ブリ漸貨財ヲ濫費スルノ風ヲ成シ衣服鎧冑刀劒其他百般ノ具皆浮華ヲ極ムルヲ主トシ因テ他族ニ及ボセリナイト輩各其衣服ノ華美扈從ノ衆多居家ノ壯麗廣大ナルヲ競ヒテ商業隨テ漸盛大ニシテ工造ノ精巧新奇ナル物多ク出ツ是ニ於テ始メテ市店ヲ開キ販鬻ヲ業トスル者漸殖シ賈人各富豪ヲ致シ竟ニ他邦人ト通商貿易スルニ及ベリ賈人ノ如キ固ヨリ經世濟民ニ

關ルノ權アルニアラザレドモ其殷富ナルヲ以テ亦一ノ有用民ノ名アリ

村野ノ民俗モ亦漸善ニ遷リ常ニ力作シテ上ノ爲ニセリ自富豪ヲ致ス能ハスト雖之ヲ前日ニ比スレハ其福ヲ享ルコト亦稍多シナイト韋盟約スルノ一條ニ曰ク農人ヲ愛護シ其艱害ヲ防禦シ農具ヲ掠奪スルカ如キ暴行ハ必復然セサランヽト彼ノ誓言斯ニ及ヘルヲ見テ當時ノ弊習已ニ極レルヲ推知スヘシ

アキテーン(州名)ノビショップ(僧侶ノ官)流言シテ曰ク神使天上ヨリ降リテ書ヲ齎セリ其言ニ曰ク人民今ヨリシテ爭鬪ヲ止メ須相親睦変通スベシト

此時疫癘流行シ人民之ニ罹ル者頗多シ彼ノビショップノ流言大ニ民人ニ信ゼラレ國家爲ニ平穩ナルコトヲ得ル者茲ニ七年貴族相共ニ約シテ曰ク水曜日ノ夕ヨリ月曜日ノ旦ニ至ルマテ小シクモ暴虐ヲ行フコト勿レ因テ稱シテ神ノ平和日トセリ

後未幾クナラサルニ其神言ヲ長徹遵守スルノ念湮滅シ唯無事安和ニシテ日ヲ送ルヲ以テ大ニ我事ヲ曠クスト爲シ終ニ其期ヲ短クシ土曜日ノ夕ヨリ月曜日ノ旦ニ至ルヲ以テ之ニ代ヘ其他ハ殘酷暴虐依然タリ

第二十五篇　第一世フィリップ諸爾曼泥侯ギヨーム、ロ、コンケランヲ忌ム

第一世顯理王殂スルニ當テ其子フィリップ甫メテ七歲而シテフランドロ(州名)コウーン(官名)ボードワン之ニ師傅タリボードワンハ有才多智ニ

シテ徳行アルヲ以テ名アリ心力ヲ盡シテ幼主ヲ教育シ以テ死スルニ至レリ時ニ幼主僅ニ十有四歳ナリ

師傅ヲ貴族中ニ選擧スルハ易事ニ非ス又當代王家ノ法嗣子二十一歳ニ至ラズハ王位ニ即カシメズ唯特ニフィリップヲシテ直ニ王位ニ即カシメンコトヲ議決セリ

ボードワン死シテヨリ幼主フィリップ復師傅ナシ自專事ヲ執リ因テ不善ノ事ヲ爲スコト頗多シ初ハ其性善良ニシテ容貌モ亦美ナリト雖一旦志行昏惰ト爲リ酒色ニ耽溺シ其性ノ善其容ノ美ナルモ皆共ニ之ヲ失フニ至レリ

王ノ心情既ニ說ク所ノ如シ然レトモ其臣下ノ心ハ全ク同シカラズ一臣諾爾曼泥侯ギヨーム英國王位ニ登レリ王フィリップ其威權ノ已ニ

超過セルヲ以テ大ニ之ヲ忌疾セリ

ギヨーム一子アリロベールト曰フ王フィリップ之ヲ鼓煽シ父ニ叛キテ竟ニ國亂ヲ成シ又遂ニ父ニ逐ハレテ一小城ニ入リテ拒守ス一日兵ヲ率ヰ出テ、城外ニ血戰セントスロベールハ當時ナイト中最有名ノ勇傑タリ出テ城外ニ至リ敵軍ヲ望ムニ一騎士アリ假面シテ進ミ來ルロベール之ヲ見テ兵ヲ接セントス

ロベール勇奮シテ進ミ之ト合シ乃一喝シテ其人馬ヲ倒シ鎗ヲ奮テ將ニ之ヲ刺サントス偶其聲ヲ聞クニ宛然トシテ我父ニ似タリ乃大ニ驚愕シ馬ヨリ跳リ下リ扶ケテ馬ニ上ラシメタリ

ギヨームノ英國ニ御立セラル、ニ當テロベールニ謂テ曰ク汝ニ與フルニ諾爾曼泥州ノ一地ヲ以テセントス是ニ於テロベール其父ヲ干戈ノ

下ニ免レシメルヲ以テ自慰フ必余ニ一全境ヲ與フルコト前約ノ如クナラント而ルニギヨーム之ニ書ヲ贈テ言辭醜詆ヲ極ム曰ク余寢室ニ入ルニ非ズハ衣ヲ脱セズ死ニ至ラズハ封境ヲ割カズト

ロベール、ギスカールハ即ロベールノ後裔ナリ時ニ諾爾曼泥州ノ一境ニ在ル陛下ノ民ヲ率キ特撒利國及以大利國諸州ヲ略取セリ乃ブリガン（盗賊ト譯ス）ノ稱アリ其特撒利ヲ略スルニ當テ撒遜斯人ト交戰スルコト十年遂ニ之ヲ得タリ

第二十六篇　十字役

余已ニ王ロベール、ロ、マニフツク歴遊シテ靈土（英語ニホリーランドト云フ神聖國ノ義即パレスタインヲ稱ス）ニ到ル事蹟ヲ説ケリ王自謂フ其ノ罪過ヲ償贖スルノ法ナリト而シテ獨王ロベールノミ然ルニアラズ當時人民亦皆以テ然リトセ

リ乃謂フ以大里或ハパレスタイン國神聖寺院ニ巡拜スルハ實ニ過去ノ罪ニ因テ被ルベキ天譴ヲ償贖シ又以テ生平下賜ノ恩惠ニ報スルノ最良法ナリト

或ハ危險ニ遭遇スル人アレバ自誓テ曰ク幸ニ此危險ヲ免カレシメバ必一ノ靈土ニ至リ物ヲ神堂ニ供シ祝文ヲ誦シ以テ一身護保ノ德ニ報セント終ニ靈墓（即耶蘇ノ墳墓）ヲ以テ巡拜者至要ノ標的ト為スニ至レリ是人類ノ當ニ最崇尊仰禮スヘキ者タルヲ以テナリ巡拜者ハ常ニ徒歩シテ行キ耶蘇宗徒ノ境内ニ在テハ殊樣ノ衣裳ヲ服シ大ニ施與保護ヲ行ヘリ其衣黔色粗布ノ長衣ニシテ濶袖アリ帶ヲ結ヒ大帽ヲ着ス帽ノ前斜ニ上リ之ニ裝附スルニ海扇ヲ以テシ以テ飲水ノ用ニ供ス其ノ一個ノ甕ヲ負ヒ一枝ノ杖ヲ携フハ沙漠中ヲ經過スル時其歩ヲ扶ク

ル所以ナリ

パレスタイン曾テ東帝國（羅馬分レテ東西両國トナレリ）ニ屬シ此ノ宗法ノ誓約ヲ成スニ於テ未曾テ一ノ妨害アラス又撒辣斯人民ノ開化スルニ際シ法徒ノ巡拜者パレスタインニ到ルニ尚安全ナリ但其ノ巡拜税アリ史册（スルタン）（土耳其帝王ノ稱）歳入ノ一要件タリ

一千九十四年ニ及テハ則其ノ兇暴無狀ナル即自家ノ教法ニ心醉セル土耳其人民實ニゼルサレム都ヲ略取セリ因テ爾來巡拜スル者ニ於テハ唯其危ヲ犯シ資財ヲ糜用スルノミナラズ又冤枉ニ係リ死刑ニ就ク者屢ナリ僧徒ノ如キハ常ニ人ニ侮慢セラレ衣服ヲ掠奪セラレ或ハ禁獄ニ就ク者亦少カラズ又靈土境內ニ在ル耶蘇宗徒ノ如キハ最其殘虐ニ遭ヘリ

東國帝アレキシストト曰フ者耶蘇宗徒ニ屬シコンスタンチノープル都ニ住セリ常ニ此ノ危難ヲ免レシメンコトヲ思ヘリ又一人アリ之ヲ憂慮スルコト甚切ナリ彼ノ土耳其人民ノ惡行大ニ我カ心ヲ攪擾スルヲ厭ヒ竟ニ自出デ全歐ノ民ヲ嘯集シ其勢始メテ熾々タリ

此レ即ピエールレルミット（レルミットハ隱者ノ義）ト曰フ者ニシテ元來ピカルデイーヨ州ノ一僧侶ナリ其人ト爲リ怯弱其親亦庸人ニ異ナラズ嘗テ自パレスタインニ巡拜シ土耳其人ノ兇暴ニシテ數耶蘇宗徒ヲ妨害スル狀ヲ目撃スルヲ以テ遂ニ自稱シテ親目人ト曰ヒテ之ヲ衆民ニ告知セリ

ピエールル髯衣徒跣シテ朝ヨリ出テ朝ニ還リ城下ヨリ城下ニ至リ都府ヨリ都府ニ赴キ其旅行シテ到ル所人民各耳ヲ傾ケテ其說ヲ聽キ以テ

神使ナリトス人民擧テ同心敵愾ヲ事トセリ

是ニ於テ法皇諸官員ニクレルモン都ニ會ス群民モ亦之ニ與レリ法皇事ヲ議スルニ當リ衆皆同音ニ呼テ曰ク是ハ則神意ナリト此語竟ニ全歐洲中ニ傳ハリ人民群集シ茲ニ法王ノ允可ヲ得手ツカラ神事ニ服役セント欲シ終ニ其黨與タルヘキノ符ヲ受ケタリ

其符ハ即外衣ノ肩上ニ赤色十字形ヲ縫着スルモノナリ故ニ此役ヲ稱シテ十字役（佛語ニコロワザードト云ヒ英語ニクリセードト云フ）ト爲シ之ニ與セル民ヲ稱シテ十字黨（佛語ニコロワゼート稱シ英語ニクリセードルト稱ス）トス此役ニ一條アリ民心ノ切ナルニ因テ此符ヲ製セント欲シ遂ニ爲ニ衣服ヲ裁斷シ盡ルニ至レリ

佛國民心ノ騷擾スルコト波濤ノ洶々タルカ如シ公侯貴族ノ如キハ遠征ノ資用ニ備ヘンカ爲ニ其土地ヲ典賣セントス買人此時ニ乘シテ私

利ヲ射ント欲シ争テ亦之ヲ請フ貴族ハ竟ニ顧慮スル所ナク争テ諸物ヲ典賣セリ

第二十七篇　十字黨ノ發起幷ニ二將ピエール、レルミットゴーチエー首軍ヲ帥ヰテ發ス十字黨遂ニ靈地ニ達スルヲ得ズ

上ニ説過スル所ハ唯其宗教ヲ固執スルカ爲ニ出ルノミニアラズ此時民心各戰鬭ヲ好ミ貴族豪傑事ヲ擧ケ名ヲ成シ己カ欲ヲ逞クセント欲スル所アリ曾テ諸爾曼人少兵ヲ以テ以太里諸地ヲ略取スルコトヲ見テ今ノ十字黨ノ所爲ヲ知ルヘシ

十字符ヲ受ケテ此黨ニ入ル者ハ其意ニ謂ヲ何ノ罪過カ償贖シ得サラント是ニ於テ有罪ノ徒モ亦意フ永ク犯人トナリ此ノ艱苦ヲ蒙ランヨリハ命ヲ天ニ聽キ軍ニ從ヒ吉ナラバ功名ヲ成シ凶ナラバ死ニ就カン

ノミト各先ヲ争テ此黨ニ入ランコトヲ冀ヘリ

衆皆意フ天命吉ニ遭ヒ生存スルヲ得ハ終身安全ナルヲ得ン假令死ニ就クモ來世必安樂界ニ生レ寃魂ヲ慰ムベキ冠ヲ冠シテ竟ニ悅樂セン又貧者ノ負債アルモノ玆ニ十字符ヲ受クレバ其債必消シ豪者ノ負債アルモノ或ハ責主ノ償還ヲ促スニ逢ヘバ唯此符ヲ指點シテ應答ニ代フルノミ

此ノ如キ宗法ヲ以テ民心ヲ煽動シ衆民來會集合スル者百有餘萬人アリ而ルニ多クハ婦女兒童老者廢人乞丐等ニシテ兵士武卒ニ出ツルニ非ズ

此黨ノ隊ヲ結ブモノハ兵器ノ充備スルヲ俟タズ又後兵ノ集合スルヲ俟タズシテ發セリ因テ貴族ノ徒ハ此雜兵ト混同スルヲ恐レ唯三十萬

ヲ以テ特ニ進發セリピエールレルミツド氏草履ヲ穿着シ細索ヲ帶ニシゴーチユートト共ニ之ニ將タリ此ノ大胆鋭進ノ兵彼ノ勇悍ニシテ兵備アル土耳其人ト相敵シ歐洲ヲ去リ遠征スルコト之ヲ以テ首唱トス

當時最強兵ト稱スルハ騎兵ナリ而シテ十字黨三十萬中騎兵タル者僅ニ八人ノミ以テ其強弱如何ヲ知ルニ足レリ

其兵器未整全セザルノミナラズ且其往ク所ノゼルサレム都ハ相距ル幾里ニシテ何ノ地何ノ方ナルヲ知ラズ唯靈地靈地ト唱フルノミ一僧アリ告ケテ曰ク汝衆人苟功ヲ此役ニ成サバ靈魂必永ク救助セラレント衆兵之ヲ聞キテ爾以テ足レリトシ又他説ヲ聞クコトヲ欲セズ

已ニ爾ク僧徒ニ誑着セラレ謂フ上帝ノ余輩ヲ守護スルコト思議スヘカラズ其食ヲ與ヘラル、コト肯テイスレーライトス種ノ埃及ヲ逃レ

去リ砂漠ノ地ヲ過ギ神助ヲ蒙ルガ如クナラント既ニ佛國ヲ離レ言語風俗ノ僅ニ異ナル處ニ到レバ則行路ノ盡クル所ナラント思ヘリ

隊中ノ小兒輩行テ都邑ニ逹スル毎ニ輙問テ曰ク是即ゼルサレム都ナリヤト嚮導者途ヲ匈牙利（ホンガリー）ニ取レリ而ルニ地理ニ暗クシテ前路ノ標トスル所モナク唯其到ル處ニ任セ或ハ獸類ノ蹄跡ヲ逐ヒ或ハ飛鳥ノ影ヲ尋チ行キテ只管神ノ道路ヲ余輩ニ指シ示スナラント意ヘリ

然レトモ曾テイスレーライトス種ノ愛助ヲ神ニ受ケシカ如クナルコト有ヲズ乃更ニ鹵掠シテ食ヲ取ルニ至レリ因テ其過クル所ハ其ノ國民ヲ殘暴シ之ト爭鬪シテ全軍兵士殆死亡シ盡キ或ハ饑病シテ生命ヲ損セルモノアリ

其ノ僅ニ生存セル者ハ二將ピエール、コヂエー等之ヲ率ヰテコンスタ

ンチノーブル都ニ在リテ精練ナル兵士ノ至ルヲ俟テリ是ハ次章ニ登記セン

第二十八篇　十字役ノ一幷ニゼルサレム都ノ創立

此黨兵三百萬有餘人皆烏合ニシテ佛民其多キニ居レリ其全軍ヲ一ニセンハ其糧食ヲ支フルコト甚難カランコトヲ恐レ之ヲ分チテ三ト爲シ以テ三道ヨリ進マントス

有名ノ士ゴードフロワドブヨント曰フ者其第一軍ニ將タリ其ノ人ト爲リ善良ニシテ貞信ナリ此役ニアリテ一ニ信教ノ厚意ニ出デ、毫モ名利ノ爲ニセザルコト古史ニ依テ證スベシ二弟ボードワンオスタント曰フ者アリ亦此軍中ニ在リ

其第二軍ニ將帥タル者ハ佛王ノ弟ヒユーゴドヴェルマンドワ前章既

ニ出ツル所ノロベール、ド、ノルマンディーヨ即後ニ英王トナレルステツフェンノ父及フランドル伯ロベール是ナリ尙數個ノ公侯アリ皆其權力ヲ恃ミ各其旗章ヲ製シ自之ニ將トシテ人ニ隷屬スルコトヲ欲セズ

其第三軍ニ將タル者ヲレモンドツルーズト爲ス佛國第一ノ善地ヲ有シ貴族中ノ俊秀ニシテ智勇ヲ兼備シ世ニ尊バレ威權頗熾ナリ信教ノ意厚クシテ遂ニ其土地位官ヲ以テ其嗣子ニ讓リ去リテ固ヨリ復歸ルコトヲ期セズ

東土帝エレキシス前ニ應援ヲ請ヘル時ハ固ヨリ此大軍ノ到ラントスルヲ圖ラズ今斯ノ大軍ノ部内ニ入リ來ルヲ見テ驚愕恐怖シ更ニ悔心ヲ生セリ

此事ハ則古語ニ所謂牧夫志ヲ達シテ却テ其害ヲ取ルモノト相似タリ一ノ牧夫アリ旱歲ニ當リテ天帝ニ水ヲ請ヒ禱リシニ時ニゲンジュ河（印度ニ在ル一河）ノ水急ニ飜流シテ田野ニ横溢シ牧獸及獸房居家爲ニ悉流損セリト

十字黨各神聖ノ役ニ赴クナリト謂ヒ希臘人ヲ以テ野蠻トス故ニ希臘帝及其部下ノ兵ヲ待遇スルコト啻其黨人朋友ノ如キノミナラズ之ヲ蔑視スルコト奴僕ノ如キニ至レリ

帝一日王座ニ登リ威儀儼然タリ時ニロベール、ド、バリート曰フ者俄ニ帝ヲ其座ヨリ引キ下シ自登リテ之ニ代リ大聲呼號シテ曰ク希臘人ハ豈不敬ノ痴奴ナラズヤ佛國ノ貴族茲ニ在ルニ傲然トシテ椅子ニ倚レリト

今十字役ノ事情ヲ考フルニ唯其事久長ニ及ハンコトヲ恐ル何トナレハ其軍統領アルニ非ズ徒ニ數多ノ將帥アリテ之ヲ率キルヲ以テ禍害將ニ發セントスルコト近キニ在リ其故ハ攻メテ一都邑ヲ拔ケハ則相爭ヒテ自功トス終ニ各獨立シテ自國土ヲ保有セント欲セリ

ゴードフロワノ弟ボードワンエデッサーヲ略取シ又ロベールギスカールノ子ボエモント曰フ者アンチョーシユ地名ヲ略セリ而シテ猶其ノ黨中或ハ小部兵ノ前約ヲ修メ誠信ニシテ變ゼザルモノアリテ彼ノロベールドノルマンディーロベールドフランドル及ゴードフロワドブヨン三將ノ軍其數寡少ニシテ竟ニ靈都即ゼルサレム都ニ達スルコトヲ得タリ

此都大ニ十字黨ノ攻擊スル所トナリ竟ニ紀元一千九十九年第七月十五日ヲ以テ陷ル時ニ十字號ノ旌旗翻々トシテ都下ニ盈テリゴードフロワ選バレテ之ニ王タラントス此ノ人性温良恭謙且教法ヲ信奉スルコト頗厚シ乃其尊稱ヲ固辭シテ受ケズ自稱シテ守塚者ト爲シ金冕ニ代フルニ荆冠往昔耶蘇刑ニ就ク日世人之ヲ蔑視嘲弄シ荆ヲ以テ冠ヲ作リ其頭ニ冠ラシム今之ヲ稱スヲ以テセンコトヲ願フ自其ノ權力其ノ位ト相當ラスト爲セルカ故ナリ

第二十九篇　タンプリエー黨及サンジャン黨ノナイト幷ニ兒童ノ十字役

ゴードフロワノ人ト爲リ智勇兼備既ニ說ケル所ノ如シ曾テ法律ヲ制定シ之ヲ書冊ニ筆セリ即アッシーズドゼルサレム是ナリ此書今ニ至テ尚其一小部ヲ遺存ス余輩之ニ依テ封建ノ制當時ノ法律及風俗等ヲ知ルコトヲ得ル最多シ靈都已ニ陷ルニ及テ十字黨中直ニ走テ佛國ニ

還ル者多シ故ニゼレサレム部ノ衞兵寡少ナリ因リテ更ニ新兵ヲ募ル
ニ至リテ竟ニナイト中ニ二大黨ヲ爲セリ
一ハ耶蘇宗徒ニ非ザル者ヲ防禦スルニ備フルナリ其黨相約シテ曰ク
爾來共ニ性命ヲ擲チ人世ノ娛樂ヲ放棄シ敢テ長上ノ命ニ違フコト勿
カラント
又自誓テ妻ヲ娶ラザラント曰ヘリ此黨ヲ稱シテタンプリエート爲ス
軍事アラサル日ハ務メテ世上ノ塵事ヲ避ケテ隱者高士ノ風アリ歐洲
中最勇アリ及才能智術アル者多クハ此黨ニ在リ但漸富豪ヲ成シ漸權
威ヲ長シ之カ爲ニ終ニ廢滅ニ歸セリ其瓦解ノ由來ハ後ニ記セン
一ハショワイエー、ド、サンジヤン黨或ハショワイエー、ド、ロピタル黨ト
稱ス巡拜者ヲ懇待スルヲ司ドル而シテ他ノ宗徒ヨリ此宗徒ニ妨害ス

ル者アレハ則之ヲ防禦討伐スルハ猶タンプリエー黨ノ如シ
ショワイエー、ド、サンジヤン黨ハタンプリエー黨ノ如ク富盛ナル權力
アラサルヲ以テ反テ廢滅ニ歸セサルヲ得タリ後更ニショワイエー、ド、
マルトト稱セリ（マルトハ地中海一島嶼ヲ稱ス此黨ノ本營斯ニ在リ因テ此名アリ）自誓テ曰ク長クマホ
メツト宗ト相抗敵シテ爭鬪セント
紀元一千九十四年以降歲月ヲ閱歷スルコト約二百年ニシテ十字役ノ
起ルコト凡七回其初役ハ實ニ人情自然ノ勢ニ出テ、之ニ赴ク者各望
ム所アリ変進テ先ヲ爭ヒ敢留滯スル者ナキハ余輩ノ知ル所ナリ後ノ
六役ニ至リ更ニ前日ノ覆轍ヲ顧ミズ猶盲人ノ斷岸ニ上リテ下臨スル
ノ勢アリ嗟危ムベキノ甚ニ非ズヤ
其六役中最世ニ明著ナルモノハ兒童十字役ト稱スルモノナリ此役紀

元一千二百年ニ在リ今之ヲ說クハ次序ヲ亂スガ如クナレトモ專歲月ノ前後ヲ論スルニ遑アラザレバ姑其大略ヲ記セン

一童ノ法教ヲ篤ク信スル者アリ謂フ夫ノ靈墓ヲ奪還スルハ無罪童兒ノ力ニアラズンバ焉ゾ之ヲ成シ得ンヤ是神ノ命スル所ナリト乃壯麗ナル一車ニ乘ジ國內各處ニ遍遊シテ十字黨與ヲ募リ其之ニ與スル者ハ則之ヲ後車ニ陪乘セシム其黨漸增加シテ衆多ナルコトヲ得タリ

彼ノ童子ノ到ル處皆信教者ヲ以テ之ヲ遇セリ遂ニ地中海岸ニ達シ海ヲ渡ラントスルニ其船粗惡ナリ然レトモ上帝ノ保護嚮導アランニハ渡テ彼ノ岸ニ至ルコトハ難カルベカラズト謂ヒテ乃其船ニ駕シテ發セシガ竟ニ波濤湧起シテ其船竟ニ覆沒シタリ

第三十篇　第一世フィリップ治世中佛國不幸ニ係ル

茲ニ十字役起リシヨリ貴族庶民擾々トシテ各爭ヒ去テ之ニ赴キ國內爲ニ寂然タリ王フィリップ乃之ヲ喜ブノ色アリ衆人外ニ出デ去ルト雖然レドモ王ニ服事スル臣民ハ則依然トシテ居止セリ王ノ性頗懶惰ニシテ其行放恣ナリ朝暮酒色ニ溺レテ度アラズ其子路易ヲシテ政ニ與ラシメテ已關ヲサルカ如シ路易ハ其性大ニ父ト反セリ

王フィリップ既ニ政ヲ修メズ貴族輩時ニ乘シ巴里府ニ接近セル地方ニ城壘ヲ築キ入テ之ニ居リ時々出テ人ノ財物ヲ剽掠セリ其ノ狀恰山賊ノ如シ其最殘害ニシテ忌憚スヘキモノヲモンフォール公及モンレーリ公ト爲ス常ニ城樓ニ登リオルトレアンス都ヨリ來レル賈客ヲ望見シ出デ、之ニ迫ル宛獅子ノ小獸ニ臨ムガ如シ其城趾今猶存シテ巴里接近ノ一地ニアリ

買人不幸ニシテ此ノ兇暴公ニ縛セラルレバ則苦楚百端竟ニ其ノ莫大ノ財賄ヲ出シテ贖罪スルニ非ズハ則放免ヲ得ズ

王路易此ノ無状殘暴ヲ惡ミテ之ヲ罰シ大ニ部民ノ望ヲ得タリ而シテ後母ベルトラ——ドト曰フ者大ニ王路易ヲ妬ミ之ヲ弑シテ其所生ノ子ヲ立テ王タラシメントシ王ニ酖毒ヲ飲マスニ幸ニシテ奇藥アリテ之ヲ救ヒ終ニ殂セサルヲ得タリ

王フィリップ紀元一千百八年ヲ以テ殂セリ年五十七歲在位五十年其殂スルニ臨ミテ遺命シテ曰ク我ヲ葬ルハ必サンドニ——寺院ノ名ニ於テセザレトサンドニ——ハ佛王歷世ノ墓地タリ今其ノ遺命スル所ヲ以テスレバ蓋自其ノ不善人タルヲ知リテ不善者ノ遺骸ヲ以テ焉ゾ往聖前賢ト共ニ葬ルヲ得ヘケンヤト謂フナラン

此ノ時佛國ノ王室衰運ニ屬スルノ極ト謂フヘシ其管領地境ノ如キハ巴里府ヲ以テ首都トナシ之ヲ計ルニ僅ニ方一百里ヨリ方一百二十里ニ過キス爾來二百年ヲ經テ纔ニ王室ノ權勢ヲ恢復スルコトヲ得タリ

當時ノ製樣頗奇異ナリアンジュ——地名侯某其ノ脚ノ異形ナルヲ以テ之ヲ蔽ハントシテ長大ノ一靴ヲ創製セリ其製靡佛國全土ニ流布シ遂ニ英國ニ輸出スルニ至レリ

佛國古史家ノ說ヲ考フルニ曰ク其靴製其長約二尺其形蠍尾ノ如シト又曰ク嘗テ希臘人ト諾爾曼泥人ト戰フニ當リテ諾爾曼泥人馬上ニ在リテハ抗戰スルコトヲ得レトモ馬ヨリ下ルニ及ヒテハ一歩モ進ムコト能ハズ遂ニ大敗ヲ得タリ是其ノ靴ノ長大過度ナルニ由リテナリト

第三十一篇　第六世路易譯異ロ、グロ——ト稱スル者ナリ王ノ治世并ニ民人良化

ニ進歩スルノ情勢

王路易年僅ニ二十ニシテ國政ニ與リ父フィリップ殂スルニ及ヒテ年三十ナリ此王文學ヲ好マス理世濟民ノ術ニ於テ已ニ虧ク所アリト雖其性質善良ニシテ方正剛毅ナリ人ト接スルニ温和ニシテ懇誠ヲ表セリ

王頗勇悍ニシテ軀幹肥大ログロー（肥大ノ義）ノ綽名ヲ取ル所以ナリ能ク事ニ勤メテ倦マス兵卒ト共ニ居ルモ威權ヲ以テ之ヲ凌侮スルコトナシ共ニ艱苦ヲ嘗メ共ニ危險ヲ冒シ至尊ヲ以テ自異ニセズ

此ノ王治世ノ始ニ當テ大臣等（公侯ヲ指ス）ト爭鬪スルコト止マズ小貴族ノ不廷凶狠ニシテ強盜豪賊ナルハ能ク制御シテ竟ニ其ノ功ヲ成セリ然レドモ唯一時ノ安寧ヲ致セル者ニシテ長久ノ計ヲ爲スコト能ハス又

其兵亂ノ際ニ當テ一事ヲ發明スルコトアリ之ヲ戰勝ノ利ニ比較スレハ其功更ニ大ナリトス

佛國中一種民ノ別ニ土地ヲ購求シ自主ノ權利ヲ保全スル者アリ國主タル者ト雖其ノ定額稅租ニ非ザルヨリハ又一文錢一粒米モ收斂スルコトヲ得ズ此ノ民各商トナリ工トナリ都邑ニ群居セリ

此ノ種ノ民ハ他ノ人民ト異ニシテ宗教ニ眈ルコトナク十字符ヲ受ケズ又負債ヲ償ハサルコトナシ又名聲ヲ求メント欲スルノ意アラズ是貴族ニシテ子孫相嗣キ四世ニ至ル者ニ非ザレバナイトタルコトヲ得ザルヲ知レバナリ

十字黨ハ皆其所有ノ物貨ヲ意トセズ偏ニ東土ニ領地ヲ得ンコトヲ欲シ因テ其所有ノ物貨ヲ賣リテ軍用ニ充テリ時ニ商人輩各之ヲ購求シ

因テ富豪ヲ成シ自主ノ權利ヲ起立シ又千般ノ特許ヲ得タリ
王路易ノ明敏ナル能ク封建ノ竟ニ王室ノ權威ヲ損スルヲ察知セリ是公侯ノ封境其ノ廣大ナル或ハ王土ニ超過スル者アルヲ憂フルニ出ツル所ナリ王曾テ意フ今庶民ニシテ權威アルモノアリ之ヲ引テ我援トシ貴族ト相抗挍セバ互ニ相制馭スルヲ得ン貴族ニシテ不恭不廷ナル者アレハ則庶人ニ命シテ之ヲ討伐シ庶人ニシテ不禮ナル者アレバ則貴族ニ命シテ之ヲ討セシメント
庶民已ニ王意ヲ知リ之ニ乘ジテ佛語ニ所謂コンミユーンノ特許書ヲ受クルコトヲ得タリコンミユーントハ相救助スル黨與ト云フ義ナリ其ノ長官ヲ選ブニ相共ニ決議スルト其ノ王事ニ赴クコト、ヲ許サル其ノ王事ニ赴クハ王ノ徵發ニ應シ軍ニ赴ク事ヲ謂フ其ノ時其ノ決議

シテ選フ所ノ將帥ニ從ヒ之ガ部兵タリ然ルニ貴族黨皆肯テ此ノ法ニ服セズ是自己ノ權威ヲ損シ庶民ノ權力ヲ熾ニスルヲ以テナリ而シテ世ノ識者或ハ曰ク王ノ此ノ制ヲ出セルハ庶民ヲシテ自主ノ權利ヲ保全セシメ且廉正ヲ好愛スルヲ以テナリト或ハ曰ク財賄ヲ貪ラント欲スルニ出ルノミト然レトモ其ノ理ヲ推窮スルニ良法ナラズト謂フコトナシ民人各自主ノ權利ヲ得テ反覆常ナキ暴君ニ束縛セラル、憂ナキヲ得ルハ則此ノ法ノ功ナリ
學藝技術商方等隨テ盛ニ荒野隨テ開ケ一百年ヲ經ルニ及テ其ノ自由ノ權ヲ得ル者朝野ニ遍ク小民ノ田野山林賣買セラル、ノ弊ナシ且議事院ハ曾テ貴族僧侶ノミ會同合議スルノ處タレトモ當時ニ至リテ市民野人モ亦會同合議ノ權ヲ持シコンミユーンノ如キモ代議者ヲ出シ

テ其會議ニ與カルコトヲ許サル

第三十二篇　英國太子ウィリヤムノ死

佛國ニ一ノ強敵アリ來リ擊ツ即一侯ノ勢焰最熾ニシテ大國公侯ト雖讓ル所ナキ英王第一世顯理是ナリ別ニ封境ヲ諾爾曼泥ニ有スルヲ以テ亦佛國王ニ服事セサルコトヲ得ズ

而シテ二國竟ニ兵ヲ交ルニ至レリ然レトモ當時戰鬪ハ未甚殘酷ニ至ラス其ノ人ヲ殺サンヨリハ之ヲ捕虜シ贖金ヲ課スルヲ善シトス余茲ニ此ノ兵亂ヲ登記スルハ固ヨリ至要トスル所ニアラズ但此ノ役兩軍退ク後一ノ悲慘スヘキ事アリ之ヲ登記センカ爲ニ亦此ニ及ベリ

英王顯理軍ヲ收メテ旋ラントス船艦ニ駕シテバルフロール港ニ嚮フ王ノ将ニ船ニ上ラントスルニ當テ一人アリ王ヲ呼ヒテ其ノ船ニ駕セ

シメントス是ノ人ノ父嘗ニ王ウィリヤム、ゼコンコールノ英國ニ戰ヒ勝ツノ日王ヲ己ノ艦ニ駕セシム因テ王之ニ特許シテ常ニ英王ヲ其艦ニ駕セシメシヲ以テナリ

其ノ人王ニ謂テ曰ク我白裝艦ヲ艤セリ請フ王之ニ駕セヨ王既ニ約シテ他船ニ駕スルヲ以テ今易フベカラズ

王意フ彼斯ノ如ク心ヲ盡スニ之ヲ辭シテ空シク閑事ニ屬セシムルモ亦忍ビサル所ナリト是ニ於テ命ジテ王子ウィリヤム王女某其ノ他諾爾曼泥州英國ヨリスル少年ノ公侯貴族及從臣貴女等許多ノ人ヲシテ之ニ駕セシム

發スルニ臨ミ王子酒殽ヲ水師輩ニ賜ヒ一艦中皆大醉セリ既ニ夕陽ニ及テ乃發ス衆帆倶ニ張リ勢ヲ鼓シテ王艦ニ追ヒ及ハントス未口ヲ出

テザルニ忽岩礁ニ撞着ス

此ニ因テ船底壞損シ水漸艦內ニ流溢ス乃哨船ヲ下シ王子ヲ之ニ濟セシメ岸ニ傍フテ安全ヲ得ントスル時ニ王子其女弟ノ壞船中ニ在ルヲ回顧シテ之ヲ措クニ忍ビス更ニ船ヲ旋シ復之ニ赴ケリ

衆皆惶遽シテ措ク所ヲ知ラズ既ニシテ王子ノ到ルヲ見テ各爭フテ其舟ニ移ラントス舟小ニ人衆シ亦竟ニ覆沒シテ舟中ノ人悉溺死セリ

此ノ禍ヲ致スハ到底艦長ノ其ノ任ヲ怠忽スルニ出テ、而シテ身モ亦隨テ死セリ王子ノ如キハ其ノ慈愛惻怛ノ厚キニ出テ、而シテ亦同ジク其ノ死ヲ免レス嗟怠忽ニ出テ、死スルト慈愛惻怛ニ出テ、死スルト其ノ異同優劣果シテ如何ソヤ船全ク既ニ沒シ水面僅ニ帆檣ヲ露ハス爰ニ一人アリテ其檣ヲ攀チテ性命ヲ存セリ艦長ノ如キモ此ノ如クセハ蓋亦生存スルコトヲ得ン而シテ斯クセサレハ王子ノ溺ル、ヲ見テ獨生ルニ忍ヒザルニ出ツルナラン

英王顯理已ニ講和セリト雖竟ニ永久ヲ保ツコト能ハス王顯理日耳曼帝某ニ說キ將ニ佛王ニ敵シテ干戈ヲ動カサントス抑今佛民ノ此ノ強大敵ノ侵伐ヲ受クル固ヨリ常兵卒ノ能ク拒ク所ニ非ス平時國內亂アレハ貴族相結ヒテ之ヲ拒ク今外邦ヨリ侵サル、ニ竟ニ之ヲ禦クコト能ハス全邦ノ貴族各走テ王ノ處ニ歸セリ

第三十三篇　オーリフラム古旗章ノ名ヲ以テ國旗ト爲ス幷ニ佛國王子豕豚ノ害ニ死ス

歐洲中昔日カトリツク教ヲ信奉スル國ニ在テ人民皆謂フ一聖人アリテ我邦土ヲ保護スト即英國ハシント、ジョージヲ以テシ蘇國（スコツトランド）ハシント

アンデルスヲ以テシ愛國（アイルランド）ハシントパットリックヲ以テシ佛國ハサン
ドニーヲ以テシ皆其自國ヲ擁護スルノ神ナリトス
サンドニーノ堂中壇上ニ一ノ靈旗アリ僧侶ノ說ニ曰ク此旗ハ曾テ王
クロウィスノ世ニ當テ天使之ヲ齎ラシ降リ壇上ニ遺シ去レリ其ノ製
ハ紅絹ヲ以テ作リ金製ノ光線アリテ封包セリ竿ハ純金ヲ以テ製ス故
ニ之ヲ稱シテオーリーフラム（金光線ノ義）トス
當時ノ王家即カッペイ王統ハ曾テ巴里府ノ主タルヲ以テ今此ノ靈旗
ヲ取ル權アリト稱シテ止マズ王家曾テサンマルタン氏ノ青色斂衣ヲ
以テ旗章トセリ今オーリーフラムヲ取リ得テヨリ以來之ヲ以テ旗章
トシ降テ第十一世路易ノ世ニ及ヒテ終ニ復亡失セリ
是王家ノ旗章タルニ非ズ更ニ佛國ノ旗章タリ事アルニ非サルヨリ濫

ニ之ヲ出タサズ故ニ一タヒ此ノ旗ヲ出タセハ則全國中ノ人王ノ馬前
ニ走リ赴カサルコトヲ得サルノ標ナリ
日耳曼ノ役ニ當テ此ノ旗ヲ出セルヲ以テ國民擧テ之カ徵ニ應シ直ニ
走テ王軍ニ歸シ其軍山野ヲ蔽フ王自之ニ將タリ佛國兵備ノ盛ナルヲ
見テ大ニ恐レ竟ニ戰ハズシテ其軍ヲ旋セリ夫人豫備ヲナストキハ災
禍ヲ被ラサルハ固ヨリ然ル所ナリ
王路易不幸ニシテ一千百三十一年ヲ以テ王子某ヲ失ヘリ其由ル所ヲ
推スニ佛國巴里府街衢道路ノ汚穢不潔ヲ知ルニ足レリ此時道路狹隘
土泥壅塞シテ豕豚街衢ニ往來シテ食ヲ人家ニ求ム
巴里府中ノ豕ハ其居民ニ狎親スル意ナシ一個ノ豕アリ王子騎シテ出
ル時飛跳シテ其馬ニ撞觸ス馬爲ニ驚キ王子傷害ヲ被リ後幾ナクシテ

遂ニ殂セリ

夫一人獨心ニ了スル所アリテ事甚偏重ナレハ衆人之カ爲ニ窘困スルコト世上往々之アリ此ノ豕害ニ因テ命アリ曰ク一頭豕ト雖之ヲ市坊間ニ畜フコト勿レト時ニサンタントヲウン堂ノ僧其亦豕ヲ畜ヘリ此命アルニ因リテ切ニ之ヲ哀訴シ竟ニ其意ヲ遂グルコトヲ得テ獨其ノ畜フ所ノ豕ハ街衢ニ徘徊スルコトヲ許サル但頸環ヲ作リ小鈴ヲ施シテ以テ之ヲ別テリ

既ニ殂スル所ノ王子其性頗善良ナリ父王ノ之ヲ愛惜スルコト亦宜ナラスヤ其殂スル時王ノ慟哭悲嘆最切ナリ一千百三十二年ヲ以テ位ヲ太子路易ニ禪レリ路易時ニ年甫メテ十二歲此ノ時佛國公侯ノ員ヲ限定シ十二名ヲ以テ定員ト爲セリ

一千一百三十七年第八月一日王路易ログロー殂ス人民ノ慟哭考妣ヲ喪スルカ如シ小民小貴族等ノ如キ悲嘆更ニ甚シキ者アリ是王在世ノ日嘗テ小弱ヲ愛憐愛恤スルヲ以テナリ其殂スルニ臨ミテ嗣子ニ遺命スル所アリ其言ノ是非邪正ハ其嗣子ノ善ク其任ニ逮ヘタルヲ以テ知ルヘシ遺命ニ曰ク汝家兒苟位ニ登ヲバ一ニ上帝ノ其ノ任ニ代ヲシムル所以ナルヲ以テ其行爲動作亦一ニ上帝ノ命ヲ受クヘシ上帝ノ在ス所高遠ナリト雖明々赫々常ニ王冠ト笏トヲ擁護督督スト

第三十四篇　當時佛國文化ノ進步並ツルーバヅール及クールタムールノ權輿

王路易ハ甚文學ヲ好マズ然レトモ亦其理治ノ功アルヲ以テ當時ノ人民因テ更ニ文學ヲ勉メ爲ニ其面目ヲ變セリ又佛國ノ僧侶ハ其學力才

德ヲ論セス門閥貴族ニ非ザレバ高官ニ昇ルコトヲ得ズ因テ或ハ官爵ヲ賣買スルノ獘アルニ至レリ而シテ王路易始テ此ノ弊ヲ剪除シ卑賤ノ人ト雖亦高僧ノ官階ニ昇ルベキノ道ヲ開キ遂ニ壅閉ノ憂ナカラシムルコトヲ得タリ

上既ニ僧ジエルベールノ極貧ヨリ出テ遂ニ法王タルニ至レルヲ載セリ而レトモ此ノ類亦世ニ稀ナリトセス專ニ又第七世グレゴリー（法王ノ名）ナル者アリ始ハキリレーニ在リシ貧賤ノ僧タリ而シテ常ニ全世界ヲ一統セントスルノ意アリ

グレゴリー夫ノ耶蘇宗徒ニ屬セル王者ヲシテ悉已ニ臣從セシメンコトヲ要シ其ノ法ヲ出セル者ヲ此ノ法王トス夫法王ノ自此ノ權ヲ得ント欲シ其説ヲ主張スル所以ハ其祖先シントピートル（耶蘇ノ一弟徒者）ニ出テ

相繼テ今日ニ至ルヲ以テナリシントピートルハ其宗教中大聖ト稱スル所ナリ

又佛王ノ輔佐ニアリテハアベシユゼ（アベハ僧官ノ稱）ヲ以テ第一トス古來佛王輔佐ノ大臣ニシテ英傑有德ナルコト未嘗此ノ如キ人アラズ此ノ人卑賤ヨリ出テ其容貌醜陋ニシテ嘗テ貰人ノ如クナラス其ノ高位官ヲ得タリシハ特ニ博學大德ニ依レリトス

其ノ才能最名アルハ即アベラールハ是ナリ此ノ人論理格物宗教等ニ長ス其教師タル來リテ業ヲ受クル者雲集セリ巴里府中其衆多ノ人ヲ容ルヘキノ大厦ナキヲ以テ竟ニ野外ニ嘯聚シテ講説セルコトアリ

其ノ受業生ハ多クハ農工商人ノ子弟ニ出ツ當時貴族輩ノ如キハ此ノ切實必用ノ文字ヲ以テ務トセズ却テ詩歌靑史等ノ學ニ耽リ少年兒女

ヲ敎フルニツルーバデウール若クハツルーヴェール等ノ書ヲ以テ學規中ノ急務トセリ

ツルーヴェールハ則佛國北地ニ行ハル、詩家ノ通稱ニシテ其用ヰル所ノ言語ハ甚今日ノ佛國語ニ似タルフランスワロン語ナリ其書唯詩歌ノミナラス間小說ヲ雜ヘタリ之ヲツルーヴェールト稱スル者ハ小說家ト云フ義ニ出テ正史家ト分別ス

ツルーバデウール者流ハ頗人ニ貴寵セラレ皇宮或ハ王城等ニ入レハ人皆之ヲ悅ハサルハナシ其鼻祖ハプロヴァンス人ナリ故ニ書中一々プロヴァンス語ヲ用ヰタリ爾來プロヴァンサル卽プロヴァンス語ヲ以テ作詩ノ語ト爲ス殆ント二三百年ニシテ國內ニ遍布シ以テ高尙ノ語トシテ大ニ世ニ貴重セラレタリ

後世漸此語ヲ學フ者少ク今日ニ至リ已ニ殆頽滅セリ巴里府文庫中ニ尙許多ノプロヴァンサル書存セリト雖然レトモ人皆之ヲ讀ムコト能ハズ

ツルーヴァデゥール者流ハ概才學謭薄只其韵聲ヲ調スルニ於テ精巧ナリ然レトモ其法ノ如キハ始ヨリツルーヴァデゥール者流ニ出ルニ非ズ亞拉比亞人ノ傳フル所ト云フ其詩調ノ高遠ナル之ヲ吟咏翫賞スレハ以テ人ヲ耽溺セシムルニ足レリ此ノ流常ニ諸方ニ歷遊シ其ノ到ル處人皆大ニ之ヲ厚待ス

其詩タル多クハ男女眷戀スル情ヲ說キ或ハ人其宿意ヲ遂ケズシテ憂悶嘆歎スル情ヲ訴ヘ若クハ婦ノ嬋娟タル美姿ヲ讚賞スルニ過キズ但嬋娜ノ語多キヲ以テ聽ク者其ノ情意ヲ悅バシム

此詩ヲ裁スルヲ以テ恒ノ産業トスル者少カラズ又貴族ニシテツルーヴァデゥール者ノ稱ヲ得ンコトヲ要セル者亦多シ即英國王第一世リチォールドノ如キモ猶此ノ中ニ在リ此ノ王其才能當時ナイト中ニ冠タルノ名アリ又詩名モ亦倶ニ聲譽アルヲ以テ自喜ヘリ

當時ノ人民皆詩ヲ好ムコト甚シキニ至レリ貴家婦女ハ則各詩人ヲ備ヒ又貴族男子ハ則或ハ武ヲ講シ或ハツルースワーヴ（第五十八篇ニ詳ナリ）ヲ爲シ又女兒ハクールダムール即才技ヲ闘ハス此等ノ戯技ヲ行フニ當テ數個ノ詩人ヲ招集シテ傍ニ在ヲシメ各人ヲシテ其自作ル所ノ詩ヲ吟咏セシム而シテ其善惡優劣ヲ品評スル人アリテ之ヲ品定シ其ノ優等ナル者ニハ褒賞ヲ贈與ス其ノ儀肅然トシテ觀美ヲ盡セリ

其ノ戯技ヲ演スルニ最貴ノ一婦之ニ長タルヲ例トス苟暇アル者ハ老

幼男女ヲ論セズシテ相聚集ス而シテ其場中時アリテ儼然タル一境ニ入リ即或ハ往事ノ滯濫ヲ決裁シ或ハ禮儀ノ可否ヲ定メ或ハ男女私奸等ヨリ起レル諍論ヲ決裁スルニ至ルアリ其ノ之ヲ決裁スルニ至テハ或ハ頑冥固陋ノナイトト雖亦之ニ服從セサルハナシ

嘗テクールタムールヲ行ヘルニ當テ訴訟ノ事アリ曰ク一婦其ノ夫ノ時樣ノ新衣ト帽子トヲ着スルヲ聽サヾルヲ怨ミテ詩ヲ以テ之ヲ詠吟セリ

クールタムール者流其是非ヲ議スルコト久ク決セズ己ニシテ更ニ二人ノ裁縫匠ヲ招キ之ニ其ノ服ノ善否ヲ議セシメ又決スルコト能ハズハ更ニ四人ヲ増シ原被兩告ニ附スルニ各二人ヲ以テシテ之ヲ裁決セシメンコトヲ議セリ其ノ結局ニ至テハ未如何ナルヲ知ラズ

第三十五篇　第七世路易ノ治世幷第二次十字役

第七世路易即ロジョーン（少壯ト云フ義ナリ）ト稱スル者是ナリ其ノ父王ト之ヲ分別スル所以ナリ此王既ニ即位セリ其ノ威權頗熾ニシテ近世歴代ノ諸王ニ超過セリ是ヨリ先キアキテーン侯ノ長女當ニ嗣タルヘキモノヲ娶リ因テ其ノ封境ヲ併セテ我カ版圖ニ入レタリ王性温和ニシテ人ト親ム而シテ才能謭劣曾テ民ヲシテ文學技術ヲ習ハシムルヲ務メズ其ノ智臣シュゼー生存スルノ日ニ在テハ其ノ人ト爲リ世ニ發露セズシュゼー死シ王親政ヲ執ルニ及ヒテ其謭劣ナルコト始メテ世ニ顯然タリ其ノ允人ノ知ル所ハ彼ノ宥才多智一時ノ冠タル英王第二世顯理ト闘戰スルノ時ナリトス

シャンパンヨ州コーントチボトト曰フ者曾テ叛ヲ謀リ己ニシテ勢蹶セ

ザルヲ知リ降ヲ王ニ請フ王直ニ之ヲ聽セリ後復叛シテ干戈ヲ動カサントス王路易乃之ヲ討タンコトヲ謀レリ

コーントチボ退テビートリー城ヲ守ル王之ヲ攻撃シテ火ヲ縱チ遂ニ之ヲ陷ル其ノ火ノ熾ナルコト王ノ豫期スル所ニ過越シ延テ近傍村落ニ及ビ城下人民ノ逃レテ近村寺院中ニ群集セル者ニ至リテ亦倶ニ燒死シテ遂ニ灰燼ニ歸セリ

王之ヲ見テ心大ニ痛傷シ乃終ニチボト和ヲ講シテ戰ヲ休メタリ然レドモ王路易心尙安カラズ茲ニ靈都ゼルサレムニ詣リ神ヲ拜センコトヲ誓ヘリ此時方ニ靈都ゼルサレム耶蘇教ヲ奉ゼサル者ニ陷レラレントスル信報巴里府ニ達セリ

當時人民一ニクルールヴォー堂ノ主僧ベルナールト曰フ者ヲ崇信シ

竟ニ以テ佛國ニオレークル（神託ヲ宣言告知スルヲ司ル者）タラシメタリ此ノ僧ハ博學大德ニシテ宗教ヲ深信スルコト殊ニ甚シク常ニ諸方ニ遊説シテ復十字役ヲ發起センコトヲ要シ頻ニ人ヲ鼓動セリ

ペルナールハ王路易ノ宗教ニ荷擔スルノ意アルニ乘ジ乃他ノ宗徒ヲ殲サントシ頻ニ之ヲ王ニ勸メ速ニ其ノ功ヲ成サンコトヲ欲ス而ルニ智臣シュゼー其ノ役ノ必不利ナランコトヲ說キ王ヲ切諫シテ之ヲ聽容セサラシム

當時ノ人民舉テ靈地遠征ノ事ヲ以テ善トシ王モ亦之ヲ是ナリトスルヲ以テ勢復之ヲ制止スル者アラズ唯シュゼー尙謂ヲ親征セズトモ吾カ邦土ニアリテ民ヲ治メ之カ軍需ヲ備ヘ之カ兵人ヲ遣ラバ彼ノ靈土ヲ防守シ得ヘキコト必セリト

ペルナールトシュゼート各自其ノ說ヲ主張シ孰レヲ是トシ孰レヲ非トスベカラズ但シュゼーハ才智更ニペルナールニ超ヘ且前ヲ鑑ミ其ノ可ナラザルヲ知リ又其ノ宗教ヲ信ズルノ深キ嘗テペルナールニ讓ル所ナシ此ノ遠征ノ如キハ宗教ニ裨益アルニ非ズ亦寺僧ニ利アルニ非ズ且人民ノ已ニ受ケタル幸福ヲモ却テ竟ニ滅失セラレ憫ムヘキ形情ニ至ヲントスルヲ知テ之ヲ沮メリ

彼ノペルナールハ自先知者ト爲シ遠征ノ止ムベカラザルト且之ヲ征セバ必利アランコト云フヲ以テ頻ニ王ニ慫慂ス王亦自好メル甚キヲ以テシュゼーノ說終ニ行ハレズ時ニ貴族僧徒大ニウィゾレーニ會同セリ即巴立門ト號ス之ヲ會同ノ權輿トス其ノ群衆スル人衆夥多ニシテ外郊原野ニ非サルヨリハ之ヲ容ルベカラズ已ニ會同スルニ及デペル

ナール先其ノ衆人ニ言フ所アリテ而シテ後王路易玆ニ巡拜者ノ用キル十字符及囊袋ヲベルナールニ受ケ此ノ役ニ赴カントスル者ニ各一ヲ授ク是法王ノ自法ヲ修シ製スル所ノ者ナリ今其ノ之ヲ受クル者更ニ衆キヲ以テ其ノ豫備セル所ノ符已ニ盡キ人々普及セス之ガ爲ニ王路易ベルナールト共ニ其ノ衣ヲ裁截シテ之ヲ十字符ト爲シ以テ衆ニ頒與セリ

第三十六篇　第二次十字役ノ二

ベルナールハヴイソレーヨリ出デ急ニ日耳曼ニ赴ケリ其ノ言語相通ゼスト雖亦大ナル障碍ナシ人民其ノ聲音ト搖手トヲ以テ已ニ其意ヲ感知セリ且歎其ノ不可思議ノ事ヲ爲セルヲ以テ亦大ニ人民ヲ感服セシム

ベルナール乃日耳曼帝ゴムラットニ說キ頻ニ十字符ヲ受ケンコトヲ勸ム帝之ヲ聽セリベルナール自謂テ曰ク是不可思議事中ノ不可思議事ナリ又曰ク其ノ成功實ニ大ナリ余ガ遊說經過スル所ノ皇宮王城ハ爲ニ無人ノ如ク市邑村落ハ同シク寂寥タリ在ル所ハ唯老幼婦女子ノミニシテ皆此ノ役ニ赴ケリト

其宗敎ヲ信奉スル者婦女子モ男子ニ減ゼズ同シク此ノ役ニ赴ケル一隊アリ猶男裝ノ如ク馬ニ跨リ鎧冑ヲ蒙リ兵仗ヲ提ケ金ノスプール（雞距ノ形ノ如シ馬ヲ驅テ之ヲ激シ快奔セシムル者ナリ）ヲ裝附シ金ノ轡ヲ執ル人之ヲ稱シテ黃金足隊ト爲ス

后エリオノールモ亦自黃金足隊中ニ在テ勞苦ヲ共ニセリ而シテ少壯ナル者其ノ男女ヲ論ゼズ皆之ガ都督スル所タリ一ノ男婦アリ男裝ヲ

爲シテ共ニ進メリ又貴族中ノ少壯男女選マレテ后ノ衛兵タリ
此ノ役ニ赴ク者皆其ノ華飾ヲ極メ人衆盛多ナリト雖法律ヲ整修シ宗敎ヲ信奉スルニ至テハ曾テ毫モ益アラズ是余輩ノ嘗テ見ル所ナリ
帝コムラツト兵二十萬許ヲ率ヰテ自先鋒トナリテ進ミ戰ヒ大ニ敗績シ兵卒死散ス帝一身纔ニアンチチョーク都ニ逃レ又ゼルサレムニ詣リ竟ニ歐洲ニ歸ルコトヲ得タリ
王路易ノ事功モ亦帝コムラツトニ超越スル所ナシ此ノ時ニ當テサラセン民ノ學藝一ニ耶蘇宗徒ニ越ヘタリ但其ノ勇氣ニ至テハ相伯仲セリサラセン族人ノ耶蘇宗徒ヲ追フコト急ニシテ殆將ニ及ハントス而シテ又屢我隊ヲ竄ヒテ之ニ乘ズ是ヲ以テ耶蘇宗徒竟ニ大ニ敗績シ兵卒多ク之ニ死シ王路易殘兵ヲ收メ僅ニアンチチョークニ逃ルヽヲ得

テ始メテ色喜ベリ
王路易又轉シテゼレサレム都ニ巡拜セリ此ノ都ニ安居スルハ固ヨリ理ニアラズト雖然レドモ當時大ニ敗績シテ汚名ヲ蒙リ復靦然トシテ佛國ニ歸ルコト能ハズ是ヲ以テ此ノ都ニ淹留スルコト一年ニ及ベリ後竟ニ佛國ニ還ル始師ヲ出ストキ率ヰル所ノ兵約二十五萬今王妃ノ外僅ニ數個ノ官人ヲ從ヘルノミ既ニ佛國ニ達スルニ及テ國人皆其ノ良民ヲ遺棄セシ罪ヲ鳴シテ之ヲ責ム
サンベルナールモ亦其ノ罪ヲ責メラル最酷烈ナリ其罪狀ニ曰ク自先知者ト稱シテ人ヲ欺ケル罪一ナリ其ノ擔任セシ事務ニ怠リ反テ靈墓ヲ守ルノ事ニ與カル其ノ罪二ナリト
孤子寡婦皆其ノ父若クハ其ノ夫ヲ亡ヘルヲ以テ哭慟止マズシテベル

ナールニ愁訴スベルナール乃モカヒス（昔日ノ賢人）ノ故事ヲ取リ之ニ答テ曰ク昔日モセスナル者アリ猶余カ如ク神令ヲ受ケイスレーライト民ヲ幸福ノ國土ニ嚮ハシメンコトヲ約セシニ當時ノ人民在世ノ日ニ於テ之ヲ達スルヲ得ズ反テ沙漠中ニ死セリト

此ノ役ノ下落ヲ見テ世始メテ彼ノシュゼーノ眞ニ先識者タルコトヲ知レリシュゼーノ人トナリ頗善良ニシテ其ノ議論迥ニベルナールニ卓越シ又其ノ先見多ク智能ニ饒ナルニ因テ聲名愈盛ナリト雖佛國ノ人民皆現ニ災害ヲ被ムルヲ以テ之ヲ憂ト爲シ曾テ已ノ聲譽ヲ喜ブニ暇アラズ

王ノ遠征シテ國都ニ在サヾルトキシュゼー心ヲ政事ニ留メ善ク國民ヲ理濟ス故ニ國民舉テ其ノ恩惠ニ感激シ之ヲ稱譽セザルハナシ是耶

其ノ勞ヲ慰スルニ足レリ王路易始ニ智臣シュゼーノ諫ヲ容レス反テ此ノ大害ヲ醸セシニ因テ大ニ之ヲ悔恨セリ

王路易其ノ臣下ニ其ノ過失ヲ責メラレ或ハ自其ノ前非ヲ悔ヒ鬱々トシテ樂マズ又常ニ人ニ悖レル事アリ後竟ニ其妃ト諍論シ其ノ疏族中ノ人ナルヲ名トシ竟ニ之ト離婚セリ

第三十七篇　第七世路易王代ノ民俗

王路易既ニ其ノ妃ト離婚セリ時ニ其ノ二女子ノ爲ニ妃ノ曾テ齎ス所ノ州土ヲ分割シテ自有スルヲ得ルト雖一モ取ル所ナクシテ之ヲ妃ニ還セリ妃エレオノール未七週日ヲ過ギズシテ更ニ諾爾曼泥侯顯理プヲンタジュネニ嫁セリ此ノ侯ハ英國王ステッフェンニ嗣ギテ立テ英國王トナル者ナリ竟ニ彼ノ二州ヲ幷有セント欲スルノ意アリ

後佛王路易英王顯理二王相闘ヒ干戈息マザルコト二十年ノ間又嘗テ和會ノ日アリ羅馬法王第三世アレキサンドル以太里ノ國亂ヲ避ケ佛國ニ赴カントス二王共ニ之ヲ路上ニ迎フ

二王手ツカラ法王ノ馬轡ヲ執リ恭肅シテ之ニ從ヒ其豫造ル所ノ行在ニ奉送ス法王一日巴里府中サント、シェノヴィエーヴ堂ニ詣ル堂上ニ一位ヲ設ケ華美ノ座氈ヲ鋪キテ法王ノ座ヲ置ケリ法王既ニ拜ヲ畢ヘ堂ヨリ出ツ時ニ從者其ノ座氈ヲ携ヘ去ラントス寺僧之ヲ爭ヒ終ニ相毆撃ス王路易自之ヲ和解ス

然レトモ尚其ノ氈ヲ取ランコトヲ要シ相毆撃シテ止マズ王命ト雖亦從ハズ王モ亦打撃セラレ終ニ退キ去ル僧徒竟ニ氈ヲ取リテ去ル

僧徒氈ヲ得テ自誇耀シ其ノ寵ニ久ヲ保タサルヲ知ラズ既ニシテ法王

其ノ從者ノ僧徒ニ打撃セラレシヲ聞キ大ニ憤リ僧徒ヲ追放シ之ガ名籍ヲ削除セリ其ノ座氈ハ頗貴重ナルモノトス當時ニ在テハ王宮ノ牀モ亦只輕軟ノ稻稈ヲ敷キシノミ

當時僧院ノ風概前說ノ如シ王宮モ亦漸浮華ヲ貴フニ至レリ王嘗テナヴァル州ノ宮殿ニ於テ婚姻ノ禮ヲ修ムル時ニ盲人ヲシテ二ノ家猪ト闘ハシム盲人棍棒ヲ持シテ猪ヲ打チ之ニ克テハ則物ヲ賜フテ之ヲ褒賞セントナリ

家猪ハ目能ク盲人ノ擧動ヲ視テ之ヲ避ケ常ニ打撃ヲ免カレ盲人ハ家猪ヲ打チ得ズシテ反テ兩盲相擊チ看客ヲシテ絕倒セシムルニ至レリ

第三十八篇　第七世路易ノ無道幷王ツマスアベッケット堂ニ詣ル及殂落

王路易コンスタス、ド、カスチーヨ（士班國ノ一皇女）ヲ聘シテ繼室トス幾バクモ無クシテ死ス後第三ノ繼室紀元一千一百六十九年ヲ以テ一王子ヲ生メリ之ヲフィリップト曰フ即綽名シテディーヨドネ（神授子ト云フ義ナリ）ト曰フ者ナリ史多クハ之ヲフィリップ、オーギュストト稱セリ

王路易既ニ老フルニ及テ其ノ性情復昔日ノ如クナラズ爰ニ一奇談ヲ載ス王路易大軍ヲ以テルワン都ヲ攻擊ス此ノ都ハ守衞頗嚴ニ軍備大ニ全シ是ヲ以テ攻擊數月ヲ連ヌレトモ尚之ヲ陷ル、コト能ハズ或ハ兵結デ久シキニ至ラントスルノ勢アリ

會サンロランノ祭日王路易休戰ノ令ヲ下セリルワン人之ヲ聞知シテ大ニ喜ビ其少壯ノ長ク圍中ニ在リテ倦厭スル者尤之ヲ喜ビ出テ郛外河畔ニ至リ百方遊戯シテ樂メリ

時ニ輔相大臣等王路易ニ言テ曰ク都人皆王ノ誠實正直ヲ信シテ大ニ其ノ心ヲ安セリ今此ノ虛ニ乘シ其ノ不意ニ出テハ此都ヲ陷ル、コト必セリ王之ヲ聞テ曰ク是詭詐ノ計用ヰルベカラズト

然レトモ大臣等尚之ヲ勸メテ止マズ竟ニ之ニ從ヒテ直ニ城ヲ襲ハントス時ニルワン都下ノ僧侶輩閒暇ニ乘ジ警報樓上ニ登リ我軍ノ陣營ヲ下視シテ樂メリ

敵營既ニ人ナシ我軍即急ニ之ニ趨キ或ハ梯子ヲ運輸シ城壁ニ攀登スルニ備ヘ或ハ兵仗ヲ提ケ將ニ事アラントスル景狀アリルワンノ人之ヲ見テ曰ク敵軍必約ニ背キ我不意ニ出テントスルナリ如奈ソ猶豫スルコトヲ得ント乃鐘ヲ鳴ラシテ急ヲ報セリ

都人之ヲ聞キ遽ニ走テ都下ニ集リ諸門ヲ閉チ敵ヲ防ク計ヲ爲セリ時

ニ王ノ軍謂ヲ敵必備ナカラント乃之ヲ攻ムレバ反テ敵ニ急擊セラレ遂ニ功ヲ成スコト能ハズ反テ大ニ敗ヲ取レリ

王路易位ヲ嗣王フィリップニ禪ランコトヲ欲スル時ニ王子年甫メテ十五ナリ王又意フ禪位ノ禮ヲ行フハ此ノ役會同ノ諸貴族面前ニ於テシテ大ニ壯嚴ヲ極メント已ニシテ即位ノ大禮ニ先タツ一日適王子フィリップ田獵シテ路ヲ失ヒ即位ノ當日ニ及テ猶未歸來セズ

王子フィリップ已ニ歸路ヲ失ヒ夜深ニ至テ尙道途ヲ得ズ愈行キ愈迷ヘリ一農人ニ遭テ告ルニ實ヲ以テス農人乃之ヲ導キ出ス王子已ニ大ニ疲勞シ且其ノ冒寒スルカ爲ニ竟ニ病ニ罹レリ是ヲ以テ王路易悲嘆愁傷シ因テ靈場ニ行拜センコトヲ誓ヘリ而シテ靈土パレスタインハ前役ニ在テ曾テ其鐵ル所アリゾマスアベックットノ墳墓ヲ拜セントスゾマスアベックットハ古ノ大智ニシテ且大志アル人ナリ英國カントルベリーニ大督敎主トナリ死セルニ及ビテ此地ニ葬ルト云フ

王路易曾テ久シク子ヲ得ンコトヲ欲シテ纔ニ此ノ一子ヲ生メリ今其ノ病ニ罹ルヲ以テ心常ニ之ヲ憂ヒ欝々トシテ樂マズ將ニ靈土ニ詣ラントシテ途ニ上ルコト僅ニ五日竟ニ中風ヲ發シ沈綿數月ニシテ殂セリ實ニ紀元一千百八十年第九月十有八日ナリ其ノ殂セントスルニ臨テ左右ニ令シテ金銀珠玉衣服等ヲ病床ニ齎ラサシメ手ツカラ之ヲ貧困者ニ分與セリ

第三十九篇　第二世フィリップ即オーギュスト貴高位ト稱セラル、者ノ義ノ治世巴里府ノ更新

學ニ說テ佛國史中最明著ナル者ニ及ベリ夫前日ニ在テ諸侯伯相結合

盟約スル者其ノ體制ハ則封建ニシテ一首長王ヲ指スニ之ヲ統轄ス苟事アレバ則令ヲ傳ヘ諸侯伯ヲシテ兵ヲ出サシメテ之ヲ治ム今日ニ至リ王フィリップ既ニ王位ニ即カンコトヲ決シ復一人ノ之ヲ拒ム者ナシ且常備兵ヲ置キ以テ非常ニ備ヘ敢テ復侯伯ヲ煩ハサズ

人若シ孜々トシテ其ノ業ヲ勤ムレバ必其ノ功アリ何事カ為シテ成ヲサランフィリップ常ニ之ヲ以テ心ト為シ宿弊ヲ更新シ事業ヲ成立シ人稱シテ佛國數世中治安ノ善政ヲ行フ巨擘ハ獨此ノ王トス其ノ人ト為リ英傑豪邁ト稱スルニ足ラザレドモ其ノ成業實ニ大ナリト謂フベシ

王フィリップ即位ノ時國家甚靜謐ナリフィリップ此ノ時ニ乘シテ巴里府ヲ更新セントシテ大ニ力ヲ竭セリ當時巴里府ハ僅ニシェーン河

ノ一孤島ニ過キズ王乃河ノ兩面ニ在ル所ノ家屋田園等ヲ環繞シテ一大藩屏ヲ築造セントス

此ノ工役ハ實ニ一大事業ニシテ二三十年ノ時日ヲ費セリ此ノ工既ニ落成スルニ及テ舊巴里府ヨリ更ニ廣大ナルコト約四倍此ノ藩屏外ハ四邊皆家屋宮殿獄舍等ヲ起セリ時俗之ヲ野外ノ居我邦ニ所謂別墅等ノ如シト稱セリ其ノ宮殿ノ如キハ依然トシテ今尚存セリ稱シテルーヴル殿トスル者是ナリ府下中央ノ位ニ在リ

又一大市場ヲ開設セリ是其ノ賣買貿易ニ便ナラシムル者ニシテ買客ノ大益トスル所ナリ即舖店家屋中ニ諸貨物品ヲ布列シ以テ人ノ點撿ニ供シテ曾テ貴族横行者ニ強取掠奪セラルヽノ憂アラズ又筧ヲ架シ水ヲ導キテ闔府街坊ニ注キテ百ノ費用ニ供セシム其ノ功最大ナリ

又諸街坊ノ道路ヲ方正ニス其由ヲ說クニ先古史家ノ所說ヲ載セテ讀者ヲシテ了知セシメン王一日宮中ニ逍遙シ窓ニ傍リテ河流ヲ觀ル時ニ一馬ノ輜重車ヲ牽キテ過ル者アリ車聲轢々トシテ砂塵ヲ揚ケテ臭ヲ送リケレハ王窓ニ倚ルニ堪ヘズ因テ是役ヲ起スト云フ

王此ノ役ノ成功甚易カラサルヲ知ルト雖然レトモ事緊要ナルヲ以テ竟ニ止ムコトヲ得ス先王或ハ此ノ擧ノ便タルヲ知ルト雖其ノ至難ニシテ且經費夥多ナルヲ憂ヒ敢テ之ヲ起サス今王ニ至テ始テ之ヲ成セリ二大要衢ニ舖ク所ノ大石土泥漸ク埋沒シ今日ニ至テハ地ニ入ルコト七尺或ハ八尺ニシテ當時ノ道基猶存セリ

王一時心ヲ治安ニ留ルコト斯ノ如シト雖稍怠慢シテ其ノ才能技藝ヲ自負シ遂ニ有智多才ノ英王ト相競ハント欲スルニ至レリ凡人ノ力競

セントスル必其ノ基ツク所アリ今英王顯理ト佛王フィリップトノ間妄ニ爭鬪スヘキ理ヲ生セリ

王フィリップ頻ニ戰ヲ挑ム勢アリト雖然レトモ英王顯理ハ其ノ不利ナルヲ知テ敢テ應セズ二王諾爾曼泥州ト佛國トノ境界一楡樹下ニ會シテ討論スル者屢ナリ而ルニ二王各其ノ國內ヲ守リ敢テ人ノ地ヲ侵スコトナシ王フィリップ已ニ英王ノ欺キ脅スヘカラサルヲ知リ心大ニ之ヲ忌惡ス乃其ノ楡樹ヲ伐リテ復此ニ會セサルコトヲ示セリ乃英王ノ子リチオ—ルドヲ欺キテ其ノ父ニ叛キ干戈ヲ動カサシメントシテ相援ケテ相親ミ營ヲ共ニシテ居リ卓子ヲ同クシテ食ヒ盃ヲ共ニシテ飲ミ床ヲ同クシテ寐メ此ノ如クニシテ後竟ニ釁隙ヲ生スルニ至レリ

第四十篇　英王リチャールド、ゼ、ライオンハーテット（ライオンハーテットトハ獅心ト云フ義ニシテ其ノ勇猛ナルヲ云フ）王フィリップト共ニ十字役ヲ起シリチャールド幽囚セラレ幷史丹サラダンノ事蹟

紀元一千百八十九年前英王殂シリチャールド位ニ即キ其ノ友佛王フィリップト謀リテ復十字役ヲ起サントス其率キル所ノ衆ハ固ヨリ前役ノ如キ行拜者ノ比ニ非ズ專師徒ヲ率キテ行ケリ故ニ歐洲ヨリ外邦ニ往ク所ノ軍ハ此ノ役ヲ以テ最成功アル者トス冬日ヲ以テ二王相共ニ以太里國南ノ地メッシナ都ニ屯ス而シテ冬日未終ラザルニ二王遂ニ隙ヲ生スルニ至レリ

春ニ及テ佛王フィリップ進テエークル都ニ到レリ此ノ都ハ曾テ埃及國史丹（帝王ノ稱）サラダント曰フ者之ヲ取ル今復擧テ之ヲ收復セント欲ス

王リチャールドハ茲ニ婚姻セント欲スルコトアルニ因テ尚以太里國ニ屯住シ其ノ六月ニ及テ始テ來リ達セリ而シテ二王相善カラズ猶始シ、リー（以太利國南部ノ地名）ニ在リシ日ノ如クナリ

英佛ノ兩軍此ノ地ニ在リテ急攻ヲ要セズ唯互ニ馬術武事ヲ鬪ハシメテ日ヲ曠クセリ其ノサラダンノ來リ此ノ都ヲ援クルニ及デ二國ノ兵大ニ驚キ乃力ヲ戮セテ攻擊シ遂ニ之ニ克ツコトヲ得タリ

英王リチャールド強勇多能ニシテナイト中ニ雄名アリ因テ之ヲ綽號シテライオンハーテットトス佛王之ヲ怨妬シ遂ニリチャールドト誓フテ他日英地ヲ侵スコト無ケント曰ヒテ軍ヲ班セリ皈路以太里國ヲ過キ羅馬法王ニ見エテ幾日英王ト盟誓スル所ヲ解カンコトヲ請フト當時ノ習俗人ト相誓フ所アリ後之ヲ釋カント欲セバ法王ニ請ハザレバ釋クコトヲ得ズ法王其ノ不信不義ナルヲ

愿ミ敢テ之ヲ聽サズ王フィリップ一千一百九十二年ヲ以テ竟ニ佛國ニ遁セリ此ノ時世人フィリップヲ評シテ逃歸スル者トシリチオールドヲ褒稱シテ耶蘇教徒ノ魁トナセリ王フィリップ之ヲ聞テ大ニ慚愧セリ

其ノ明年英王リチオールドモ亦師ヲ班サントス偶壞船ノ難ニ遭フテ縛セラレテ日耳曼國ニ拘囚セラル夫人ノ危難ヲ覩テ爲ニ之ヲ憂セザルモノナシ此ノ時佛王フィリップ英王ノ危難ヲ聞テ大ニ喜ヒ直ニ諾爾曼泥州ヲ侵掠シ又英民ヲ煽動シテ王ニ叛カシメンコトヲ謀ル

而シテ諾爾曼及英吉利ノ民既ニ悉王リチオールドノ人ト爲リニ心服シ又其ノ不幸ニシテ斯ノ如キ危難ニ罹ルヲ憫憂シ其ノ平素ノ過失ハ措テ問ハズ皆忠ヲ王ニ盡サント意ヘリ已ニシテ王リチオールド放免

セラル、コトヲ得タリ此ノ際王ノ幽囚セラル、所ノ地ヲ査出スルニ至ル事情ヲ登記スルコト亦要ナラズトセズ今之ヲ說カン夫ツレーバヅール者流ハ其ノ性皆輕忽浮薄ニシテ遠慮深謀アル者ナシ其ノ間僅ニ一個ノ衆ニ拔出スル者アリ其ノ誠忠殊ニ稱スベシ

王リチオールドノ幽囚セラル、ニ當リ國民之ヲ知ル者ナク皆已ニ死セリトシテ曰ク今爲ニ之ヲ搜索スルモ焉ゾ査出シ得ン又焉ゾ褒賞ヲ取ル所アランヤト故ニ之ヲ搜索スル者ナシ時ニ曾テ王リチオールドノ深恩ニ浴セル族人中ニ一個ノ誠忠ナル者アリ頻ニ生平ノ恩ヲ報ゼンコトヲ思ヒ自意フ我今生命ヲ擲チテ王ノ爲ニセント此ハ是曾テ王ノ愛寵スル所ツルーバデウール者流ノ一人ブロンデルト曰フ者ナリ王リチオールド幽囚セラル、所ノ地ハ敵人深ク秘シテ知ラシメズ故

ニ世人其ノ死生ヲ知ラズブロンデル獨嘗テ其ノ死生詳ナラズト雖カヲ極メテ捜索セズハ可ナラズ苟偷生存シテ拘留セラレバ則之ヲ尋ヒ出サンノミト是ニ於テ諸方ニ游歷シ宮城都邑村落山野處トシテ捜索セサルハナシ竟ニ往テダニューブ河邊ノ一城堡ニ抵リ始テ王ノ在處ヲ得テ之ヲ見ルニ其ノ守備頗ル固ク其ノ監護甚嚴ナリ

ブロンデル乃城下ニ於テ頻ニ苦膽シ竊ニ城中ノ形情ヲ伺偵スルニ奏樂ノ聲偶聞フ耳ヲ欹テ之ヲ聞クニ憐ムベシ一ニ囚人ノ自憂悶ヲ慰ムル者ノ如シブロンデル乃ハルプ（樂器ノ名琴ニ似テ直立スル者）ヲ彈スレハ輙歇ム是ニ於テブロンデル更ニ王ノ嘗テ愛弄スル所ノ樂ヲ奏シ其ノ第一曲ヲ彈ズレバ則城中其ノ第二曲ヲ彈ズ是ニ於テ始メテ王ノ此ノ城中ニ囚在スルヲ知レリ

是ニ於テブロンデル疾ク走リ歸リ王ノ所在既ニ明ナルコトヲ以テ遍ク歐洲各國ニ告知シ因テ諸邦人ヲシテ日耳曼帝ニ強請シテ私ニ幽囚セル所ノ英王ヲ放免セヨト曰フ日耳曼帝尚莫大ノ贖罪金ヲ出サシメンコトヲ要シテ輙チ聽カズ其ノ罪名トスル所ハ王曾テ破船セシ時日耳曼國境內ノ一海岸ニ檣着スルニ在リト云フ

英王リチォールドノ雄名竟ニサラセン民間ニ在テ長ク存セリ而シテシリヤン人ノ如キハ其ノ嬰兒ノ啼泣ヲ止ムルニリチォールドノ名ヲ以テシ之ヲ威脅スルニ至レリ又騎士其ノ馬意ノマヽニ進マザレバ則曰ク此汝知ラズヤリチォールド郎ノ林中ニ在ルヲト

夫サラダン氏ノ事蹟ノ如キ亦遺ス可カラズサラダンハ其ノ性善良遠ク人ニ優ル所アリ其ノ幼時東土（小亞細亞傍邊ヲ指ス）ノ風俗ニ習ヒ其ノ長スル

ニ及テ一ニ婦女子ノ如ク遊戯驕侈ヲ専ニセリト雖然レトモ早ク自此ノ風俗ノ不善ナルヲ覺リ節ヲ改メテ獨倹素ヲ守リ其用ヲ節シ其費ヲ省キ竟ニ世ノ龜鑑タルニ至レリ

其ノ部下臣僕ノ如キモ皆驕侈浮華ヲ極ムト雖サラダンニ至テハ獨麤衣麤食自人ト異ナリ其ノ飲ム所ハ唯水ノミ而シテ心ヲ宗教ニ用井ルコト甚切ニシテ常ニ之ヲ以テ己ノ任トス時ニ戰陣ニ臨ムモ必寛仁ヲ以テ主トシ敵人ト雖敢テ之ヲ濫殺セズ又諸般ノ事ヲ辨決スルニ必先自省ル所アリ蓋此ノ十字黨ニ於テ亦之ヲ鑑ミテ自省ミハ則可ナラン故ニ云フサラダンノ行事ノ如キハ則夫ノ暴虐兇殘ノ十字黨ト全ク相反セリト

サランダンノ寛仁大度ナルコト特ニ自己ノ宗徒ヲ待遇スルニ在テ然

ルノミナラズ他宗徒モ尚能ク此ノ如クセリ曾テ治病院ヲ作リテ耶蘇宗徒トマホメット宗徒ト交入院治療スルコトヲ許セリ其ノ凱旋スルニ及テ敵ヨリ得ル所ノ貨賄ハ悉公事ノ費用ニ充テ或ハ以テ貧民ヲ賑恤セリ聞ク其ノ死セルノ日其ノ家財僅ニ金貨一枚銀貨四十枚存スルノミト

第四十一篇　第四次十字役幷ウィニシヤ（以太里國北部ノ一郡）ニ於テ十字黨結約スル所アリテ大ニ窘困ス

此ノ史ヲ編輯スルニ次序ヲ逐テスレハ今宜シク第四次十字役ヲ說クベシ此ノ役ハ數次ノ十字役中最成功アル者ナリ佛王ノ部下登テセーサルノ位（セーサルノ位ハ帝位ノ義ナリセーサルト曰フ者ヲ以テ帝位ニ即ケルノ濫觴ニ由リテ此ノ稱アリ）ニ即ケル者アリ

時ニ宗教ヲ深ク信スル僧徒ノ第四次十字役ヲ起サントスル者アリ即一老僧フルック、ネヴィ—ト曰フ者アリ之ヲ前役ニ比スレバ大ニ及ハス其人不學不識ナリ唯宣誓シテ曰ク神命アリテ曰ク復十字役ヲ起シ他宗人ヲ靈都ヨリ驅逐セヨト是ニ於テ衆民ヲ煽動スルコト甚シ然レトモ此ノ擧竟ニ功ヲ成スコト能ハズ初メ僧ブルック此ノ役ヲ起サントスルヤ以テ英王リナオ—ルドニ慫慂セリ王大ニ之ヲ哂フ其ノ意謂フ子ノ再征ヲ余ニ勸ムルハ子ノ愚ニ非ザレバ則余ヲ以テ愚ト爲セルカト言コ、ロハ若王再此ノ役ニ赴カバ則王ノ愚ナラン又知ラズシテ之ヲ勸メンハ則僧ノ愚ナルヲ免レズト

佛王フィリップハブルックヲ待遇スルコト厚シ之ニ告テ曰ク余既ニ彼ノ靈土ニ詣レリ故ニ再行ヲ欲セス但其ノ軍需財賄ノ如キハ余爲ニ之ヲ助ケント乃更ニ國内ニ令シテ租税ヲ増加セリ

此ノ時ニ當リテ税租ヲ増加セラル、者獨庶人ノミナラズ僧徒ノ如キモ亦皆法王ノ命アリテ之ヲ出サヽルヲ得ズ世此ノ課税租法ヲ稱シテヅィ—モ、ド、サラダンヴィ—モハ十カ一ヲ言フ現物十ガ一ノ税租ヲ出ダスノ義ナリ即サラダンニ敵スルニ充ツル税ヲ云フトス而シテ此ノ税法ハ十字役ノ息ムニ至リテ尚依然トシテ止マズ今ニ至リテ羅馬教宗徒ノ其ノ税租ヲ法王或ハ其ノ免許ヲ受クル所ノ王者ニ出タス者ハ則此ニ基クナリ

王者ニシテ此ノ役ニ赴ク者アラスト雖衆庶ノ此ノ役ニ因テ法王ノ允可ヲ得國法犯罪及宗教犯罪ヲ消滅シ永ク靈魂ノ救濟セラレンヲ欲シテ皆之ニ赴キ其ノ十字符ヲ受クル者頗衆シ乃海路ヨリ進マント欲シ先人ヲ遣テヴィニス都ニ至ラシメ船艦軍糧等ヲ辨理シテ之ガ備ヲ爲

サシム

此ノ時絹帛香料珠玉凡世ノ貴重ノ物悉收メラレテ東人ノ有タリ今輿地圖ヲ見ルニウィニス都ハ則東人ノ奢侈ヲ資ルヘキ貴重ノ貨物ヲ賣買スル所ノ好都會ナリ

ウィニス都ノ人茲ニ東人ト通商シテ竟ニ習ヒテ玻璃ヲ製シ絹帛ヲ織リ漸ク殷富ヲ致セリ此ノ時十字役ニ由テ皆損耗スル所アリ但此ノ都ノ人ハ却テ能ク洪利ヲ博セリ他ナシ夫ノ十字黨人ノ衣裝糧食器具其ノ他ノ諸需用悉此ノ都ノ辨理スルニ出ルヲ以テナリ

故ニ主人等其ノ何物ヲ論セズ新十字黨人ノ需用ニ應ゼント欲シ約シテ曰ク今若幾許ノ金額ヲ出サハ許多ノ船艦糧食ヲ備フルコト日ヲ刻シテ辨ゼント既ニシテ物價漸貴騰シ金額モ亦從テ算スベカラズ十字

黨之カ爲ニ大ニ難メリ然レトモ騎虎勢復已ムヘカラス竟ニ其ノ備辨ヲ取ランコトヲ約シテ去ル

第四十二篇　第四次十字役ノ二幷コンスタンチノーブル府陷ル

十字黨ノ徒茲ニフランドル侯ボードワント曰フ者ヲ以テ都督タラシメ期ニ及テウィニス都ニ達セリ時ニ都人既ニ之ガ諸需用ヲ備辨スルコト前約ノ如ク遺漏スル所ナシ其構造スル所ノ旅舍馬廐倶ニ壯麗ナラサルハナシ且衆ク船艦ヲ海岸ニ備ヘ命ニ從テ直ニ載セテ以テ發港セントスル狀アリ而ルニ十字黨行旅日久ク費用乏少ナリ乃輙船錢ヲ資ル所ナシ是ニ於テ將領以下各其ノ金銀珠玉寶石所有ノ貴貨ヲ脫シテ之カ償ニ充テントスレトモ尚足ラス又ウィニス人ハ其ノ船錢ヲ責ムルコト少シクモ貸サズ是ニ於テ十字黨ノ徒大ニ窘メラル竟ニ一策

ヲ拮出セリ

爰ニ耶蘇宗徒ニ屬スル一黨人アリヴィニス都近地ニ住シ嘗テ都人ノ通商上ニ妨害ヲ爲スコト數ナリ彼ノ都人ハ十字黨人ノ常ニ人ノ土地ヲ略シ都邑ヲ侵掠スルヲ以テ乃之ニ勸メテ彼ノ地ヲ略取シテ船錢ヲ補ハシム

ヴィニス都人ノ十字黨人ニ說キテ土地ヲ略取セシメントスル所ハ嘗テ已ニ妨害ヲ加フル耶蘇宗徒ノ住メル境土ナリ而ルニ十字黨未輙此ノ說ニ應セズ其ノ法王ト結約シテ苟耶蘇宗徒ニ屬スル民人ト相敵セザラント曰フヲ以テ今此ノ約ニ背カバ亦我幸福ヲ得ザランコトヲ恐レテナリ

已ニシテ法王ニ請ヒ此ノ約ヲ棄テンコトヲ謀リ衆意一決シヴィニス

都人ノ請ニ從ヘリ乃謂フサラセン人ト鬪ハンヨリ耶蘇宗徒ト戰フノ容易ナルニ如カズト乃其戰甚苦ムニ至ラズシテ鹵掠シ得ル所ハ頗夥多ナリ

十字黨人因テ又前剩ヲ逐ハント欲シテ之ヲ羅馬法王ニ謀ル法王謂ラク他ノ宗徒ヲ侵シ靈都ヲ略シテ羅馬教宗ノ有タラシムルト希臘帝國ヲ略シ其ノ民ヲ擧テ我羅馬教宗ニ屬セシムルト其ノ功甚シキ逕庭ナカラント廼之ヲ聽セリ

十字黨已ニ法王ノ允可ヲ得テ直ニ船艦ヲ旋ラシ以テコンスタンチノーブル府ニ向フ彼ハ港口ニ鐵鎖ヲ横タヘ敵艦ノ衝入スルヲ防ケリ黨人乃艦頭ニ大鋏刀ヲ懸ケ且行キ且斷チテ之ヲ過キ竟ニ港内ニ入ル遂ニ攻メテ此ノ府ヲ陷レ鹵掠スル所亦大ナリ黨人相聚リテ之ヲ分取

シ又帝ヲ御座ヨリ下シフランドル侯ボードワン自之ニ代リテ帝位ニ登リ而シテ東土ニ羅甸ノ一帝國ヲ建基セリ

帝ボードワン位ニ即キ未幾ナラザルニ偶フルゲーリヤン族民ト戰ヒ之カ爲ニ死セリ弟顯理襲テ位ニ即キ紀元一千二百十六年ヲ以テ酖殺セラル其ノ婿ピエール、ド、クルトネー位ヲ襲ゲリ是一貴族ニシテ曾テ第六世路易治世ノ際ニ於テ掠奪ヲ恣ニシテ人民ノ害ヲ爲セル者ノ苗裔ニ出ル者ナリ

第四十三篇　王フィリップ茲ニ諸耳曼泥州ヲ陷沒シ幷ブヴィンニ會戰ス

英王リチォールド紀元一千一百九十九年ヲ以テ殂ス嗣子ナシ姪アーソル位ヲ嗣ク前王ノ弟ジョント曰フ者アリ其ノ封土ナキヲ以テ世之

ヲラクランド（領地アラザルノ義ナリ）ト稱ス前王殂スルニ及テ自立シテ王位ニ登リアーソルヲ殺ス

佛王フィリップ諸耳曼泥州ヲ取ル志アリ是ニ於テ此ノ機ニ乘ゼント欲ス英王ジョンハ諸耳曼泥州ヨリシテ之ヲ言ヘバ即侯ナリ而シテ佛王ニ於テハ臣タリ是ヲ以テ佛王フィリップ之ヲ召シテ巴里府ニ至ラシメ其ノアーソルヲ殺セル罪ヲ詰責セントス

英王ジョン敢テ命ニ從ハズ是ニ於テ議ヲ法官ニ下シ其ノアーソルヲ殺セル罪ヲ論ジ時ヲ移サズシテ其ノ狀ヲ宣布ス是ニ於テ諸耳曼泥州ハ竟ニ佛王ノ有ニ歸セリ時ニ英王ジョン日ニ酒色ニ耽リ復此ノ州ヲ戀ハズ又防禦ノ術ヲ施サズ且諸耳曼人民モ亦已ニ王ヲ厭ヒ敢テ爲ニ力ヲ竭サズ

凡諸耳曼泥州ニ封セラレシ者十有一世二百九十有三年ヲ歴テジョンノ世ニ至テ更ニ佛王ノ有ニ歸セリ王フィリップ尋デメーンツーレーン及アンジュー以上州名ヲ略セリ但英國ニ入寇セザルハ法王ノ嚴ニ之ヲ拒メルヲ以テナリ

時ニ數邦連結シテ佛國ヲ攻擊セントス王フィリップ爲ニ懼ル既ニシテ英王フランドル侯及日耳曼帝兵ヲ合セテ入寇セントスルヲ聞キフィリップ兵五萬人ヲ率ヰツールネー都ノ近地ブヴィンニ會戰ス時ニ紀元一千二百十四年八月二十七日ナリ

三國ノ兵佛軍ニ比スレバ更ニ衆多ナリ然ルニ王フィリップ善ク戰フヲ以テ竟ニ之ニ勝テリ王ノ侍僧ギヨームドブロターシヨト曰フ者軍中ニ在リテ之ヲ筆シテ一史ヲ著セリ今之ヲ抄出ス庶幾クハ讀者ヲシ

テ悅ハシムルニ足ラン

佛軍退テブヴィンノ橋ヲ渡ル日耳曼帝オト謂フ此ノ機失フベカラズト將ニ追擊セントス而シテ佛王早ク已ニ此ヲ聞知セリ帝オト其ノ鎧冑ノ重ク道途ノ遠キニ堪ヘズ路傍僧院中ノ一秦皮樹下ニ小憩ス時ニ佛王適院中ニ在リ將ニ拜ヲ畢ヘ欣然トシテ馬ニ跨リ馳セ出テ復戰場ニ赴ク其ノ顏色ノ喜怡佳婚ヲ修ムル時ノ如シ而シテ兵人モ亦來リ集ル

戰已ニ急ナリ日耳曼ノ騎隊頗勇剛ナリ肉薄シテ王ト接セントス衞兵屢之ヲ遮レドモ顧ミズ必王ヲ狙擊セントス又一隊ノ歩兵アリ短鎗及鉄把ヲ以テ相接ス王ヲ鉤シ馬ヨリ墜トス此ノ時上帝ノ冥助ナクハ王殆害セラレン

時ニ旗隊王ノ危急ヲ見テ直ニ旗ヲ以テ軍ヲ麾クナイト之ニ應ジテ疾ク馳セ王ヲ扶ケテ馬ニ乗ラシムニ王身數創ヲ被レリ時ニ帝モ亦危急ニ遭ヒ將ニ一鎗ノ下ニ死セントセシガ鎧堅クシテ入ラズ因テ僅ニ免ルヽコトヲ得タリ當時鎧冑ノ製其堅厚ヲ貴ブヲ知ルベシ

當時ノ俗習僧徒モ亦兵ニ列ス其ノ執ル所ノ兵器ハ皆メース鐵棍ニシテ我邦ノ鐵挺ニ同ジヲ以テス其ノ用唯人身ヲ害スルニ在リ血ヲ見ルハ僧道ニ適セサルヲ以テナリ然ルニ其ノ人ノ性命ヲ傷害スルニ至テハ何ノ異ナルコトアラン

第四十四篇　十字黨アルビジュワ人ト戰フ並佛人英國ニ入寇ス

十字役ニ因テ佛國南部諸州血ヲ流スハ耶蘇宗徒一派民アルビジュワト戰フノ役トス其ノアルビジュワノ稱ハ元來ランゲドック州アルビ都ノ名ニ出ル所ナリ此ノ派ノ民ハ始メテランゲドック州ニ出デ其ノ所行廉正ナルニ因テ善民ノ名ヲ得タリ此ノ派ノ民ハカゾリック宗派ノ人羅馬教宗徒ヲ云フト意相反スルヲ以テカゾリック宗徒皆謂フ余兵ヲ出シ之ヲ急撃殺戮スルトモ固ヨリ理ノ然ル所ナリト故ニ此ノ役ノ兇暴非理ナルハ世界萬邦古ヨリ未アラザル所ナリ時ニ一ノ法官某アリ更ニ新法ヲ制セリ之ヲアンキジヨント稱スアルビジュワ民ニ敵スルニ因リ故ニ設クル者ニシテ正法ニアラズ

法王茲ニ衆僧ヲ派出シテ一意アルビジュワ黨ヲ禁壓セシム然レドモ僧徒等ノ得テ禁ズル所ニ非ズ遂ニ之ヲ殄戮セント欲シ乃紀元一千

二百八年ヲ以テ十字役ヲ起セリ法王ノ此ノ十字黨ト相要約スルハ尙上ニ說過セル土耳格民卽サラセン人ト相敵スル十字黨ト其ノ情勢ヲ同クス

人民ノ十字黨ニ困メラル丶者多クハツルーズ侯部下ノ民ニ屬ス故ニ侯其ノ部下ノ救援ヲ爲セリ十字黨ハ反テ耶蘇帝黨ニ黨スト謂テ犯教罪ニ處セントス十字黨中最儇黠ナル者ヲシモンドモンフォールト曰フ法王之ニ約スルニツルーズ州民及アルビジョワー民ヲ管領センコトヲ以テス是ヲ以テ更ニ大ニ奮激盡力スル所アリ

ツルーズ侯竟ニ法王ニ降リ大ニ恥辱ヲ取リ又數鞭撻セラレテ而シテ後纔ニ放免セラル丶コトヲ得タリ獨アルビジョワー民數千百人皆放免セラル丶コトヲ得ズ悉燒殺セラル而シテ彼猶曰ク其戕害ヲ取ルハ

ハ是耶蘇宗徒ノ我教法ヲ信スルコト篤キニ出ルノ一效タリ

同ク戕害ヲ以テ邪教ノ民人ヲ殄滅スルハ其ノ計ヲ得タリトスベカラザルコト已ニ明ナリ何トナレバ竟ニ悉其ノ宗徒ヲ殲スコト能ハズ看ヨ今佛國南部ニ在テプロテスタント宗ニ屬セル民ハ皆其ノ子孫苗裔ニシテ曾テ宗教ノ事ニ係リ艱苦ヲ嘗メルヲ以テ相貴重セリ

ドモンフォールト曰フ者紀元一千二百十八年ヲ以テツルーズ州ヲ攻擊シテ之ニ死セリ爾後戰鬪稍ニ休ムト雖亦時ニ干戈ヲ動カスモノアリ今余暫之ヲ措テ更ニ王フィリップアノ事蹟ヲ記セン此ノ時王フィリップノ暮年其ノ子路易一千二百十六年ヲ以テ迎ヘラレテ英國ニ王タラントス是路易曾テ英王ノ女ブランシュト曰フ者ト婚スルニ因テ當ニ英國王位ニ卽クヘキノ權ヲ有スレバナリ

王フィリップ曾テ法王ト要約シテ兵ヲ以テ敢テ英王ニ敵セザラント曰ヘリ乃今恣ニ兵ヲ用ヰルベカラザルヲ以テ賜ニ其ノ子路易ト隙ヲ生スル者ヲナシ路易ノ英國ニ赴クニ因リテ竊ニ兵士ヲ差遣セリ英國ノ人民曾テ王ジョンニ離心スルカ故ニ今路易ノ至ルヲ喜ビ簞食壺漿シテ之ヲ迎フ大旱ノ雲霓啻ナラズ

是ニ於テ路易掩擊シテ連戰利ヲ得殆英全邦ヲ略取セントス而シテ其ノ國民王ジョンノ死後國勢ノ變更スルニ皆ミ他邦人ヲ迎ヘテ王タラシムルコトヲ悔イ玆ニ前王ジョンノ子顯理ヲ奉ジ義兵ヲ擧ケテ路易ニ抗セリ路易大ニ利ヲ失ヒ佛國ニ奔歸セリ

第四十五篇　王フィリップ、オーギュストノ時ニ當テ專ファーブリヨ及ロマーンスヲ以テ文學ト爲ス蓋第五次十字役

王フィリップ治世ノ末年ニ及テ最著シキ事蹟ハ第五次十字役トス十字黨時ニカイローー都ヲ略センコトヲ謀リ玆ニ埃及國ニ上陸シ進テナイル河ニ至レバ洪水漲リテ道路爲ニ壅塞セリ

是ヲ以テ十字黨ノ軍進退維谷リ恰窖井ニ陷ルカ如ク其ノ生殺舍縦唯史丹ノ命スル所ニ從ハントス而ルニ史丹寬仁ニシテ鏖殺セズ却テ之ニ命シテ曰ク速ニ歸リ去レト時ニ王フィリップ適病ニ罹リ此ノ事ニ與カラズ餘事モ猶親スルコト能ハズ

王フィリップ喜デ奇怪ノ小說ヲ讀メリ即ロ、ロワー、アルチュール、エセシュワイ、エドラター、ブルローンド(書名)シャルマン、ヤ、エ、ゼベール及アレキサンドル、ロ、グラン等ノ書今尙存セリアレキサンドル、ロ、グランノ如キハ現今詩學家ノ以テ軌範トスル所ニシテ此ノ調ノ詩ヲ稱シテアレ

キサンドルントス

當時行ハル、所ノ稗史小說其ノ體今世ニ行ハル、者ト異ナル所アリ今其ノ一部書ヲ讀ミ徹セント欲セバ讀ム者必倦困ヲ生ジ大過惡アリテ罰殛セラル、情ノ如ケン其ノ登記スル所嘗テ正史地學ニ依ラズ誤謬聽說固ヨリ少シトセズ即バビロン都（亞細亞アッシリヤ國ノ都府ニシテユーフレート河畔ノ一地ニ在リ）ヲ以テ佛國ノ一都邑ト爲シジュディヤ州（小亞細亞中パレスタイン國ノ一州）ヲ云テアイルランド國境ニ在ル一州トスルガ如キ是ナリ

其ノ世ニ膾炙スル書ヲブルトスト曰フ今其ノ書目ニ依レハ或ハ以テ羅馬史ト爲ス其ノ實ハ然ラズ是英王ノ事蹟ヲ記セル者ニシテ後王アーソル及術士メルラン幷ニ此ノ書ニ援據シテ諸神怪ノ事ヲ述作スル所アリ其ノ書今猶存シ兒童輩ノ閲シテ娯樂スル所トナレリ

佛國民皆奇談怪話ヲ喜ムメロディーヨドラメールロワーノ一書アリ即佛人ノ述作ニ出ツ此ノ書今大ニ世ニ行ハル又ファブリヱートヨ曰フ詩體ヲ以テ述ル所ノ小說亦佛人ノ著ス所ニシテ嘗テ一千六百年代ニ在テ大ニ世ニ行ハル

ファブリヱー既ニ廢棄スルニ及デ艶體ノ書又世ニ行ハル其ノ說夸誕淫縱其醜行猥褻說クニ忍ビサル事ト雖筆ニ隨テ之ヲ書シ頗人情ヲ蠱ナ讀者皆口ヲ掩ヘリ

其ノ大部ノ小說ニ在テ今日余輩之ヲ讀ミ睡ルヲ覺ユレトモ當時ノ人ハ之ヲ讀ミテ絕倒ス往昔ハ書籍乏少ナル故遠般ノ書ト雖其ノ大部ナルヲ以テ相稱セリ當時一家每ニ一個僧徒ノ讀誦ヲ能クスル者アリテ常ニ一家族人ニ聞カシメテ其ノ意ヲ娯マシムト云フ

一家唯一部ノ書ヲ得テ之ヲ讀ミ已ニ卒業スレトモ又外ニ書ヲ求ムルコトヲ要セズ尚之ヲ復讀スルヲ以テ常トセリ王フィリップハ這般ノ書ヲ讀マシムルニ遑アラズ專事務ヲ辨理セント欲スルニ因テナリ

王フィリップ專貨財ヲ貪リ積聚シテ止マズ貪濁少シトセズ是ヲ以テ自心ニ慊シトセズ死後之ヲ其ノ本主ニ償還スル方ヲ定ム王遂ニ紀元一千二百二十三年第七月二十五日ヲ以テ殂セリ年五十八在位四十四年子路易、ロワイオン襲テ王位ニ即ケリ

第四十六篇　第八世路易在位數年ニシテ殂シ妃ブランシュ政ヲ攝ス

王路易ノ綽號ヲライオント曰フハ基ク所ヲ知ラズ王ノ心身剛強ナラス其ノ王ニ諛ヒテ記スル所ノ史冊上ニ於テモ其褒稱スル所僅ニ數語

ニ過キズ曰ク賢王ノ子ニシテ明王ノ父タリト

父王殂スル時王年三十六母ハシャルマンノ統ヨリ出テ父ハカツペーノ統ヨリ出デタリ故ニ二家ノ系統王路易ニ至テ幷合セリト云フ前王其ノ嗣子ヲ立ルニ於テ或ハ諍論アランコトヲ慮リ在世ノ日致テ位ヲ路易ニ與ヘズ蓋二家ノ系統ニ出ツル子タルヲ以テナランカ

王路易妃ブランシュト共ニ位ニランス都ニ即ケリ從來巴里府ノ俗遨遊ヲ好ムヲ以テ其ノ即位ノ日各華鬘ヲ布キ花ヲ插ミテ相歡樂シテ之ヲ祝セリ又街頭ニ榻ヲ列シ美味佳肴ヲ盛ルコト山ノ如シ以テ乞丐兒ニ備フ且ツル—バヅ—ルノ徒街頭ニ在リテ鼓樂シテ徘徊セリ

王路易世ヲ終ルマテ常ニ英王第三世顯理ト戰ヒ又アルビジュワ—ノ民ヲ困メテ休マズ嘗テ一都邑ヲ攻擊スルニ當テ夏熱頗酷シ其ノ率井

ル所ノ兵病ニ罹リ死スル者二萬人王モ亦病メリ蓋殘虐ヲ以テ頻ニアルビジュワ—ノ民ヲ困メルノ應報ナルカ

王路易病大漸シテ將ニ殂セントスル日衆貴族ヲ召シ遺命シテ約シテ曰ク我嗣子尚幼ナリ唯善ク輔ケテ位ニ即カシメ妃ブランシュヲシテ政ヲ攝セシメ能ク協心戮力シテ之ニ事ヘヨ言畢テ殂セリ實ニ紀元一千二百二十六年第十月ナリ王在位三年數月

妃ブランシュ悲哀シテ大ニ慟哭ス既ニシテ幼主ヲ擁護シ大政ヲ攝シ孜々トシテ心志ヲ勵マシ治民ノ政ニ勤ム自謂フ妾他邦ヨリ來ル者ノミ貴族中或ハ前王ノ遺命ニ從ハズ妾ガ命ヲ辱カシムル者アラント其ノ貴族ノ情狀ヲ察スルコト已ニ斯ノ如シ

妃ブランシュ性怜悧敏達ニシテ容儀亦之ニ稱ヒ嬋娟タル一美妃ナリ

事ニ臨テ動カズ其最寵スル所ノ大臣ヲゲ—ヲント曰フ博識高德ニシテ事務ニ老熟ス人敬セサル者ナシ性又果敢ナリ上言諫諍スルニ當テ風生叱咤スルノ勢アリ

妃ブランシュ決斷流ル、カ如ク英明敏捷敵軍ト接スルニ當リ常ニ大ニ敵ノ方略ヲ挫折ス政ヲ攝スルヨリ幼主ノ二十一歲ニ至ルニ及ビ乃大權ヲ王ニ復セリ

第四十七篇　后ブランシュ囚人ノ爲ニ獄舍ヲ毀ツ並王第九世路易（一名サン路易）ノ性質

今后ブランシュノ人ト爲リヲ知ラント欲セバ且次節ノ一事ヲ見ヨ一村民アリ僧院ノ—トルダムノ所管タリ一歲此ノ民偶貢税ヲ輸納スルコト能ハス寺僧大ニ怒リ乃捕ヘテ獄中ニ囚フ獄中狹小ニシテ囚人身

ヲ轉スルコト能ハズ且呼吸窒塞シテ將ニ死ニ至ラントス后適之ヲ聞テ心大ニ僧ヲ惡ミ直ニ使ヲ遣テ僧ニ謂ハシメテ曰ク願クハ囚人ヲ放免セヨ其ノ貢租ノ如キハ余之ヲ保證シテ償還セシメント僧怒テ聽カズシテ曰ク后焉ゾ我民ヲ管領スルノ權アランヤト

遂ニ悉其ノ村民ノ妻拏ヲ捕ヘ亦皆獄中ニ囚ヘリ之カ爲ニ氣息ヲ絕シテ斃ルヽ者頗多シ是ニ於テ后親行テ獄外ニ至リ其ノ從者ニ命ジテ曰ク宜ク打チ毀チテ之ニ入ルベシト然レドモ此ノ獄寺院ニ屬スルヲ以テ衆敢テ輙其ノ命ニ從ハズ后乃勇奮シテ斧鉞ヲ奮テ將ニ手ヅカラ之ヲ打毀セントス從者乃隨テ俱ニ之ヲ打毀シ囚人ヲ出ダス囚人俄ニ淸氣ニ感觸シ仆倒スル者頗多シ僅ニ言語スルコトヲ得ル者ハ深ク后ノ德ヲ謝セリ凡后ブランシュノ仁惠ヲ以テ人ヲ救濟スルコト特ニ此ニ

止マラズ奴隷人ヲ脫シテ自由不羈ノ民タルヲ得セシメタルカ如キハ數フルニ勝ヘズ

王第九世路易ノ性慈惠公正ナリ世之ヲ綽號シテサント路易ト曰フ而シテ其ノ溫恭寬大勇悍剛毅禍福ヲ以テ其ノ心ヲ動カサヽルハ未嘗テ王ノ如キ者アラズ守ル所ハ唯正教ヲ主トシ常ニ自馭制シテ已ニ克タンコトヲ思ヘリ其ノ宗教ヲ信崇スルコト篤シト雖然レドモ之ニ沈溺シテ政治ニ怠ルコトナシ且用ヲ節シ民ヲ愛スルニ於テ深ク心ヲ留メ其ノ租稅ヲ徵スルハ唯其ノ私有公地王者自有スル土地ヲ云フニ止リテ敢テ課稅法ヲ以テ之ヲ擧國ノ人民ニ徵スルコトナシ王ノ世ニ尊奉セラルヽ所以ハ其ノ用ヲ節スルニ在ル者多シ

王路易ノ僧寺ヲ創立スルハ歷世前王ノ已ガ罪過ヲ償贖センガ爲ニス

ル者ト同シカラズ常ニ自謂フ人ハ是神堂ノ基礎ナリ故ニ神堂ノ墻壁門戸ヲ飾ルヨリハ其ノ動作言行ヲ善クスルニ如カズ是正ニ神堂ノ美ヲ益スニ足ラント

第四十八篇　第六次十字役幷王サン、路易擒トナリ贖金ヲ以テ才カニ脱ル

紀元一千二百四十四年王路易病テ床ニ在リ時ニ天上ニ聲アリ微ニ命ヲ傳フルカ如シ曰ク他宗人民ト抗拒シ因テ十字符ヲ受ケヨト已ニシテ王ノ病稍愈エ終ニ晉フコトヲ得タリ乃深上帝ニ感謝シ玆ニ十字役ヲ起サンコトヲ誓ヘリ

母氏及輔相大臣皆其ノ舉ヲ拒ムト雖己ニ神ニ誓ヘルヲ以テ破ルベカラズ後第四年ヲ期シテ途ニ上ラントス是ニ於テ更ニ心ヲ政治ニ專ニ

セリ

王路易ヲシテ反復熟慮セシメバ則此ノ役ノ大ニ理ニ悖ルノミナラズ且之ニ依テ他邦ノ人民ヲ困シメ貨財ヲ鹵掠シ乃竟ニ自災スルニ至ルヲ知ラン原來王路易バレスタインヲ覬覦攻擊スルニ非ズ唯恭シク靈都ヲ守衛セントスルコトヲ傳ヘリ

又其ノ埃及國ヲ侵サントスルニ至リテハ因ヨリ名ナシ何トナレバ今若埃及國民ノマホメツト宗徒タルヲ以テ名トシテ之ヲ侵セバ支那國人ノ如キモ異宗タルカ故ニ攻擊ス可シト云フノ不理ナルニ異ナランヤ

王路易身ニ鎧冑ヲ被リ頭上ニオリ——フラム（傷闘ノ旗號上ニ出ヅ）ヲ飄ヘシ衆ニ先チテ自進ミテ海濱ヨリ上リ竟ニ刃ニ血ヌラズシテ直ニダミエツタ

都ヲ陷ルヽコトヲ得タリ而シテ后及侍女ヲ此ノ都ニ留メ又進ミテカイロ―ニ到レリ而シテ適困厄ニ遭フ復前役ノ如シ

時ニナイル河水數溢レ敵又來リ侵ス進退維谷リ遂ニ降虜トナルヲ免レズ而シテ其ノ兵戰沒ノ外瘟疫ニ罹リ死亡相踵グ餘ル所ハ又皆史丹ニ擒捕セラル時ニ紀元一千二百五十年第四月五日ナリ佛民此ヲ聞キテ大ニ悲憂ス

尋テ大后ブランシユ殂ス是一ハ其ノ子ノ禍ニ罹ルト一ハ敗報ノ訛傳ナルカト疑ヒ傳知スル者二人ヲ殺セシ過ヲ自悔ユルノ甚シキニ因リ遂ニ病ヲ發スルニ係レリト云フ

王路易擒トナリ鐵鏁ヲ以テ拘繫セラル時ニ史丹厚ク之ヲ遇シ贈ルニ美衣ヲ以テシ又王路易ノ贖罪金額五ノ一ヲ減シ納メンコトヲ許セリ

此ノ史丹ハ則史丹サラダンノ子孫ナリ王囚ハルヽ者茲ニ二閱月贖四十萬磅ヲ出シ竟ニ還ルコトヲ得タリ此ノ際ダミエット都ハ復史丹ニ收復セラル

佛王ノ贖金ヲ辨理スル甚難シルヅン都リチオールド、コールドリヨンノ墳墓ヲ周回スル所ノ銀珥ヲ毀チテ更ニ造幣ノ資トス

當時世ニ行ハルヽ所ノ銀貨ハ多ク銅ヲ雜加ス人民之ヲ惡ミ小額數ノ外ハ行ハレズ其ノ銀量足ラズ又銀色ナキヲ以テ世之ヲ稱シテモネタネーグラ（黑色銀ト云フノ義）トス又曾テ第一世フィリップノ世ニ當テ革片ニ釘ヲ貫キ以テ通貨トス

王路易既ニ縱タレ敢テ歐洲ニ入ラズ轉シテエークル都ニ入リ此ニ留ル者數日適前ノ贖金誤テ定數ヲ缺クヲ覺リ乃之ヲ償還セリ時ニ侍臣

皆謂フ康直ニ過グト王曰ク余焉ゾ金銀貨財ノ爲ニ我康直ヲ破ルベケンヤト

后及侍女皆ダミエット都ニ留在シ王ノ敗報ヲ得テ其ノ驚懼知ルベシ一タビ物音ヲ聞クモ輒愕然トシテ曰ク撒剌斯人將ニ至ラントスト撒剌斯人將ニ至ラントスト一老ナイトアリ年已ニ八十常ニ后ニ侍セリ慰諭シテ曰ク臣傍ニ在リ請フ后憂懼スルコト勿レ

后此ノ老ヲ頼ミテ斯須モ左右ヲ去ラシメズ一日老臣ノ前ニ跪テ言テ曰ク撒剌斯人若來リ襲ハヾ直ニ妾ヲ馘セヨト其ノ敵ニ擒セラレ凌辱セラレンヨリハ死スルニ如カズト

老臣答テ曰ク焉ゾ后ノ言ヲ煩サンヤ臣已ニ之ヲ決セリト而シテ危難乃茲ニ至ラズ王ト共ニ發シテエークル都ニ進ムコトヲ得タリ

王路易パレスタインニ留滯スル者四年竟ニ佛國ニ歸入ス佛境ニ達スルニ及テ人民大ニ喜ヒテ之ヲ迎フ但王ノ尚十字符ヲ脱セザルヲ見テ皆謂フ恐クハ復パレスタインニ行クコトアラント

第四十九篇　王サン路易治世事蹟ノ二　王康直ヲ好ム並巴巴府巴粒門廳及リートジュスチッス

王路易國ニ在マサヾルニ當テ國大ニ疲弊セリ王還リテヨリ大ニ力ヲ此ニ竭シ宮殿ヲ壯宏シ禮義ヲ整正シ体制肅然タリ而シテ又節儉質朴ヲ尙ブコト始メノ如ク舊弊ヲ剪除スルノ意孜々トシテ日ニ怠ラズ

王常ニ一ノ櫧樹陰ニ坐シテ賤民ノ訟ヲ聽キ其ノ理非ヲ正明ス其ノ樹今ニ至リテ尚巴里府近地ワンセーヌ林中ニ存セリ王又一法律ヲ制定ス其ノ名今猶存セリ其ノ聽訟總テ公平ヲ取レリ

王弟シャルコーントダンシューアリ一日其ノ臣某ト諍鬪ス時ニ法官シャルニ附和シシャルヲ無罪ト爲セリ彼ノ臣服セズ更ニ之ヲ上廳裁判衙ニ訴ヘ將ニ以テ其ノ判決ヲ取ラントスシャル乃之ヲ縛シ直ニ圄圄ニ下セリ

王路易之ヲ聞キ急ニシャルヲ召シ憤然トシテ色ヲ作シテ曰ク汝豎子王ノ弟タルヲ以テノ故ニ自法外人ト爲スカト遂ニ彼ノ臣ヲ解免シ且之ヲ誡テ曰ク必法律ヲ遵守スルヲ忘ル丶コト勿レ

シャル乃之ニ從テ對訟ス彼ノ臣其ノ代理者ヲ求ムレドモ又一人ノ能ク之ニ應スル者ナシ王乃其ノ代理者ヲ選ミ之ヲ論決スルコト一ニ公平ナリ遂ニ彼ノ臣ヲ以テ正直無罪トナシ其ノ所有ノ物貨ヲ還與シタリ

王ノ廉直公平ナルハ當時人ノ深ク信スル所ナリ英王某曾テ貴族ト諍鬪シ竟ニ佛王ニ就キ之カ裁決ヲ請ヘルニ至レリ王ノ之ヲ論スル啻公平ニ過キ二告人之ニ服セザル所アリト雖他邦王公ノ來リテ判決ヲ取ルニ至ルハ亦以テ王ノ美事ト爲スニ足レリ

佛國曾テ貴族大臣有位僧徒及王室侍臣等會議スル所ノ議事院ハカッペー王家統治ノ世ニ當テ之アリ其ノ規模大ニ現今議事院ノ法ト異ナル所アリ今ニ及テ稱シテパロマンドパリート云ヒ以テ上廳トナシ凡事巳ニ諸裁判衙ニ於テ得テ判決スベカラザルモノヲ上申スル所トナス

巴拉門廳ト稱スルハ獨訟獄ヲ聽斷スルヲ司ドルノミナラズ又王命ノ下ルコトアレバ討論評議シテ其ノ事正當ナラザル者アレバ則之ヲ拒

ムノ權ヲ持セリ斯ノ如キ時王之ニ臨ミ親之ニ命令セリ王ノ親臨スルニ當テ又其ノ命令ヲ抗拒スルコト能ハズ當時佛國法典中ニ之アリ曰ク國王ノ前ニ在ルニ當テ庶臣皆命令ヲ拒ム權ナシト巴拉門廳内ニ王ノ御座ヲ設ク其ノ形臥床ノ如シ上ニハ佛幢蓋ノ如キ者アリ王自之ヲ稱シテリ―ドシュスチッス（床上ニ在テ裁決スルノ義）ト曰フ其ノ語史册上ニ數用ヰル所ナリ

第五十篇　第七次十字役並王サン、路易ノ殂

當時法王自謂フ我慾ニ國土王位ヲ與奪スルノ權ヲ持セリト時ニセッセリ―王某法王ヲ輕蔑シ因テ諍鬪ヲ致セリ法王乃其ノ土地爵位ヲ剝奪シ之ヲ佛王サン、路易ニ與ヘントス王路易固辭シテ曰ク故ナクシテ濫ニ人ノ地ヲ得ルハ大不祥ナリト竟ニ之ヲ受ケズ

又曰ク王者苟善政ヲ施サント欲セバ必先公正ナラザルベカラズ公正以テ聲譽ヲ得バ其ノ榮夏ニ版圖ヲ廣ムルニ勝レリト但王弟シャルダンジュ―ハ然ラズ其ノ賦性王ノ廉直愼朴ナルガ如クナラズ法王乃之ニ其ノ土地爵位ヲ與フシャル敢テ辭セズ大ニ血戰シテ而シテ後特撒利ヲ取リ遂ニ之ニ王タリ

以上ノ一話以テ王シャルノ人ト爲リ如何ヲ見ルニ足ラン其ノ貪戾酷暴特撒利ノ國民今猶之ヲ怨惡セリ故ニ尙佛國民人ノ名アル者ニ逢ヘバ輙之ヲ忌憚スルニ至レリ是ヲ以テ特撒利國民竟ニ大ニ怨ヲ報セントス今之ヲ下回ニ記ス

佛王路易治ヲ專ニシ民ヲ文化清明ノ境ニ誘クコト十有六年是ニ於テ國用已ニ足リ事功悉擧ル王之ヲ見テ心私ニ之ヲ恃ミ乃將ニ再十字役

ヲ起シテ其宿志ヲ成サント欲シ乃諸貴族ヲ募集シ船隊ヲ以テ發セリ時ニ紀元一千二百七十年第七月ナリ

英國王子ヱッドウオルト及佛王ノ弟シャルダンジュー尋テ發ス時ニ法王數佛王ニ說テチュニス國王ニ其教宗ヲ更ヘシメントス乃進テ亞弗利加洲ニ航シ行意フチュニス國教宗ヲ更フルハ甚難カラス其兵モ亦必弱カラント已ニ到レハ勁敵ニシテ破ル可カラス始謂フ彼唾手シテ取ルヘシ口之ニ說ンヨリ兵ヲ以テ之ヲ服スルニ如カスト乃進ミテ其首都ヲ侵ス

此地正ニ熱帶ニ屬シ時適酷暑ナリ佛兵爲ニ大ニ困メラル且瘟疫流行シ士卒之ニ罹リテ斃ル、者少カラス王モ病ミ竟ニ起キス將ニ殂セントスルニ臨テ長子ヲ召シ床側ニ至ラシメ筆紙ヲ呼ヒ遺誡數條ヲ書セ

リ

又之ヲ誡メテ曰ク汝常ニ廉正ヲ以テ心トナシテ政ヲ執レ其最要トスル所ハ上帝ヲ崇尊スルニ在リト遂ニ殂セリ實ニ紀元一千二百七十年第八月二十五日ナリ又遺命シテ其尸ヲ床上ヨリ出シ之ヲ營中灰上ニ置カシム蓋其既往ノ罪愆ヲ上帝ニ謝シ又朴素謙譲ヲ示ス所以ナリ壽五十五歲在位四十有四年

王路易殂スルノ日シャルダンジュー適來リ達ス其營ニ至テ喇叭ヲ吹テ之ヲ報セリ而シテ王路易ノ營寂然トシテ一聲ノ之ニ應スル者ナシ大ニ怪ミ馳セテ之ヲ看レハ灰上ニ一死屍存セリ之ヲ熟視シテ始テ王路易ノ屍ナルヲ知リ大ニ驚愕ス

第五十一篇　公シュワンウィールノ傳附シャトーノ記

余輩王路易ノ行蹟ヲ知ルハ固ヨリ由ル所アリ今之ヲ下ニ說カン此王ハ有德ニシテ之カ朋友タル者頗多シ公ジュワンウィールト曰フ者アリ最王ト善シ初王ルウィー第六次十字役ニ赴クキ偶之トシープルス島地中海ノ一島嶼ニ逢ヒテ舊相識ノ如シ盖其性質相類スル所アルヲ以テナリ

是ニ於テ公シュワンウィール意ヲ決シ將ニ十字役ニ赴カント欲シ即其所屬臣民及友人ヲ招集シテ城中ニ燕會スルコ一週日座中ノ者ニ告テ曰ク余將ニ十字役ニ赴カントス恐クハ復生テ還ルヘカラサラン故ニ公等ト訣セントス若平生余カ殘暴ヲ被ルト云フ者アラハ請フ進前セヨ余將ニ之ヲ贖フ所アラントス

是ヨリ出テ、近傍數處ノ靈地ニ巡拜シ心中誓フ所アリ曰ク余苟十字役ヨリ至ルニ非スハ復我城中ニ入ルヘカラスト其行クニ常ニ徒跣シテ身ニハ一襯衣ヲ着ルノミ其過ル所ノ道路適其城堡ト相接近シテ望中ニ在ルコト數回ナリ

公常ニ自謂テ曰ク我畔子誓ヲ家鄉ニ觸ハシメサラン然ラスハ余愛スヘキ二子ト城堡トヲ顧戀シ歸心頓ニ生シテ必進ミ去ルコ能ハサラント嘗テ公ノ傳ヲ閲スルニ其城堡ノ美麗ナルコヲ記セリ其城ハ丘岡ニ在リテ藩屛最美ナリ故ニ此城ハ其ノ守備ノ爲ニアラスシテ虛觀ノ爲ニスルト謂フヘシ

封建ノ世漸衰運ニ屬スルニ及テ貴族輩ハ亂ヲ忘レサルノ意薄ク「シャトー」原註ニ曰ク當時佛國貴族輩其ノ外邑ヲ稱シテ「シャトー」ト曰フト盖往昔貴族多クハ城堡ヲ有セリ故ニ今ニ至リ城堡ヲ稱シテ「レャトー」ト爲セリ即別墅ノ如キモ亦其備フル所甚堅固ナラス當今ジュワンヴィー

ル氏ノ城ハ丘岡ノ四邊ニ葡萄園アリテ環繞ス一旦急事アレハ弓手隊潘塀ニ嬰リテ之ヲ防禦シ以テ園中ニ力作スル所ノ民人ヲ保護ス市鄙アリ丘岡ヲ圍繞ス民人聚集シテ之ニ居リ以テ城主ノ保護ヲ仰ク夫、公ジュワンヴィールノ自民ノ危難ヲ分チ取リ十字役ニ赴クヤ又大ニ困頓ヲ取レリ

公ジュワンヴィールハ其智王ルウィーニ超過セリ嘗テ王ルウィー再十字役ヲ作シジュワンヴィールヲシテ復從ハシム公從ハスシテ曰ク余嚮ニ役ヨリ歸ル卄臣民皆大ニ困弊ス故ニ今之ヲ保護統理スルハ固ヨリ我本分ナリ豈綏クスヘケンヤ是余カ敢テ軍ニ赴カサル所以ナリト

ジュワンヴィールハ大ニ世ニ貴重セラレ百有餘歳ニシテ壽ヲ以テ終

レリ佛國ノ后嘗テジュワンヴィールノ王ルウィーニ寵セラル、ヲ知リ乃王ルウィー殂スルニ及テジュワンヴィールニ命シテ其傳ヲ作ラシメ王ノ在世中ノ美事ヲ載セ編ミテ一小册ヲ成セリ余輩王ルウィーノ事蹟ヲ知ルコヲ得ルハ此書アルニ依レリ

第五十二篇　第三世フィリップル、ハルディーノ傳錫工ピエードルラ、ブロッス后ヲ妬ミ佛王ニ讒ス附「ラ、ローマンス、ド、ラ、ローズ」ノ起源

王フィリップ綽名シテル、ハルディー（膽氣アル義）ト曰フ其所以ハ王幼少ノ時大后ト共ニ埃及國ニ在リ時ニサラセン人來リテ之ヲ威脅ス王フィリップ之ヲ侮リ笑テ曰ク彼何ヲカ爲サントモ怖ル、所ナシ是ル、ハルディーノ名アル所以ナリ

先王ノ殂スルニ當リ王適疾アリテ軍ヲ督スルコ能ハス乃叔父シャルヲシテ之ニ代リ兵ヲ率ヰテ戰地ニ赴カシム傭軍進テ戰地ニ達ス亞拉比亞人亞弗利加北部ノ民ヲ總稱シテ亞拉比亞人種トス之ヲ善ク禦ク彼ノチュニス國ハ四邊盡沙漠ナリ亞拉比亞人風ヲ背ニシテ傭軍ニ當ル揚ル所ノ沙塵盡ク我軍ニ注ク我軍爲ニ進ムコト能ハス遂ニ敗走セリ

王フィリップハ其性先王ニ似タル所アリテ法教ヲ崇信シ方正ヲ守リ又大度アリ然レトモ其理ヲ究ムルニ至テハ大ニ先王ニ及ハス且愚直ニシテ欺カレ易シ唯其治世ノ間民人各幸福ヲ享ケ頗隆盛ヲ極ム故ニ國民擧テ稱シテ明王ト云フ

王フィリップ夙ニ后ヲ亡ヒ更ニブラバン侯某ノ女マリートヒフ者ヲ娶ル時ニ一千四百七十四年ナリ王之ヲ寵スル頗厚シ后ノ權漸熾ナリ

又一僕アリ常ニ左右ニ侍シ漸寵遇セラレテ竟ニ政治ニ參與セリ即ピエードルヲブロッストヒフ者是ナリ本鑷工ニシテ世人或ハ無識無學ノ徒トスレトモ實ハ然ラス大抵鑷工ハ剃剪ノ法ヲ學ヒ且外醫科學ヲ修ムピエードルノ如キモノ外醫ノ術ヲ修テ常ニ王體ヲ診視スル者ナリ后既ニ王ニ寵セラレ威望亦盛ナリ是ニ於テピエードル之ヲ嫉忌シ其隙ヲ窺テ王ニ讒シテ曰ク后密ニ謀ル所アリ將ニ先后ノ王子ヲ酖殺シテ己ノ子ヲ立テ嗣タラシメントスト

偶王子ルウヰー夭折ス讒搆愈信ナリ因テ后ノ殺ス所ナリト告ル者アリ故ニ宗黨親戚大ニ驚愕シテ其ノ眞僞ヲ査出セントス其法ノ如キハ今余輩ノ信スル所ニ非ス

一神婦アリ王召シテ此ノ事ヲ問ハシム婦曰ク后罪ナシ王之ヲ聞テ后

ノ究ヲ知ル又后ノ兄某一法ヲ設テ曰ク余一兵士ヲ出タシ余ニ代リテ前ニ告ル者ト相鬪ハシメ其勝敗ヲ視テ其ノ罪ノ有無ヲ決セン既ニシテ其ノ代リ出タス所ノ兵士之ニ勝ッテ遂ニ后ノ無罪ナルヲ明ニセリ讒夫鑄工ノ罪状既ニ判然タレハ遂ニ絞殺ノ刑ニ處セラレタリ此ノ刑具ハ當時ノ創造スル所ナリ后常ニ詩人ヲ愛セリ此詩人者流ツルーバデゥール者流ト大ニ其俗ヲ異ニセリ

從來傳フル所ノ詩ハ其鬧備ニ浮華清艷ヲ主トス然レモ當時世人皆之ヲ厭惡シテ醇厚正雅ノ調ヲ好ミ竟ニ世ニ行ハルヽニ至レリ「ローマンス、ド、ラ、ローズ」ト稱スル詩アリ王サン、ルウィー治世ノ時ニ當テ一詩家ノ作ル所ナリ而シテ其ノ人功成ルニ及ハスシテ死ス又人アリ之ヲ續キ成ス是亦小說ノ類ニシテ夢中ノ事ヲ說クニ過キス但其句數當時

ノ人皆長篇ヲ作ルヲ以テ自ヲ巧ナリトス

第五十三篇　犯罪ヲ糺彈判決スルニ神託ニ依リ及試責ト鬪爭ノ勝敗トヲ以テス　附モンタジス人名氏ノ畜犬

人罪アリテ裁判衙ニ出ツル時司法書記官之ニ問テ曰ク何ノ法ニ依テ之ヲ決スヘキヤト被告者答テ曰ク願クハ神託ト國法トニ因テ糺問セラレンヿト其言フ所常ニ一ナリト雖往昔此言ノ基スル者ト方今之ヲ言フ者ト其情意大ニ異ナル所アリ

此習俗ハ嘗テ封建ノ世ニ起ル所ニシテ人論アレハ則其事ノ何者タルヲ論セス或ハ金銀地券ニ係リ或ハ身公罪ヲ犯スニ係ルアレハ甲者ヨリ乙者ノ罪アルヲ訟フ是時原被二告者共ニ政事堂ニ詣リ先誓テ曰ク此ノ起レル事ノ實ヲ告ケント

君主タル者二人ノ訴フル所相齟齬スルコトアリテ其眞僞ヲ決スルコト能ハサレハ則所謂神宜ナル者ニ依リテ之ヲ判決ス其方二アリ曰ク試責ナリ曰ク勝負決罪ナリ此ノ二方ヲ用ヰテ判決シテ終ニ安全ヲ得ル者ハ其獄事ニ利アル者トス

試責ニ亦數方アリ原被或ハ活火上ニ徒歩セシメ或ハ火鐵ヲ抱カシメ或ハ熱鐵上ニ徒歩セシメ或ハ捕ヘテ水中ニ投シ其耐フルト耐ヘサルトヲ視（今文明ノ國ト雖尚其蠢愚狂妄ノ民ヲ捕ヘ水中ニ投シテ之ヲ試ル者ノ如シ）或ハ僧徒神ニ供スル所ノ麵包ヲ食ハシメ其哽フト哽ハサルトヲ視テ罪ノ有無ヲ判決スル等是ナリ

被告者ヨリ勝負決罪ヲ請フトキハ其手套ヲ脱シテ之ヲ投ス原告者之ヲ拾取スルヲ以テ之ヲ允諾スルノ証トス是ニ於テ法官何ノ術ヲ以テ決

スルト闘ヒ力技ノ勝負ヲ以テ決スヘシト告ケ日ヲ刻シテ之ヲ衆ニ示スヲ例トス

其力ヲ角スルハ概晨旦ヲ期ス其場ハ城中ノ一庭園ニ於テス期日已ニ至レハ衆人之ヲ見ント欲シテ來リ集ル者雲ノ如ク婦女子モ亦之ヲ見ルヲ以テ快トス是時若其一人場ニ登ルヲ肯セサレハ則之ヲ以テ負トス

原被二告者此場ニ登リテ共ニ馬ニ騎リ一奴兵器ヲ携ヘテ馬前ニ在リ其歩ムヿ徐々二人各自手ニ崇敬スル神像ヲ持シ心中祈ル所アリ曰ク神冀クハ余ヲ保護セヨト

其場ハ環ヲスニ藩籬ヲ以テス稱シテリ—スト云フ二告者ノ此ノ場ニ上ルニ及テ二個ノナイトアリ分レテ兩位ニ席ヲ占メテ之ヲ監ス二告

者各兩邊ニ在リ手ニ槍ヲ携ヘ相對シテ以テ俟ツ既ニシテ喇叭ノ聲起ル各進ミテ相刺殺セントス乃其ノ利ヲ得ルモノヲ勝トス

兩々勝負未決セスシテ忽馬ヨリ墜ル者アリ則各槍ヲ投シ更ニ刀劔ヲ把リテ鬪フ然レ圧竟ニ優劣ナク終日勝負ヲ決スルヿ能ハサルニ至レハ則其利被告人ニ在リトス

律法上或ハ決議スヘカラサルヿアルモ亦此方ヲ用ヰルヿアリ嘗テ第三世オト治世ノ日ニ當テ遺物ノ事ニ係リ法官之ヲ議スト雖竟ニ決セス乃神判ヲ仰カントシテ各力士ヲ請ヒ相鬪ハシム其勝ツ者乃其自主張スル說ヲ以テ國法中ノ一條ト爲スヲ得今ニ至リテ依然トシテ猶存セリ

此法ニ依テ事ヲ判決スルハ第六世シヤル治世中多ク行ハル此時ニ當

リオブリートト云フ者アリ巴里府近傍ノ一林中ニ暴殺セラル其殺ス者ハマケールト云フ勇剛ノ人ナリ其殺シタル尸ヲ一樹下ニ埋メ人ヲシテ知ラサラシムト

如何ナル隱處密事ト雖之ヲ看徹スルノ明眼天ヲ指スアルノミナラス乃一義犬アリ之ヲ見テ常ニ樹下埋尸ノ上ヲ護リ食ヲ求ルニ非サルヨリハ曾テ去ラス又巴里府中亡主家ノ邊ニ到ルヿ數ナリ

家人此ノ犬ノ異狀ヲ爲シテ屢去來スルヲ怪ミ一日竊ニ之ニ從ヒ行ク彼ノオーブリーヲ埋ムル樹下ニ至リテ止ル乃之ヲ發掘シテ遂ニ其尸ヲ出セリ

爾後此ノ犬敢テ其家ヲ出テス然レ圧マケールヲ見レハ則憤然トシテ色ヲ作シテ之ニ迫ル是ニ於テ世人マケールノオーブリーヲ陰殺セシ

コヲ察シ其ノ眞否ヲ決セント欲シマケールニ謂テ曰ク彼ノ犬ト相鬪ヒ勝負ヲ決シテ以テ其罪ノ有無ヲ判決スヘシ

乃巴里府ニ場ヲ設ケ狗子ハ天造兵器ノ齒牙ヲ持シ又一樽ヲ置キ其劇鬪シテ退息スルノ用ニ供スマケール氏ハ棍棒ト楯トヲ持シテ場ニ上ル時ニ衆人相群集シテ之ヲ見ル其相鬪フコ已ニ數時マケール力疲レ氣息喘々殆絶スルニ至レリ是ニ於テ始テ自其陰殺ノ罪ニ伏セリ

第五十四篇 「レヴェブル、シ、リエーン」ノ舉幷ニ王フィリップ、ロハルディーノ死

史中慘烈言フニ忍ヒサル事ハ記載スルヲ欲セスト雖事已ニ數出テ皆人ノ識ル所ナレハ今將ニ之ヲ說カントス

王シャルノ細々里國ヲ略スルニ當リテ其國民怨骨髓ニ入リ必之ヲ報

イントスルハ世人ノ知ル所ナリ號ニジヤン、ド、プロシダト云フ者アリ此亦王シャルノ殘害ヲ被ル者ナリ此人ハネープルス灣海ニアル一小島ノ君主タリシガ王シャルニ略取セラレテヨリ再來一意讎ヲ復サンコトヲ意ヒ或ハ容貌ヲ變シテ醫師ト爲リ或ハ僧侶ノ形ヲ爲シテ諸方ニ潛行遊說シテ數個ノ王者及細々里島中ノ民ヲ懷カシメ竟ニ世人ノ未曾テ思慮シ得サル一大謀計ヲ發セリ

此謀計ハ細々里島ニ在ル佛國民ヲ鏖殲シ或ハ之ヲ驅逐セントスルニ至レリ此ノ計ヲ畜フコト凡二星霜ヲ經タリ然レトモ隱秘シテ洩サス佛民中曾テ一人ノ之ヲ知ル者ナシ

其黨中或ハ論シテ曰ク佛王シャルノ尚其ノ島中ニ在ルニ當テ事ヲ舉ク可シト而ルニ衆猶王シャルヲ畏レ事ノ成ラサランコヲ憂ヒ皆曰ク

其在ラサルヲ俟テ事ヲ起ス實ニ萬全ノ策ナリト議遂ニ決シ兵備モ亦全ク整フ故ニ一千二百八十二年「イ－ストル」日耶蘇甦生ヲ祭ルノ日ヲ云フ年々第五月ニ在リ其當日ノ如キハ年々異ナリ夕陽拜ノ羅馬宗徒ノ神ヲ拜スルノ名時ヲ以テ期トシ其ノ暮鐘ノ鳴ルヲ待テ一時ニ發センコトヲ決セリ

佛民曾テ未此事アルヲ知ラス其日晚飯ヲ喫スル時突然土蕃來リ侵シ劇鬪スルコト二時間ヲ出テスシテ盡ク佛國人ヲ屠殺セリ時ニ一ノ佛民アリテ死セサルコトヲ得タリ此人ハ頗有德ニシテ嘗テ世ニ聲名アル人タリ是ヲ以テ土蕃之ヲ憫ミテ其ノ性命ヲ保全スルコトヲ得タリ此ノ擧ヲ稱シテ「ヴェプル、シヽリエー」ト云フ

時ニ亞拉岡國王ピエートルト云フ者細々里民ニ應援セリ是ニ於テ法王大ニ之ヲ怒リ亞拉岡王國ヲ奪ヒテ之ヲ佛王ニ與フ佛王フィリップ

ハ其ノ正否ヲ知ラス偏ニ法王ヲ信スル故カ抑法ヲ信スルノ篤キヲ以テカ其子シャルノ爲ニ竟ニ之ヲ受ク

王フィリップ乃亞拉岡國ヲ取ラント欲シテ軍ヲ率ヰテ發セリ王ピエートル敢テ法王ノ命ニ從ハス則守備ヲ整ヘテ俟テリ而シテ佛國海陸軍須ノ諸器械及糧食等ハ盡當時有名ノ海軍都督アンドレードリヤト云フ者ノ爲ニ打壞セラル

佛王フィリップ之ヲ聞テ大ニ疲勞シ憂欝疾ニ迫リ乃遽ニ兵ヲ收メ將ニ還ラントス途ニ殂セリ在位十有五年壽四十一ナリ四男三女アリ一女マルゴリットト云フ者英國ニ嫁シテ第一世エドワルドノ正妃トナレリ

第五十五篇　佛王フィリップブル、ベルノ用度制法附衣服ノ異様

佛国隆盛ノ世ニ際シ国中無事ニシテ終レリ其ノ王ヲフィリップト曰フ大ニ容色アリ世之ヲ綽名シテル．ベル（艶美ノ義）ト曰フ然レ𪜈性不良ニシテ才能乏シカラスト雖放恣ニシテ情ヲ抑ヘ己ニ克ツヿ能ハス

又貪悋ニシテ偏ニ貨賄ヲ愛シ苟利ヲ見レハ之ヲ貪取シテ其不正不義ヲ顧ミス當時佛國ノ版圖甚廣大ナレトモツルース侯未嗣子アラスシテ薨スルヲ以テ其封境ヲ沒收シテ自之ヲ取レリ王又ナウアル國王ノ女シヤーントト曰フ者ヲ娶リテ正妃トス

王フィリップ始メテ位ニ即ク時大ニ日月ヲ費シテ用度ヲ制限シ以テ民ニ令セリ即衣服ノ製法及諸物價ヲ定メ臣庶ノ生計方法ヲ設立スル是ナリ又喫食ノ制ヲ定メ一日二次ヲ以テ常トス即午前第十時ヲ以テ朝餐時トシ午後第五時ヲ以テ盛餐時トス

何人ヲ論セス朝餐ニハ則一味午後餐ニハ則二皿肉一皿湯汁ノミ之ニ過ルヿヲ得ス齋日ニ逢ヘハ一食ニ二皿青魚ト二皿肉トヲ食フノミ民人皆此制ニ違フト雖其實ハ終ニ守ルコト能ハス一皿中ニ數味ヲ重ヌルニ至レリ故ニ王之ヲ防カント欲シテ又一令ヲ出シテ告テ曰クパイ（肉若クハ果實ヲ以テ餡シ麥粉ヲ以テ包封セル一食物ノ稱）ニ非サルヨリハ乾酪ト雖肉類ニ非サル者ト看做スヘシト

當時ノ衣服ハ長キ襯衣（日本ノ衣服ト稍ヽ相似タリ）ヲ着テ上袍若クハ外套ヲ被リ或ハ兩ナカラ并セ被ル者アリ（上袍外套共ニ外被衣ヲ云フ上袍ハ短ク外套ハ長シ）貴族ハ外套ヲ製スルニ大紅氊毯若クハ蒐青氊毯ヲ以テシ其帽ヲ製スルニハ剪絨ヲ用ヰ金繡ヲ以テ之ヲ裝飾ス庶人ニ至リテハ單ニ氊毯ノ帽ヲ着ス

帽頭細小ノ臥褥形ナル者アリ尾毛ノ如キモノ之ニ接附シテ垂下ス此

帽ヲ稱シテヱシヤブロヒト謂フ男女皆之ヲ冠ス貴族ノヱシヤブロヒハ庶人ノ用ヰル所ヨリハ又稍大ニシテ毛皮ヲ以テ之ヲ裝飾ス庶人ノ帽ニ至リテハ更ニ裝飾スル所ナク其形恰圓錐ノ如シ

衣服及器物ノ數モ亦皆法アリテ之ヲ制限ス人々其位階ニ從テ差アリ然ルニ都府ノ民ハ或ハ貴族ト其式樣ヲ竸フ者アリ故ニ之ヲ止メンカ爲ニ更ニ令シテ曰ク庶人ハ縱令富豪ト雖車駕ニ乘ルヿヲ得ス又曰ク婦女子ハ燭ヲ點シテ夜行スルヲ得ス又ヱルマイヒ（貂ノ一種）皮其他貴價ナル皮類及金銀珠玉等ヲ以テ身ニ佩帶スルヿヲ禁ス

靴ニ長短ノ法アリテ貴賤上下ヲ區別セリ即プリンス（公ト譯ス）ハ其靴二尺有五寸ベーロン（伯ト譯ス）ハ二尺ナイトハ一尺八寸庶人ニ至テハ一尺二寸是ニ於テ一ノ通語アリ曰クヱートル、シュル、アン、グラン、ピエー、ダン、

ル、モンピ（世ニ大足關アリ以テ立ツト譯ス顯位富貴ノ人ヲ指ス）

僧侶輩此ノ怪譎ナルヲ惡テ數論駁スルトモ竟ニ奪フコト能ハス故ニ之ヲ惡ムヿ猶異教宗徒ヲ惡ムノ甚キカ如シ第五世フィリップ出ツルニ及ヒテ終ニ之ヲ禁ス苟禁ヲ犯シテ尙舊制ヲ固守スル者アレハ則贖罰金ヲ出サシム此ニヨリテ纔ニ其俗ヲ變シ僧徒モ亦其宿意ヲ達スルコトヲ得タリ

長靴既ニ廢棄ス又其ノ周廓ヲ廣クスルニ及ヘリ其廣一尺有二寸ナル者アリ凡長廣二靴共ニ角若クハ爪牙等ヲ以テ各種ノ裝飾ヲ爲ス其色樣彌譎ナレハ則彌之ヲ賞讃セリ

當時婦女ノ衣服ハ狹窄ナル襯衣ヲ服シ寬濶ナル外衣ヲ被ル之ヲ裝飾スルニ金繡等ヲ以テス其裝飾ノ如キハ貴賤上下ニ從ヒテ差アリ

第五十六篇　王フィリップノ不信義フランドル州民ト戰ヒ佛軍敗走ス

爰ニ一事アリ佛王大ニ憂慮セントス乃諾ク諸耳漫泥州ノ一船行テ英國船ト相逢フ是時兩船共ニ水ヲ汲ミ取ラントシテ各船板ヲ下シ一夫ヲ遣リ岸頭ニ上ラシメントス二夫海岸井泉ノ處ニ達シ各先汲ムヿヲ爭ヒ終ニ互ニ相爭ヒ英夫諾夫ヲ暴殺ス

二夫ノ爭鬪ヨリ竟ニ歐洲諸邦ノ民各出テ戰ヒ大ニ殘害ヲ極メタリ時ニ王フィリップ詭計ヲ出シテ英國所管ノ一洲グイエーンノ六都邑ヲ奪略セリ又フランドル州ヲ奪ハントスル時詭變ノ計ハ用ヰスト雖亦復殘忍酷薄ニ渉ル者アリ

フランドル侯某ハ勇悍ノ一老ナイトニシテ當時ニ名アリ嘗テサンヽル

ウィート共ニ靈地ニ征行セル人ナリ王フィリップニ抗戰セントシテ自一ノ與國ヲ得テ自强クセント欲シ其女フィリッパト曰フ者ヲ以テ英國ノ王子エドワルドニ嫁セシメントス

佛王フィリップ適之ヲ偵知シ乃之ヲ妨礙セントシテフランドル老ナイト及其夫人ト女トヲ招クニ其禮甚厚シフランドル侯曾テ之ヲ知ラス即巴里府ニ赴ク王乃之ヲ捕ヘテ囹圄ニ下シ拘留スルヿ一年其後侯ト夫人トヲ放免スト雖其女フィリッパハ終身禁錮セリ

王フィリップ此ノ如キ兇暴ヲ行フヨリ歐全洲皆讐敵トナル即合從シテ王フィリップヲ拒カントス然レ𪜈王ハ詭計ト賄賂トヲ用ヰテ終ニ其合從ノ徒ヲ離散セシムルヿヲ得又英國王子エドワルドト相親睦セシト欲シ其女イサベルヲ以テ之ニ妻ハセリ

是ニ於テ王フィリップハ全國ノ兵力ヲ以テフランドル州ヲ襲撃セントス其臣民ヲ召集シテ之ニ告テ曰ク余今軍ヲ出サントス此役ヲ終ルマテ敢テ私闘スルヿ勿レ又兵器ヲ動シ以テ遊戯スルヿ勿レ勝敗決罪ノ事モ亦爲スベカラズト

フランドル侯ノ王ニ攻撃セヲル、頗急ニシテ大ニ窘困ス竟ニ自出テ巴里府ニ到リテ其理否曲直ヲ辨論セントス時ニシヤル、ド、ワロワートト云フ者佛國ノ將タリ侯ニ約シテ安全ニシテ還ルヿヲ保セリ是ニ於テ侯巴里府ニ抵ル王乃之ヲ捕ヘテ拘囚ス曰ク余固ヨリ侯トシヤルトノ約ニ關ヲス是ニ於テシヤル大ニ王ノ不信ナルヲ怨ミ職ヲ辭シテ以太里國ニ之ク

フランドル侯ヲ囚フルニ當テ佛國ノ臣民大ニ異議ヲ發シ之ヲ拒ク者

多シ既ニシテ又兵ヲ發シテフランドルヲ伐ツ佛ハ老將ヲ選ミ精兵五萬ヲ領シ之ニ赴クフランドル州ノ兵ハ皆農商不教ノ兵ニ出テ、固ヨリ其ノ敵ニ非サルコトヲ知レリ

其農商不教ノ兵反リテフランドルノ大幸ヲ取ルニ至レリフランドルノ兵ハ既ニ皆商賈農人ナリ佛軍大ニ之ヲ蔑視シ敢テ攻撃ニ留心セス又之カ備ヲ爲サス因テ大ニ敗績セリフランドル人ハ大ニ利ヲ得テナイト輩所有ノ金「スポールズ」ヲ獲ルヿ其數四千ニ至ル

是ニ於テ王フィリップ更ニ親軍ヲ卒ヰテ之ヲ攻ムフランドル人敗ヲ取ルコト一次然レトモ意氣剛強ニシテ曾テ屈セス街市兵衆麕集シ各門戸ヲ守レリ

王フィリップハ少時間ニ敵人ノ多ク來リ集ルヲ見テ大ニ驚キ乃謂テ

曰ク余復軍ヲ旋スノ日無ランカ何ゾフランドル人ノ雲起霧集スルノ暴ナルヤ時ニフランドルノ軍ヨリ使來リ佛王ニ聞テ曰ク今日直ニ雌雄ヲ決センカ將和ヲ講シテ利ヲ享ケントスルカト王之ヲ聞テ更ニ驚愕ス勢已ニ戰フヘカラサルヲ知リ乃共ニ和ヲ講センヿヲ約セリ

第五十七篇　タンプリエーノ衰滅

前既ニタンプリエーノ起立セルヿヲ載ス今此ニ其黨ノ漸ク衰運ニ嚮スルヿヲ記セン夫此黨ハ皆法ヲ信スルヿ頗篤ク且豪勇ノナイトタルヲ以テ歐洲諸邦ノ民大ニ之ヲ感稱シ之ニ賞與スルニ其所有財寶ヲ以テス而シテ黨人又法教巡拜者ヲ守護保衞スルコトヲ常トス

此ノ如クニシテ漸富豪ヲ致スト雖其ノ德望漸衰廢ス各自謂フ東土ニ在リテ汲々トシテ巡拜者ヲ保護スルノ責ニ任センヨリハ寧ロ歐洲ニ

當時盛榮ノ業ヲ營マン又亞細亞洲中海暑沙漠ノ地ニ在リテ法敵ト戰ハンヨリハ寧歐洲ニ在リテ強武ヲ以テ聲名ヲ競フニ如カスト

王フィリップハ此黨人ノ其ノ本分ヲ怠ルヲ名トシテ竟ニ之ヲ廢滅セリ實ニ至テハ其所由二アリ一ハタンプリエー黨中一ノ高貴者嘗テ已ニ犯觸スルコトアリ故ニ其怨ヲ報センカ爲ナリ一ハ其富豪ヲ羨ミ之カ財賄ヲ略奪セント欲シテナリ

此黨ヲ廢滅スルハ法王ノ允許ヲ得ルニアラザレハ能ハス是ヲ以テ王フィリップ屢出テ法王ニアヴィニヨン都近傍ノ一林中ニ會合ス是其密事ノ漏洩スルヲ恐ルヽカ爲ナリ王茲ニタンプリエー黨ノ當ニ滅スヘキヿヲ論シ且書案ヲ製シ以テ法王ニ呈ス其文頗長クシテ其旨趣酷暴ニ過クルヲ以テ法王大ニ之ヲ怪ミ彼ノ黨人ニ告ルニ其實ヲ以テセ

リ
是ニ於テ「ダンブリエ」黨ノ倡首タル者法王ニ請テ曰ク願クハ公然ト糺問セラルヽヲ得ント法王乃許諾ス而シテ佛王ハ心ニ之ヲ欲セス曰ク之ヲ糺彈スルモ恐クハ久ク決スヘカラサラント其權威ヲ以テ之ヲ抑壓センヿヲ計レリ
王一日竊ニ命ヲ傳ヘテ盡ク佛國ニ在ル「ダンブリエ」黨人ヲ縛セシメ且其所有ノ財寶ヲ沒收ス時ニ法王之ヲ聞キ王ノ暴擧ヲ惡ミテ大ニ憤怒セリ其王ト共ニ其沒收ノ財寶ヲ分受スルヲ得ルニ及テ亦更ニ之ト相和親セリ
此黨中ニ在ル一ノナイト某ハ考掠セラレ其苦ニ堪フルヿ能ハス竟ニ罪ニ誣伏セリ而シテ纔ニ其苦ヲ免ルヽニ及ヒ再具狀シテ其ノ誣服ナ

ルコトヲ陳スレトモ竟ニ慘刑ニ處セラレテ死セリ此黨ノ倡首タル「ドモレー」ト曰フ者適「シープルス」島（地中海ノ一島嶼）ニ在リ佛王ノ此擧アルヲ聞テ乃曰ク余直ニ巴里府ニ至リテ黨中ノ榮名ヲ保有セント或人其身ノ危カランヿヲ恐レ之ヲ諫止スレトモ聽カス遂ニ走テ巴里府ニ赴ケリ
「ドモレー」去テ巴里府ニ抵レハ則縛ニ就ク王三個ノ「カルディナル」ヲ召シテ「ドモレー」ノ犯罪ヲ案問セシム「カルディナル」（僧ノ爵名）ハ位法王ニ亞ク者ナリ「ドモレー」固ヨリ無學ニシテ書ヲ能クセサレハ三僧之ニ代リ執筆シテ口供ス而シテ其書スル所「ドモレー」ノ言ニ依ラス更ニ罪ヲ假造シテ口供セリ
當時ノ例書ヲ能セサル者事ニ逢ヘハ則其劍ノ把ニ印シテ其性名ヲ書スルニ代フ乃「ドモレー」モ亦之ヲ印セリ是ニ於テ竟ニ有罪ニ服シ罪狀

ヲ掲示セラル、ヿ數日而シテ終身禁獄ニ處セラル
乃其口供ヲ法庭ニ出タシテ罪條ヲ告命ス法官之ヲ讀ムニ及テド、モレーー大聲シテ自呼テ曰ク是皆虚妄ノミ僧徒ノ余ヲ誣フル所ニシテ余固ヨリ罪アルニ非ズト
王此言ヲ聞テ大ニ憤リ速ニ之ヲ殺サント欲シ城中ノ庭園ヲ以テ刑場トセントスド、モレー將ニ死ニ就カントスルニ當リ呼號シテ曰ク嗟法王今日余ヲ暴殺ス余死後四十日ニシテ必神明ノ裁決ヲ請ヒ汝ヲ召サシメ又四個月ニシテ佛王ヲ召サシメテ斯ノ如クセシト其言ハ世ノ流言スル所ニシテ固ヨリ其實ヲ考フルニ由ナシ然レドモ法王ハ後四十日ニシテ殂シ佛王ハ四個月ヲ經テ殂セリト云フ

第五十八篇　ド、ツールノアー（譯シテ假戰ト云フ）

前ニ說クカ如ク當時少年貴族ノ遊戲娛樂トスル所ハ城中ノ庭園ニ在テ假戰スル者ナリ其ノ貴族ニシテ既ニナイトタル者ニ至テハ常ニ新技妙術ヲ出シテ最巧ナル者多シ
初此ノ城下ノ民ヨリ彼ノ城下ノ民ヲ挑ミ誘フ者アリ而シテ漸盛ナルニ至リテ竟ニ一州ノ人他ノ州人ヲ誘出シ互ニ戰戲ヲ爲ス者アリ斯ノ如キニ當テナイトノ勇悍ナル者ハ敵人ヲ選マス之ヲ全國ノ民ニ告知シテ曰ク苟余ト其雌雄ヲ決セント欲スル者アラハ何人ヲ論セス某月某日ヲ以テ出テヨ余某地ニ在テ俟ツベシト
此ノ戲ヲ稱シテド、ツールノアート謂フ其行ハル、日漸久クシテ其儀式漸嚴肅ナルニ至ル然レトモ又漸奢侈ニ過キテ竟ニ政廷ノ法度ニ關スル事アリ其方ハ之ヲ詳細ニ記載セハ則數冊子ヲ成スニ足ラン

ドツール、ノアムハ固ヨリ相親シテ戯ニ戦ヲ試ミルニ過キサレハ其所用ノ兵器ハ鋭鋒利刃ヲ用キルヿヲ許サス其鋒モ亦皆之ヲ鈍ニス其要トスル所ハ両士馬ニ騎リ長槍ヲ執テ相對シ其ノ接戦スルニ及ヒテ敵ヲ撕倒シテ馬ヨリ墜ス但其ノ軀ヲ馬背ニ結束スルヿヲ許サス其ドツール、ノアムヲ演セントスルニ先期ヲ刻シ豫之ヲ諸州皇宮王城ニ告知ス其言甚傲慢ナリ而シテ告知アレハ人心爲ニ搖キ其期漸近キニ及ヘハ則遠近俱ニ洶々トシテ須臾モ安カラス

ドツール、ノアムヲ演スル場ハ周圍ニ牆籬ヲ環繞ス稱シテリーズト爲ス又四圍ニ看棚ヲ設ク形廻樓ノ如ク數層アリテ後漸高クシテ狀階子ノ如シ席祖華ヲ爭ヒ美ヲ競ヒ其ノ奢侈ヲ極ム王公貴族后妃貴女等此看棚上ニ在リ又宿功雄名ノナイト選レテ此場ニ監タリ並ニ看棚ニ

在リ

ドツール、ノアムヲ演スル士ハ生平自眷愛スル所ノ婦女ヲシテ共ニ美名ヲ取リ又己カ術ノ優劣ヲ示サント欲スルカ爲ノミ而シテ各人皆鐵衣全身ヲ被フヲ以テ其何人タルヲ辨知スルコト能ハス故ニ其辨知シ得ンヲ欲シテ各異樣ノ文飾ヲ其楯面（圓形板ニシテ一手ニ能ク提持スヘキモノナリ以テ鎗矢丸等ヲ遮防ス其形ニ至テハ各同異ナリ）ニ施ス之ヲドヴイーズト謂フ或ハ兜鍪上ニ裝附スル者アリ（日本盔鷲等ノ如シ）之ヲシミエムト稱ス

ナイトハ黄金絲ヲ以テ織レル衣ヲ服シ之ヲ裝飾スルニドヴイーズヲ以テシ以テ華美ヲ極ル者アリ蓋コートダルム（譯シテ軍服ト云フ鎧冑等ヲ總稱ス而シテ現今ニ至テハ之ヲ用井テ徽章ノ稱ト爲ス）ノ名稱ハ斯ニ基セリ或ハ獅子虎彪或ハ鷙鳥其他猛獸等ノ形ヲ繡縫スル者アリ又此等ノ猛威ヲ表シテ名ヲ求ムルカ如キ

コトヲ好マサル者アリ佛王ノ章ノ如キハ始ハ鐵ヲ用ヰ後ハ百合花ヲ用ヰタリ

「リース」ノ設已ニ具スルニ及テ出テ戰戲ヲ爲サントスル者各自ニ其楯ヲ把リ之ヲ其場近傍寺院ノ垣上ニ掛ケテ之ヲ夸示ス須臾ニシテ傳令官出テ大聲ニ呼テ曰ク此ノ楯ハ某氏ノ持スル所彼ノ楯ハ某氏ノ用ヰル所ナリト以テ看者ニ告示ス此時ニ當リ貴女等ノ戰士ニ情故アリテ將ニ愬訴セント欲スル者ハ其士ノ持スル所ノ楯ヲ指點シ或ハ手ヲ以テ之ヲ麾シテ以テ判官ニ示ス

是ニ於テ判官其士ヲ案問シ既ニ有罪ニ皈スレハ之ヲ郤ケテ「リース」ニ登ルヿヲ許サス若其命ニ從ハス強テ登ラントスルヿアレハ則衆士之ヲ拒キテ之ヲ鞭撻ス其愬訴スル所ノ貴女モ亦之ニ與カリテ爺ニ登ル

ヿヲ得サラシム是其暴動無憚ニシテナイトノ分ヲ失セルヲ責誡シ以テ更ニ篤實温厚ノ人タラシメントスルナリ

一貴女ノ最美ニシテ且篤實ナル者ヲ選ミ當日場中ノ后タラシム（后トハ當日場中ニ在テ賞罰褒貶ヲ司ルヲ尊稱スルナリ）又看棚ニ在ル婦女子ハ皆其生平已ヲ愛スル士ニ注目シ虛心ニシテ其勝敗ヲ伺ヒ頗快樂ノ佳境ニ入ル而シテ戰士ハ皆彼ノ「ファヴェウル」ニ其氣ヲ鼓舞セラレ大ニ其技ヲ相競フニ至ル「ファヴェウル」トハ其愛婦ヨリ贈ル所ノ肩巾面衣袖子手釧其他衣料若クハ裝飾料等ヲ以テ之ヲ鎧頭或ハ挽鞍甲冑等ニ裝附スル物ヲ云フ

此「ファヴェウル」ノ貴キ斯ノ如シ或ハ敵人ニ奪取セラル、アレハ則彼ノ愛婦又更ニ一物ヲ贈與シテ之ヲ慰勞シ且之ヲ鼓舞ス或ハ戰戲已ニ酣ニシテ勝敗久ク決セサルヿアレハ則其ノ愛婦其帶携スル諸物ヲ投

シ盡シ殆躰体ナラントスルニ至ル者アリ

第五十九篇　佛國貴族ノ驕傲エータゼ子ローヲ起ス附人ノ妖術ト稱スル者

王フィリップ嘗テ羅馬法王ト相善カラス是ヲ以テ彼ノ法教ヲ信スル者即カソリック宗徒ハ皆王ヲ惡メリ王嘗テタンプリエー黨ヲ處スルノ殘忍ナルト誅求ノ苛虐ナルトニ因テ大ニ怨ヲ人民ニ取リタリ且其作事亦皆苛酷ニシテ常ニ民人ヲ壓抑ス人民之ヲ怨ミサル者ナシ

王フィリップ更ニ制ヲ出シテ平民ニ許シテ封土ヲ賣買シ貴族ニ列スルヿヲ得セシム時ニ金匠ラウルト曰フ者因テ貴族ニ列スルヲ得タリ是ニ於テ世襲貴族大ニ憤リテ謂フ是貴族ノ權ヲ冒犯スル者ナリト因テ皆自謂フ余輩ノ尊貴ハ己ニ歐洲中ニ最タリ且ヿヲ己種族世々相承

テ今日ニ至レリ是又人中種族ノ最上等ナル者ナリト夫王ハ金工ラウルヲ舉ケテ侯タラシムルノ權アリト雖之ヲヿヲ己族ニ列セシムルノ權アラス

王又庶人ヲ擧ケテ之ニ權力ヲ有セシムルノ法ヲ出セリ元來議事ニ會同スルヲ得ル者ハ唯僧侶ト貴族ノミナリ而ルニ今其制ヲ變シ庶人ト雖亦之ニ與カルヲ得セシメ乃一千三百二年ヲ以テエータゼ子ローナル者ヲ起セリエータゼ子ローハ僧侶貴族及代民議者會議スルノ名ナリ此會議ハ相嗣テ行ハル紀元一千六百十四年ニ至テ始メテ廢止シ爾來紀元一千七百八十九年ニ至ルマテ復會同ヲ行フヿアラス

王フィリップ一日田獵ヲ爲スニ馬蹶キテ王墜ツ因テ遂ニ殂セリ實ニ紀元一千三百十有四年ナリ年四十六在位二十九年王將ニ殂セントス

ルトモ床上ニ在リテ偶既往ノ虐政臣民ヲ暴害セシヿヲ悔ヒ乃太子ルウイーヲ召シテ之ヲ誡メテ曰ク爾來租斂ヲ薄クシ仁政ヲ施シ訟ヲ聽キ獄ヲ斷スルニハ一ニ廉直ヲ主トシテ民人塗炭ノ苦ヲ救除セヨ又惡金ヲ造出スルヿ勿レト

王三男二女アリ其殂スルニ及テ乃三子相嗣テ位ニ即ク在位各久シカラスシテ殂ス三王皆嗣子ナシ故ニ位ヲシャルドワロワーノ子ニ傳フ王フィリップノ嫡長ルウィート曰フ者ハ世之ヲ綽號シテル、ホユータン（性急ノ義）トス然レドモ何ニ由テ稱スルヤ余未考フルヿ能ハス

王ルウィー即位ノ時年二十六ナリ而シテ政權ヲ以テ叔父シャルドワロワーニ委セリシャルドワロワーノ事ヲ執レル始ニ前王フイリップノ相臣ドマリニーヲ殺セリドマリニー人ト爲リ廉直端正ニシテ才能

アリ人ニ超越ス是ヲ以テ當ニ貴族輩ニ嫉忌セラルドマリニーヲ以テ竊盜ト爲シ案問スルニ及ハスシテシャル之ヲ死刑ニ處セリ其妻モ亦之ニ坐セラル其跡頗譎秘ナリト謂テナリ譏スル者アリテ曰クドマリニーノ妻ハ蠟ヲ以テ王像ヲ造リ之ヲ文火爐邊ニ安シテ漸々溶解セシム是王ヲ呪咀スルナリト

又曰ク其蠟像漸ク溶解スレハ則王ノ軀幹從テ漸ク痩痾シ其溶解シ盡ルニ及テ王乃殂セリト是ヲ以テドマリニー氏ノ婦モ亦獄ニ繫カル而ルニシャルハドマリニーヲシテ冤罪ヲ被ラシムルヲ悔ヒ悲痛シテ竟ニ死スルナリ故ニ其病根分明ナラス世人其死ヲ以テ妖術ニ罹レリト云ヘリ凡當時苟思考スヘカラサルヿアレハ則概之ヲ稱シテ呪咀妖術ノ所爲ニ係レリトス

王ルウイー始テ位ニ即キ倉廩ノ空虚ナルヲ査出シ乃之ヲ憂ヒテ其國内ニ令シテ曰ク凡ヨールニタル者皆若干ノ金ヲ獻納スレハ則自由ノ民タルヿヲ得セシメント然レ𪜈人民多ク謂フ其ノ自由ノ民タランヨリハ寧富有ノ民タラント此令ニ從フ者少ナシ王ハ財ヲ欲スル心切ニシテ民情ノ如何ヲ問ハス強テ之ニ從ハシム實ニ苛ナリト謂フヘシ

第六十篇　第十世ルウイーノ殂憲法ルワー、サリックヲ用ヰル猶太民常ニ厄害ニ遭フシヤル、ル、ベルノ傳花ヲ與ヘテ詩ヲ賞スル戯

王ルウイール、ホユータン在位僅ニ十九月ニシテ殂ス熱ヲ著ミテ冷水ヲ飲ミ因テ病ヲ發スト云フ王一女アリ之ヲジヤーント曰フ然レ𪜈憲法ルワー、サリックニ女ニシテ王位ニ登ルヿヲ禁ス故ニジヤーン位ニ

即クヿヲ得ス此法ハ數百年間行ハス此ニ至テ始テ之ヲ行フ

一貴族某氏獨此憲法ノ不可ナルヿヲ論シテ王女ジヤーンヲシテ嗣立セシメンヿヲ主張ス而シテ巴里門ニ在テハ偏ニ憲法ルワー、サリックヲ固守シテ之ニ抗シ陰ニジヤーンノ叔父フィリップト曰フ者ヲ奉シ之ト誓テ爲ニ誠忠ヲ竭サントス竟ニ之ヲ立ツ而シテジヤーンハナヴアール國ノ王トナルヿヲ得タリ此國ハ固ヨリ憲法ルワー、サリックアラサルニ由レリ

王フィリップ在位六年ニシテ殂セリ其治世ノ際酖毒ヲ以テ井泉及河源ニ流ス者アリ是一大危惟ト謂フヘシ或人訴テ曰ク是猶太人ノ爲ス所ナリト其眞僞ハ未知ルヘカラス當時世ニ惡事アレハ則常ニ猶太人ヲ誣テ其罪名ヲ負ハセ其困厄際涯ナシト云フ

且猶太人ハ常ニ他種族民ト相交通スルヿヲ得ス其疾視セラル、ヿ猶耶蘇マホメット等ノ宗徒ヨリモ甚シ故ニ窘辱屈苦ヲ取ルコト少カラス法教者流曰ク夫ノ神孫（耶蘇ヲ指ス）ヲ磔殺セル民（猶太民ヲ指ス）ヲ窘ムルハ神ニ事フルノ道ナリト又兇惡貪吝ノ民ハ之ヲ以テ名トシ猶太人ノ苦作シテ獲ル所ノ財貨ヲ掠奪スルニ至レリ

第五世フィリップ紀元一千三百二十二年ニ至リテ殂ス初王シェーン河嶋中ノ王宮ヨリ郭外ノ離宮「ワルーヅル」ニ遷ル世ニ綽名シテル、ロントヘリ王一女アリ亦嗣立スルヲ得ス乃王ノ弟立テ位ニ即ク之ヲ第四世シャルトス世ニ綽名シテル、ベルト稱ス

第四世シャルハ在位ノ間史冊ニ登記スベキ事ナシ僅ニ載記スベキ者ハ唯花ヲ與テ詩ヲ賞スルノ戲即チ「フロロ」ヲツルーズ州ニ起ス者ナ

リ初詩ニ志アル者七人アリ第五月ヲ期シ「ツルーバデウール」者流後裔ノ「フロワンス」州ニ在ル者ヲツルーズ州ニ招集シ大ニ詩會ヲ行フ時ニ紀元一千三百二十三年ナリ

其作ル所ノ詩最絶妙ナル者ニハ金造ノ「ウオレツト」（花名其色極青其香最美之ヲ百花中ノ最トス）ヲ與ヘテ之ヲ賞セリツルーズ人皆謂フ此亦一快樂事ナリト議シテ連歳之ヲ行フ但歳ニ一回スルヲ例トス其費用ハ民費ニ取ル因テ一社ヲ起シ執事數員ヲ置ク統領及書記アリ而シテ起初ノ七人之ニ社長タリ

始メハ賞スルニ唯一物ヲ以テス今ハ更ニ二物ヲ以テセリ曰ク金造「エグランチーヌ」（草花ノ一種長サ凡ソ三四尺形薔花ニ類ス其色純白其香頗異リ）曰ク「ペンジー」（堇菜ノ一種）其相會スル常ニ三日ヲ限ル而シテ詩家ハ各其ノ詩歌ヲ吟誦ス其第三日

ニ至レハ大宴席ヲ設ケ又詩ヲ賞スルノ品ヲ立ツル各差アリ「ヴイオレツト」ヲ以テ第一品トシ「エグランチー」ヲ以テ牧人謡歌ヲ賞スル第一品トシ「ペンシー」ヲ以テ頌歌ヲ賞スル第一品トス

一人ニシテ三個ノ褒賞ヲ併セ得ル者アレハ之ヲ美稱シテ「ドクトル、ド、ル、ゲー、シヤーンス」（快樂學術ニ老錬スル士ト云フ義）ト曰フ紀元一千五百四十年ニ至リテ適一豪家ノ女某悉ク其ノ貨財ヲ出シテ此會同ヲ盛ニシ又其持久ヲ計ル爲ニ資財ヲ出ス者アリ又更ニ三個ノ褒賞ニ增スニ「オリイユ」（洛陽花）ヲ以テセリ此會同ハ相繼テ紀元一千七百八十九年ニ至リ佛國大變革ノ際ニ及テ始テ廢止セリ

紀元一千三百二十八年王シヤル、ロベル殂ス嗣ナシフユーグ、カツペーノ裔苗シヤル、ド、ワロワーノ子フイリツプヲ立テ、位ニ卽カシム爾來

佛王系中此王派ヲ稱シテワロワー王派トス

第六十一篇　第六世フイリツプ、ド、ワロワーノ傳英王エドワルドグイエーン一州ヲ受ケ佛王ニ禮謁スド、モンフオールノコウンテツス（侯ノ夫人）ノ勇敏

佛王フイリツプ、ド、ワロワー位ニ卽ク時ニ年三十有六綽名シテル、フオルチユテー（盛運ノ義）ト爲ス蓋前王ノ子ニ非スシテ偶立テラレテ王冕ヲ冠スルヲ以テ稱スル所ナリ然レ圧終身竟ニ幸福ヲ享ルコトナシ其綽名ニ副セス

此王性慓悍謀少ク猜疑シテ愛憎アリ但一氣勇往曾テ怯色ナシ此時ニ當リ英王エドワルド王ノ立ツヲ忌ミテ之ヲ論諍スル所アリ英王大后ハ佛王フイリツプ、ル、ベルノ女タルヲ以テ自佛國ニ王タルノ權アリト

謂テ因テ之ヲ論スルナリ

英王エドワルドノ論スル所其理明正ナラス何トナレハ大后ハ佛王ノ女ナリト雖憲法「ロワーサリック」ニ依レハ嗣立スルコト能ハサルハ已ニ明ナリ又憲法「ロワーサリック」ニ依ラサルモ亦即位スルコト能ハサル所アリ已ニ然ヲハナヴァールノジャーント其裔苗トニ出ル者ニアラスハ眞ノ嗣王タルヿ能ハス然ルヲ英王エドワルド擅ニ之ニ王タラントト欲ス豈得可ケンヤ

エドワルド己ニ王位ヲ欲求スト雖未其意ニ副ス可キ兵備アラス是ヲ以テ尙自藏シテ色ニ見ハサス其ノ佛國中ニ於テグイエーン州ノ封ヲ受クルコトアルヲ以テ乃佛王ニ禮謁セントス時ニ即位ノ儀頗壯嚴ナリ王フィリップノ意務メテ彼ノ爭人（權位ヲ相爭フノ義即英王エドワルドヲ指ス）ニ不快ヲ懐カシメントトス

乃自至尊ノ御座ニ登リ金繡百合花ノ美紫衣ヲ服シ頭ニハ珠玉冠ヲ戴キ手ニ笏ヲ執ル其儀色燦然トシテ眼目ヲ射ントトス而シテボヘミヤ國王ナヴァール國王及マジョルカ國王其他公侯牧伯百官ハ環立シテ之ニ侍セリ

英王エドワルド乃官人ニ迎ヘラレ佩劍ヲ脱シ進テ王フィリップノ御座前ニ至リ跪拜シテ禮ヲ修メントトス一官人ノ曰ク公グイエーン州ニ侯タレハ即是我佛國ノ臣タリ請フ之ヲ了知セヨ且宜シク盟約ヲ爲シテ恭敬ヲ致シ誠忠ヲ表スヘシト

エドワルドハ未曾テ斯ノ如キ盟約ヲ修ムル所以ヲ知ラス因テ之ヲ抗論スルヿ少時終ニ得ルコト能ハス大禮ヲ畢ヘテ去ル未幾ナラサルニ

英王エドワルド自其意欲ヲ見ハシ僭シテ佛王ト稱シ且其王ノ徽章ヲ
僭用ス

英王尺土ノ佛國ニ在ルモノナクシテ佛王ト僭稱シ其徽章ヲ僭用ス爾後佛王ナポレオン、ボナパルトノ世ニ及テ始テ之ヲ廢セリ夫佛王フィリップハ外患アルニ當リテ猶毅然トシテ一兵ヲ募集スルコトナシト云フ

王フィリップハ其所行誠一ナラサル所アリ因テ臣下貴族ノ信ヲ失フ嘗テブリダンヤ州ノ一貴族某氏ヲ召シ巴里府中ヲ—ルノア止ニ至ラシメ卒ニ之ヲ捕縛シ其罪犯ノ有無ヲ問ハスシテ之ヲ刑殺セリ此時ニブリタンヤ州ニ又一貴族アリ之ヲジャンド、モンツォ—ルト曰フ

古史學家フロツサ—ル氏曰クモンフォ—ル氏ノ妻ハ敏捷ニシテ勇アリ其行事猶男子ノ如シ事アレハ則鎧冑ヲ被リ大馬ニ跨リ出テ夫壻ニ從ヒ軍陣ニアリテ孜々トシテ力ヲ尽セリ然レ𪜈天福ヲ以テ終ルヿ能ハス佛軍ニ驅逐セラレ竟ニヘノボンノ一小砦ニ逃レテ之ヲ避ケリ

英王エドワルド之ヲ援ケンヿヲ約スト雖其ノ援兵未タ至ラサルヲ以テ砦中ノ兵皆大ニ怨憤ス時ニモンフォ—ル氏ノ妻其兵ニ謂テ曰ク請フ姑城ヲ守レ今ヨリ三日ニシテ援兵至ラスハ則已マン衆因テ城守スルコト二日時ニ佛軍肉薄シテ進ミ將ニ之ヲ陷レントス

是ニ於テ烈婦モンフォ—ル氏策ノ施ス可キナシ破膽ノ餘樓櫓ニ登リ遙ニ海上ヲ望メハ數多ノ船艦英國ノ旗章ヲ飄ヘシヘノボン城ニ向テ來ル乃踊躍シテ街坊ニ走テ出テ大ニ呼テ曰ク赤十字旗（英國旗章）來レリ赤十字符旗來レリ衆謂フ英兵ノ我ヲ援クル者ナリト其踊喜想フヘシ

英王援兵ヲ從ル時適逆風ノ為ニ沮テヲレテ海上ニ日ヲ曠クシ纔ニ此日ニ及テ達スルヿヲ得タリ烈婦之ニ依テ竟ニ恙ナキヿヲ得タリ已ニシテ英軍都督ソル、ウオルトル、マニート日フ者乃彼ノ烈婦ト接吻スルヲ得タリ是此役ニ勞力スル報ト爲スヘシ

第六十二編　英兵クレシー地名ニ軍ス佛王更ニ刃ベーヒノ制ヲ出ス英國始テ大銃ヲ造ル

英王エドワルド太子エドワルドト共ニ勁兵ヲ率ヰ來リテ佛國ニ入寇ス是時太子玄甲羽蓋シテ出ルヲ以テ世綽名シテブラック、プリンスト日フ諡シ玄甲ヲ被ルヲ云フナリ既ニシテ兩軍クレシーニ合戰シ英軍大ニ佛兵ヲ破ル時ニ紀元一千三百四十六年第八月二十三日ナリ佛軍ノ敗ル所以ハ其兵相爭ヒテ和セス且將タル者軍事ニ怠タルヨリ出ツ

小ナルヲ散マスシテ大ナル禍ヲ取ルト謂フヘシ

其兩軍接戰スルニ及テ兩驟ニ至レリ佛軍弓ヲ弓筈ニ藏ムルヲ爲サス弦皆弛ミテ矢發スルコト能ハス其發スルモ亦遠ニ達セス而シテ英軍ハ能皆豫之カ備ヲナスヲ以テ遂ニ勝ツコトヲ得タリ

佛王フィリップ奮テ英軍ニ當ルト雖竟ニ支フルヿ能ハス大ニ敗績シ殘兵僅ニ六人王ニ從フヿヲ得タリ凡佛兵ノ此役ニ死セル者王者二人公侯十有一人高位ノ貴族八十人ナイト一千二百人士人ニ至リテハ三萬有餘人ナリト云フ

ボヘミヤ國王ハ老テ而シテ盲ナレトモ常ニ以テ佛王ヲ輔導スル人タリ亦此役ニ死セリ其旌旗奪ハレテブラックプリンスノ營ニ取リ去ヲル其旗章ハ上ニ三ノ駝鳥羽ヲ画キ下ニ獨乙邦語ヲ以テ「イヒ、デイヒ」余之

ヲ幾ムルノ説ノ字ヲ書セリ英國太子エドワルド之ヲ取テ自徽號ト爲セリ爾來英國太子即プリンス、オフウエールスタル者世々之ヲ以テ自徽號ト爲ス

此役ニ當テ英兵始テ大銃ヲ造リ之ヲ軍ニ携フルヿ大門是大銃ヲ用ヰルノ濫觴トス佛王フイリップ大ニ此ノ敗ヲ恥ヂ乃復軍ヲ出シテ之ヲ雪カント欲シ國内ノ租税ヲ增課シ之ヲ以テ軍需ニ充テントス其ノ數項ノ課税法中更ニ一項ノ苛酷ナル税法アリ此法ハ最人民ヲ害スル者ニシテ或ハ其性命ヲ保ツ可カラス之ヲガベール租税ヲ云フ此課税法ハ最民人ノ害苦スル所ナリ即租税法ヲ言ヘハ皆之ニ係ルト稱ス

ガベールノ行ハル、コト已ニ久シ後終ニ變シテ專賣獨權諸物ヲ販賣スルニ一己ニテ悉其利ヲ網スルノ權利ヲ謂フト爲ル即鹽鹹ハ皆之ヲ官人ノ倉廩ニ輸納セシメテ

王隨意ニ之カ價直ヲ定メテ以テ販賣ス近代ニ及テ政廷又租税ヲ徵課スルノ權ヲ下民ニ賣與スルニ至ルヿエルミエー、ゼテロ上借主ノ義即徵ノ租税ヲ徵課スルノ權ヲ買者ヲ指スアリ其購求シ得ル所ノ權ヲ以テ擅ニ税租ヲ收集シ自若千金ヲ出シテ之ヲ政府ニ獻納シ因テ大ニ利スル所アリ之カ爲ニ富豪ヲ致ス者多シ而シテ庶民之ヲ疾視セサル者ナク目シテ掠民致富ノ人ト爲ス

王者又或ハ之ヲ冷笑スル猶下民ノ如キ者アリ羅甸語ニ鹽ヲ謂テ「サル」ト爲ス英王エドワルド嘗テ佛王フイリップノ鹽税ヲ課スルコト甚重キヲ聞キ乃謂テ曰ク佛王フイリップ頗「ロワー、サリツク」法ヲ愛スト「ロワー、サリツク」ハ上既ニ説過セル所ノ如ク己ニ佛國ノ一要法タリ當「サル」ト稍相近キヲ以テ取テ以テ其ノ重ク鹽鹹税ヲ課スルヲ譏咲ス

第六十三篇　英軍カレー都ヲ攻擊ス幷カレー都ノ六傑ノ記

英軍已ニクレーシャンニ利ヲ得テヨリ後更ニ轉シテカレー都（佛國西北部ノ一港ニシテ英國ト極テ相近シ）ヲ攻ム是ノ地ハ佛國一要害ノ所ニシテ英人ノ切ニ要スル所ナリ英國ニ在テ此地ヲ有スレハ其來テ佛國ニ寇スル甚容易ナルヲ以テナリ

都官司某人ト爲リ勇悍ナリ英軍ニ攻擊セラルト雖固守シテ敢テ降ヲス以テ援兵ノ來ルヲ俟ツ者凡一年佛王フィリップ大軍ヲ帥ヰテ來リ援フ而シテ英軍既ニ堅ク炮臺ヲ築キテ都城ヲ圍ム佛軍之ヲ望ミ心大ニ懼レ相持シテ未戰ハス

是ニ於テ佛軍謀リテ野戰ヲ以テ雌雄ヲ決セント欲シ兵ヲ出タシテ英王ヲ誘フ英王謂フ野戰ハ勝敗遂ニ決シ難シ此ノ要地ニ在テ必勝ノ計ヲ爲スニ如カスト敢テ之ニ聽セズ是ニ於テ佛王フィリップ計盡キ終

ニ成敗存亡ヲ以テ天ニ聽カントス

時ニ都下ノ民謂フ英軍ニ敵セハ勝タサルコト必セリト此日爵々トシテ心樂マス且久シク圍中ニ在リ糧食欠乏シ牛馬羊豚犬猫皆喫シ盡シ飢困窘厄シテ命旦夕ニ在リ都官司其支フヘカラサルヲ知リテ終ニ降ヲ英軍ニ乞フ

時ニ英王エドワルド此ノ民ノ義氣アリテ能ク都城ヲ固守スルニ感シ謂フ我臣民ヲシテ皆此ノ如クナラシメハ固ヨリ大ニ稱スヘシ但敵人ニシテ却テ然レハ唯我ニ害アルヲ懼ルノミト遂ニ都民ヲ屠戮セントス時ニ一臣某之ヲ諫メテ曰ク我此ノ殘暴ヲ爲サハ佛軍モ亦之ニ報ユル所無カランヤ我豫之ヲ恐ル此ニ由テ事纔ニ熄ムヿヲ得タリ

英王エドワルド遂ニ復都城ヲ屠ラス唯其城守ノ者六人ヲ召シテ王前

ニ至ヲシメテ曰ク汝來ルニ露頂徒跣身一襯衣ヲ着都門ノ管鑰ヲ持シ來リ致セト此命ヲ以テ遍ク都下ニ告知ス

都下洶々鼎沸ノ如シ時ニユーターズ、ド、サン、ピエールト云フ者アリ人ト爲リ勇敢ナリ之ヲ聞テ奮テ朋友親戚ニ謂テ曰ク請フ余其六人中ノ一人タラン身犧牲ト爲リ死スルニ過キサルノミト是ニ於テ又五人ノ者アリ相踵テ出テ王前ニ至ランヿヲ要ス

此ノ六人乃英王エドワルドノ前ニ至ル王其ノ曩日都城ヲ堅守スル狀ヲ責テ命シテ死刑ニ處セントス太子ブラック以下諸將士諫止スレトモ聽サス

后フィリッパモ亦之ヲ王ニ請フ后フィリッパハ英軍ノ曩日蘇人ト戰ヒ其ノ勝ヲ報シ來ル者ナリ其來ル僅ニ數日以前ニ在リ后幕營ニ入リ

王前ニ跪キ諫メテ曰ク王願クハ怒ニ乘シ凶毒ヲ逞シ以テ教法ト品行トヲ汚スヿ勿レト

王未遽ニ聽カス少頃ニシテ曰ク嗚呼汝ヲシテ此地ニアラサラシメハ又焉ソ過ヲ悔ユルコトアランヤ今汝ノ言ニ於テ之ヲ容レサルヿヲ得ス余一ニ之ヲ汝ニ委ス汝彼ノ六人ヲ以テ唯汝ノ處スルマヽニセヨ是ニ於テ六人ニ各衣類經費ヲ賜ヒ之ヲ還ヘス

第六十四篇　佛國太子ヲ稱シテ例ニドファント稱ス及ポワチエ地名ノ役ブラック、プリンスノ温恭

カレー都陷リテ後英佛兩軍既ニ和ヲ講セリ是時以太里國詩人ピートーラルク適佛國ニ來ル此人曾テ佛國ニ會集スル詩人中最有名ナル士ナリ嘆息シテ謂テ曰ク嗟此國既ニ火ト鐵ト無キカ田野悉ク荒蕪シ曾テ

耘耕スル者アラサルカ如シト

又謂テ曰ク家屋廢荒多ク唯城邑炮臺ノ舊趾ヲ見ル又英軍營柵ノ跡ト其擊破攻壞セル跡トヲ見ル一十數處而シテ巴里府モ亦寂寥トシテ前日ノ繁華ニアラス街坊蕪莽シテ原野ノ如シ見ル者誰カ慨嘆セサランヤ又誰カ吊哭セサランヤト

佛王フィリップ殂ス在位二十三年壽五十七實ニ紀元一千三百五十年ナリ王二男一女アリ其未殂セサルニ當テドフィチー州ヲ沒收シテ之ヲ併有スドフィチー侯ノ死シテ嗣ナキヲ以テナリ乃臣民ト約シテ曰ク將來我佛國太子ヲ稱スルニ世々ドファンノ名ヲ以テセヨト

史册稱シテドファント書スル者ハ則佛國太子ヲ云フ其義ハ英王ノ太子ヲ稱シテプリンス、オフ、ウェールスト爲ス者ト同シ

前王ノ嗣ジャン位ニ即ク時ニ年四十其性勇悍常ニ兵ヲ好ム佛人ノ好愛悅服スル所ナリ王已ニ此性ヲ賞ル因テ之ヲ綽名シテロボン（其好トノ義）ト稱セリ此王在位ノ日ヲ以テ佛國最不幸ノ世ト爲ス

既ニ英軍講和スト雖亦竟ニ平ナラス互ニ相疾視シテ戰攻アリ此時英國ノ太子ブラック即エドウォールド猶少シ小軍ヲ以テ佛國ニ入寇ス

佛軍大衆ヲ以テ英軍ヲ圍ミ之ヲ攻擊スルヿ甚急ナリ

一臣其策ヲ佛王ニ獻シテ曰ク急擊ストモ遽ニ志ヲ得ヘカラス唯圍ヲ緩メ持久ノ計ヲ成シ英太子ヲシテ糧食ニ困セシメ其自投降スルヲ俟テト王ジャン聽カス只專戰勝テ名聲ヲ揚ケンヿヲ欲ス而シテ英軍頗堅クシテ動カス僅ニ一方ノ近ツクヘキ徑路アルノミ

紀元一千三百五十六年第九月十九日王ジャン軍ヲ以テ英軍トホワチ

エ｜ニ戰フ兵交ルニ及テ佛軍遽ニ驚奔シ軍大ニ潰ユジヤン愛子フィリツプト共ニ英軍ノ虜ト爲リ英太子ノ營ニ送リ拘ハル英太子之ヲ遇スル甚厚シ

己ニシテ晩食ノ時英太子佛王父子ヲ饗シ之ヲ待遇スルコ甚恭シク猶父母ニ事フルカ如シ且佛王ノ樂マサルヲ見テ懇ニ之ヲ慰解シ意ヲ用ヰルコ頗深切ナリ遂ニ佛王父子ヲ帶シテ龍動府ニ回ル英國王后之ヲ迎ヘ待スルニ賓客ノ禮ヲ以テシ之ヲ拘留スルコ四年

英軍ノ凱旋スル行ヲ正シ列ヲ嚴ニシ揚々トシテ皈テ龍動府ニ入ル時ニ佛王ジヤン王衣ヲ服シ白馬ニ跨リ亦此隊中ニ在リプリンス、オフ、ウエ｜ルスハ則瘦騮ニ跨リテ佛王ノ近傍ニ在リ當時或ハ之ヲ以テ謙恭禮讓ヲ外飾スル者ト爲ス顧フニ今日ヲ以テ往昔ヲ度リ其可不ヲ決ス

ヘカラス

當時ノ俗苟戰勝ヲ得テ凱旋スルニ當テ其敵國ノ王公ヲ擒虜シテ之ヲ國民ニ觀スヲ以テ榮トス唯ポワチエ｜地名ノ役ニ於ルハ然ラス殊ニ温厚恭謙ノ意ヲ表シテ而シテ見聞スル者モ亦其榮タルヲ思ハス

第六十五篇　土寇ジヤクリ｜ノ役附三ナイト大ニ功ヲ成ス

佛國己ニ大兵ヲ被リ危急ニ迫リ上ニ勢權アリテ下ヲ制スル者ナシ是ヲ以テ貴族輩放恣跋扈大ニ其欲ヲ逞クセントシ債主ヲ以テ盡ク昔日セ｜ルフヲ置ク例ノ如クセントス夫當時貴族ノ暴惡無道ナル之ヲ說クモ或ハ信セサル者アランドスルノ甚ニ至レリ農人ノ家屋ヲ火キ之ヲ逐ヒ去ラセ農人之カ爲ニ其身ノ安キヲ求メ山野ニ走リ岩洞ノ間ニ棲處スル者アリ

凡小蟲モ之ヲ蹂メハ或ハ之ニ報ユ況ヤ人類ニ於テヲヤ彼ノ農人輩聚集會合シテ互ニ相訴ヘ常ニ見害ヲ蒙ムルノ酷ナルヲ悲傷スル時ニ一夫ノ大胆勇悍ニシテ敢テ忌憚スルナキ者アリ謂テ日ク人々身護スル所ノ權理アラスヤ衆之ヲ聞キ奮然トシテ日ク然リ焉ソ怨仇ヲ報セサルヘケンヤト

是ニ於テ農人各其有スル所ノ鋤鍬梃杖ヲ揮テ争ヒ起リ先近傍貴族ノ家屋ニ侵入シ其ノ人ヲ屠殺ス既ニシテ其衆稍々來リ聚リ過ル所壞毀殺戮セサルハナシ而シテ貴族輩未我債主ノ爾ク來リ襲ヘルヲ知ラズ之ヲ見ルニ及テ驚怖シテ已マス

是ニ於テ貴族輩顚到狼狽爲サン所ヲ知ラス時ニ土寇ヲ稱シテジヤクリ止ト爲ス是黨人皆ジヤケツ止（尺短縱衣）ヲ服スルヲ以テナリ此衣ハ役夫

輩ノ常ニ服スル所ナリ

時ニ佛國太子ノ妃ハ官女等ト共ニメウ都ニ在リ土寇之ヲ圍ミ攻ム都城中曾テ防守ノ備ナク唯オルレアンス侯某此都ニ在リ而シテ亦只一貴族タルノミ其都下ノ民ハ皆土寇ニ左袒シ都城ヲ開キテ之ヲ迎フ

是ニ於テ土寇來リ都門ニ迫ル時ニ英王エドワルドノナイト二人偶之ヲ過キ此ノ危急ナルヲ聞キ鞭ヲ揚ケ馬ヲ馳セ疾ク都下ニ赴ケハジヤクリ止已ニ宮城ニ迫リ將ニ宮門ヲ打壞シ又宮人ヲ屠ラントス

二人乃劍ヲ揮テ之ニ當リオルレアンス侯ト共ニ戮力奮闘シ七千有餘人ヲ殺スト是恐クハ虚妄ノ說ナラン但ナイトノ堅甲利兵駿馬ヲ以テ土寇ノ鋤鍬梃杖ニ當ル其ノ易キコト亦此ノ如キモノアルカ

又ナイトヲ以テ單身從士無シトスヘカラズ凡ナイトハ嘗テ單騎ニシ

テ他出スル「アラズ必從士アリ故ニ世ナイト及從士ヲ併セ稱シテ一
鎗ナイト常ニ從士ヲシテ一鎗ヲ持セシムルヲ以テ或ハナイトヲ稱シテ鎗ト爲ス具ト曰フ其從士ノ多寡均シ
カラス其主ノ等位ニ依テ差アリ而レドモ一鎗具ト稱スル者ハ概五六騎
ニ下ラス

第六十六篇　英王エドワルド佛國ト和ヲ講ス幷佛王ジヤンノ貴重スベキ行蹟

土寇ジヤククリ山ノ亂既ニ平定シテ國家稍安靜ナリドーフアン佛國ノ太子當ニ出ス政ヲ攝シ父王ノ還國ヲ謀レリ而レトモ英王エドワルド敢テ之ヲ
許サス公會ニモ亦之ニ左袒スルモノナシ

時ニ英王エドワルド兵衆ヲ率テ佛國ニ侵入シ遂ニ巴里府ニ抵レリドー
フアンハ元ヨリ才幹アリテ事務ニ練達ス當時ノ情勢ヲ熟察シ敢テ

兵ヲ以テ之ニ抗セス自若トシテ巴里府中ニ留レリ英王ノ親ラ衆ヲ帥
テ佛境ニ入ルヤ素ヨリ戰爭ヲ爲スノ狀ヲ見ズ徒ニ遊獵ヲ事トシ日ニ
鷹犬ヲ放驅シテ自樂ミ傲然トシテ國中ヲ横行スルノミ
王ノ志既ニ盈滿シ謂フ佛ノ國土ヲ以テ己レガ國土トスルノ日近ニ在
リト而ルニ天變仍ニ臻リ英軍ノ災害ニ罹ル者甚多シ因テ其意ヲ得ル
コト能ハス

時ニ迅雷天地ニ震ヒ大雹ノ降ル瓦石ノ如シ英軍ノ兵士及馬ヲ殺スコ
ト甚多シ是ニ於テ王大ニ恐怖シ天神予ヲ戒ムト爲シ遂ニ意ヲ降シテ
和ヲ講セリ

英王既ニ佛國ニ王タラントスルノ志ヲ絕チ約シテ三次ノ償金ヲ出サ
シメ以テ佛王ジヤンヲ放還セントス此ニ於テ王ジヤン先第一次ノ償

金ヲ納レテ國ニ歸ルヲ得タリ而シテ三王子及貴族三十人尙英國ニ在リ是未第二次ノ償金ヲ輸サヽルカ爲ナリ

凡羅馬敎法ヲ遵奉スル各國ノ人民ハ非常ノ禍災アレハ必其難ヲ免レンコトヲ求メ寺院ノ淨几上ニ於テ蠟燭ヲ燃クコト己マス時ニ佛國ノ人民王ジャンノ囚獄ニ在ルヲ以テ亦巴里府下ノノートルダム寺ニ於テ蠟燭ヲ燃ヤシテ遂ニ王ノ歸國ノ日ニ及ヘリ

其蠟燭蓋悠久ヲ經テ猶熄ヘサルナラン其脩々トシテ長キコト眞ニ異トスヘシ當時巴里府ノ周圍約六里英里法以テ之ヲ一匝スルニ堪フヘシ此蠟燭恰モ繰車ワタノ如キモノニ纏フ所ノ繩ノ如シ

英國ニ於テカレー都ヲ以テ佛國ノ質ヲ舍キ之ヲ囚獄トス其法令頗寬裕ニシテ囚虜出ル者アリテ四日內ニ歸リ來レハ唯其之カント欲スル所

ニ任ス然ルニ二王子ハ尙遑フルヿ能ハス竟ニ巴里府ニ遁レ歸リ再英國ニ往クヿヲ肯セス

佛王ジャンハ其子ノ約ニ背キテ國ニ還ルヲ以テ其ノ大ニ信義ヲ失フヲ憂ヒ復身親往キテエドワルドノ囚虜トナリ以テ之ヲ償ハントス王ジャン遂ニ復英國ニ赴キ千三百六十四年八日ヲ以テ遂ニ殂セリ

第六十七篇　巴里府下日々ノ景狀

諸國民ノ品行

占星學

今千三百年代巴里府下日々ノ事情ヲ說カン先早晨第一ニ鏗然トシテ耳ヲ驚カス者ハ鐘聲ナリ是ハ黑衣ノ人之ヲ敲キテ昨夜死スル所ノ人ヲ普告シ其ノ靈魂ノ爲ニ禮拜セシメントシテ所在ノ耶蘇宗徒ヲ呼出

スガ爲ナリ

次ニ熱湯ヲ携ヘタル人來リ湯ノ冷ヘザルニ及ヒテ速ニ來テ浴ス可シト唱ヘ行諸人ヲ促セリ此後數時間聞ク所ノモノナシ唯聞ク所ハ屠牛夫、麵粉商、及魚菓菜蔬ヲ鬻キ來ル者ノ聲ノミ

菓物ノ中通常斷エザルモノハ李實、梨子、林檎ナリ菜蔬ノ中人ノ需用ニ切要ナルハ大蒜ナリ是ヲ以テ一種ノ醬ヲ製シ牛酪ノ如ク麵包ニ塗抹シテ下飯ト爲スベキヲ以テナリ又玆ニ裁縫師アリ華奢ナル裝飾ヲ傚シ針絲ヲ把リ行人ヲ途上ニ迎ヘテ其衣ノ綻裂ヲ縫補セントス

或ハ禍災ニ罹レル者其戶邊ニ立テ往來ノ諸人ヲ迎ヘ高聲ニ之ニ愁訴スル有リ自餘ノ喧囂ヲ添フルモノハ僧侶書生ノ市街ニ施物ヲ乞フ聲ナリ

此ノ書生ト稱スルハ其頗貧困ナルコトヲ見ル當時ノ書ニ此等ノ生徒顏色憔悴シ亂髮弊衣シテ所在徘徊スル形容ヲ記セリ古ノ文法書ノ表裝ニ摸画スル所ハ當時ノ一學校中ノ圖ニシテ尤其光景ヲ見ルニ足レリ

圖中ニ衆生徒衣ヲ袒ギテ環立シ教師一大棒ヲ執ル是畢竟捶撻ヲ加ヘテ之ヲ懲スノ意ヲ寓スルナリ此棒ノ用タル甚大ニシテ學校費用ノ要件中ニ具書セリト云フ

巴里府ノ大學校ニ諸邦ノ學生集會セリサン路易ノ時ノ一評論家ノ説ニ據レハ伊人ハ倨傲ニシテ敢テ大言ヲ吐キテ孱弱ナリ日耳曼人ハ野鄙ニシテ粗暴ナリ諾耳曼人ハ驕亢ニシテ浮誇ナリ英人ハ酒ヲ貪リテ怯懦ナリ

當時稱擧スル所ハ占星學ナリ即星辰ヲ占窺スル學術ニシテ世事ノ未然ヲ先覺シ又人ノ生命上ニ就テモ亦能ク先知スト謂ヘリ是故ニ凡醫タルモノ皆之ヲ學ヒテ患者ノ病症ヲ占斷セリ

第六十八篇　第五世シヤル稱號ロサージノ事蹟

巴里府ノ文庫

コンスターブルデニゲクラーノ傳

詩人ペトラルク（前ニ見ユ）再佛國ニ來リドーフアンシヤルニ謁見スル時ニドーフアン既ニ位ニ即ケリ此ニ於テペトラルク其智識ノ明達ナルト其德行ノ優美ナルトヲ見テ大ニ驚歎セリ

ペトラルクノ尤盛服スル所ハ其ノ智諸物ニ明察ニシテ文學ノ士ヲ尊寵厚待シ且已カ智識ヲ擴メント欲シテ奮勵シテ事ニ從フニ在リ王ドーフアン常ニ曰ク學者ヲ尊敬スル父母ノ如クナルモ太過ナリトスルコトナカレ智能ニ〆名譽アル者尊敬セラルレハ佛國必安富尊榮ナルヘシ

王シヤル書籍ヲ聚集スル爲ニハ費用ヲ愛マス故ニ其ノ父王ノ時ニ當リテ王家ノ文庫ニ藏スル所僅ニ二十卷ナリ王シヤルノ世ニ至リテハ增加シテ九百卷ニ及ヘリ

故ニ王シヤルヲ文庫ノ始祖ト稱セリ方今ニ在リテハ書籍九十萬卷地圖三十萬部刷行ノ畫圖百三十萬餘ヲ藏セリ王シヤルノ人ト爲リ此ノ如シ故ニ稱號シテル、サージ（智慧アルノ義）ト曰フ名實相副フト謂フヘシ

王シヤルハサン路易カ美質アリテ其智識ノ明達シテ切磋ノ功力アルコト夐ニ人ニ過絕スルヲ以テ亡王ノ覆轍ヲ履ムコトナシ王シヤル以

前ノ王者ハ皆强勇ニメ撓マザルヲ以テ貴トシ殆將校ニ異ナルヿナシ王者躬戰役ニ赴カスシテ樽俎ノ間ニ折衝スルハ王シヤルヲ以テ首倡トス

英王第三世エドワルド常ニ曰ク我カ敵中皆ヲ我ニ抗スルノ勢ヲ見ハサヾルハシヤル一人ノミ吾ヲメ常ニ壓苦セシムルモ亦シヤル一人ノミ蓋シヤルハ善ク良將ヲ擧用セリ

佛國ノ將校中最著名ナルモノハデュ、ゲクランナリ是ニ於テ佛國ノ民自誇リテ曰ク我ニ最智識ノ王アリ又最勇猛ノ將アリトデュ、ゲクランハブロタンヨ州ノ貴族ナリ功績アルヲ以テコンスターブル、ドフランスニ擢任セラル是武官ニシテ王ニ亞テ高貴ナルモノナリ

王シヤル勢漸盛ナリ隣國ノ民常ニ英人ニ窘メラルヽヲ察シテ之ヲ解

免センヿヲ欲ス是時英王エドワルドノ屬部カスマン佛國ノ西南部ニ在ル者亂ル由テ此ニ乘シ其王エドワルドヲ召シテ臣屬セシメントスエドワルド從ハズ乃公告スルニ逆臣反者ヲ以テシ其ノ佛國內ニ在ル所ノ土地ヲ沒收セントス

英王ノ土地原ヨリ佛國ノ境內ニ在ルヲ以テ佛王ノ公告ニ於テ毫モ異論アラス佛王乃デュ、ゲクランニ兵衆ヲ授ケテギエーン州ヲ攻テ將ニ之ヲ拔カントスギエーン州ノ人民英王エドワルドニ服スルヿ嘗テ佛王ニ如カズ是唯其賢ヲ慕フノミナラズ固ヨリ其國人ナルヲ以テナリ故ニデュ、ゲクランノ功ヲ奏スルヿ最速ナリ

佛將デュ、ゲクラン進テランゲドック州ニ至リ其城ヲ圍ム城主期ヲ定テ師ヲ緩クセンヿヲ請ヒ約シテ曰ク期ニ及ヒテ援兵ノ到ラズバ當ニ

降ヲ軍門ニ乞フベシト期ニ先チテデュゲクラン死セリ因テ城主ニ勸メテ約ヲ踐ムヿ無カラシメントスル者アリ城主聽カス乃チ令シテ曰ク彼ノナイト世ニ在ル時信義ヲ以テ我ヲ待テリ今我モ亦信義ヲ以テ死者ヲ待ツベキノミト

既ニ期ニ及ヒ城主乃チ城ヲ擧テ出テ降リ佛ノ軍營ニ到リ亡將デュゲクランノ棺車上ニ城門ノ鍵ヲ置ケリデュゲクランノ屍ハサンドニー寺ニ葬レリ此寺院ハ元來國王ノ塋域ニメ人民ハ此ニ葬ルヲ許サス王デュゲクランノ爲ニ壯麗ナル墳墓ヲ造テ其上ニ燈架ヲ設ケ永ク之ヲ後世ニ傳ヘタリ

デュゲクラン死ニ臨ミテ其兵卒ヲ戒メテ曰ク吾居常汝カ輩ニ告ルニ軍ノ向フ所ニ於テ其婦女小兒僧侶貧人ヲ仇視スベカラザルヲ以テセリ汝カ輩謹テ之ヲ忘ルヽ勿レトデュゲクラン死シテ後人肯テ其職ニ代ラントスルモノナシ依テ久シク其官ヲ空クスルニ至ル是國人皆自才能ノデュゲクランニ及バザルヲ知レバナリ

第六十九篇　シヤルルサーシノ時文學國學幷ニ王シヤルル自家ノ生計

王シヤルル數多ノ希臘羅甸ノ古書ヲ佛國語ニ飜譯セシム而ルニ其ノ文甚拙シ當時著述者ノ言ニ曰ク譯者ノ無學無識ナル實ニ甚シト原著者其ノ譯スル所曾テ吾思想セザルコト多キヲ以テ大ニ之ヲ論訴セリ當時國史ノ編修許多アリフロワサルト云モノ一ノ歷史家ナリ其編修スル所ノ書風致アリ且以テ教訓トスベキ善書ナリ其ノ所以ハ稗史ノ文体ニ近キ一册子ト雖猶餘韻アリテ人ヲシテ感奮興起セシムルニ足

ルヲ以テナリ但詩學ニ於テハ强ヒテ稱賛スルコト能ハス其ノ人ニ優レル伎倆有ラサルヲ以テナリ

當時詩史詩傳ノ著作大ニ行ハル其詩タル情緒ニ適ルヤ否ヲ問ハス唯多ク韻字ヲ押スルヲ以テ巧妙トス故ニ人皆謂フ詩學ハ至テ難シト遂ニ詩ヲ能クスル者ヲ目シテ幻術家ト呼ヒ倣シ或ハ危難ヲ負ハシムルニ至ル

當時ノ画工精力ヲ究ルコト亦詩人ト異ナラス其人物ヲ画クヲ觀ルニ衣裳ト毛髪トノ形容ニ十分精神ヲ注キ其身体ニ至テハ不經意ニシテ輕々寫取セリ但人ノ其画意ヲ誤認セサランカ為ニ各人物ノ傍ニ記號ヲ附セリ

此ノ画ノ由テ起ル所ヲ原ヌルニ以太利ノ名画師嘗テ戯ニ佛ノ画工ニ

教ヘテ之ヲ為サシム其事方ニ佛人ノ才力ニ適シ遂ニ其言ヲ信用シテ此画大ニ國中ニ行ハレ猶人物ヲ確實ニセンカ為ニ之ニ記スルニ姓名ヲ以テスルニ至レリ

是ノ如キ巧力ヲ以テ製造シタル物今尚見存ス古色ノ掛氈條ノ属尤多シ當時唯水顔料ヲ用ヰルノミ油顔料ノ妙ナルハ其後百年ト雖猶未國中ニ用ヰル者アラス又當時家屋ノ制甚粗ナリ其意安穏ニ取ルニ非ズ亦便利ヲ謀ルニモアラザル者ノ如シ

家屋ハ壁中ニ孔穴ヲ穿チ光線ヲ引ク者多シ暴風雨ニ逢ヘハ木戸或ハ數片ノ紙ヲ以テ之ヲ塞ケリ硝子製ノ如キハ豪奢物ト做シ獨富貴人ノ第舍及王者ノ宮室ノミ之ヲ用ヰル

王ノ宮室ハ巨大ナリト雖造營粗惡ナリ其家財モ亦之ニ稱ヘリ王及王

族ノ倚ル所ハ木槻子ナリ唯后ノ椅子ハ赤韋纏覆消金釘ヲ施セリ
室ノ中央ニ煖爐アリ天氣寒冷ナル時ハ家中相圍テ坐ス廣堂ハ錦綉剪
絨緞子羅紗掛氈條ヲ以テ裝飾セリ當時玻璃鏡甚稀ニシテ金製ノ磨鏡
一般ニ流行セリ

王ノ宮中ニ給仕スル所ノ官吏ハ各自宮中ニ一室ヲ有セリ其庖厨ノ侈
盛ナル庖人ノ外ニ四員ノ吏アリ常ニ火ヲ焚テ供饌ノ羹汁ヲ冷ヘザラ
シム又一吏アリ王及后ノ衣服ヲ進御スルヿヲ司ル縫人ノ或ハ殘帛餘
布ヲ偸ムアランヿヲ恐レ意ヲ留メテ之ヲ監ス

王弄臣アリ寵遇宮中ヲ傾ケ才力亦衆ニ抜ンデタリ其ノ死者ニ賜フ所
ヲ視レハ當時大ニ王ノ寵恩ヲ承ルコト知ルベシ其ノ爲ニ建ル所ノ石
碑今ニ至テ猶存セリ其像ハ大理石ヲ以テ造リ其官記アル鐸鈴ヲ飾レ

ル冠ト其衣裳トヲ裝飾ス

王ノ行幸スルニ必衛士ニ旗ヲ負テ以テ扈從セシム王及后ノ御車ハ五
馬ヲ駕ス但平素ハ多ク騎行ス

第七十篇　千三百年代　婦女教育ノ一

王ジャンノ幽囚セラル、時ナヴァールノ國王シャルルト曰フ者佛國ノ擾
亂ヲ煽動セリ此ノ王人トナリ勇悍ニシテ大度アリ巧辯ナイト中ニ儕出
ス故ヲ以テ大ニ人民ノ心ヲ得タリ但其ノ材辯ヲ恃ミ之ヲ惡事ニ施セ
リ而シテ其惡ヲ爲ス亦大ニ欲スル所アルニ非ス唯偏ニ性ノ然ラシム
ル所ナリ故ニ時人之ヲ綽號シテシャルル、ル、モーヴェート曰フモーヴェ
ートハ惡行ノ義ナリ佛王シャルルカ其ノ名ヲ同フスルヲ以テ之ヲ忌テ
密ニ毒殺セント謀ル惡性ノ除カザル大率此ノ類ナリ

伽王既ニ毒セラレ未死セス醫之ヲ診シテ曰此ノ毒一タヒ染レハ全ク消解スルヿ能ハス但其死期ヲ緩スルヲ得ルノミト伽王ハ其命短キコトヲ知レﾄﾓ尙勵精治ヲ求ムルコト止マス

王ハ死期ノ迫ルヲ以テ曾テ其心ヲ動カサス淸晨ニ起坐シテ拜禮シ終レハ朝ニ臨ミテ終日萬機ヲ親ラシ曾テ倦色ナシ王其后ニ囑ルニ死後ノ當ニ爲スヘキ要務ヲ以テス然レトモ不幸ニシテ后先チテ殂セリ

后名ハジヤーン才德アリ風姿美麗ナリ王ノ愛敬ヲ加フ固其ノ所ナリ其宮中ヲ治ムル法アリテ齊整ナルコト伽國開闢以來未曾テ有ラサル所ナリ當時ノ情態ヲ熟考スルニ政敎ニ心ヲ留ムヘキノ尤緊要ナルコト想像スルニ足レリ

當時ノ婦女往々異樣ノ男裝ヲ爲シ馬ニ騎シテ馳逐徘徊スル風習アリ

嘗テ衆多ノ婦女ツールツー（地名）ニ遊ヘリ各雜彩織文ノ衣ヲ著シ短帽ヲ戴キ頭環ハ頸ヲ以テシ帶フルニ金銀纓布ヲ以テシ胸部ニ短劍ヲ挿メリ之ヲ冞ワンヤールト呼フ騎スル所ハ皆軍馬或ハ肥大ノ良馬ナリ遂上戲技滑稽者流ニ逢ヘハ纏頭財貨ヲ濫與スルヿヲ快事トス

彼ノ婦女日ニ務テ寺院ニ詣レリ是拜神謝恩ノ誠心アルニアラス專己ガ巧裝粉飾ノ美ヲ人ニ誇示センガ爲メノミ會犬ヲ牽キ來レル美少年ニ逢ヘリ接語喃々情アルカ如シ盖寺院ニ日詣スル所以ハ此ニアリ是時一ノ善良ナル貴族アリ深ク此弊習ヲ慮ヒテ謂フ此ノ風ヲ矯メ此ノ心ヲ懲ラスハ敎誡論辯ノ書ヲ著スニ如カスト其書遂ニ刊行セリ

一千三百七十一年第四月彼ノ貴族偶庭中ニ彷徨ス先ニ其ノ妻ヲ喪ヒ幽愁悶鬱シテ懷舊ノ情止マス精神恍惚タルカ如シ三女子ノ來ルニ會

セ百端慰安セラル因テ暫三女子ヲ留メ以テ世上婦女ノ習性如何ヲ審視セリ因テ遂ニ教訓ノ一書ヲ撰ス其旨婦女ノ德行ヲ獎勵シ心ヲ貞潔ニ存シ長ク幸福ヲ享クルニ至ラシムル者ナリ

而來此三女寺院ニ往テ教ヲ受ケ婦女第一ノ要道ヲ學ヒ裁縫ノ法、砂糖漬ノ方ヨリ寺院ノ音樂外科醫術ニ至ルマテ學バサル所ナシ就中外科醫術ハ當時婦人ノ尤欠ク可カラザル所ノ務ナリ何トナレハ此時代男ハ率戰役又ハ「ワ―ルノワ山」戰ニ從事セシヲ以テナリ

役ノ貴族初ハ其ノ女兒ニ讀書セシメズ因循シテ日月ヲ移セリ是女子ノ伶悧ナルニ書ヲ讀マス多クハ世間ノ情史小說等ノ書ヲ好ミ時日ヲ枉費シ却テ才藝智識ヲ擴充スベキ有益ノ書ハ閣ニ束ネテ讀マザランコトヲ恐レテナリ

既ニシテ聖經ノ文拜神ノ式辭ヲ讀ミ得セシメント欲シ意ヲ決シテ書ヲ讀マシム但文法ヲ學ハシムルハ猶之ヲ甘ンセス

居常兒女ヲ勸戒シ其行爲ノ貞潔ナランヿヲ欲ス常ニ之ニ告テ曰ク夫ナイトタルモノ常ニ艱苦ヲ嘗メ危險ヲ躡ミテ後始テ人ニ愛慕恭敬セラルベシ汝等モ亦尤然ルベシ志ヲ神明ニ致シ力ヲ女功ニ勞シ其心身ヲ貞潔ニシテ以テ始テ人ノ愛看寵遇ヲ受クヘシ

第七十一篇　千三百年代　婦女教育ノ二

一ノナイトアリ其少キ時婦人ノ性質善良ニシテ品行貴重ス可キ者ト屢相會セリ他ノナイト之ヲ見テ我カ女子モ亦之ニ倣フテ善行ヲ爲サシメンヿヲ欲シ因テ彼婦ノ品行ヲ說話セリ余將ニ之ヲ玆ニ說カントス斯ノ如キ最好事ノ教トスベキ者ハ未曾テ見ザル所ナリ

彼ノ婦毎夜事畢テ臥席ニ就キ必起立スルコト三次以テ神明ヲ拜禮シ耶蘇宗徒ノ幸福ヲ懇祈ス其臥席ハ哆囉呢ヲ以テ菓上ヲ蔽ヘリ而ルニ此三起ノ拜例ニ因テ亦未曾テ夙起ヲ欠クヿアラストヱフ

婦家ニ二三ノ僧アリ婦女毎朝早起シ僧ヲ請ヒ倶ニ晨拜禮ヲ行フ而シテ後ニ庭園ニ出テ逍遙散歩シテ十一時半ノ餐期ニ至ル爾後我ガ家中ニ備フル所ノ最好物品ヲ持シ各所ニ行テ患人病者ヲ存問ス

其行クトキハ家僕馬ニ乘テ扈從シ貧病者ノ爲ニ許多ノ食料ヲ齎セリ適窮貴族ノ女他ニ嫁クト聞ケハ則巳ガ裝飾セル所ノ寶石ヲ脱シテ之ニ贈ル或ハ貴女ノ死シテ葬ルニ資ナキ者ハ其必用ナル者ヲ賻送ス齋日ヲ除ク日ニハ晩拜禮ノ後復餐ヲ喫ス齋日ハ一週間三日アリ其ノ日ハ只麪包ト水トヲ喫スルノミニシテ晩餐ノ後疱人ヲ呼ヒ來テ明日ノ

食備ヲナササシム

此ニ當時信神者ノ一小話アリ一婦人毎週間必三日齋ヲ致シテ能ク其宗教ノ事務ヲ辨理セリ一夕闇黑ナルニ當テ誤テ井中ニ陷ル是ニ於テ唯一心專念シテ神ノ冥助ヲ請フ

婦ノ始テ井ニ陷ルヤ脚下纔ニ水面ニ達スル時忽之ヲ支住スルモノ有ルガ如シ既ニシテ呼フ者アリテ曰ク汝常ニ能ク齊戒シテ神ヲ敬信ス因テ今此危艱ヲ免レシムト天明ルニ及ヒテ果シテ水ヲ汲ム者來リ井中ニ人聲アルヲ異ミ直ニ援テ之ヲ出セリ

當時ノ記録亦甚方便ヲ以テ婦人ヲ勸戒スル者アリ曰ク婦人指爪ヲ剪リ去ル最短キヲ要ス是食物ニ指頭ノ觸ル、ヲ忌メハナリ食スルニ當テ大聲ニ笑フヿ勿レ市街ヲ行クニ人家ノ窓裏ヲ窺フヿ勿レ是皆無禮

ニシテ人ノ厭惡スル所ナレハナリ友人ヲ訪フニ直ニ走テ其家ニ入ルヿ勿レ先ツ戸外ニ到リ佇立少頃必一欬シテ來意ヲ知ラシメ而シテ後敢テ入ルヘシ一芥モ偸盜スルヿ勿レ虛誕ヲ吐クヿ勿レ人ヲ騙欺スルヿ勿レト

上ニ述ル所ノ箴言ハ皆詩語ニシテ讀書生ノ爲ニ設クル者ノ一ナリ然レトモ當時富貴ノ人ニ非スハ書ヲ讀ムヿヲ解セス而シテ其人ノ爲ニ設クル所ノ箴言此ノ如キニ過キサレハ則當時貴婦人等ノ品行モ亦見ルヘシ

第七十二篇　第六世シヤル綽號ビヤンエメー（愛セラレタルト云フ義）ノ事蹟

王シヤルロサージ毒ニ中ルヨリ荏苒日ヲ送リ死期尙遲キ狀ヲ前ニ說過シ未結局ニ至ラス今更ニ之ヲ說了セン王シヤル豫國ト子孫トノ爲メ

ニ安全ノ策ヲ定メ而シテ後深ク神明ヲ敬信シテ大小ノ事神ニ聽カサルハナク唯死期ノ至ルヲ待ツノミ遂ニ紀元千三百八十年九月十六日ヲ以テ殂ス壽四十四歲在位十六年

毒殺人ナヴァール王ハ此ノ毒死王（備王シヤルヲ指ス）ニ後ルヽコト數年ニシテ死ス其死狀ヲ觀ルニ亦人世善惡應報ノ嚴ナルヲ徵スルニ足レリ王ノ病危篤ナルニ當テ生氣ヲ復セン爲ニ侍臣火酒ニ浸シタル衣ヲ服セシメ又固ク之ヲ縫括シテ其餘ヲ斷タス火酒ヲ以テ燒テ之ヲ斷タントス衣ヲ酒浸セハ則已ニ燃ユヘキ質ヲ備ヘリ乃縫餘ヲ燒カントシテ燭火忽衣上ニ延燒シ滿身燕灼シ衣ヲ脫スルニ暇ナシ煩悶號叫シテ遂ニ死セリ論者或ハ云フ是侍臣ノ過チテ此ニ及フナリ其實境ヲ認識スル者ハ云フ是侍臣ノ故殺ナリト

第六世シヤル紳號ビヤンエメーハ父王シヤル殂スルノ日年甫テ十三其性急ナレモ亦善良ニシテ慈心深ク好テ貧弱ヲ救助シ友愛ノ情尤懇篤ナリ又俠氣アリテ然諾ヲ重ス且天質強記ナリ一面識ヲ經ル人ハ終身忘レス其餘膂膂ノ顯ハル者多シ其腕力ノ剛強ニシテ馬鐵鞋ヲ屈スルハ尤驚異スヘシ

此王長スルニ從ヒ其美質ヲ培養セシメハ佛國禍亂ノ世モ一變シテ大治ノ世トナランコト必セリ然ルニ父王シヤル沒シテ後叔父乃教育ノ道ヲ絶チ徒ニ輕蕩放淫游戲ニ從事セシム是已カ禍心ヲ逞セントスルナリ

アンジユーノデユーク侯幼主ヲ挾ミ國政ヲ攝シ府庫ノ積財ヲ浪費ス舊王ノ節儉蓄積シテ以テ國用ニ備フル所一旦ニシテ空竭ス攝政ノ已ヲ利スルハ且宜シ獨佛國ヲ如何セシヤナーブルノ女王ジヤンノ汚名醜聲長ク人ノ耳口ニ留ル其悖亂無道至ラザル所ナク其慧黠ノ才尤惡ヲ助クルニ足レリ時ニ嗣王ト事ヲ爭ヒ終ニ其國ヲ以テアンジユー侯ニ與ヘリ

アンジユー侯謂フ我佛國ニ於テ一攝政ノミ國王トナルニ如カストス乃其力ヲ國事ニ竭サズ却テ衆ヲ師テ以太利國ニ侵入シ大潰シテ其ノ軍ヲ喪ヒ兵食兵器悉皆散失シ佛國ヨリ齎ス所ノ貨物中唯一ノ銀盃アルノミアンジユー侯身全國ノ大難ヲ生シ其身流離顚沛シテ死シテ始テ患ヲ解クト謂フ

第七十三篇　ミステール及モラリテーノ演劇ノ說

ミステールハ奥妙不可思議ノ義モラリテーハ善道ノ義

紀元千三百八十五年王シャルイサベルドバヴィエールヲ娶ル此ノ妃容色頗美艶ナレ𪜈其操行甚貞ナラス獨其夫王ヲ指スヲ危難中ニ陷溺セシムルノミナラス其禍施テ國家ニ及ヘリ當時婚禮ノ過盛習大ナル新ニ演戲ヲ開クニ至レリ此ノ戲ハ較似タルアレトモ自今ト同シカラス其戲ヲミステールモラリテートト稱ス巡拜者ノパレスタインヨリ歸來スル者多クハ相競テ之ヲ觀ル其ノ大意ハ天神天使宗徒ニ關係スル事ヲ敷衍潤色スル者ナリ當時王及后ノ面前ニ演スル所ハ救世主耶蘇ノ死刑ヲ受クル所ノ一回ナリ

之ヲ演スル所ノ優師ハ悉皆僧侶ナリ一場ノ戲八日ヲ經ルニ至ル其脚色八十七ノ異樣アリ其技ノ尤喫緊ナルニ任スル者ヲ說教者トス「シントリシヨン」是ナリ是耶蘇十二弟子ノ一人ナリ戲中演スル所浮世ノ幻

境ヨリシテ天堂極樂無量ノ快樂ヲ表ス戲場ノ機關數層アリ最上等ヲ天堂トシ極樂世界ノ光景ヲ現ス下等ハ專世上紛紜ノ事態ヲ示スノミ俳優等ハ場外ノ櫈子ニ踞シ戲次至レハ則場ニ上ル諺ニ云フ演戲口ナクシテ自人ヲ呼聚スト信ニ然リ時ニ巴里府ノ知事謂ラク神明ノ重事ヲ演スル是甚敬ヲ失スルノ甚シキ者ナリト遂ニ律ヲ定メテ之ヲ禁ス僧徒禁令ヲ聞キ王ニ面訴スル者アリ王曾テ心目ヲ演戲ニ悅ハスヲ以テ僧徒ニ左袒シテ其社ヲ結ヒテ演戲ヲ公許セリ其社ヲ「レメートル、グウエルノール、エラフヲテルニテードラ、ハシヨン、エレジユレクシヨンドノートルセンヤオール」ト稱セリ（耶蘇難苦復生ノ社中ノ首長及管理人ト云フ義）王ノ之ヲ許スヲ以テ演劇ノ行ハルヽ亦盛大ナリ日曜日ノ說教モ早ク局ヲ終ルニ至ル是一ハ說教ヲ聽カシメ一ハ演劇ヲ觀セシメン爲ナ

リ時ニ又演劇ノ命意稍一變シテ神事宗教ニ關係セザル別様ノ技ヲ做ス者アリ

貴族ノ少年新社ヲ結ヒテ一演劇ヲ起セリ其劇意ハ當時冥頑痴呆子ノ情態ヲ表示スルニ出ツ社首ヲプヲンスデフ―（愚者ノ首魁）ト號ス又驢耳冠ヲ戴キ年ニ一次衆侶ヲ率ヰテ華奢ヲ尽シ意氣揚々トシテ市街中ヲ徘徊セリ

其演スル所ノ戯ハレクシピシヨンドラフオリー（愚ナルヿノ顕ハルト云義）ト名ツク王宮モ外市モ人皆之ヲ喜ベリ王又ジワイヨーヅアンスチチュ―シヨン（快樂ノ會社ト云フ義）ノ一社ヲ立ルヿヲ許セリ諸色新雜劇ノ盛ニ行ハル、ヨリ旧戯ノパツシヨン會社モ之ガ為ニ聲價ヲ減スルニ至レリ

蓋此等ノ演劇ノ大ニ行ハル所以ハ其ノ場錢ヲ收メサルヲ以テナルベ

シ僧徒ノ演劇ハ場錢ノ貴キ乃殊ニ甚シク終ニ巴力門議院ヨリシテ其價ヲ減セシムルニ至レリ

第七十四篇　佛人英國ヲ伐タントシテ奇異ノ備ヲ為ス王シヤルロピヤンエメ―ノ可憫事蹟

紀元千三百八十六年フルゴンヨ侯政ヲ攝スルコト故ノ如シ時ニ英國ヲ伐タント欲ス然ルニ船艦之少ナルヲ以テ其用ヰルヘキ船艦ヲ他國ニ借買シテ之ヲ備ヘタリ其數九百許隻其ノ將タル所ノ貴族ハ悉クピヤ―ル（即盗賊）ト稱スル者ヲ用ヰル故ニ唯各其主ノ為ニ物ヲ盗ムヲ以テ職トス諸軍需ノ峙ヨリ築城ノ備ニ至ルマテ既ニ成ルニ及テ會廟堂異論起リ稽緩シテ風烈ノ時ニ及ヒ衆艦為ニ破壊シ有名ナル新製ノ城堡テ―ムス河ニ漂蕩シ遂ニ英國水軍ニ獲ラルト云フ

王シヤル既ニ成人タルヲ以テ國政ヲ親ラス上下其行蹟ヲ見テ必明主タランヿヲ想望セリ王大權ヲ握ルノ始先舊弊ヲ一洗シ不正ノ法律苛酷ノ課税ヲ除キ人才ヲ選擢スルニ公廉智略ヲ以テ先トシ政ノ表準ヲ示セリ

王シヤルブリタニヤ侯ノ罪アルヲ以テ之ヲ問ハント欲シ衆師ヲ率ヰテ巴里府ヲ出ツ王ノ性甚急ナリ慌忙ノ間煩亂シテ熱病ヲ發セリ侍臣切ニ之ヲ諫メ其疾ノ快復スルヲ待テ征行センヿヲ請フ

王ハ侍臣ノ諫ヲ納レスシテ遂ニ發ス氣體益不平ニシテ漸ク鬱憂ヲ生セリ時正ニ八月毒熱最盛ナリ王甲上ニ絨衣ヲ服シ緋氊紗ノ蒙首ヲ戴キ其ノ上ニ寶珠ヲ冠セリ

王ハ路上塵埃蓬勃タルヲ以テ衆軍ト相離テ馳セリ偶マンス林名ノ深樹

中ヲ過タルニ當テ忽一異人ニ會セリ其身甚長ク面色鬼ノ如シ白衣ヲ着ケ脱帽徒跣シテ樹間ヨリ跳リ出テ王ノ馬勒ヲ叩ヘテ大喝一聲シテ曰ク王請フ進ムヿ勿レ反賊アリト言未終ラサルニ又忽見エス

王此ノ事ノ怪異ナルヲ念テ已マス衆軍ヲ促シテ林間ヲ經過シ漸ク砂原ニ出タリ時ニ太陽砂石ヲ焦爍シ熱堪フヘカラス二臣アリ分レテ鎗ト兜トヲ執テ王ニ從フ一臣誤テ鎗ヲ失シ一臣執ル所ノ兜上ニ落トス

王既ニ怪異ノ爲ニ煩念シ精神恍惚トシテ夢ノ如シ一少時ニシテ又彼ノ鎗兜觸激ノ音ニ驚怖シ忽狂疾ヲ發シ劍ヲ拔テ侍臣ニ迫ル侍臣等大ニ驚キ惶遽シテ逃レ避ク會劍鋒折レ一人背後ヨリ跳リ入テ王ヲ抱住ス又一人アリ來リ跣テ王ヲ縛セリ

王既ニ縛セラレ車ニ駕シテマンスニ護送セラル王ノ疾數月ヲ經テ差

ニト雖恐怖ニヨリテ心疾ノ再發スルヿ屢ナリ

后ノ侍臣婚姻アルニ會シ王及貴族ノ少年等五人共ニ野蠻裝ヲナシテ臨幸アリ其衣裳ハ最粗ニメ表スルニ亞麻ヲ以テスル爲瀝青ヲ施セリ此ノ衣裳ハ燃エ易キノ質アルヲ以テ命アリテ燭ヲ執ル者ヲ壁間ニ立タシム當時燭架及他ノ燭具ナキヲ以テナリ然ルニオルレヤン侯此命ヲ知ラス坐客ヲ認識セント欲シ直ニ火燭ヲ把テ彼ノ野蠻裝ノ人ニ接スレハ其火忽延テ亞麻衣ニ燒キ及ヘリ

少年蠻裝ノ者滿身皆火焰トナル此時王ハ女妹ト談話シテ彼等ト僅ニ咫尺ヲ隔ツ女妹敏慧ナリ急ニ其外套ヲ以テ王ヲ蔽ヒ救護スルヿヲ得テ寢室ニ送レリ王心悸シテ終夜安眠スルヿヲ得ス

王倦睡スルヿ少頃忽人聲ノ喧闐スルヲ聞ケリ是此ノ變動ヲ聽キ宮外

ニ來集スル者ナリ王乃強テ衣服ヲ整ヘ遠ク市街ニ行キテ以テ其ノ恙ナキヲ示シテ人心ヲ安定ス凡是等ノ事因テ以テ狂疾ヲ再發スルニ足レリ

爾來三十餘年間王躰常ノ如キ者僅々ノミ時々獨自其ノ薄命ナルヲ感傷シテ已マス而ルニ后ノ人ト爲リ不良ニシテ王及王子ヲ待ツコト無狀ニシテ曾テ親篤ノ情ヲ見ス府庫ノ財ハ自己ノ遊戲玩物ニ浪費シ日用必需ノ資財已ニ缺乏スルニ至レリ

王心爽快ノ時ニ臨ミ愛兒ノ憫ムヘキ事アルヲ聞キ其管理スル者ヲ招テ之ヲ詢フ管吏滿目涙ヲ含ミ告ルニ王子等衣食給セザルノ實ヲ以テス王慘然トシテ曰ク嗚呼余ノ不幸ナルコトヤシヤンノ余ヲ待スル亦猶此ノ子ノ如シ

第七十五篇　アシヤンクールノ役　附載ノ佛國ニ入ル

英國ノ王ハ久シク自國ノ爭亂ノ爲ニ他國ヲ謀ルニ遑アラス然ルニ第五世顯理國家ヲ治メ將ニ軍ヲ外ニ出サントシテ先兵衆ヲ帥ヰテ佛國ニ侵入セリ是他ノ名義アルニアラス獨第三世エドワオールドノ佛國ニ王タラント欲スル素志ヲ繼キ其功ヲ遂ケントスルヲ以テノミ

佛國ハ「オリフラム」（佛國ノ旗ナリ前已ニ釋アリ）ヲ立テ佛兵此ニ雲集セリ而ルニ貴族等猶相猜疑シテ戰期ヲ遲延セリ王顯理之ニ乘シ大ニ國内ヲ擾動セリ既ニシテ我軍議始テ決シ大衆進テ敵兵トアジヤンクールニ會戰セリ

紀元千四百十五年十月二十六日我兵ノ大禍ニ罹ルヿクレシーボウチエーノ敗北ニ數倍セリ此ノ時我兵ノ多キハ英兵ニ殆ト四倍ス然レ𪜈將驕リ卒惰リ上下猜疑シ兵ノ多キ反テ敗衄ヲ取ルニ足レリ

我兵ハ大約練熟セザルヲ以テ狹小ノ地ニ用ヰルヿ能ハズ且池澤卑汙多クシテ步兵膝ヲ泥淖ニ沒シ窘迫殊ニ甚シ頻ニ英兵疾疫アリ死亡多キヲ以テ頗兵氣ヲ沮テ兵ヲ引テ還ル

英王再佛國ニ來リ衡行憚ル所ナシ我逆黨ノ貴族等未其來意何如ヲ知ラザルニ英王既ニ自立シテ諾爾曼泥ノ主トナレリ乃兵力ヲ以テ抗拒セントスレハ則既ニ晩シ唯會議數次竟ニ顯理ヲ以テ此ノ國ノ攝政トシ且嗣王トスベキヿヲ普告セリシヤルハ此等ノ事ヲ瞢々トシテ夢中ニ在テ知ルノミ

ドーフアンハ交友數人ヲ伴ヒボウチエーニ遁キタリ是ニ於テ顯理及其子（後英王第六世顯理ト云フモノ是ナリ）並ニ巴里府ニ在テ玉冠ヲ戴キ（玉冠ヲ戴クハ王位ニ即クヲ云）自今佛國王タルコトヲ布告シタリ後幾モ無クシテ第五世顯理ワンセ

―ンニ殂シ攝政ベツドフォルド侯ヲ遣シテ留守セシム
紀元千四百二十二年十月二十一日王シヤル薄福ニシテ命數已ニ盡タリ享年五十五在位四十二年中間三十餘年狂疾失心シ瞢々トシテ醉生夢死ノ人ト謂フベシ人其ノ良心ニ復スル時ヲ伺ヒテ之ヲ欣慰セントシテ闘牌戯ヲ造リ來レリ
牌面ハ金畫或ハ別様ノ彩畫ヲ出ス此古昔ノ遊戯ヲ更ニ潤色セシモノナリ此ノ戯ノ興ルヿ未四年ナラザルニ大ニ流行シテ終ニ巴里府市中嚴禁ノ令ヲ出スニ至レリ然レモ朝堂スヲ曾テ此ヲ守ル者ナキヲ以テ衆庶ハ之ヲ賴ミ畏ル丶者アラス
第六世シヤルノ時代ヨリ牌ノ形狀及畫圖ノ彩色一モ變換スルコトナシ從前王ノ心ヲ樂マシムルカ爲ニ製スル者ノ如シ而シテ今其戯ヲ奏

スル者ト當時衣裳装色トハ皆此ノ牌ニ據テ其情ヲ想像スヘシ
畫圖ニ特殊ノ意ヲ含メリハルト號佛語カウールハ僧ト云フ意ヲ含ム此心ノ義ナル佛語コウールヨリ出タル者ニシテ此牌ハジヤンドカウール即亦寺ノ歌者ノ一隊ト號ススペード佛語ノピツク即是鎗尖ナリ貴族或ハ軍兵ノ義ヲ含メリ
方石或ハ瓦類吾輩之ヲダイヤモンドト呼フ佛人之ヲカロートト稱スル者工人ノ階級ナルベシ然ルニ近來此ノ一具ヲ余輩モクラツブ原太キ杖ノ義ト呼フ佛人ハトレツフルト云實ハ是苜蓿ノ葉ナリ而シテ農夫ノ意ヲ含ム
后イサベールハ大ニ英人ニ侮視セラレ無禮ヲ受クルコト多シ后其子即太子ノ才德アルヲ大ニ忌惡シ其ノ益顯達スルヲ觀テ憤悶ニ堪ヘス遂ニ

死セリ

當時ノ風習貴女碑石ノ趺ニ必犬ヲ安置スルヿアリ今后ノ石碑ヲ建ルニ及テ彫工猴子ヲ以テ犬ニ代ヘテ刻セリ是后ノ平素兇悪貪欲ナル野心ヲ表示セシモノナリ

鬪戯牌ハ余前ニ譯述セル家内遊戯ノ部ニ詳ナリ宜シク就テ看ルヘシ

第七十六篇　第七世シャル紳號ヴィクトリヨ幷オルレヤンノ處女事跡ノ一

第七世シャルルドファン即王トナレ貴族公侯ノ公告ニ因テ王位ニ即ケリ時ニ年二十歳性柔順ニシテ頗才藝アリ然レ𪜈疎放ニシテ歡娯ヲ好ミ其ノ美質ヲ虧損スルコトアリ

國人王ニヴィクトリヨ大勝利ノ義ナル壯大ナル稱號ヲ與フ此ノ時英人佛國ヨリ驅逐セラル、ヲ以テナリ又ビヤンセルウイ能ク助力ヲ受ノ紳メリト云フ義ヲ以テ之ヲ稱スル者アリ此亦適當ト謂フヘシ何トナレハ自其ノ力ヲ以テ其ノ國ヲ恢復スルニアラサレバナリ

ランスノ都府ハ英國ノ所有タルヲ以テシャルハポワチエールニ於テ即位ス此時國貧クシテ諸臣ニ頒與スル物無シ然レ𪜈温良ノ質慈愛ノ厚キ以テ能ク富有ニ代ルニ足リ且誠實ノ交友ヲ得テ爲ニ能ク奮興勉勵セリ

王此ノ如キ愛スベキ懿行アルニ一物ノ價ヲ償フコト能ハズ長靴ヲ欠クニ會ヒテ急ニ之ヲ靴工ニ命ス靴工價ヲ得ザルヲ以テ肯テ製セズ王已ムヿヲ得ズ靴ヲ穿タズシテ行歩スルニ至レリ佛國ノ王ニ屬スル者

僅ニオルレヤン一都ニ止ル而シテ千四百二十八年ニ及テ英兵遂ニ此都ヲ攻ムカレーム八耶蘇宗徒齋戒ノ時ニシテ一切肉食ヲ禁斷ス是ニ於テ英軍食ヲ運ス大量ノ醃青魚アリ勁兵之ヲ防護ス佛兵之ヲ見テ郛門ヲ開ヒテ其護兵ト鬪ヒ大ニ潰ユ此ノ戰ヲ號シテバタイヨデハラン（青魚ノ戰役ト云フ義）ト爲ス此ノ敗衂佛人ヲシテ殆沮心セシム王オルレヤンノ陷ル近ニ在ルヲ以テ將ニ此國ヲ去ヲントス然レ圧何等ノ宿福ソ王ノ命脉未盡キズ意外ノ僥幸ヲ得歷史中ニ於テ最奇異ナル起原ヨリシテ其國ヲ恢復スルニ至レリトス此ジヤンダールク又ビユセールドレヤン即オルレヤンノ處女ト稱セラレシ者ノ現出スル是ナリ

此ノ女子メキズ河濱ノドンレミーニ住居セシ貧農ノ女ナリ其幼時父

之ニ告ルニ英人ノ國讐タルヿヲ以テセシヨリ英ヲ惡ムノ心積習シテ性ノ如シ此當時英人ノ慘酷殘暴大ニ佛國ニ禍シ土地民人ニ至ルマデ刼掠侵奪セサル所無ケレバナリ

彼ノ女此ノ如キ悽慘ナル情況ヲ視聽スル每ニ悲憤感激シテ已マズ父ノ常語益心肝ニ銘シ晝ハ則之ヲ以テ常話ト爲シ夜ハ則之ヲ夢ミルニ至ル其ノ年甫テ十三ナルニ及テ一日夢幻恍惚中ニ天降ノ神使ニ接話セリ神使保證シテ曰ク汝必此國ノ救主ト爲テ人ニ選任セラルベシ止

其親族及近傍ノ人皆謂フ彼ノ女子實ニ天神ノ靈託ヲ受タリト

然レ圧彼ノ女子敢テ自負セス小傳舍ニ勤事シテ馬ヲ司リ幷テ諸力作勞役ヲ取ルニ及ヘリ此吾國等（英國ヲ指ス）ニ在テハ男子取ル所ノ所業ナリ今彼女子ニシテ能ク此ノ如クナルヲ以テ筋骨剛強能ク男兒ノ勞役ニ

慣服シ驏馬ニ騎ルヿ又頗妙ナリ
彼ノ女子十七歳ニ至ルマデ壯男ノ事業ヲ取ラサルコトナシ是ニ於テ始テ王ノ堂下ニ到リ建白シテ曰ク英人ヲオルレヤンヨリ驅逐シテ而後王ノランス（佛王必ランス都ニ即位スルヲ定例トス）都府ニ於テ即位ノ大禮ヲ行ハントス宮人或謂フ是大癡ニアラスンハ即大狂人ナリト因テ一大異蹟ヲ現ハサンコトヲ求ム是ニ於テ彼ノ女子直ニオルレヤンニ於テ一ノ異蹟ヲ現シ示サンコトヲ以テ答ヘタリ

第七十七篇　オルレヤン（地名）處女事蹟ノ二

王シヤル果シテ處女ノ言ヲ用ヰルモ國家ノ損耗ヲ爲スニ足ラズトスルカ將其神託アルヲ信シテ然ルカ遂ニ女子ノ言ヲ用ヰ之ニ鎧仗及衞兵ヲ與ヘテオルレヤンニ差遣ス是ニ於テ彼ノ女甲ヲ蒙リ馬ニ跨リ手

ニ一ノ軍旗ヲ持シテ曰ク是天ノ妾ニ贈ル所ナリト
未オルレヤンニ抵ラザルニ處女ノ名聲已ニ大ニ震フ英軍其神助アルヲ畏レ謂フ若之ト抗戰スルハ猶天ニ抗スルカ如シ恐クハ災禍アラント故ニ女子ノ兵ノ進行スルニ當リテ英軍敢テ之ヲ遮ル者ナシ直ニオルレヤンニ達スルヿヲ得タリ而シテオルレヤンニ在ル所ノ衆モ亦謂フ此寡ニ天降ノ神女以テ佛國ヲ救助スル所ノ者ナリト是ニ於テ英ノ情悄然トシテ一變シ佛ノ軍威赫々トシテ乃チ光輝アリ
處女ノ軍鋒向フ所敵軍皆其兵仗ヲ委テ惶遽シテ遁逃シ戰士唯還クヲ知テ進ムヲ知ラズ乃令シテ曰ク苟敵ニ遇テ遁逃スル者アラハ則之ヲ捕獲シ來レ直ニ褒賞ヲ行ハント
嚴令斯ノ如シト雖英軍猶惶怖股慄シ遁逃シテ止マズ其將ロルドトル

ボツト神兵ノ得テ支フルヿ能ハサルヲ悟リ遂ニ圍ヲ解ク是ニ於テ英國ノ攝政ベツトホルド更ニ新兵ヲ募集シサージヨンフハルスタツフヲシテ之ニ將タラシメオルレヤンニ發遣シテトルボツトノ後援タツシム處女ノ軍已ニ英軍ノ合從シ至ルヲ聞ケトモ尚少モ屈セズ且進ミ且近ツキテ第六月十八日兩軍相對峙スルニ至レリ

佛將某適彼處女ジヤンニ問テ曰ク軍中何物ヲカ要スル又我陣ノ氣運奈何ジヤン答テ曰ク我軍當ニ精良ノスポルス（靴頭ニ在リ馬ヲ蹴驅セシムルノ具）ヲ具備セザルベカラズ某曰ク何ノ爲ソ抑我軍ノ北走ニ備フカ爲カジヤン曰ク何ソ然ランヤ我軍進テ敵ニ及ハンヿヲ要スルノミト是ニ於テ兩軍始テ接シ英軍輙敗走セリ衆皆稱スジヤンハ虚誕ノ前言者ニアラズト

英將ジヨンフハルフタツフハ眞個ノ勇士ナリト雖一軍皆潰走シテ止ムルコト能ハサルヲ以テ遂ニ亦走ル諸軍從テ東走西奔勢遂ニ支フヘカラス是ニ於テ前ニ千辛萬苦鋭ヲ挫キ險ヲ冒シテ得ル所ノ名譽此ノ一擧ヲ以テ頓ニ失セリ時ニ彼ノ處女ジヤン揚言シテ曰ク自今已後當ニ神託ノ第二着ヲ行フベシト第二着ト稱スル者ハ其行フ所世人ノ能ク信シ能ク仰クヿアタハサル所ノ者ナリ

ヲンストト云フ一要地アリオルレヤント相距ル頗遠シ此ノ地已ニ敵ニ陷イリ英軍之ヲ守ルオルレヤンヨリ此ニ至ル間數所ノ堅堡有テ道路ヲ梗塞セリ佛王シヤルルハ兵士寡少ナリト雖彼ノ處女ノ言ヲ信用シテ一モ從ハサルコトナシ是ヲ以テ堅ヲ衝キ險ヲ冒シ且進ミ且攻メ向フ所敵無ク凱旋スルヿヲ得タリ

佛軍ノ向フ所沿道ノ市井村落皆爭テ來降ス進テランスニ近ツカントスルニ及テ市民皆代理者ヲシテ來テ路上ニ迎ヘ市門ノ鎖鑰ヲ王ニ獻ス佛王シヤルル之ヲ慰勞シテ遂ニランスニ達シクロヴイス靈油（前已ニ解アリ）ヲ取テ例ノ如ク大禮ヲ修シ更ニ王位ニ即ケリ此ノ時處女ジヤンヌ甲ヲ被リ軍旗ヲ手ニシ王ノ側ニ屹立セリ即位ノ禮已ニ畢ルヲ俟テ王ノ脚下ニ拜跪シ流涕哀訴シテ曰ク妾已ニ素志ヲ遂ケタリ請フ休暇ヲ賜ヒ編戸ニ歸ラント

王輒之ヲ聽サズ其功勞ヲ感賞シ其ノ親族ヲ舉テ之ヲ貴族ニ列シジヤンカ齎ス所ノ軍旗百合花ノ章アルヲ以テ其旗門ニ表シテデユリー（百合花ノ原語）ト云ヒ又若干ノ封土ヲ以テ之ニ與ヘタリ因テジヤンヌニ命ジテ曰ク汝英軍ヲ驅テ未我國境ヲ出サス尚力ヲ國家ニ盡シ敢テ退クヿヲ得ザレト

第七十八篇　オルレヤンノ處女ノ刑死及佛王シヤルル巴里府ニ還ル幷佛國飢饉疫癘ニ罹ル

佛國在廷ノ諸臣皆彼女子ノ戰功ヲ嫉忌シ謂フ此吾輩丈夫ノ最耻ツベキ所ナリト佛軍ノコンピエーン都ニ在ル者一日突出シテ俄ニ英軍ヲ擊ツ英軍之ヲ逆擊シ我軍乃敗レ奔テコンピエーン都ニ入ル時ニジヤン獨其軍ニ留在シ後レテ城門ニ至レハ城門已ニ鎖シテ入ルヿヲ得ズ既ニシテジヤンブルコンヤ侯ニ捕獲セラル何ソ其不幸ナルヤ侯金幣ヲ貪リ乃之ヲ英國ノ執政ベツトホルドニ賣レリベツトホルドノジヤンヲ得ル通常ノ情ヲ以テ之ヲ論スレハ亦敵ヲ捕虜スルノ法ヲ以テスベシ然ルニ妖術ヲ行フコトヲ以テ之ヲ誣ヒタリ

僧徒中ニベットホルドニ左袒スル者アリジヤンノ行ヘル妖術ヲ糾劾スルニ當リ此ノ僧徒ニ命シテ之ヲ鞫問セシム之ヲ鞫スルヿ四月ヲ經テ決セスジヤンノ正氣儼然トシテ屈スル所無ク擧動端正ニシテ應對詳明ナルヿ驚歎スルニ堪ヘタリ僧徒等百方枉誣シテ以テ大有罪ト斷シ衆議竟ニ終身禁獄ニ決ス又命シテ曰悲痛麵包ト苦惱水トニ非ズンハ爾後與フルヿヲ許サズト（邪教ヲ行ヘル者ヲ糾劾罰殛スルノ公衙ヲ呼テアンキジシヨント稱ス此ノ裁判衙ニ在テ罪人ニ與フル飲食ヲ悲痛麵包苦惱水ト呼做ス蓋飲食モ亦是痛惱ノ義ヨリ出ツ）又命シテ曰ク女子ノ男裝ヲ爲スヿヲ禁ス若之ヲ犯セハ則死刑ニ處セント時ニ執政ベットホルド謂フ之ヲ罰スルニ禁獄ヲ以テスト𪜈猶未怨毒ヲ報スルニ足ラス何ヲ以テカ更ニ之ヲ嚴刑ニ處スルヲ得ント遂ニ一奸案ヲ構出シテ曰ク彼ノ鎧冑ヲ監舍中ニ掲ケ示サハ彼必之ヲ眷戀シテ措クヿ能ハズ之ヲ取テ被ムルニ至ラント

惘ムベシジヤン果シテ之カ術中ニ陷リ其物ヲ見ルニ及テ回慕ノ情ニ堪ヘズ乃取テ之ヲ身ニ衜ヘリ是ヲ以テ其始男裝ヲ嚴禁スル令ヲ犯スヲ以テ之ヲ火刑ニ處セントス

旣ニ女子ヲ構陷シ得テ一千四百三十一年第五月三十日ヲ以テルワン府ノ市塲ニ於テ遂ニ之ヲ刑セリ然レ𪜈女子ノ寃誰カ之ヲ知ラサラン唯佛人ノ憤惋忼慨スルノミナラス英人ト雖亦之ヲ傷ミ彼黨ノ有司等市街ニ出ルヿアレハ衆皆指シ罵詈シテ止マスメハレー（著述家ノ名）謂フ上帝天罰ヲ行ヒ遂ニ彼ノ諸有司ヲシテ災害ヲ蒙ラシムト

是時ニ當テ英國ノ政綱漸頽弛シ嘗テ英國ニ屬スル所ノ都城大約佛王シヤルノ版圖ニ歸シ巴里府ノ如キハ首トシテ城門ヲ開キ佛王ヲ迎ヘ

テ之ヲ納レタリ佛王シヤル外ニ在ルヿ凡ソ十七年紀元一千四百三十七年第十一月四日ヲ以テ其都城ニ還ルヿヲ得タリ是ニ於テ先處女ジヤンノ肖像ヲ其刑セラルヽ所ノ地ニ造立ス儼然トシテ今尚存セリ

紀元一千四百三十八年佛國大ニ饑饉シ疫癘流行シ巴里府中閭門死亡スル者其數ヲ知ラス殆ト人烟斷絶スルニ至レリ是ニ於テ猛獸街頭ニ横行シ人害ヲ爲スヿ少ナカラス時ニ英ノベツドホルドハ佛國ノ境土ヲ恢復スル勢焰ヲ見テ憤悶憂慮ニ堪ヘス之カ爲ニ病ヲ獲テ遂ニ起キス既ニシテ佛國中英人ノ私有ノ地ハ僅ニカレーノ一都ノミ

第七十九篇　佛國太子ノ暴行シヤルロヴィクトリヨノ死亡幷異樣ノ衣服

紀元一千四百四十年ニ及テ英佛兩國ノ間和ヲ講シ戰ヲ止ルノ議成レリ是歳王ノ從弟オルレヤン侯佛國ニ歸還スルヿヲ得タリ此ノ侯ハ昔年アジヤンクール地名ノ敗北以來捕虜トナリテ英國ニ幽セラレ今時機ニ乘シ若干ノ贖金ヲ英國ニ納レテ歸還スル者ナリ是ニ於テブルゴンヤ侯ノ女某ヲ娶リ一子アリ後ニ佛王ノ位ニ即キ第十二世路易ト稱スル者是ナリ

此ノ時佛王シヤル一時ノ愉樂ヲ貪リ其性ノ好ム所ニ任セ林園ニ歩シ花卉ヲ賞玩シ多ク閑遊娛樂ヲ以テ心意ヲ暢適セリ然レモ太子後ノ第十一世路易ト成レル者ヲ憂慮スルコト深クシテ心常ニ安靜ナラス太子人ト爲リ暴頑ニシテ曾テ孝順ノ道ニ由ラス年甫メテ十六ニシテ叛逆不軌ノ謀アリテ父王ニ抗セリ然レモ王シヤルノ寛仁ナルヲ以テ置テ其罪ヲ問ハス

既ニシテ其勢過ムヘカラス遂ニ之ヲドフイネー（地名）ニ放テリ太子ドフイネーニ在テ又大ニ人民ノ和ヲ失ス其勢久シク留マルヿヲ得ス竟ニ出亡シテブルゴンヤニ奔レリブルゴンヤ侯之ヲ遇スル厚キニ過タリ太子其恩惠ヲ思ハザルノミナラズ又ブルゴンヤ侯ト其子トヲ搆間シテ骨肉相食ムノ禍ヲ啓カシム

太子路易其父ヲ鴆殺センヿヲ謀リ利ヲ其從僕ニ啗ハシム其事乃公訴セラレテ遂ニ其罪ニ處セラル父王シヤルハ豫此ノ如キ禍アランヿヲ恐レ自飲食ヲ絶シ遂ニ一千四百六十一年ヲ以テ死セリ享年五十九在位三十九年

第七世王シヤルハ軀幹甚矮小ナルヲ以テ自忌ミテ衣ヲ以テ之ヲ掩ハントス先王シヤンノ時ニ長衣ヲ禁止ス今王ノ世ニ及テ舊規ニ復シ更

ニ濶大衣ヲ用ヰルヿ流行セリ後第十世路易ニ至リ又之ヲ改定セリ貴女モ長裾ヲ拽クヿヲ禁シ地ヲ掃フ長袖ヲ截斷シ之ニ代ルニ皮革或ハ天鵝絨等ノ廣緣ヲ裝着セリ冠帽ノ裝飾モ大ニ其樣式ヲ變易ス猶衣服ニ於ルカ如シ

第六世シヤル治世ノ日婦人ノ首飾其幅六フィートナルニ因テ各其門戸ヲ開廣セザルヿヲ得ザルニ至ル而シテ今ノ制度復一變シ高サ三フィートヿ許ノ首飾ヲ用ヰル故ニ更ニ其門戸ヲ高クセザルベカラズ其首飾ノ制タルヤ恰蒙衣ノ如ク頭頂尖立圓錐形ノ如シ之ニ纏フニ絹帛輕軟ノ物ヲ以テ作レル首帕ノ類ヲ以テス其一端長ク垂下シテ地ニ至ヲントス

男子ノ如キハ其長衣ヲ變シテ更ニ短裘衣ヲ被タリ其制頗短小僅ニ腰

部ニ及フノミ而シテ能ク皮膚ニ貼襯セリ又其襯衣ヲ見ハサンガ爲ニ袖袂ヲ截去ス又其上下密接センカ爲ニ區條ヲ後部ニ裝着シ之ヲ臂上ニ結束ス

短表衣ノ制ハ濶大ナルカ如クナラシメンカ爲ニ其肩部ニ物ヲ藏メテ張大ナラシム又其頭髮ヲ低レテ面部ニ蒙ラシム其帽ハ羅呢ヲ以テ製シ高約半ヤルド許ナリナイト及其髀手ニ至テハ均シク皆金鏈條ヲ其肩ニ掛ケタリ是時高貴ノ著作家皆嘆息シテ曰ク今ヤ市民奴僕ヲ論セス悉ク絹若クハ入絲緞及天鵞絨ノ短表衣ヲ服シ上下靴頭一フートノ尖角アル者ヲ穿タン

第八十篇　第十一世路易ノ事跡幷ニ貴族輩人民ノ公權ヲ起サンヿヲ謀ル

王路易其父王ノ殂スルヲ聞ク時ブルゴンヤニ在リ乃還テ佛都ランスニ入ランと欲シブルゴンヤ侯ニ勸メテ與ニ往ンヿヲ謀レリ又自謂ラ余カ王位ニ即ク蓋大ニ爭議スル者アラント乃侯ヲシテ命ヲ佛國貴族ニ傳ヘシメテ曰ク今方ニサンカーンタンニ會盟セント衆皆是ノ命ニ遵ヒ來會スル者殆十萬人

路易其ノ衆中ノ倡首タル者ヲ見テ悔々トシテ中ニ恐懼スル所アリ私ニ謂フ此時我猜疑ノ狀態ヲ見ハサハ彼大ニ恐ル丶所有テ仇敵ノ看ヲ做サント路易ノ慧黠ナル知ルヘシ乃甘言好語ヲ以テブルゴンヤ侯ニ說テ曰ク今衆多ノ兵人ヲ從ヘテ此ニ會同セハ恐ラクハ我國民ノ疑懼ヲ取ラン如カズ姑ク之ヲ置テ其動靜ヲ待ンニハトブルゴンヤ侯天性溫良ナリ此ノ說ヲ信シテ悉其從兵ヲ鄉國ニ還ヘシ其貴族四千人ト俱

ニ進テフランス都ニ入リタリ
已ニフランス都ニ達スレハ大督教主其禮ヲ助ケ遂ニ路易ヲシテ位ニ即カシム即位既ニ畢リ即進テ巴里府ニ至ル御民ノ浮薄輕卒ナル時ニ其從兵ノ衆多ナルヲ見テ遽ニ王ニ欣服セリ既ニシテ先王與フル所ノ其兄弟ノ封土ヲ沒收シ唯ベリ—ノ一郡ヲ除クノ外悉已ノ有トス

王路易其父王ノ多年選拔任用スル所ノ舊士ヲ斥逐シ更ニ巧佞ナル小人ヲ登用セリ是使役シ難キ者ヲ去テ使役シ易キ者ヲ取ルナリ是ヨリ以來貴族輩皆望ヲ絕チ相共ニ會盟シ民ニ公權ヲ得セシメ王ニ抗敵センヿヲ議ルニ至ルベリ—侯ブルゴンヤ侯等之カ倡首タリ

シロワ—伯モ亦同盟タリ伯人ト爲リ强剛ニシテ節義アリ王路易曾テ恩遇ヲブルゴンヤ侯ニ得ルモノ少ナカラズ然ルニ王其隙ヲ伺ヒ動モ

スレハ之カ威力ヲ挫キ擾亂ヲ生シ怨ヲ以テ德ニ報セントス故ニ彼其心術ノ不正ヲ惡ミ大ニ憤怨スル所有テ此ノ會盟ニ赴クナリ

會盟スル所ノ侯伯各皆勇悍精銳ノ兵ヲ募集セリ苟之ヲシテ同心戮力シテ以テ之ニ當ラシメバ王驚懼潰散スルニ且暇アラサランヿ恨ムラクハ其兵衆烏合ニシテ部將多ク元帥總督タル者之無シ既ニ進テ巴里府ニ臨ムト雖唯營ヲ對スルノミニシテ三週日ヲ曠クスルニ至レリ此ノ間ニ乘シ王路易擧隊ノ兵士ヲ募集スルヿヲ得タリ

王路易自謂フ逆ヘテ之ヲ擊タバ十戰十勝豫期スベカラズ如カズ其未戰ハザルニ及テ策計ヲ以テ彼ノ烏合ノ兵ヲ離間センニハト乃數件ノ條款ヲ結納シ遂ニ和議ヲ講シテ之ヲ退カシム故ニ王ノ損スル所ハ獨其聲名ヲ汚スノミ別ニ失フ所無シ王ノ廉耻ナキコト其幾汚名醜聲ア

ルモ恬然トシテ曾テ意ト爲サヾル所ナリ

ブルゴンヤ侯及ベリー侯モ亦稍解悶スル所アリ王路易遂ニ盟約數款ヲ定メテ貴族ト相和スルヿヲ得タリ貴族輩初ハ心ニ憤ル所アレ𪜈終ニ之ニ籠絡セラル王ノ狡猾ナル專其結盟條件ヲ破ラレンコトヲ恐レ百方之ガ黠計ヲ施セハナリ

第八十一章

ブルゴンヤ州ノ事王路易シャルロテメレールニ囚虜セラル并王路易ノ姦計ニ從フ者至當ノ罰ヲ受ク

ブルゴンヤ侯フイリップブロボン死ス實ニ紀元一千四百六十七年ナリ此ノ侯久シク世ニ在リ其州人皆富饒ニシテ大ニ治平ノ績ヲ著セリ租税ヲ輕クシテ民人大ニ其德ヲ荷ヘリコミン（歴史ノ名家）ノ謂ヘルヿアリ此ノ國土富饒ニシテ民人安逸ナル極樂國土ト稱スルニ足レリト其男女日

ニ費ス所ノ貨財頗大ナリ饗宴ノ時華美奢侈ヲ尽セリ

アンウエルスト曰フ一市邑アリ歐洲北部中ノ貿易最盛ナル地ナリ又ブリユーズト曰フ市邑アリ殆ト之ト伯仲セリ皆繁華ノ地トスアルラス府ニハ盛ニ掛氈ヲ出スガン（地名）ハ織毛氈毯ヲ製スルヿ最盛ナリ其工匠衆多ニシテ五萬餘人ニ盈テリ以上皆ブルゴンヤ州ノ所管ニシテ其民ノ殷富繁榮ナルヿ侯ニシテ王ニ勝レル所アリ且其政府ノ建立規模頗壯麗ニシテ殆歐洲ニ冠タリ

シャロワー伯シャルル即綽號シテテメレール（大膽ノ義）ト稱スル者ブルゴンヤ州ヲ傳受スルヲ得タリ然レ𪜈其威望遠略ハ傳フル所ナシ侯シャルル頗膽氣アリト雖性甚偏急ナリ適事アリテ王路易ニ訴ヘントス王意謂フ余政事ニ老練セルヿ固ヨリ彼ノ比ニ非ス但兵ヲ用ルニ至テハ或ハ

彼ニ讓ル所アリト乃徐ニ之ニ告テ云フ此ノ事一會議ヲ經テ以テ之ヲ
決セント
是ニ於テブルゴンヤ州ノ一市邑ペロンニ相會センヿヲ約シ王乃至ル
此ノ時王ノ從兵甚寡少ナルハ其ブルゴンヤ侯ヲ疑ハザル意ヲ示サン
ガ爲ナリ然レ𪜈王ノ心中實ニ安カラズペロン府中ニ在テ或ハ禍害ニ
罹ランヿヲ恐レ竊ニ旅舘ヲ城中ニ得ンヿヲ請ヘリ
王路易未出テ、ペロンニ會セザルニ先チ私ニ使ヲ遣テフランドル地名
ニ至ラシム是其民ヲ誘導シテブルゴンヤ侯ニ反セシメンコトヲ謀テ
ナリフランドルハ即ブルゴンヤ州ノ地ナリ謀リ畢リテ乃其歸朝ヲ命
スルコトヲ忘ル既ニ出テペロンニ會シブルゴンヤ侯ニ辨解スルノ日
會往日差遣スル所ノ間使リエーージ地名ノ民人ヲ誘導シテ反ヲ謀ル

侯シヤル其謀ヲ知リ乃命ヲ傳ヘテ其城門ヲ鎖サシム王路易終ニ拘囚
セラル故ニ云フ王路易自穽坑ヲ作テ之ニ陷レリト然レ𪜈路易ノ資性
剛毅此ノ厄ニ逢ヘ𪜈亦竟ニ屈スルヿナシ
此ノ時王路易一策ヲ運ラシ其從僕ノ城中ニ往來スル者ニ囑シブルゴ
ンヤ侯ノ嬖臣某ニ賂遺ス嬖臣因テ屢ブルゴンヤ侯ニ說テ王路易ヲ宥
免センヿヲ勸ム
侯シヤル大ニ怒テ其言ヲ容レス猶說クコト三日三夜ニシテ而シテ後
其言終ニ聽カレ王路易ノ死ヲ減シテ自主不羈ノ身タラシム因テ命シ
テ曰ク其心既ニ悔悟シテ我命ニ從フ實形ヲ見サハ則宥赦スヘシト因
テ數欵ノ章程ヲ取テ王ニ責ム其一ニ曰ク余ニ從テリエーージニ赴キ彼
ノ叛徒ヲ鎭壓スルノ功ヲ助ケヨト

是ニ於テ王路易侯シャルト往テリエージニ至ル時ニ侯シャル憤惋ニ堪ヘズ其有罪無罪ヲ論セズ苟クモ叛徒ニ屬スル者ハ悉皆之ヲ嚴科ニ處シ死刑ヲ行ヘリ嗟呼王路易ヲシテ一點懇厚ノ良心アラシメハ民其ノ己カ爲ニ此ノ殘刑ヲ取ルコトヲ知リ肺肝ヲ寸裂シテ大ニ慟哭スヘシ

然ルニ巴里ノ民王ノ財力ヲ窮メ詭計ヲ行ヒ自禍殃ヲ取ルヲ見テ竊ニ之ヲ冷笑スル者多シ王路易之ヲ知リ憤怒シテ已マス乃其怨ニ報セント欲シ俄ニ府下ニ出テ民ノ畜獸家禽ヲ併セテ盡ク之ヲ擯奪セリ是ヨリ先ニ王一ノ薄牒ヲ携帶ス是市民往日ペロン地名ノ困厄ニ逢フヲ話柄トシ或ハ鸚鵡ノ學ヒテ人語スル者等苟ペロンノ字ヲ稱スル者アルニ逢ヘハ輙之ヲ劄記セント欲シテナリ

侯ノ諸臣中王路易ト善キ者アリ之ヲフィリップドコミント云フ世ニ有名ノ士タリ斯人王ト善キ所以ハ蓋其心常ニ路易ノ大度量大智能アルニ服シテ此ニ至レルカ晩年ニ及テ終ニ路易ニ事ヘテ其職事ニ服セリ當時ノ諸家言行錄ハ即斯人ノ著ハス所ナリ其書今ニ存シテ古來大成史書中ノ最深味アル者ト稱セラル

第八十二篇　第十一世路易英王第四世エドワルドト會盟幷瑞西國ノ事

英王第四世エドワルド一千四百七十五年ヲ以テ佛國地方ニ在リ曾テ英國ニ屬スル所ノカレーヲ過キテ佛境ニ入リ即使ヲ遣テ佛王路易ニ言ハシメテ曰ク佛ノ王位ハ當ニ予カ有スヘキ所ナリ速ニ之ヲ還與セヨ若肯セズハ兵ヲ以テ相見ンノミト

王路易前ニクレシー及アジャンクール等ノ地ニ於テ英兵ト戰ヒ大敗スルヲ以テ國人其ノ兵ノ來ルヲ聞キ皆懼ル是ニ於テ其ノ使ヲ待遇スルヿ甚厚クシテ大ニ貽ル所アリテ曰ク若兩國間ニ在テ能ク和ヲ講シ親好ヲ善クセハ擢拔シテ重用セント

英國ノ軍使佛王路易ノ寛大ノ施爲ニ感シ心爲ニ動キ乃其說ク所ヲ許セリ此ノ軍使ノ力ヲ得ルニ因テ英王素ヨリ信任スル所ノ大臣モ亦望ミヲ屬シ遂ニ講和ノ事成リ英王ヲシテ退テ其國ニ還ヲシムルコトヲ得タリ

王路易乃英王エドワルドニ會センヿヲ要ス然レﾄﾞ其心未英王ヲ信セス期シテ一橋上ニ相會シ短柵ヲ其橋畔ニ造リ各其一方ニ於テ柵ニ倚テ面晤ス

コミントヒ曰フ者此ノ二王相會スル事蹟ヲ記シテ今ニ存セリ其書ニ曰ク英王エドワルド身ニ金繡衣ヲ服シ首ニ頂上ニ寶石ノ百合花アル黑色ノ剪絨帽ヲ戴キ出テ王ニ接對ス其軀幹屹然トシテ直立シ容貌威儀儼然トシテ觀ル可シ然レﾄﾞ之ヲ少壯ノ昔日ニ比スレハ大ニ及ハサル所アリ其少年ノ日ニ在テハ衆人目シテ絕世ノ美丈夫ト稱セリト

英王ノ橋畔ニ來ル自其帽ヲ脫シテ佛王ニ禮シ首ヲ俯スルヿ約子半ヲ一ト時ニ佛王柵ニ倚テ立テリ即英王ニ答禮ス恭敬最厚シ已ニシテ互ニ其手ヲ柵間ニ相握リ親睦ノ好ヲ脩ス

好禮已ニ畢リ舊盟ヲ渝ヘザランヿヲ約信シ而シテ後談話一二時間ヲ移セリ佛王路易只管甘言ヲ以テ英王ノ心ヲ悅ハス英王終ニ巴里府ニ聘セントス英王ノ巴里府ニ來ルハ是佛王ノ榮トスヘキ所ナルヘキニ

路易ノ意私ニ恐怖シテ謂フ英王ノ勇悍今之ヲ我部府ニ入ラシメハ或ハ將ニ復退キ還ルコト無カルヘシト是ニ由テ背テ其ノ聘セラルヽノ榮ヲ要セズ

英王既ニ講和シ畢テ未幾クナラザルニ侯シヤルロテメレールヽ亦和ヲ佛ニ講シ將ニ瑞西ニ向テ兵ヲ出サントス瑞西ハ素ヨリ小國ナリ今富强ト稱スルブルゴンヤ州ヨリ之ヲ視レハ蓋甚心ニ介スルニ足ラス但瑞西ノ世ニ名アル者ハ其民貧陋ト雖朴實ニシテ勇悍ノ氣アルヲ以テナリブルゴンヤ侯ノ兵ヲ起スヤ瑞西人民ノ代理者出テ之ヲ迎ヘ侯ニ謂テ曰ク我瑞西ノ如キハ實ニ單小敝貧ニシテ之ヲ得ルモ僅ニ侯ノ從兵鞋釘ノ資ニ當ルニ過ギスト

瑞西ノ人民朴實ナリト雖各自主自由ノ心ヲ確守セリ其奮戰スルニ當

テハ却テブルゴンヤ州ノ錬熟精鋭ノ兵士ニ優レルヿ萬々ナリ侯シヤルヽ之ト接戰スルヿ僅ニ二次輙敗レテ竟ニ之ニ死セリ瑞西人戰勝ツト雖矜色無ク敵兵ノ器杖ヲ獲ル多シト雖未曾テ其有價ノ物タルヲ知ラズ獨美麗ノ帷幕アルヲ喜ビ爭テ裁裂シテ衣裳ヲ補製セリ又ブルゴンヤ侯被ル所ノ金銀兜鍪匠甲ハ之ヲ見テ以テ錫造ナリト爲シ交市スルニ銅ヲ以テセリ銅ハ彼ノ金銀ヨリモ至要ノ物ト爲ス所ナリ

又一個ノ金剛石ノ地ニ遺チタルアリ是侯ノ帽頭ニ裝飾シタル物ナリ一農夫之ヲ拾テ玻瓈造ナリトシ投棄シテ去ル又行者フルニ其色甚美ニシテ光彩アルヲ以テ復拾ヒ取テ衣嚢ニ收ム適之ヲ購求セントスル者アリ之ヲ賣テ二三元ヲ得タリ此固ヨリ至寶ナルヲ知ラザレハナリ其之ヲ購スル者モ亦其至寶タルヿヲ知ラズ後適財幣ノ缺乏スルニ及

テ更ニ二三錢ヲ利シ得テ又之ヲ賣リタリ

彼ノ金剛石屢轉賣シテ終ニ佛王ノ手ニ歸シ其至實トナル價三十萬餘弗ニ至レリ爾後ブルゴンヤ州ハ侯シヤルノ戰闘ヲ事トスルヲ以テ國勢大ニ衰フト云フ

侯シヤル其父ノ死セル比ブルゴンヤ州ノ富强盛大ナルヿ實ニ前說ノ如シ而シテ今ノ衰廢亦甚シコミン氏謂フ侯シヤルノ季世ニ當テ人民ノ貧困ナルヿ余未曾テ此ノ極ニ至ル者ヲ見ズ古諺ニ云ク戰闘ヲ事トスル君ハ其敵人ヲ攻擊スルト均シク我下民ヲ鞭撻スルコト暴ナリト其シヤルヲ謂フカ

第八十三篇　ブルゴンヤ侯ノ女マリーノ不幸

王路易ハブルゴンヤ侯ノ死セルヲ聞キ心大ニ之ヲ喜ビ恭シク上帝ヲ

禮拜シテ其ノ己ノ害ヲ除クヿヲ謝セリ又彼ノ嗣子アラザルヲ以テ竟ニ其地ヲ幷セント欲シ兵ヲ以テピカルデイーノ都邑ヲ擊破セリ一市邑ガンノ士民自政府ヲ設立セリ時ニブルゴンヤ州ノ誠實忠直ナル二大臣其侯女マリーヲ立テ侯位ニ即カシメントス然ルニガンノ府民肯テ其意ヲ奉セズ却テ二大臣ヲ誣テ叛逆ヲ謀ルトシ之ヲ死刑ニ處セント議ス是ニ於テ侯女驚惋シテ心身置ク所ヲ知ラズ

侯女ハ二忠臣ノ橫害ニ罹ランコトヲ慇傷シ百方救助セント欲シ奔テガンノ市中ニ赴ク是時二臣已ニ刑場ニ在リ府民觀ル者堵ノ如シ侯女喪服被髮直ニ入テ衆庶ニ向ヒ哭泣哀慟シテ二臣ノ死ヲ宥サンヿヲ請フ

其黨民過半ハ侯女懇切ノ情ヲ憐ミ二臣ヲ放還セントス一黨民肯テ聽

カズ遂ニ起テ相鬪諍ス逆徒隙ニ乘シ遂ニ劊手ニ命シテ之ヲ殺戮セリ侯女大ニ悼惧シテ慟絶ス少頃シテ凄然トシテ宮ニ還レリ

是ヨリ府民勢權ヲ得ルヿ益甚シク侯女ヲ制壓スルヿ漸慘酷ナリ遂ニ之ヲ幽囚シテ親戚タニモ會見セシメズ且之ニ要シテ曰ク彼此ヲ論セス唯民望ノ屬スル所ノ者ニ嫁セヨト侯女肯セス只管之ヲ避ンヿヲ求ム後遂ニ日耳曼帝ノ長子マクシミリヤンニ嫁セリ

コミン氏云フ侯女マリー已ニ日耳曼帝ノ子ニ嫁スト雖想フニ其心樂マサルベシ何トナレバブルゴンヤ侯女ノ居ハ宮殿壯麗ニシテ机案精良衣服華美ヲ極ム日耳曼國ノ若キハ言語卑俚民俗賤陋生計豐足セス國ヨリ配偶スヘキ者ニアラザレバナリ

日耳曼國ヨリ夫婿ヲ聘迎スル道路ノ用費及其從僕ノ類一切皆ブルゴ

ンシヤ侯女ヨリスル所ニシテ此ノ嘉禮ヲ成セリ是其國ノ固ヨリ貧困ナルカ爲カ將其人ノ貪吝ナルニ由テ然ルカ而シテ侯女マリーハ何ノ宿縁ゾヤ一旦馬ヨリ墮テ暴ニ歿セリ其父ノ死ト相距ルヿ僅ニ四年ナリ侯女マリー死ス一男一女アリ女甫メテ二歳佛國ニ入ル此其太子ノ后タラシメンガ爲ニ養育スル者ナリ男名ハセイリップ是ガン府民ニ養育セラレ立テブルゴンヤノ侯タラントスル所ノ者ナリ

第八十四篇　第十一世路易ノ佯誕及捕鼠歌舞等ノ遊戲

英王第四世エドワルド殂ス是ニ於テ天下佛王路易ニ敵スル者無シ佛王ノ威權盛ナルヿ實ニ歷代諸王ニ超過セリ此其陰謀詭術アリテ然ルカ將矯飾スル所有テ然ルカ王ノ功名顯然タルヿ已ニ斯ノ如シ宜シク大ニ其慶福ヲ享ケ餘生ヲ樂ムベシ而ルニ窘迫憂悶已ム時無シ

王路易氣體衰弱シ其死期ノ近ツクヲ憂慮シテ忘ルヽヿ能ハズ心身愈疲羸シ憂憤愈加ハル一日其太子ニ告テ曰ク余往日大ニ人民ヲ殘害セリト今其言フ所ヲ推スニ其心ニ人民ノ怨ヲ報スルコトアランコトヲ憂慮シテ然ルナリ

其憂慮ノ已ムヿ無キヨリ自患難ノ至ルヲ怖レ遂ニ入テプルシー城ニ據レリ此城ノ要害ハ周圍皆濠渠ニシテ濠底ニ鐵釘ヲ樹エ其守備ノ嚴ナルヿ當ルベカラズ又蘇格蘭ノ射手若干名ヲ備フテ之ヲ警備トス苟城中ニ入ラントスル者アレハ先其名ヲ報シ許可ヲ得タルニアラザレハ敢テ入ラシメズ然ラズシテ城中ニ入ル者ハ悉ク之ヲ射殺ス

常ニ城門ヲ鎖シ耳門ヲ啓テ城中往來ノ者ヲ出入セシム其耳門ノ狹隘ナルハ僅ニ一身ヲ容ルヽニ過ギス王又其庶王貴族ヲ忌ムヿ甚シ其ノ姫

妾ニ至テモ之ヲ見ルヿヲ欲セズ凡貴族親戚ト雖之ヲ呼招スルニ非ザレバ城中ニ往來謁見スルヿヲ得ス

王ノ憂慮ニ過ルヤ城中正殿ニ至ル路上ニ一本ノ樹木タモ栽エズ反テ縊架ヲ列シテ之ニ代フ其ノ常ニ親信スル所ノ者僅ニ三人刑罪人トリスタンレルミツト鎌工ヲリウエ、ダイン醫師ジヤーク、コーナエー是ナリ王ノ人ヲ過スルヿ甚傲慢疎暴ナリト雖此ノ醫師ニ逢フトキハ長愼恭敬スルヿ殆奴僕ノ如シ

醫師ジヤーク性頗奸黠ナリ自揚言シテ云フ星學家嘗テ余ヲ推命シテ云ク汝王ノ死ニ先タツヿ數日ニシテ死スベシト王之ヲ聞テ以テ信ト爲シ毎ニジヤークノ死ナンヿヲ恐レ用意周密ニシテ之ヲ待ツコト甚厚シ屢贈貽ノ物アリ其不敬無禮アルモ亦宥恕シテ咎メス唯其言フ所

ニ從ヘリ
王路易臣子或ハ廢立ヲ謀リ政權ヲ奪ハントスル者アランコトヲ慮リ大ニ政治ニ勉勵スルノ狀ヲ示シ倦困疲勞シテ力一字ヲ讀ムニ堪ヘス然レトモ尙且自書記官ニ命シテ草セシムル書冊ハ强テ檢點シテ誦讀スルノ狀ヲ爲セリ

王國中遠近内外ノ事情形勢ヲ知ルニ輕易ニシテ便利ナランヿヲ欲シ即各所ニ驛遞郵便局ヲ建築セリ夫郵便ノ設ハ專便利ヲ取レトモ唯王ノ爲ノミニシテ庶人其ノ利ヲ享ルヿ能ハス但其費額ノ若干分ヲ償フ者ニハ各驛所畜ノ驛馬ヲ借ルヿヲ得セシメタリ庶人ノ往來信書ヲ郵便ニ附託スルヲ得ルハ紀元一千六百三十年以後ニ始マレリ

王遊戲シテ意思ヲ慰メント欲シ昔好ム所ノ田獵ニ摸倣シ補鼠ノ觀ヲ

爲ス其法先群鼠ヲ驅テ之ヲ一室ニ入レ猫ヲ放テ之ヲ補獲セシメ以テ歡樂ニ供セリ已ニシテ心亦之ヲ厭フ近臣等更ニ歌舞ノ一戲ヲ創成セリ捕鼠ニ比スレバ最無害ノ觀トス

玆ニ衆多ノ農夫ヲ招集シ之ヲ分テ數隊ト爲シ城傍ノ牧場ニ列陳シ之ニ命シテ吹笛歌舞セシメ王路易盛服シテ衰容ヲ裝飾シ城窓ニ倚テ之ヲ望觀ス亦聊老懷ヲ悅ハシムルニ足ル然レトモ彼ノ歌舞兒王ノ城邊ニ在ルヲ知ル者アレバ則直ニ退テ深室ニ入ル竟ニ再出テ觀ルヿヲ爲サズ

王ノ死漸近キニ及ビ其ノ憂懼スルヿ愈切ナリ乃自勉テ其ノ憂懼ヲ驅除セント欲シ怪誕詭秘百方其術ヲ需メ聖號神符ヲ身ニ屬シ鉛造ノ神像無數ヲ周ク帽子ニ挿ミ常ニ禮拜禱祈シ又靈油ヲ蘭斯地名ヨリ齎シ來

ヲシメ之ヲ榻上ニ安置セリ

時ニ羅馬法王珍奇ノ靈物數種ヲ以テ王路易ニ贈ル土耳格帝モ亦コンスタンチノーブル都ヨリ使ヲ遣テ靈物ヲ贈レリ王路易コンスタンチノーブルヨリ贈ル所ノ物ヲ忌惡ス此其宗教ヲ信セサル人ノ致ス所ナレバナリ路易平素最信仰スル者ハカレブリヤ（地名）ノ神聖隱士ナリ之ヲ招請シテ城内ニ至ラシメ首ヲ俛シテ膝ニ至リ惶懼已ムヿ無ク專心哀訴シテ其壽ヲ長クセンヿヲ懇祈セリ

一日王謂フ我死期已ニ迫レリト乃諸大臣ヲ召集シ之ニ命シテ曰ク我將ニ死セントス公等行テ太子ヲ助ケ卒シテ以テ君主トセヨト因テ其獵犬及鷹ヲ太子ニ贈リ禪位ヲ表スル所ノ什器悉皆之ニ授ク然シテ王尚死セザルヿ數日其心乃太子ニ贈ル所ノ物ヲ惜テ悔恨スル者ニ似タ

リ

王常ニ土曜日ニ於テ命ヲ終ンヿヲ情願セリ是其土曜ノ最良日タルヲ知レバナリ紀元一千四百八十三年第八月三十日正ニ土曜ニ當レリ乃是ノ日ヲ以テ殂ス宿志ヲ成スト謂フヘシ一男二女アリ世ノ王ヲ評スル者謂フ王一個ノ功德アリ其下民ヲ酷害スル甚シト雖諸臣等ニ酷害ヲ人ニ加ルヿヲ得サラシム

第八十五篇　佛王第八世シヤル繹名デ、ボネール、ノ事并アン、ド、ボージヨー（ボーシヨー地名ノアント云フ義）佛國ヲ攝管スル王シヤルブリタン（地名）ノ嫡女ヲ娶ル

王シヤルハ稟質柔弱ニシテ爲スヿ能ハザルカ抑人ノ猜忌ヲ憚テ爲サルカ未曾テ其教育ヲ受ケ文學ニ就クヲ見ズ畢竟其父王ノ訓導嚴ナリヲ

ザルニ由レリ王位ニ即クニ及テ深ク之ヲ愧ナ力行勉勵シテ稍讀書ノ味ヲ覺ルニ至レ圧尚少年惰弱ノ舊習ヲ脱スルヿ能ハズ政務ノ紛紜ヲ厭ヒ之ヲ他人ニ委セント欲ス

王ノ性頗快活ナリト雖其事ヲ斷決スルニ當テ暗劣モ亦甚シ是ヲ以テ其爲ス所每ニ條理ナキ者多シ然レ圧又愛スヘキ一美質ヲ存セリ其宏量ニシテ大度アルヲ以テ通常忍ブヘカラサル事ト雖能之ヲ忍ヘリ或人之ヲ評シテ曰ク王終ニ人ヲシテ憂苦セシムルノ語ヲ發セズト

第五世シヤルノ憲法ニ曰ク太子十四歲ニ至レハ則之ニ國ノ綱紀ヲ委任スルモ亦妨ケズト然ルニ王路易謂フ年甫テ十四未成人ナラズ之ニ委スルニ大綱ヲ以テセハ恐ラクハ其法盡サヽル所アラント乃位ヲシヤルニ讓ルニ當テ其姉アンニ遺命シテ之カ輔佐タラシムアンハボージヨー侯ニ嫁セシ者ニシテ王路易ノ長女ナリ故ニ之ヲ稱シテマダムト曰フ

時ニ王族諸公肯テ此ニ從ガハズオルレヤン侯首トシテ此ノ制ヲ廢セント欲シ貴族集會シテ議スト雖其勢廢ス可ラザル者アリ因テ姑ク其制ニ遵ヒアンヲシテ攝政タラシム此ノ女天資剛毅ニシテ才略アリ思慮精密ナルヿ殆父王ニ相似タリ

唯其父王ニ類セザル所ハ資性毫モ奸黠暴惡ヲ挾マザルニアリ良婦人ト稱シテ可ナリ其登用セラルヽ年僅ニ二十二能少年ノ情慾ヲ抑制シテ無益ノ遊戯ヲ爲サズ專力ヲ民政ニ竭セリ

是ニ於テオルレヤン侯自危懼シ佛國ニ在ルノ安カラザルヲ以テ乃奔テブリタンヤ地名ニ赴クブリタンヤ州ハ獨立ノ一食邑ニシテ佛王ノ羈

絆ヲ被ラザル者ナリ當時食邑唯此州アルノミ夫レ佛王管轄ノ地ハ第十
一世路易ノ功烈ニヨリ大ニ開擴セリ又兵力ヲ以テブルゴンヤノ一大
州ヲ併セ金若干ヲ以テブーロンヤ港ヲ購ヘリ

メーン及アンジユーノ二州ハアンジユーノ主シヤル之ヲ佛王路易ニ
獻シ又バル及ヒプロウカンスノ二土ヲ獻セリ且其意想スル一事ヲ獻
言シテ謂フネーブルス國王ノ爵位ハ我レアンジユーヨリ取ルベキ理ア
リ今又之ヲ獻スヘシ時ニブリタンヤ侯適ニ繼嗣無シ佛國ノ執政等皆
其州郡ヲ沒取センヿヲ謀ル攝政アン謂フ之ヲ沒收スルハ必師ヲ出ス
ノ理アリ豈喜悅ノ事ナラズヤト

紀元一千四百八十八年第七月二十八日ヲ以テ佛軍進テブリタンヤノ
軍ヲサント、オーバンニ擊破シオルレヤン侯ヲ虜囚シ嚴ニ監守ヲ爲シ

更ニ鐵轎ヲ造リ夜ニ及ヘハ之ヲ獄舍ニ繫クブリタンヤ侯ハ敗軍ノ後
幾クモナクシテ死セリ侯ニ一女アリ名ヲアントヿ云フ當ニブリタンヤ
州ヲ管領スヘキ人ナリ時ニ年甫テ十三

少女ノ性貞烈節操アリテ才識人ニ卓越スブリタンヤノ衆庶皆我侯女
ノ速ニ良匹ヲ得テ民人ヲ保護センヿヲ願フ或ハ謂フダルベレーヲ迎
ヘテ結婚セヨト或ハ謂フ佛王シヤルニ嫁シ兩國和平シテ上下親睦ナ
ラシメント然レ𪜈此ノ二議ハ皆アンノ欲セザル所ナリ是ダルベレー
ハ身老ヒテ其年紀ヲ算スレハ祖父ノ如クシヤルハ親族ノ仇敵タルヲ
以テナリ

此女ノ意ハマキシミリヤンニ在リ遂ニ禮ヲ納レ婚ヲ結バントス然ル
ニマキシミリヤン其心ノ簡慢ナル爲カ事故ノ已ムベカラザル有ルカ

肯テアンヲ來訪セズ又師ヲ出シテ之ニ應援スルヿ無シ佛王シヤルハアンカ情人ニ棄捐セラル、ヲ察シ自之ヲ娶ラント欲シ且五萬ノ臣僕王ノ意ヲ助ケ成シテ之ヲ威嚇シテ之ヲ拒マバ兵力ヲ以テ制服スルノ意ヲ示セリ

王シヤル別ニ自意アリ敢テ衆庶ノ助ヲ藉ラス乃軍裝ヲ變シ微行シテブリタンヤ州ニ入リ嚮ニアンヲ首都ニ訪ヒ甘言巧辯ヲ以テ說キ得テ其意ヲ成シ紀元一千四百九十一年第十二月十日遂ニ之ト婚セリ

第八十六篇　王シヤル以太里國ヲ攻メ速ニ其功ヲ成ス及旋軍ヲオルノバノ戰勝

是時佛王隆興シテ佛國ノ地ヲ統一スルヿヲ得タリ是レ已ニ數百年ヲ經歷シテ此ノ極ヲ致ス者ナリ王シヤル百戰百勝ヲ以テ名聲ヲ顯揚セ

ント欲シ眞正ノ權勢ヲ以テ治安ヲ策スルノ意無シ其ノ恒ニ景慕スル所ハ古史中ニ在テセーサルシヤルマンヤノ二人ノミ是ヲ以テ幼時勤學ノ日人ニ命シテ佛語ヲ以テセーサルトシヤルマンヤトノ傳記ヲ譯述セシメタリ

アンジユー侯シヤル前ニ十一世路易ニ獻言スルニ子ーブルス國ノ王位ハアンジユーノ取ルヘキ理アルヲ以テス今シヤル斯ノ言ヲ用ヰテ之ヲ奪ハントス此ノ擧實ニルードヴヰコースフオルザノ慫慂スル所ニ出ツスフオルザハ兇暴不忠恩ニ報スルニ怨ヲ以テスル意アリ世人惡漢ト呼ヒ做スミラン侯ハ其甥ナリ然ルニ之ヲ却ケ縱ニミランヲ奪ハント欲セリ

王シヤル乃宿意ヲ成サント欲シ兵十八萬ヲ募集シ一千四百九十四年

ヲ以テ師ヲ出タセリ然レ𪜈兵備軍資共ニ充實ナラス未以太里國ニ達セザルニ内廷諸貴女ノ寶石ヲ假リテ兵人ノ雇錢ニ充ツルニ至レリ是時テーブルス王フェルディナン及以太里庶公子ニ在テ當ニ速ニ備禦ヲ設クヘキニ乃謂フ干戈ヲ交ルニ及ハズシテ事必休ムヘシト彼ノフェルディナン及子カレブリヤ侯アルフォンソー法王第六世アレキサンドル等ノ如キハ皆惡行邪術ヲ以テ當世ニ著ハル

古代ノ史氏メゼレー謂ヘルヿアリ佛王シヤル無謀ノ人ナレ𪜈寡少ノ兵ヲ帥ヰ進テ以太里ニ入ル其勢恰上帝テーブルス王等ノ惡行ヲ惡ミ其眼ヲ蔽ヒ其手ヲ縛シテ之ヲ罰セシムル者ノ如シシヤル時ニ揚言シテ曰ク余ハ自主自立者ノ信友ニシテ暴行無賴人ノ敵手ナリト

王シヤルノ向フ所門ヲ闢キ出テ降ラザル者無ク大勝利ヲ得テ直ニ羅

馬ニ達シ又テーブルスニ入ル時ニテーブルス王フェルディナン已ニ沒シ太子アルフォンソー王位ヲ嗣ケリシヤルノ聲焰ニ恐嚇セラレテ心折レ膽破レ爲ン所ヲ知ラズ謂フ佛軍已ニ市街ニ充滿シ瓦石ヲ飛ハシテフランスフランスト號呼スル聲恰佛軍ノ吶喊ニ異ナラズト然レ𪜈佛ノ軍士反テ未城市ニ到ラザルナリ

王アルフォンソー未佛軍ノ虛實ヲ知ラス惶遽狼狽シテメスシナ地名ニ奔リ一寺院ニ潛居シ幾モ無ク憂死セリ亦憫笑スベシ此王權譎多ク貨財ヲ掠收スルコト多シ其メスシナニ奔ルニ及テハ貪吝ノ念已ニ絕エ唯愛願スル所ハ林園花木ノミ太子フェルディナン王位ヲ襲ク頗大志アル者トス

佛王シヤルノテーブルス國ニ在ルノ初メ其土人皆謂フ佛王我ヲ塗炭

ノ中ニ救フ恩德實ニ忘ル可ラズト既ニ大勝ヲ得ルニ及テシヤル幷ニ將士等心志盈滿シ其萬苦シテ得ル所ノ民地ヲ保護セズ却テ酒色ニ沈湎シテ治安ノ策ニ惰ル兵士モ亦往々其爲ス所ニ傚ヘリ

其人民ヲ治ルニ仁愛ノ心ナク專慘酷ニシテ其權利ヲ保有セシムルヿ無シ是ヲ以テテーブルスノ民謂フ佛王ノ始テ我境ニ入ル自主自立者ノ信友ナリト揚言セリ而ルニ其行フ所暴惡ニシテ殆舊主ニ超過セリ

王シヤル傲遊日ヲ曠クスルヿ既ニ久シ此時一隊ノ強勇アリ釁ニ乘シテ之ヲ伐タント謀ル者アリ已ニ一大黨ヲ結ヘリスフオルザモ亦ミランヲ奪領シ以太里ノ公子ト結盟シテ此ノ黨中ニ在リ日耳曼帝マキシミリヤンハ其后アンノヲシヤルニ騙誘セラレシ人ナリ亦此ノ黨ニ聯合ス西班牙王フエルデイナント其后イサベラモ亦此ニ應援セリ

シヤル其動靜ヲ聞キ目瞪シ口呆シテ安スルヿ能ハズ往日ノ非ヲ悔悟シ臍ヲ噬メトモ及フヿ無シ乃謂フ此地ニ留滯ス可カラズ佛國ニ還ルニハ如カズト然レ𪜈從兵僅ニ九千人歸路ハ已ニ敵軍充塞シ其兵四萬フオルノバ谷ニ據テ之ヲ要セリシヤル是ニ於テ意ヲ決シ勇進シ寡ヲ以テ衆ヲ擊ツ是平素鍊熟スル所ノ術ナリ

王シヤル寡兵ヲ以テ沿道ノ衆軍ヲ衝突シ大勝ヲ得敵死スル者三千人我兵死スル者僅ニ八十人王ノ以太利ニ入ル其功ヲ成ス甚速ナレ𪜈之ヲ失フモ亦速ナリ故ニ此ノ大勝アリト雖僅ニ旋軍ノ道路障礙無キヲ得ルノミ

テーブルス王フエルデイナン逐ハレテ境外ニ在リシカ西班牙王フエルデイナン及后イサベラ等其名將ゴンザルヴイデ、コルドバヲ遣シテ

之ヲ援ヒ遂ニチ―ブルス國ヲ復スルヿヲ得タリ而シテ紀元一千四百九十六年ノ末ニ及テ以太里國ノ情勢己ニシヤルノ來擊セザル日ニ同ジキニ至レリ

第八十七篇　佛王シヤル、デ、ポチール行軍ノ變化幷其死其品行

王シヤル以太里ニ遠征シ終ニ遊蕩流連シテ其成功ヲ失フニ至レリ其旋軍ニ及テ猶且身ヲ守持スルコト能ハス人民喋々トシテ其敗軍ノ失ヲ罵テ已マス是ニ於テ更ニ新兵ヲ募リ再以太里ニ向テ出師セリ

其騎隊已ニアルプス山ヲ踰エ王行テリヨンニ及フ時俄ニ馬轡ヲ回シテ以太里ノ兵事ヲ止メタリ其ノ意往過ヲ悔悟シ民事ヲ治メ國益ヲ謀ル者ノ如シ

王心ヲ民事ニ尽シ政教維新戸素ノ冗官及不理ノ法官ノ職位ヲ褫キ俗徒ノ弊風ヲ一變シ其不學無識ヲ懲シ邪淫破戒ヲ罰セント欲シ勉勞拮据功未半ナラスシテ暴殂ス

王以太里ニ在ル日宮殿中ニ居リ壯麗ナル層樓複閣ニ坐臥シ大ニ土木ノ事ヲ愛好スルニ至ル習慣性ヲ移スト謂フベシ復佛國ニ還ルニ及テ其生誕ノ地アンボアーズ（地名）ニ一宮ヲ建築セントス其落成ニ及テ人稱シテ佛國古來未曾有ノ鉅觀トス其列置スル所ハ珍品奇物ヨリ偶像家具ノ最巧麗ナル者ヲ以テシ此ニ雜フルニ各種ノ彩色畫圖ヲ以テス此皆以太里ヨリ齎シ來ル所ノ者ナリ

王一日后ト倶ニ新宮ニ遊フ偶宮外ニ毬戲ヲ爲ス者アリ乃后ノ看テ悅樂センコトヲ欲シ往テ其室ニ就キ其人ヲ誘テ觀臺ニ上ラシム

王ノ觀臺ニ上ル其ノ門戸卑狹ナリ因テ誤テ其額ヲ觸擊ス王既ニ臺ニ

上リ在列ノ衆人ト說話シ顧テ一人ニ語テ曰ク余ノ世ニ存スル願クハ已レニ克チ善ヲ修メ必罪惡ヲ爲サヾランヿヲ其言未終ラザルニ卒然仆倒シテ氣息奄々タルニ至レリ

左右ノ人驚テ之ヲ扶起シ以テ其傍ナル粗惡ノ臥床ニ登セ居ルヿ一霎時命遂ニ絕ス實ニ紀元一千四百九十八年第四月十七日ナリ年二十八在位十五年王貌醜惡眼光秀徹人ヲ射ル

語音晦澁言ヒ易カラザル者ノ如シ而シテ温良篤實大ニ人望ヲ得タリ乃綽號シテル、デボテール（慈愛篤重ノ義）ト云フ蓋衆望ヲ得ルハ此王ニ優ル者鮮シ傳ヘ云フ其死スルニ及テ近侍從僕皆慟哭哀惜シテ禁スルヿ能ハス爲ニ殉スル者二人其后アンノ、ド、ブレターギュ甚悲傷泣哭シテ殆狂惑シテ人事ヲ辨セザルニ至レリト

王シヤル嗣子ナシ即第五世シヤルノ曾孫路易其位ヲ襲ク之ヲ第十二世路易トス曾テオルレヤン侯タル者ナリ

第八十八篇　第十二世路易綽號ル、ペール、デユ、ボーブル（人民ノ父ト云フ義）ノ治世及賢相カルデイナル、ダンボワーズノ事幷ニアンノ、ド、ブレターギュ后ノ事

第十二世路易即位ノ年三十六其幼時多ク艱難ヲ經辛苦ヲ嘗メタリ初第十一世路易嫉心甚深ク其繼嗣タル者須臾モ傍ヲ去ヲシメス常ニ膝下ニ居キ才能ヲ束縛シテ暢達スルヿ能ハサラシム

故ニ第十一世路易已ニ死スルニ及テ王ノ身ニ於テ大ニ不便ヲ覺ユルコト亦知ル可シ然レヒ其曾テ多ク難苦ヲ嘗ムルヲ以テ膽力ヲ鍊リ心術ヲ磨スルヲ得テ國事ニ盡力シ民業ヲ利導スルヿ歷世未此王ニ及フ

者アラズ民之ヲ仰キ綽名シテル、ペール、デュ、ポーブルト云フ此即民ノ父ト云フ義ナリ

王第五月二十七日ヲ以テ盧油ヲランス府ニ取リ來リ第七月一日位ニサンドニーニ即ク乃ルワンノ督教主ジヨルジ、ダンボワーズノ忠信篤實ナルヲ知リ之ヲ貴ヒ命スルニ宰相ノ任ヲ以テス果シテ能ク其任ニ適シ其職ニ稱ヒ君臣遭遇ノ厚益ジヨルジノ右ニ出ル者罕ナリ

宰相ジヨルジノ政ヲ執ルヤ文學ヲ精究シ貿易ノ利ヲ興シ其ノ後進ヲ學問ニ誘掖スルハ曾テ費用ヲ問ハス鉅萬ヲ擲ツモ顧惜スル所無シ故ニ人稱シテ文道保護ノ主ト爲ス唯其文學ヲ勸ムルノミナラズ凡百ノ事務ニ當テ貨財ヲ惜マザルヿ概此ノ如シ且任ニ當テ赤心ヲ尽シ精力ヲ究ルヲ以テ王ノ待遇最厚ク民ノ瞻望スル殊ニ甚シ

又大ニ僧徒ノ弊習ヲ憂慮シテ之ヲ改正セント欲シ先自己ノ行ヲ嚴正ニシテ以テ僧徒ノ心ヲ化道シ其行ヲ勵サントス自一個ノ寺邑ヲ收受スルヲ名トシ其所入三分ノ二ヲ以テ窮民ヲ賑恤シ寺院ノ修繕ニ供ス其餘一分ヲ以テ自家ノ用ニ充ツ

王路易民ニ臨ミ心ヲ竭シ力ヲ勞シ勉テ税斂ヲ薄シ公法ヲ釐革スルヲ以テ任トセリ一老將ド、ラ、トリムイエト云フ者頗膽畧アリ嘗テセントオーバンノ役ニ於テ王路易ヲ捕囚セシ人ナリ或人王ニ說テ曰ク宜シクトリムイエヲ貶シテ將帥ノ位ヲ褫クベシ王曰ク余儕王ノ位ニ登ル豈我オルレヤン侯タル日ノ怨ヲ報スルガ爲メナランヤト

后アンノ王ノ己ニ殂スルヲ以テ其舊邑ニ還リ身上ノ羈絆ヲ解クヿヲ得タリ因テ第十二世路易ニ再醮シ其邑復佛國ノ版圖ニ歸セリ后アン

ノ其節行淳正内廷整粛ナルヲ以テ世ノ標準トナル
少年ノ貴女数十人常ニ后ニ近侍セリ后之ヲ接待使用スルヿ各其性ニ適シ其分ニ應シ或ハ之ニ縫繍ヲ教ヘ或ハ他ノ事業ヲ課シ后自群中ニ在テ首トシテ我業ヲ勧メ且人ヲ勸メテ敢テ怠惰セズ其神彩俊秀ナルヿ佛國后中ノ冠タリ其心臓ヲ金函ニ秘藏シテ巴里府王家ノ文庫ニ在リ今猶存セリ

第八十九篇　カスチール西班牙ノ一州ノ貴族奇異ノ禮典ヲ修ス及カスチール后イサベラノ事蹟

王路易嘗テ曰クオルレヤンニ侯タルノ日ニ舊仇宿怨アルハ一切措テ問ハスト既ニ其怨ヲ措カハ併セテオルレヤン侯ノミランヲ取ル權アルヿヲ忘ル、ニ至ラハ王ノ福利ヲ享ル益大ナラン夫オルレヤン侯ノミランヲ有スル權アルハ曾テ其ノ祖母某ノ故アルニ據レリ今王ヲシテ能クミランノ故ヲ忘レシメハ蓋困苦艱闘ノ患無カラン

王路易師ヲ出シ以太里ニ入リミランヲ併セテ之ヲ領シ又ゼノア州ヲ得テ自統領ノ任ヲ兼ヌ時ニ一千四百九十九年ナリゼノア州ノ政体ハ共治ノ法ヲ存ス王ミランニ入テ其國ニ勝ツト雖敢テ王服ヲ着ズ尚侯服ヲ着タリミラン侯スフォルザヲ虜シ之ヲ佛國ニ監送シテ城中ニ囚フスフォルザ遂ニ城内ニ沒セリ

王師戰勝テ已ニミランヲ取ルト雖尚以テ足レリトセズ又轉シテテーブルスニ向ヒ之ヲ奪掠セントス西班牙王フェルヂイナンノ之ヲ阻碍スルアランヿヲ恐レ乃使ヲ遣シ之ニ謂ハシメテ曰ク余王ト力ヲ戮セテテーブルスヲ攻略セント欲ス其獲ル所ノ利ハ之ヲ王ト共ニ分タン

ト
時ニネープルス王二王ノ來リ攻ルヲ拒ガス乃出テ軍門ニ降リテ云ク我カ家學ハ之ヲ王フェルデナンニ托シ余一身ハ唯王路易ノ命スル所ノマヽノミ是ニ於テ王路易若干金ヲ與ヘテ養老ノ資ト爲シ之ヲエンジー侯ニ封ス

二王其掠獲スル所ヲ分ツニ及テ互ニ多ヲ貪リ喧闘スルニ至レリ昨日同盟ノ親今日疾視ノ仇ト爲ル而シテ西班牙王フェルディナンノ大將ゴンサルボ、ド、コルドバ從前兵事ニ老錬シオ力アリ此時二王ヲ離間シ其親盟ヲ破リ悉ネープルスヲ取リテ其王フェルディナンニ與ヘタリ

王路易ハ紀元一千五百零四年ヲ以テネープルス國ニ關スル權及ネー

ブルスノ王號ヲ以テ全ク西班牙王フェルディナンニ付セリ而シテ其姪ゼルマナ、ド、フォワーヲ聘シテ之ヲ娶ルゼルマナハ西班牙后イサベラノ死スルニ及テ嫁シテフェルディナンノ后タル者ナリ后イサベラハ其王フェルディナンノ奸黠ナルニ比スレバ其ノ人ト爲リ大ニ異ナリ

后寛大ノ度量アリ西班牙人ノイサベラノ名ヲ尊重スルヿ今ニ至テ止マズコロンブスノ嘗テ米洲ヲ撿出シテ能非常ノ大功ヲ成スハ一ニ后ノ力ニ在リ後后ノカスチルニ王タルヿヲ得ルハ后ノ弟第四世顯理カスチルニ王タルニ當リテ貴族相結テ其無行ヲ惡ミ之ヲ廢センヿヲ議決スルヲ以テナリ

カスチル州ノ貴族新ニ奇異ノ禮典ヲ創ス此史中未嘗テ見ザル所ナリ

貴族輩相謀テ先王顯理ノ偶像ヲ造リ一箇ノ高閣ヲアリヲ中ノ原上ニ起シ之ヲ其ノ上ニ安ス王像ハ身ニ衣冠ヲ着シ手ニ笏ヲ持シ腰ニ刀劔ヲ帶セリ

茲ニ其像前ニ訴ル者アリ其ノ王位ヲ廢センヿヲ奏シ告狀第一欵ヲ讀ミ畢リ又一人アリ進テ王ノ冠ヲ取テ破裂ス第二欵ヲ讀ミ畢リ又一人進テ其ノ腰劔ヲ脱ス第三欵畢テ其笏ヲ奪ヒ第四欵畢ル ニ及テ遂ニ偶像ヲ打倒シテ之ヲ閣上ニ旋轉セシム

事已ニ畢リテ內亂尋テ起ル王顯理貴族輩ニ誓テ曰ク余ヲシテ終身王位ニ在ヲシムルヿヲ得バ必我姉イサベラヲ以テ嗣立セシメ敢テ位ヲ我子孫ニ傳ヘスト因テ位ヲ失ハサルヿヲ得タリ後イサベラ嗣テ立チ死スル時其女ジヤン嫁テカスチル國ヲ有セリフィリツプ、ロベルト婚

姻セシ者是ナリフィリツプ其父ヲマキシミリヤント稱シ母ハブルゴンヤ侯ノ女マリーナリ

フィリツプ紀元一千五百七年ニ死セリジヤン大ニ痛哭慟絕シ自民政ヲ治ルコト能ハスジヤン性甚柔軟其長子シヤルヲ立テ王位ニ即カシム年甫テ七歲ナリ祖父フェルヂイナン政ヲ攝ス

第九十篇　羅馬法王第二世ジユリユスノ貪譎カンブレーノ盟約幷佛王第十二世路易ノ死

第二世ジユリユス羅馬法王ノ位ニ即ク時ニ紀元一千五百零三年ナリ是ニ於テ務テ技藝ヲ盛大ニシ其精巧ヲ極ム人稱シテ技術ノ保護者トス曾テ一大伽藍ヲ羅馬國ニ創建ス此ヲセントピートルノ堂塔ト稱ス此ノ法王畫工ラフアエル工學家ノ繪事ヲ能スルミツシヤエルアンゼ

ロ—等ト善シ因テ大ニ恩徳ヲ施セリ是羅馬法王中ノ最強猛ニシテ多
欲ナル者ナリ現今羅馬法王所有ノ珍寶多クハ此法王ノ掠獲シテ遺セ
ル所ナリ

法王ジュリユス外夷人ノ以太利國内ニ寄住スル者ヲ悉放逐シテ其境
界ヲ出サンコヲ謀ル此其ノ謀略中ノ最大ナル者トス其意ハ一大強國
ヲ建基シ法王自之ヲ統御セント欲シテナリ此時ヴエニス國己ニ自主
自治ノ政ヲ爲ス貿易大ニ行ハレ自盛強ヲ以テ世ニ誇レリ是ヲ以テ法
王之ヲ制服セント欲シ竊ニ謂フ外邦人ヲ逐ハザルニ及テ先其手ヲ假
テヴエニス國ヲ攻略シテ意ヲ逞クスヘシ

是時佛王第十二世路易日耳曼帝第一世マキシミリヤン西班牙王フエ
ルディナン等各相語テ曰ク我正ニヴエニス國共和政治ニ統領タルノ

權アリト其會フ所或ハ理アリ或ハ理ナシ是ニ於テジユリユス三國ノ
間ニ入リ温言ヲ以テ巧ニ解喩シテ曰ク三國其力ヲ協合シテ以テヴエ
ニスヲ攻略スルハ豈亦善ナラズヤト是ニ於テ共ニ同盟ス時ニ一千五
百八年ナリ之ヲ稱シテカンブレー—ノ會盟ト云フ其事最世ニ著ル而シ
テ終ニヴエニス國ノ大部ヲ略取シ會盟ノ功モ亦空シカラザルコヲ得
タリ

佛王路易ノ治ヲ爲ス皆賢相カルディナル、ダニボワ—ニ出ツ一日王路
易ト共ニ出テヴエニスヲ攻伐セントス途リヨン都ヲ過キ俄ニ疾ヲ得
タリ時ニ自擘利ニ沈溺シテ過失アルヲ悔恨シ從者ニ語テ曰ク余終身
何ゾブロゾルジヨン（ブロゾルハ兄弟ノ義ニシテ凡僧タルモノハ四海ノ人ヲ視テ皆兄弟ト爲ス是皆天帝ノ造ル所ナレバナリブロゾルジヨンハ幼少ノ時ノ稱號）ノ時ノ朴實ナルガ如クナラザリシゾト

佛國ノ賢相カルヂイナル死ス實ニ紀元一千五百十年ナリ其死ヲ聞テ哀哭嘆惜スル者唯佛人ノミナラス讐敵ト雖亦之カ爲ニ流涕スルニ至レリ而ルニ獨リ法王ジユリユス常ニ其忠烈ヲ忌害シ其死スルヲ聞テ心私ニ喜ヘリ既ニシテ法王ジユリユス佛王路易ト相寇シテ攻撃ス法王連戰皆挫折ス時ニ佛后路易ヲ諫テ曰ク僧徒ニ敵シテ殺戮ヲ爲スコ恐ラクハ天神ヲ蔑如スルニ渉ラン請フ戰鬪ヲ休止セヨト王乃之ヲ聽ルス

法王ジユリユス却テ西班牙王フエルヂイナン及ヴエニス民ノ應援ヲ得テ再佛國ニ寇ス紀元一千五百十二年第四月十一日佛王大ニ法王ヲラヴエンナ（地名）ニ破ル明年法王ジユリユス殂ス實ニ紀元一千五百十三年ナリ第十世レオ襲テ法王ノ位ニ即ク第十世レオハジユリユスノ

宿志ヲ繼テ怨ヲ佛國ニ結ヘリ

英王第八世顯理紀元一千五百十三年ヲ以テ來テ佛國ニ寇ス顯理ハ年尚弱冠ニシテ性輕率ナリ佛ヲ以テ好敵手トシ其心佛國ト一戰シ大ニ己カ勇氣ヲ示サント欲ス然レトモ其ノ名ナキヲ以テ事ヲ日耳曼帝マキシミリヤンニ託シ務テ同意協力シテ其軍ヲ合セ佛軍ヲキンガツト（地名）ニ破レリ此ノ役ニ佛軍敢テ戰ハズ皆爭テ奔避セリ此ヲ「バタイヨデゼプロン」ト呼ヒ倣ス（馳距ノ役ト譯ス蓋戰ハズシテ走ルノ義ナリ）

紀元一千四百十四年アンノ「ド」ブリタンエ死ス王路易大ニ哀痛ス二三月ヲ經テ英國ニ和ヲ講セント欲シ英王顯理ノ妹メーリヲ聘シテ婚ヲナスメーリハ妙齡ニシテ絕美ナリ

王路易其新后メーリヲ悦ハスカ爲ニ生平ノ常規例度ヲ怠リ第八時ノ

朝飲第六時ノ夕寢ニ至ルマテ皆之ヲ廢ス
王路易惑溺甚シク朝餐ハ午時ニ至リ踏歌跳舞滑稽雜戲觀賞シテ樂ミヲ極メ毎ニ夜半ニ及ヘリ是ニ由テ神氣耗損身體衰憊シ遂ニ紀元一千五百十五年第一月一日ヲ以テ殂セリ王ハ唯二女子アルノミ故ニ其從弟フランソワー位ニ即ケリ是ダングレームノ伯タリシ人ナリ
ブルダンエ州ハ王女クロードノ當ニ有スベキ所ナリ其父嘗テクロードヲシテフランソワート婚セシメント欲ス然レドモ后アンノ之ヲ聽カズ此フランソワーノ母ルウィズドサヴォアールノ不良ヲ惡ムカ故ナリルウィズハ容色美ニシテオ氣アリ其擧止姿態アリテ人之ヲ見テ自神魂ヲ消セントス恨ラクハ生來ノ見惡少カラサルコトヲ

第九十一篇　佛王第一世フランソワーノ事貴女始テ朝ニ登ル及頭飾時様ノ變更幷以太里ノ役

第一世フランソワー位ニ即ケル年方ニ二十一風姿端麗容貌秀美志氣豪爽快豁ニシテ王者ノ度量アリ但其愚直ニシテ性ニ任スコトアリ故ニ過失モ亦少シトセズ
又其起止驕傲ニシテ讒從テ入リ易ク輕率ニシテ事ノ是非ヲ明決スルコト能ハズ因テ人ノ制馭欺騙ヲ取ル亦多シ其即位ノ始其爽快濶達ナルヲ以テ人未其實ヲ認識スルコト能ハス
第十二世路易ハ節儉靜肅ノ行アルニ因テ少年貴族ノ徒輙欵曲シ難シ今王フランソワーニ至テ皆王ニ親近スルコトヲ得故ニフランソワーノ朝ヲ稱シテ最盛美トス而シテ朝廷ノ躰勢旋亦一變ス王フランソワー即位以前ニ在テハ貴族ノ王ニ侍從スル者其妻ヲ朝ニ携ルヲ得ス

王フランソワー令シテ其婦ト朝ニ升ラシム是ニ於テ貴女ノ來テ朝ニ在ル者其數三百人ニ及ヘリ其ノ性質品行ノ美惡ヲ問ハス或ハ怜悧才辯アル者アリ或ハ慧黠智能アル者アリ或ハ長舌諍鬪ヲ生シ或ハ政事ニ容喙シ遂ニ大患害ヲ生スルニ至レリ

王フランソワー一事ノ起ルニ逢ヘハ必從テ一風俗ヲ創成ス佛國ニ在テハ例エピフアニー（耶蘇誕日後第十二日ヲ以テ祭日ト爲スエピフアニーハ即チ當日ノ夜ヲ云フナリ）ヲ大饗宴ノ日トス適エピフアニーノ日王貴族ノ少壯者ト一群圍城ノ遊戲ヲ作ス時ニ王フランソワー年少ニシテ大ニ兒戲ヲ好メリト云フ是ニ於テ雪ヲ團シテ球ト爲シ以テ彈ニ當テ圍ム所ノ城屋ヲ打擊ス其圍ヲ受ル者モ亦雪ヲ團シテ敵ニ投ス時ニ一人圍中ニ在テ誤テ其炬火ヲ以テ王ノ頭角ヲ燒キ毀傷ヲ致セリ

王是ニ由テ終ニ頭髮ヲ剪ル此ノ不慮ノ災起ルニ因テ短假鬘ヲ戴クコト遂ニ俗ヲ成スコト約一百年後第十四世路易ノ髮毛捲曲ナルヲ以テ遂ニ更ニ長假鬘ヲ戴クノ風ヲ成セリ

王フランソワーモ亦第十二世路易ト同シク以太里國ヲ有セント欲シ因テ大ニ虧損ヲ取レリ又ミランヲ私有セントスルノ意已マス此王好戰ノ起源トス是ニ由テ屢佛國ノ危害ヲ招ケリ

羅馬法王マキシミリヤンミラン侯スフオルザ西班牙王フエルデイナンド及瑞西人等ト與ニ盟ヲ結フ時ニフエルデイナンド方ニ死ニ瀕ス然レトモ其世事ヲ經營スルコ依然トシテ舊ニ異ナルコト無シ諸王等已ニ同盟スト雖王フランソワー之ヲ離間シテ其軍ヲ合從スルニ遑アラザラシム佛將シユツイエー（爵名）バヤール軍ヲ率ヰテアルプス山ヲ踰

ヱ進テ羅馬法王ノ將某ノ軍ヲ襲ヘリ佛軍ノ迅速ナルコ神出鬼沒得テ知ルヘカラス

佛王フランソワー親兵ニ將トシテ瑞西ヲ破リ大捷ヲ得タルハ紀元一千五百十五年第十一月十三日ナリミラン侯スフオルザ佛軍ノ大勝ヲ聞テ大ニ驚怖シミランヲ捨テ佛國ニ退キ竟ニ死ニ就ケリ佛王フランソワー已ニ克テ還リリヨンニ到ル其動止倨傲自負シテ曰ク天下大ナリト雖誰カ能ク我ニ敵スル者アランヤト

第九十二篇　西班牙王第五世シヤルノ有地及佛王フランソワート王シヤルト相競フカルデイナルウオルセーノ事

西班牙王フエルデイナンド紀元一千五百十六年ヲ以テ殂ス其孫第五世シヤルノ位ヲ襲ク王シヤルノ未位ニ即カザル時ブルゴンヤ所屬ノ大

地ヲ有セリ是其父フイリツプノ授ル所ナリ且其祖母イサベラ亞キテ與フルニカスチル王國ヲ以テス而シテ王フエルデイナンニ嗣テ又アラゴン地名グリナダ地名及ナヴアール國ノ一部ヲ有スルコヲ得タリアラゴン及グリナダノ地ハ始ムールス種ニシテ亞拉比亞ノ一種屬曾テ亞弗利加北部ヨリ起リ西班牙國ノ南部ヲ略取シ數百年間此國ヲ管轄セリ王フエルデイナンノ世ニ當テ之ヲ逐ヘリ王フエルデイナン曾テナヴアール國ヲ奪有セント欲スルコ久シ紀元一千五百十二年ニシテ僅ニピリニーズ山ニ在ルナヴアール國境ノ西班牙ニ接スル所ヲ略有スルコヲ得タリ是時ナヴアール王ジヤンダルブレー怯懦ナリ西班牙ノ來リ侵スニ當テベーヤルン地名ニ出奔スベーヤルンハ佛國ト境ヲ接スル一小邑ナリ爾來ナヴアール王ノ有スル所ハ唯此ノ一地ニ過キズ

ナヴァール王ジヤンダルブレーノ妃カタリン、ド、フオワーハ佛王第十世路易ノ女ジヤン、ド、フランスノ後裔ナリ而シテナヴァール國ハ佛王第十世路易曾テ其女ジヤンニ與ヘシ所ナリサリツクノ法律ニ依レバ即女ヲシテ佛國王位ヲ襲クヿヲ得セシメズ因テ之ヲ與ヘタルナリ蓋妃カタリンハ其王ジヤンノ怯懦ニシテ爲スコトナキヲ誹議シテ曰ク妾ヲジヤンタラシメ王能クカタリンタラバ必王國ヲ失ハザラント

西班牙王シヤルハ獨歐洲中ニ大地ヲ有スルノミナラズ西印度及米洲等ニ新屬半頭ヲ置キ悉之ヲ有セリ一千五百十九年其祖父マキシミリヤン死スルヲ以テ相嗣テ澳地利亞ニ屬スル所ノ地ヲ併有シ遂ニ日耳曼帝位ニ即ケリ

日耳曼帝ハ世々皆公選ニ出ル者ニシテ世襲ニアラズ故ニ曾テ一畝ノ

地ヲ有スルコト能ハス然レトモ權力ノ盛ナルニ至テハ日耳曼諸州ハ論スルコト勿ク凡耶蘇教國諸王ニ冠タリ此ニ帝タル者世々必澳地利ヨリ出タリ然ルニ王シヤル自謂フ余世襲ノ故ヲ以テ此ニ帝タラント初佛王フランソワーノ心背テ王シヤルノ言フ所ニ從ハズ相競テ日耳曼帝位ニ升ランヿヲ欲ス然レ𪜈外相親ミ相戯ルヽノ狀ヲ爲セリ佛王フランソワー一日シヤルニ謂テ曰ク余等ノ爭ハ猶二男子ノ一婦人ヲ娶ラントシテ相挑ムガ如シ其僥倖スル者之ヲ得ルト雖得サル者敢テ恨ムコト勿カレト然レ𪜈シヤルノ帝位ニ升ルニ及テ佛王フランソワー猶怨ム色アリ

王フランソワー自失望不平ノ色ヲ掩フヿアタハズ死ニ至ルマデ猶シヤルヲ怨メリ二王ノ相爭ヘルハ唯自國ノ動亂ノミナラズ遂ニ全歐洲

ヲ擾亂スルニ至レリ其相爭フノ日長ク相戰フノ年久シキコト歐州新史中未曾テ見ザル所ナリ

是時シヤルル王フランソワート各自謂フ願クハ好ミヲ英王第八世顯理ニ修メント佛王フランソワー英王顯理ニ欵ヲ通シテ會盟センコトヲ請フシヤルル之ヲ聞キ且驚キ且憾テ謂フ事已ニ急ナリ得テ拒クヘカラズ願クハ一奇策ヲ以テ彼ノ盟約ヲ破リ我甘言温語ヲ以テ好意ヲ英王ニ結ハント

既ニシテシヤルル安危緩急ヲ以テ一ニ英王顯理ニ委スルノ狀ヲ爲シドーブル港ヨリ登岸セリドーブル港ハ西班牙ヨリフランデルニ至ル途上ニ在リ時ニ英王顯理出テ佛王フランソワーニ會盟セント欲シ已ニ發程セリ而ルニ又王シヤルルノ來ルヲ聞キ其情意ノ厚ニ誘惑シ遂ニ使

ヲ遣シ王シヤルルヲ迎フシヤルルノ慧黠ナル留滯數日ニシテ大ニ英王顯理ニ結フヲ得且執政大臣ガルデイナル、ウオルセーノ心ヲ誘ヒ得タリカルデイナル、ウオルセーハ英國ノ宰相ニシテ當時最英王ニ寵遇セラル、人ナリ

英相カルデイナル、ウオルセーハ初時極テ卑賤ナリト雖非凡ノ才略アリ遂ニ擧ラレテ國相ト成リ又寺院ノ長官ヲ兼子タリ其營生經國ノ策ハ王者ト雖亦及バサル所ナリ英王顯理ハ不世出ノ暴君ナリ然レ𪜈ウオルセー能ク輔翼抑制シテ敢テ其惡ヲ逞クスルニ至ラザラシム

ガルデイナル、ウオルセー才略人ニ過クト雖稟性多欲ニシテ華奢ヲ好ミ傲慢ニシテ虚飾ヲ務メ佞諛ヲ愛シ官爵ヲ貪ル故ニ寵ヲ王ニ買ハント欲スル者ハ先此ノ宰相ノ欲スル所ヲ饜カシムルニ非サレハ之ヲ得

ルヿアタハズ

王シヤルハカルデイナルノ欲スル所ヲ察シ又其羅馬法王ノ位ヲ覬覦スルノ情意ヲ洞知シ乃從容トシテ之ニ語テ曰ク若シ羅馬法王ノ亡フルニ會セバ請フ其位ヲ以テ公ニ贈ラント

第九十三篇　金繡原幷ニ暴行

王シヤル出テ去ル英王顯理乃其ノ日ヲ以テ起程シ佛王フランソワーニ會セントシ進テカレー地名ニ至レリ竟ニアルドル地名近傍ノ原野ニ會盟ス是時英佛兩國ノ衆來會スル者衣服器玩美麗ニシテ壯觀ヲ極ム遂ニ其野ヲ名ツケテロシヤンデユドラドールト曰フ即金繡原ノ義ナリ

此會二王各馬ニ騎シ來レリ

二王互ニ祝詞ヲ唱ヘ了リ馬ヨリ下テ草幕中ニ入ル此ノ時各位嚴列威

儀堂々トシテ來會スル所以ノ事情ヲ討論ス二王猶少壯ナリ其ノ快活英發ノ氣ヲ以テ這般ノ老成重大ノ任ハ其性ノ堪ヘザル所ナリ因テ各倦怠シテ欠伸ヲ生セザルコト能ハス皆之ヲ宰臣ニ委托シ唯自遊戲ニ從事シ沈湎留連スルヿ十有八日ニ及ベリ

茲ニ當時ノ風俗ヲ見ルベキ一事アリ英佛二國角觝者ヲ召シ相撲タシメ之ヲ壯觀トス二王十分觀了テ復幕中ニ入ル時ニ英王忽佛王ノ襟ヲ握リ其面ヲ睨テ曰ク我親友請フ試ニ雌雄ヲ決セント即其頸ヲ捉ヘテ之ヲ伏セシメントス佛王フランソワー頗力技ニ長ス即身ヲ轉シテ英王ヲ攫取シ之ヲ背上ヨリ投下セリ

此等ノ遊戲已ニ畢ル而シテ英王顯理往テシヤルニ會セントシテ發シテグヴリーフン地名ニ抵ル王シヤル慧敏ナル其心ニ英王顯理ノ佛王ヲ

ランソワート相好ミスル意ヲ破ラント欲シ英相ウォルセーニ賴テ其曾テ約スル所ヲ堅クシ更ニ西班牙ナル僧教主ニ其寺邑ヲ贈ランヿヲ約シ以テ英王ニ呈媚ス

王シヤル當ニ欲スル所ヲ遂ゲ佛王ト相敵シ英王ヲシテ關渉ナカラシムルヿヲ得タリ時ニ王シヤル佛王フランソワー各將ニ戰ヲ開ントシ英王ヲシテ局外中立タラシメンコトヲ要ス而シテ兩師互ニ敵ノ先ツ發スルヲ待ツ會西班牙内亂生ス佛王機ニ乘シ師ヲ帥キテ西班牙ニ赴ク

佛王一戰ニシテ大ニ潰ユ遂ニ將ニ師ヲ以太里ニ與サントス是時佛將コンスターブル、ド、ブボンハ兵事ニ老練シ佛國中第一ノ宿將ト稱セラル然ルニ王フランソワー之ヲ西班牙ノ軍ニ將タラシメズ別將ロウト

リツク及ボニヴェーヲ遣ル二人ハ皆輕卒倨傲ナルコト王フランソワート略類スト云フ

佛國ニ留守シテ其内ヲ統御スル者モ亦皆其所ヲ得ズ王フランソワーノ母ルイズドザボワー是ノ任ニ當テ凡百ノ國事ヲ管掌セリ其黜陟褒貶ノ權ヲ擅ニシ虛譽溢名巧諛面從スル者多ク顯官美職ヲ取ルニ至ル

王フランソワー内ハ此ノ如キ老奸アリ外ハ彼カ如キ驕將アリ以テ自國ノ禍ヲ釀シ以太里役ノ不利ヲ取ル固ト怪ムニ足ラス時ニ佛國會計司長サンブランセー偶兵人ノ雇錢ヲ以太里ニ在ル將ロウトリツクニ贈ルヿヲ誤ルニ因テ兵人逃走スル者過半是ニ於テロウトリツク會計司長ヲ罪セントス

會計司長自訴テ曰ク余直ニ之ヲ王ノ母后ノ手ニ取納セリ其受契見在

スト母后實ハ其錢ヲサンブランセーヨリ受クト雖私用ニ消費シ尽シ復一錢ヲ遺サズ是ニ由テ急ニ其受契ヲ奪還シテ自罪惡ヲ掩ハント欲シ潜ニサンブランセーヲ暴害セリ夫ノサンブランセーハ其年歯其職位ニ應シ赤誠忠烈ノ人ナリ

第九十四篇　コンスターブル、ド、ブルボンノ竟幷西班牙王第五世シヤル偶然ノ利ヲ敵ニ得ル

王母后無智奸惡ナルニ勝ヘス己一身ノ不善ヲ掩ハンカ為ニ遂ニ一國ノ大難ヲ起セリコンスターブル、ド、ブルボンノ叛ヲ謀ルガ如キ是ナリ

コンスターブルハポーゼオーノ女アンノ甥ニシテアンノ女ニ婚姻セシ人ナリアンハ佛國中最大遺產ヲ受クベキ嫡女ナリ紀元一千五百二十二年ニ死セルヲ以テ其女夫コンスターブル悉其遺產ヲ受ルコトヲ

得タリ

コンスターブルハ妙齡ニシテ美姿アリ王母后ルイズ、ド、ザホワーハ頹齡ノ老媼ナルニ婚ヲコンスターブルニ結ハント欲シ王フランソワーヲシテ聘ヲ納レシメンヿヲ要セリコンスターブル人ト為リ嚴正恭敬ニシテ常ニルイズノ人ト為リヲ憎ム故ニ王フランソワーノ婚ヲ謀ルニ及テ肯テ聴カズシテ曰ク余大ニ王ノ母后ヲ好ミセスト其言激烈ナリ王怒テ之ヲ擯撻ス

母后ルイズ其情ヲ通スルコト能ハサルヲ以テ乃コンスターブルヲ怨ミ其家ヲ滅絕センヿヲ謀リ因テ其母ノ緣故アルヲ以テ自其ノブルボンノ地ヲ取ル權利アリト稱シ法律正理ニ關セズ遂ニ自之ヲ奪ヘリ

コンスターブル既ニ其地ヲ擄ハレ快々トシテ楽マス官ヲ棄テ去テ西

班牙王ニ遊事セントス然レ圧王シヤル之ヲ信セズ兵ヲシテ之ヲ監護セシム是ヲ以テ其志ヲ遂ルヿ能ハズ叉叛人ノ名ヲ得遂ニ佛人ノ畏忌ヲ取リ西班牙人ノ疑猜ヲ取レリ

コンスターブルノ西班牙ニ入ル始巧言令色ヲ以テ王ニ得ラレント欲ス王果シテ稍其言ヲ聽ク王シヤル英王顯理ト會シ佛國ヲ奪有センヿヲ議シ即コンスターブルヲシテ此謀ニ與ラシム其ノ謀已ニ決シテ王シヤル其最大ナル國ヲ取ラント約ス稗史ニ此ノ事ヲ以テ獅子ニ比シタリ而シテコンスターブルハ一ノ小國ヲ取リ英王顯理ハキエーン地名ヲ取ラントス

叉謀リテ先ブルボンヲシテ佛國ヲ攻メシム是時佛國政ヲ失ヒ民大ニ怨ム故ニ今ブルボンヲシテ之ヲ擊タシメバ其ノ來降スル者必多カル

ヘシト謂フ佛國ニ入ルニ及テ曾テ一人ノ來歸スル者ナシ是ニ於テ急ニ軍ヲ收メテ以太里ニ還ル

ブルボン已ニ退ク佛王フランソワー驕色アリ遂ニ自一軍ヲ將テ以太里ニ入リパヴィヤ府ヲ圍ム是時老將アントニオデレーヴト云フ者是ノ府ヲ守リ安全ナルコトヲ得タリ時ニ佛軍警備ニ怠リ對戰ノ日佛ノ軍需缺乏シテ兵ヲ退ケ戰ヲ止ムルコト數ナリ

時ニ王シヤルブルボントラノワートヲ將トシテ大軍ヲ出シパヴイヤ府ヲ援ケシム是時佛軍羸勞スル者大半ナリ王フランソワーヲ諫ムル者アリテ曰ク且軍ヲ旋シテ衆ヲ休フベシト王聽カス書ヲ母后ニ貽テ曰ク余パヴィヤ府ヲ取ラスハ肯テ還ラズト而ルニ王フランソワー其ノ言ヲ踐ム能ハサルノミナラズ遂ニ其性命及國家ヲ危クスルニ至レ

リ

佛王ノ營敵ノ戰場ト爲ルハ紀元一千五百二十五年第二月二十三日ナリ是時王フランソワーヲシテ其營ノ防守ヲ固クセシメバ特ニ王ノ幸ノミナラズ全軍ノ幸ナランモ王能ク逆戰スト雖敵兵敗走スルニ當テ其力尾擊スルコト能ハズ

是ヲ以テ大不幸ヲ招ケリ佛軍ノ中ニ王ノ族人アリ怯膽ニシテ同シク逃奔シ其リヨン名地ニ及ブマテ疾走シテ一歩ヲ止メス已ニリヨンニ達スルニ及テ其ノ敗歸ヲ愧ヂ自尽セリ斯ノ人ハ即王フランソワーノ妹某ト結婚セシ者ナリ王フランソワーモ亦大ニ奮戰シ馬斃レテ身重創ヲ被ル

玆ニ二個ノ西班牙人アリ王フランソワーヲ見テ其王タルヲ知ラズ將

ニ之ヲ殺サントス一ノ佛人ブルボンニ從ヘル者アリ其佛王ナルヲ認メ來リ説テ曰ク請フコンスターブルニ降レト王背テ聽カズランノアーヲ見ンヲ請ヒ即之ニ降リ其佩劍ヲ脫シテ之ニ授ク

ランノアー禮ヲ恭クシ跪テ之ヲ受ケ亦自其佩劍ヲ解テ王フランソワーニ呈シテ曰ク王ノ一介ノ臣ニ對シテ其佩劍ヲ脫スルハ豈過當ニアラズヤト乃王ヲ延テ西班牙帝ノ營ニ至ヲシム王フランソワー西班牙軍營ニ在ヲ復書ヲ母后ニ贈レリ其書ニ云ク獨名聲アリ又存スル者無シト其語簡ニシテ尽セリ

第九十五篇　王シヤル佛王フランソワーヲ獄舍ニ訪フ幷ショワイエバヤールノ事

王シヤル己ニ戰勝ヲ得又敵軍敗衰ノ狀ヲ得因テ怵惕ノ心ヲ生セリ然

レトモ重臣等勸メテ佛王ノ束縛ヲ解カント曰フヲ惡メリ王シヤル苟之ヲ容ル、ノ量アラバ其美名ヲ不朽ニ垂レン其佛王フランソワ―ニ要スル所ノ條欵皆極テ順道ヲ得ス佛王乃佛然トシテ曰ク此ノ條欵ヲ踐マンヨリハ甘ンシテ身ヲ獄中ニ終ヘント

佛王フランソワ―監送セラレ以太里ヨリ出テ西班牙ニ入ル其監禁益嚴ナリ其情願遂ニ成ラザルニ至リ憤悶シテ病ヲ得將ニ殞死セントス王シヤル乃稍其監網ヲ疎ニシ且之ヲ監舍ニ訪ヘリ

是時佛王フランソワ―衰憊シテ臥床ニ在リ王シヤルノ至ルヲ見罵テ曰ク余カ死ニ垂トスルニ及テ來リ訪フカ王シヤル其側ニ立チ纔ニ慰解シ言意頗懇篤ナリ王フランソワ―意始テ解ケ病モ亦瘳ユ

王フランソワ―監禁セラル、ヿ一年王シヤル更ニ條約ノ初時ニ讓ヲザル者ヲ以テ之ニ示シテ曰ク之ヲ聽カハ則放免セント王フランソワ―已ニ監舍ノ苦ヲ厭ヘルヲ以テ即之ヲ許シ其二子ヲ以テ質ト爲スヲ盟ヘリ而シテ後始メテ佛國ニ還ルラノワ―之ヲ護送セリ

王フランソワ―等已ニ西班牙國ト佛國トノ境界ビダソワ河ニ至ル時佛將ロウトリツク二王子ヲ送リテ亦至ル彼此各小舟ニ駕シ中流ニ相見ル少頃投錨シ王フランソワ―手ヅカラ二子ヲ抱擁シ而シテ後之ヲラノワ―ニ委シテ別ル

王フランソワ―久シク監舍ニ在テ旦暮放還ヲ望ミ今其二子ヲ遣リテ已ニ代ラシムル是人情ノ忍ビザル所ナリ而ルニ王之ヲ顧ルニ暇アラス已ニ佛國ノ境ニ達シ輙其馬ニ鞭ウチ手ニ其帽ヲ揮ヒ揚言シテ曰ク余猶王タルヲ得タリト直ニ其馬ヲ奔ラセバヨ―ン地名ニ至ルマテ曾テ休

止セズ母后來テ此ヲ迎フ

王シヤルハ王フランソワ一ヲ放還セシメシ所ノ條約ヲ完了センヿヲ促スフランソワ一復前事ヲ懼ミズシテ曰ク監舍中ノ條約余復完了スルヲ知ラスト玆ノ昏頑耻ヲ知ラサル王ノ下ニ一个ノ兵士身德義ヲ踐ミ美名光華ヲ當世ニ流ス者アリ

惜ムヲクハ斯人ニシテ兵事ニ與ルコトヲ得ス兵事皆貴族ニ歸スルノ世ニ生ル、ハ不幸ト謂フヘシ又一貴族アリドフイチー地名ニ住ス其人勇悍ニシテ忠直ナリ名ヲバヤールト云フ四子アリ

嫡長ハ祖先ノ業ヲ守リ祖先ノ封ヲ承ク自餘ノ三子ハ自家産ヲ起サントス是ヲ以テ其仲ピエールハ兵人タランヿヲ冀フ叔ト季トハ身ヲ宗教ニ投セリピエール年甫メテ十三サヴオア侯ノ門子ト成レリ或人當

時ノ言行錄ヲ著シピエール其父家ヲ辭セントスル時ノ大略ヲ記載セリ

ピエールノ將ニ去ラントスルニ當テ其母城樓ニ在リ流涕哀泣シテ忍ブベカラサルノ狀アリピエールカ己ニ馬ニ跨ルヲ聞キ急ニ城樓ヲ下リ之ニ語テ曰ク請フ三條ノ誡辭ヲ以テ汝カ行ニ贈ラント

其一ニ曰ク上帝ヲ恭敬スルヿ宜シク萬物ヲ愛スルニ勝ルヘシ旦暮敬拜奉事セヨ汝能ク忍耐セヨ罪ヲ犯シテ上帝ニ譴怒セラル、ヿ勿レ其二ニ曰ク衆人ヲ愛敬セヨ苟自負傲慢ヲ爲スヿ勿レ他人ヲ譏毀欺騙スルヿ勿レ務メテ温厚忠貞ナレト其三ニ曰ク勸テ仁惠ヲ行ヘ苟上帝汝ニ賜フ所アラハ其何物タルヲ論セズ之ヲ貧人ニ分テ

ピエール能ク此ノ三戒ヲ守レリ是ヲ以テピエールハ王公貴族ノ尊號

ニ超過スル所ノナイトノ美稱ヲ得タリ即チシヨワイエー、サンペウールエサンロプワーシユ譯シテ恐懼スルコトナク誹謗セラルヽコトナキ義ト爲スピエール幼稚ヨリ成長スルニ至ルマテ常ニ恭敬義勇貞順ニシテ敬神ノ心最深キヲ以テ大ニ世人ニ愛敬セラル夫ノ佛王第一世フランソワーノナイトト爲ルニ當テ斯人ニアラズシテ誰ニカ適從セントト云ヒテ即箴テ其ノ禮ヲ受ルニ至レリ玆ニ人アリ一日ピエールニ問テ曰ク人各子孫ニ遺ス所アリ何ヲ以テセハ最佳ナランピエール答テ曰ク智ト善トヲ以テスルヲ最佳トス智ト善トハ時運人力ノ得テ奪フ所ニアラズト

ハヤール偶軍中ニ在テ重創ヲ被レリ之カ敵タル兵人ハブルボンガ提督セシ所ナリハヤール樹ニ倚テ身ヲ扶ケ痛苦ヲ忍テ靜ニ死期ノ至ル

ヲ俟テリ時ニブルボン之ヲ視テ之ヲ弔スハヤール顧テ曰ク余カ爲ニ哀痛スルヿ勿レ我ハ國家ノ任ニ死ス他ノ國家ニ叛キ盟約ヲ破リテ鬪爭スル者ヲ弔セヨト

第九十六篇　ラ、ペーデダム（貴女和親ノ義）佛國ノ建築法

佛王フランソワー紀元一千五百二十九年ヲ以テ西班牙王シヤルト和ス之ヲ稱シテカンブレーノ條約ト爲ス又ラ、ペーデダム即貴女ノ和親ト稱セリ是佛王ノ母后サボアルイズト西班牙王ノ叔母マルゴリートト商議盟約セルヲ以テナリ此ノ盟約ニ因レハ王フランソワー婚ヲ王シヤルノ妹エレオノールニ結ヒ又幾多ノ金額ヲ出シ其二子ヲ贖罪償還セリ

時ニ佛國疲弊甚シ其贖金ヲ出スニ當テ王フランソワー大ニ困窮シ數

閏月ニシテ始テ其所要ノ金額ニ充ルヿヲ得タリ乃其金ヲ四十八匣ニ納レ輸送シテビダソア河ニ至リ之ヲ二子ト交易ス其禮猶昔日王ノ二子ト代ル時ノ如クス

王フランソアー其國ノ平安ニ至ルヲ以テ始テ其愛好スル所ノ文學技術ヲ與シ博識ノ士有名ノ工匠等ヲ招集シ舊宮殿ヲ毀チ新宮殿ヲ營ス嘗テ以太里ト交通セルヲ以テ築造ノ新式ヲ受ク今此ニ佛國從來ノ建築法ヲ示サン

試ニ寺院ヲ以テ論スルニ古來寺院ノ建築其制甚粗惡之ヲロンバルドノ制ト稱ス其粗惡ナルヿ概英國サクソン人ノ寺院ニ類シテ又大ニ異ナル所ノモノ一アリ

サクソン建築ノ制ハ其柱大ニシテ短シ戸口彎形ノ處廣濶ニシテ低シ

其相距ルヿ遠シ彼ノロンバルトノ制ハ其柱大ニシテ長ク戸口ノ彎形高クシテ狹隘其相距ルヿ最近シ

ヒユーカペットノ世ニ在テハ彼ノ戸口皆三弧稜形ナリロンバルドノ制ト相混シテ又自一制ヲ成ス者ナリ之ヲ混淆ロンバルド制ト爲ス爾來更新スルモノ數次紀元一千二百年代ニ及テ竟ニゴシック建築ノ制起リ大ニ精美ヲ極ム紀元一千三四百年代ニ及テ英國ト爭戰屢起リ内亂之ニ繼キ宮營ノ築造悉廢セリ而シテ第十二世路易統理ノ世ニ及テ又新ニ幾多ノ建築ヲ創造セリ

以太里ト交通スルヿ數次ナルヲ以テ更ニ築造ノ新法ヲ得タリ是ゴシック制トヲ折衷スル所ニシテ大ニ佛人ノ賛稱スル所ナリ

但其制樣猶允當ヲ得ス彼ノ二制中ノ最佳ナル所ハ兩ナガラ之ヲ失ヘ

り

古代佛國ノ建築物ニシテ今日ニ現存スルモノアリ最奇觀ナリアヴィニヨン近地ノローン河ニ架セル橋梁是ナリ紀元一千二百年代ニ造營スル所ニシテ今猶其精巧ヲ稱セリ昔日經營ノ時ニ在テハ人皆奇異ノ看ヲ做シ創造ノ人ヲ指テ鬼神ノ助ル所ニ因テ是ノ妙巧ヲ爲ス者ナヲシト曰フニ至ル其死スルニ及テ之ヲ謚シテサンベチデイクトト曰ヒ即ベチゼイノ號ヲ以テシ之ヲ祠テ神ト爲セリ

當時人ノ橋梁ヲ架スル者自之ヲ以テ衆人ニ施捨シ天神ニ報效スル功德ノ一種トセリ因テ一社ヲ結ビ稱シテコンフレリーヨデポン(即架橋社)ト云フ此其敬神ノ意アルニ因テ結社セシ所ナリ

第九十七篇　佛國ノ建築法幷炎熱夏ノ如キコト六年

佛國家屋ノ制樣ヲ舉ケ示サンガロワー民ノ屋宅ハ其制皆土室ナリ羅馬人ノ此ニ來住スル者ハ家屋ヲ營造スルニ磚石ヲ以テスフランク人ハ獨リ然ヲス材木ヲ束ネテ家ト爲シ泥土ヲ圬鏝シテ其罅隙ヲ窒クフランク人ノ世ニ在テハ宮殿ノ建築及都城ノ垣墻亦皆此ノ制ヲ用ヰル而シテロルド(貴族ノ稱)ノ城堡ヲ建築スル世ニ及テハ專石ヲ用ルニ至レリ磚ヲ用ヰルハ羅馬人ヨリ後復用ヰル者無シ紀元一千五六百年代ニ至テ始テ之ヲ用ヰテ家ヲ構フ文飾ヲ其壁ニ施スハ石ト雜ヘテ用ヰルナリ

紀元一千二百年代家屋ヲ葺クニ瓦ヲ用ヰルヿヲ創ム其ノ異樣ノ家屋ハ粧フテ各色相間セシメ或ハ板ト石トヲ以テスルアリ是ヨリ以前ハ大抵其屋ヲ葺クニ稻稗ヲ以テス

營造ノ精巧ナル者ニ至テハ差以太里制ニ摸擬スル者ノ如シ當時ノ家屋今猶現存スル者ヲ見ルニ其外面ヲ裝飾スルニ古代ノ孔方形或ハ彩花形若クハ人像及奇禽怪獸ノ像等ヲ以テセリ

以上ノ裝飾多クハ之ヲ其壁ニ畫ケリ偶木ニ彫鏤シテ之ヲ用ヰルヿアリルアン府名ニ一故家アリ其古色當時ノ制様ヲ證スルニ足レリ是第一世王フランソワーノ世ニ當リ建築セシ所ナリ世稱ス王ノ此地ニ到ル必是ノ屋ニ休息スト

當時家屋ヲ築造スルコト其屋脊極メテ高シ蓋其外貌ヲ宏壯ニセンカ爲ナリ而シテ之ヲ裝飾スルヿ猶其屋壁ノ如シ王フィリップ、オギユスト曾テ宮殿ヲ巴里府ノ藩墻外ニ造レリ而シテ府中漸大ナルニ隨ヒ藩墻モ又隨テ擴開シ其宮殿遂ニ墻內ニ入ルニ至ル是紀元一千三百八十三年前ナリ

王フランソワー此ノ宮殿ヲ便トセス且其ノ壞頽セントスルヲ以テ半ハ之ヲ毀チ當時有名ノ工匠ピエルレスコーヲシテ之ヲ管司セシメ新ニ築造センヿヲ決議セリ

紀元一千五百二十八年ヨリ一千五百三十四年ニ至ルマテ佛國ノ氣候常ニ夏日ノ如ク霜降ノ日ナキコト蓋四年此ノ間常ニ炎熱燥乾四時花ヲ開ク然レトモ花有テ其果實ヲ結ブヲ得ス因テ大ニ飢饉ノ患ヲ致ス其收ル所ノ禾穀來歲ヲ支ルニ足ラズ加之溫熱鬱蒸ノ爲ニ蟲類滋生シ果實ヲ食フ果實或ハ一顆ヲ存セサルアリ年大ニ饑エ人民腐敗物ヲ食テ疾疫ニ罹ル者甚多シ之カ爲ニ死亡スル者大約四分ノ一ナリ

第九十八篇　第一世フランソワーノ祖ヨリ盛シテ文學技藝ノ父且中興ノ祖ト曰フ

第二世顯理ノ后カトリンドメディシスノ事

佛王フランソワ一及王シャルル共ニ戰ヲ休ルヿ能ハズ紀元一千五百三十六年ヨリ一千五百四十四年ニ至ルマテ爭鬪止ム日無シ而シテ兩軍困憊シテ遂ニ和ヲクレツミ一地名ニ講セリ佛王フランソワ一世ヲ終ルマテ此ノ盟約ヲ保持スルヿヲ得タリ

兩軍相戰フニ當テ英王顯理當ニ王シャルルト協合セリ然レ𪜈英王トシャルトヲシテ其自己ノ爲ニスルノ私ヲ捨テ能ク相親ミ相謀ラシメハ佛王蓋降ラザルヿヲ得ザルベシ

佛王フランソワ一癰熱ヲ病フル日久シク精神故ヲ失シ狂憤暴怒シ心性煩燥シテ沈靜ナラス王自意フ身ヲ轉シテ他處ニ置カバ疾ヲ保養スルコトヲ得ント是ヲ以テ轉移スルヿ數次竟ニ紀元一千五百四十七年

第三月三十日ヲ以テランブエー地名ニ殂セリ時ニ年五十三在位三十二年一男二女アリ男ヲ顯理ト曰フ襲テ王位ニ即ケリ

王フランソワ一己ニ沒シテ猶且奢侈美麗ヲ忘レス其葬儀ニ至テハ佛國人未曾テ斯ノ如キ壯麗ヲ觀ズ衆庶其盛美ヲ感歎シテ之カ爲ニ王カ生前ノ過失ヲ措テ問ハザルニ至レリ

王フランソワ一在世ノ間大ニ土木ノ功ヲ起シ宮殿樓閣學校及技藝中與ノ紀功碑等其ノ不朽ノ榮名ヲ萬世ニ垂レ長ク文學技藝ノ父且中興ノ祖ト頌讃セラル丶ヲ得タリ

佛王第二世顯理其性概父フランソワ一ニ肖タリ大量ニシテ勇悍快活遊觀ヲ好ミ奢侈ヲ愛スルモ亦祖父ニ類ス唯其才氣威貌ニ至テハ少シク劣レル所アリ其性朴直ニシテ談話ヲ好ム其尺一ヲ讀ムニ至テハ頗

快爽ナリ其容姿ノ美ニシテ温々タルハ當時之ヲ稱譽セリ王自經濟綜理ノ煩ヲ厭ヒ一ニ之ヲ嬖臣ニ委任ス因テ可モ無ク不可モ無キヲ得タリ若之ヲ其后ニ付託セバ大害ヲ生スヘシ何トナレバ后カトリンドメデイシスハ大ニ人民ノ怨惡スル所ナレバナリ

后カトリンノ權勢未曾テ王ノ右ニ出デズ王フランソワー及顯理兩朝ノ間ハ后ニ於テ批評スベキモノ無シ僅ニ其虛飾ヲ以テ才敏ノ氣ヲ掩ヒ外貌ヲ以テ衷情ノ惡ヲ隱ス所アルノミ

王フランソワー嘗テ臥床ニ在リ死ニ臨テ王顯理ニ遺誡スル所アリ今其三條ヲ擧ク一ニ曰ク老臣ノ誠忠ナルハ廢スルヿ勿レ二ニ曰クコンスターブルモンモランシーノ罪ヲ宥シ招テ歸朝セシムルヿ勿レ三ニ曰クギース家ヨリ擧ケテ官位ヲ與フヿ勿レ

王顯理遺誡ノ一ヲ守ルヿ能ハズ父フランソワー終テ後未幾クナラス在朝ノ宰臣ヲ廢黜シモンモランシーヲ招テ朝ニ復シ之ニ委スルニ重任ヲ以テセリドマール侯フランソワート云者アリ大ニ王ニ愛寵セラレ之ヲギース侯ノ長子ト爲ス王顯理既ニ父ノ遺誡ヲ遵守セズ將ニ其子ト共ニ不測ノ禍機ヲ踏マントス

第九十九篇　西班牙王第五世シヤル王位ヲ辭シテ餘生ヲ樂ム

紀元一千五百四十九年第二世顯理即位シ其后ト共ニ巴里府ニ入ル乃ツールノ戯ヲ爲シ饗宴ヲ開キ祝賀ノ儀畢テ後邪教徒ヲ召集シ廷前ニ於テ之ヲ斬ル王之ヲ見テ心大ニ感動スル所アリ爾來意思慣々此事ヲ追懐スル毎ニ必戰慄怵惕スト云フ

紀元一千五百五十五年歐全洲ヲシテ驚歎セシムル事アリ西班牙王シ

ヤル第五世卒ニ其位ヲ辭シ塵俗ノ累ヲ脱屣セリ是其少壯ヨリ情願スル所老テ漸ク切ナルニ因テ然ルナリ

王者ニシテ其位ヲ辭シ閑居シテ身ヲ養フヿ史中往々之ヲ見ルト雖或ハ怯弱ニシテ位ニ居ルヿ能ハス辭シテ後大ニ悔恨シ或ハ不幸ニシテ爵位ヲ奪ハレ遂ニ庶人ニ歸スルノ類亦多シ

王シャルルハ長ク其政權ヲ掌握スベキ地位ニ在テ一旦忽捨テヽ顧ミス從容自適樂テ以テ餘年ヲ送リ毫モ恨惜スル色ヲ見ズ

王シャル尊榮富貴ヲ以テ其子フィリップニ授ケ其位ヲ襲カシム又王シャルルノ弟フエルディナントハ王シャルルノ徳ニ由リホンガリー及ボヘミヤノ二地ヲ有シ又羅馬ヲ有シ之ニ王タルヲ得其羅馬ニ王タルノ故ヲ以テ又日耳曼帝タルノ權ヲ得タリ王シャルル遐居シテ西班牙國ノ

一寺院ニ安居シ遂ニ此ニ殂ス年五十八時ニ紀元一千五百五十八年ナリ

王シャルル已ニ退隱シテ後更ニ世累ノ心ニ關スルコト無ク或ハ庭園ニ閑歩シ或ハ刱意シテ自機械ヲ製シ又其製スル所ヲ試驗シテ其良善ヲ定ム自鳴鐘袖珍時規等ヲ製造スルハ尤其ノ好ム所ナリ

シャル一日自鳴鐘ト袖珍時規トヲ併セ觀テ試驗スルヿ數次各分秒ノ差アリ符合スルヲ得ズ因テ豁然トシテ悔悟シ大ニ發明スル所アリ曰ク余過テリ彼ノ時規スラ猶同一ナルヿ能ハズ余昔日多ク異教ノ徒ヲ殺シ世上盡ク一教法ヲ奉シ人民皆意見ヲ齊クセシト欲スルハ豈過ヲスヤ

王シャルル又其遊玩諸事ヲ擲チ專身ヲ宗教ニ歸セリ死ニ先タツヿ數日

一種異様ノ懺悔ヲ修ス其狀自葬衣ヲ着テ棺ニ入リ大祈禱ヲ其上ニ行ハシム時ニ王シャル棺中ニ在テ涕泣シ大ニ上帝ヲ禮敬シ遂ニ葬儀ヲ完成ス

第一百篇　サンカンターノ役西班牙王フィリップノ盟約二條及エスクリヤウノ宮殿幷カレーノ地佛ニ歸ス佛王顯理ノ死

西班牙王第二世フィリップ父ノ官爵ヲ襲テヨリ羅馬法王ト諍論スル所アリテ大ニ憂懼セリ時ニ羅馬法王ハ佛王顯理ニ啗ハスニネーブルス國ヲ略取シテ之ニ與ルヲ以テシ又佛ノギース侯フランソワードマールヲ誘ヒ其ノ援トス

時ニ佛國ノ議官皆王ヲ諫テギース侯ノ法王ニ應スルヲ止メシム王聽

カズギース侯大ニ望ム所アリ大軍ヲ以テ發セリ亦爲ス所ヲ得スシテ遂ニ佛國ニ召シ還ヘサレ幸ニシテ禍ヲ免レタリ而ルニ佛國ニ還ル時亦大困厄ニ罹ラントス

西班牙王フィリップ佛王顯理ノ舊盟ヲ破ルヲ聞キ直ニ兵五萬人ヲ帥ヰテ佛國ニ向フ時ニ王フィリップノ妃英國后メーリ英兵一萬人ヲ遣テ西班牙ヲ援ケシムサヴォアール侯ハ西班牙及英ノ二軍ニ將トシテ進テサンカンター地名ヲ圍メリ此地ヲ防守スル者ハコンスターブルモンモランシーノ甥コーリニーナリコーリニーハ即佛國ノ水師提督ナリ

當時ハ海陸ノ軍官其任ヲ區別セズ或ハ一人ニシテ陸軍大將ト水師提督トヲ兼任スル者アリ故ニ其機ニ臨ミ變ヲ見テ或ハ陸軍大將ヲ命シ

或ハ水師提督ヲ命シテ兵ヲ出サシム

モンモランシーハ其㔟コーリニーニ應援セントシテ奔テ之ニ赴ク紀元一千五百五十七年第八月十日兩軍大ニサン、カンターニ戰ヘリ佛軍大潰シテ敗喪スルヿ往日クレシー及ポワチエーノ比ニアラス其戰闘ニ當テ西班牙王フィリップ二件ヲ盟約ス而シテ唯其一條ヲ履ム其一ニ曰ク余是軍ニ在テ能ク無難ナルヲ得バ復再戰フヿヲ爲スト其二ニ曰ク余能ク利ヲ是ノ役ニ得バ宮殿ヲ建立シテサン、ロランノ榮光ヲ示サントサン、ロランハ第八月十日ヲ以テ死セシ人ナリ遂ニ戰勝ヲ得タルニ因テ一宮殿ヲエスクリヤル(地名)ニ創立セリ其地西班牙國マドリット(地名)ヲ距ルヿ約二十二里ノ處ニアリ其結構一ニ鐵條ノ形ヲ摸セリ是世ノ稱スル所サン、ロラン其正道ヲ守リ鐵條上ニ焚殺セラレタ

ルヲ表スルナリ

西班牙ノ將サヴォアー侯ヲシテ當日專斷ノ權有ラシメバ必直ニ巴里府ニ入リ佛人ノ肝膽ヲ寒カラシメン而ルニ王フィリップハ兵事ニ練熟セザルノミナラズ資性頑固ナレハサヴォアー侯ニ命シテ益サン、カンターノ圍ヲ嚴ニセシム此ハ佛將コーリニーノ守ル所ニシテ防禦極テ固クシテ破リ易カラス佛王顯理能ク其都城ヲ守ル人ヲ得タリト云ギーズ侯一大功ヲ成シ佛國復爲ニ振ヘリギーズ侯即紀元一千五百五十八年第一月五日ヲ以テ英國ノ所有カレー(地名)ヲ略有ス英人ノ佛地ヲ管轄スル所ハ唯カレーノミ英ノ之ヲ領スルヿ已ニ二百餘年今始テ其ノ在ル所ノ敵人ヲ逐テ之ヲ復スルヲ得タリ是時ギーズ侯ノ威權赫々トシテ益熾ナリ是其姪ノ佛ノ太子ト結婚セルヲ以テナリ其姪ヲスコ

ツト女王メーリト曰フ此ノ后容色美麗ナレ𪜈亦不幸ニシテ薄命ナリ

佛王顯理西班牙王フィリップ紀元一千五百五十九年ヲ以テ和ス因テ益約ヲ堅クセント欲シ佛王ノ長女エリザベットヲシテ王フィリップニ嫁セシメンヿヲ約シ紀元一千五百五十九年第六月十七日遂ニ婚姻ノ儀ヲ成シ因テ大ニ盛裝シテ比武ヲ爲ス王顯理比武ノ技ニ長スルニ夸リテ自其ノ隊ニ入リ在朝貴族輩ト共ニ其技ヲ競ヘリ

比武ヲ爲スヿ凡三日其終ル日ニ當テ王顯理伯モンゴモリート技ヲ鬪ハサントスモンゴモリーハスコットノ護衛兵ノ將ニシテ當時有名ノ鎗技者タリ王ノ挑ムニ及テ之ヲ辭スレトモ敢テ聽サズ

乃已ムヿヲ得ズシテ相鬪フモンゴモリー鎗ヲ揮テ王ノ兜ヲ撞ク鎗ノ木片碎裂シテ王ノ右眼ニ觸レ其睛ヲ傷ク王顯理將ニ背後ニ仆レントス太子急ニ扶ケテ之ヲ抱住ス王顯理此ノ傷ヲ被リシヨリ語言感覺ヲ絶スルヿ凡ソ十一日ニシテ沒セリ

是時佛國在廷ノ臣各權ヲ擅ニセント欲シテ大ニ亂ル是ニ於テ佛后自出テ萬機ヲ攝行ス

王顯理ノ即世實ニ紀元一千五百五十九年第七月十日ナリ年四十一在位十三年四男三女アリ一女マルゴリツーハナヴアール國王顯理ニ嫁セリ

具氏佛國史上册畢

小永井八郎　校

499

1385